平成２４年度　文部科学省補助事業

# 滋賀県　学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業

学校支援地域本部 ◆ 放課後子ども教室 ◆ 家庭教育支援活動

# 実践事例集

学校支援地域本部

放課後子ども教室

家庭教育支援活動

社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり

**滋賀県教育委員会**

# 目　　次


◆　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

◆　事業の説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

Ⅰ　推進委員会の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

（Ⅰ）推進委員会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

（Ⅱ）各部会の概要

１　「学校支援地域本部」部会・・・・・・・・・・・・・・・　９

２　「放課後子どもプラン」部会・・・・・・・・・・・・・・　１５

３　「家庭教育支援活動」部会・・・・・・・・・・・・・・・　２０

（Ⅲ）研修会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５

◆　委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０

Ⅱ　学校支援地域本部の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・　３１

◆平成２４年度学校支援地域本部一覧・・・・　３１

◇彦根市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３２

◇近江八幡市・・・・・・・・・・・・・・・・・　５８

◇栗東市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８４

◇湖南市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８６

◇東近江市・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０３

◇米原市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０９

◇竜王町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１１

◇愛荘町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１４

◇甲良町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１６

◇多賀町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１７

Ⅲ　放課後子ども教室の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１９

◆平成２４年度放課後子ども教室一覧・・・・１１９
◇長浜市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２０
◇栗東市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３５
◇甲賀市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４３
◇野洲市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４９
◇東近江市・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５７
◇米原市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５９
◇竜王町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６４
◆放課後児童クラブの現状調査・・・・・・・・１７３

Ⅳ　家庭教育支援活動の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７５

◆県内家庭教育支援活動事業一覧・・・・・・１７５
◇近江八幡市・・・・・・・・・・・・・・・・・１７６
◇甲賀市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７９
◇湖南市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８０
◇高島市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８１
◇東近江市・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８４
◇日野町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８５
◇竜王町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８６
◆報　告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８８
「地域に根ざした家庭教育支援の在り方について（報告）」

## ◆　はじめに

滋賀県では、県教育振興基本計画において「社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり」を掲げ、「学校支援地域本部事業」、「放課後子ども教室」、「家庭教育支援」の三事業に従来より取り組んでまいりました。今年度も各市町においてこれらの事業を推進していただいたところであり、本事例報告書は今年度の各市町の取組みを報告させていただくものです。

これらの事業は、複雑化する社会状況の中で、学校だけに子どもの育ちを任せるのではなく、学校、家庭、地域が一体となって連携協力し、子どもの育ちを支えるという視点の下、始まったものであり、各市町における本事業での取組や、各種公民館等での講座などを通じて、そのような地域ぐるみで子どもを支える体制が整ってきているものと承知しております。

しかし一方で、今年度はいじめや体罰など、子どもの育ちを根底から否定するような事案が社会問題化した年でもあります。これらが学校で起きたこととはいえ、社会教育に携わる者には、子どもの育ちを学校に任せきりにしていなかったか、何故地域の力で事前に防げなかったのかということを真剣に考えていただければと思います。
その上で、今一度、社会全体で子どもの育ちを支えるとの視点の下、本事業や各種事業に取り組んでいただければと思います。

また、これらの事業については、学校を支援するという視点が先行しているところですが、学校を中心として地域の力を結集し、地域を変えていく、活性化していくという地域づくりの効果も期待されるところであります。
既にこれらの事業を推進してきている市町においては、このような視点ももちながら、引き続きこれらの事業に取り組んでいただければと思います。また、学校・家庭・地域の連携体制の構築が十分にできていない市町におかれましては、本事例報告書も参考の上、学校・家庭・地域の連携体制の構築に努めていただければ幸いです。

最後になりましたが、本事業を含め、「社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり」に、平素より実際に子どもたちと関わっていただき、地域において献身的なお取組をいただきました関係者の皆様に心より感謝申しあげますとともに、引き続いての御支援をお願い申しあげます。
また、本事例集の編集に際し、貴重な情報の提供や原稿をお寄せいただきました関係者の皆様に心より感謝申しあげます。

平成２５年（２０１３年）３月

滋賀県教育委員会事務局
生涯学習課長　北　野　　允

## ◆　事業の説明

### 「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」

社会がますます複雑多様化し、家庭や地域の教育力の低下が指摘されるなど、子どもを取り巻く環境が大きく変化してきている今、子どもたちの健やかな成長を、学校や家庭だけに任せるのでなく、社会全体で考えていくことが求められている。
つまり、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を自覚し、連携・協力しながら、地域社会全体で子どもたちの育ちを支援していくことが必要であり、学校教育も、これまで以上に家庭や地域の連携協力のもとで進めていくことが不可欠となってきている。

これらの背景を踏まえ、滋賀県では、平成２０年度より、「学校支援地域本部」、「放課後子ども教室」、「家庭教育支援」の３つの事業を推進してきており、平成２３年度からは、これらの事業を一体的に進めるべく、「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」として推進している。

具体的には、県に本事業の推進委員会を設置して、県内の学校・家庭・地域の連携による教育支援活動の在り方および総合的な放課後対策についての検討を行うとともに、コーディネーターや安全管理員等の事業関係者の資質向上や情報交換を図るための研修を行い、学校・家庭・地域の連携による教育支援活動等の総合的な推進をしている。

また、実施市町においては、域内の教育支援活動等の運営方法等を検討する「運営委員会」の設置や、教育支援活動等の企画や学校・家庭・地域の調整を行うコーディネーター等を配置し、地域の実情を踏まえた多様な取組を推進している。

これらの取組の目指すものは、地域にある様々な力を結集し、学校の内外を問わず、子どもたちの育ちを支える仕組みとして地域に定着させることであり、また地域の人々、団体のつながり、地域コミュニティの新たな構築、機能強化にも資することである。
事業開始より２年、地域の方々の尽力により、様々な成果も見られており、今後の活動等の参考にしていただきたい。

以下、本事業の概要を、全体構想および、「学校支援地域本部」、「放課後子どもプラン推進事業」、「家庭教育支援活動」について図示する。

# 学校･家庭･地域の連携による教育支援活動促進事業

【補助率】

| | |
|---|---|
| 国 | 1/3 |
| 県 | 1/3 |
| 市町 | 1/3 |

地域住民等の参画による「**学校支援地域本部**」「**放課後子ども教室**」「**家庭教育支援活動**」の3つの教育支援活動を支援するとともに、各地域の実情に応じたそれぞれの取組を有機的に組み合わせることにより、充実した教育支援活動を支援する。

県･市町の委員会の一本化や合同研修の実施など、各地域の実情に応じた教育支援活動を有機的に組み合わせて実施

## 〈 県 〉 推進委員会の設置（3部会の設置）

○県内の事業間の連携や総合的な教育支援活動の在り方の検討
○コーディネーター･教育活動支援員等の研修の実施

研修の実施

## 〈市 町〉 運営委員会の設置

○コーディネーターの配置
○活動内容、運営方法の検討
○支援活動の実施

### コーディネーター

･各活動の企画運営の中心となって、学校や地域、地域の団体等との総合的な調整等を行う

### 安全管理員、教育活動支援員、学習アドバイザー等

･これまでの経験や知識を活かし、学習の支援や専門性のある活動等の支援、子どもの安全確保のための見守りや遊び、交流活動等を行う

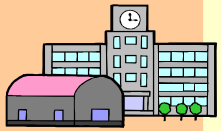
参画･協力･支援

## 地域住民等

活動の実施

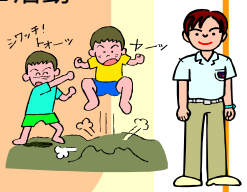
## 教育支援活動

**【学校支援地域本部】** 10市町42本部
･授業等の学習補助
･教職員の業務補助
･部活動指導補助
･学校行事支援
･学校環境整備
･登下校の見守り　など



**【放課後子ども教室】** 7市町47教室
･活動拠点(居場所)の確保
･放課後等の学習指導
･自然体験活動支援
･文化活動支援　など

**【家庭教育支援活動】** 7市町11活動
･家庭教育支援チーム
　による相談や支援
･親への学習機会の提供
･地域人材の養成　など




**地域社会全体で様々な教育支援活動を実施し、地域の教育力の向上を図**

# 学　校　支　援　地　域　本　部

― 地域ぐるみで学校運営を支援する体制を整備 ―

近年、青少年をめぐる様々な問題が発生しているなどの現状から、教員と子どもが向き合う時間を拡充するため、多忙な教員を支援し、勤務負担の軽減を図ることが重要な課題となっています。

このため、文部科学省では、平成２０年度から平成２２年度までの３年間、学校と地域との連携体制の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する「学校支援地域本部事業」を国委託事業として実施され、地域全体で学校を支えていこうという気運が高まってきました。

今年度は、引き続き補助事業として、より充実した教育支援活動を支援します。

**ねらい**　子どもと向き合う時間の拡充

**ねらい**　社会教育で学んだ成果を生かす場に

**ねらい**　地域教育力の活性化

## 学校支援地域本部の設置

【構成】地域コーディネーター、教職員、学校支援ボランティア、ＰＴＡ・公民館・自治会・民生委員児童委員・子ども会・ＮＰＯ、企業等の関係者

【内容】○支援事業の企画立案、事業評価
○地域コーディネーター養成講座
○他の学校への広報、啓発　等

【本県の実施状況】　○１０市町４２本部　○８０校（小学校６３校、中学校１７校）　○地域コーディネーター（４６名）

学校支援

調整

地域コーディネーター
【退職教職員、ＰＴＡ経験者など学校と地域の現状をよく理解している人】
学校、公民館、教育委員会等に勤務

学校支援

調整

### 学校支援ボランティア

【学習支援活動】
授業において担当教員の補助として支援

【部活動指導】
クラブ活動の指導者を支援

【環境整備】
校内環境整備の支援

【登下校安全確保】
登下校中における通学路の安全指導

【学校行事の開催等】
学校及び地域等が連携して行う学校行事や合同行事の実施

**学校支援活動に参加する意欲のある地域住民が協力**

**【退職者】**

**【有資格者】（免許取得者）**
（例）教員、社会教育主事、司書、学芸員、情報処理、技術者、保育士、看護師、栄養士、体育指導委員　等

**【様々な仕事・特技を持つ人】**
（例）プロアマスポーツ経験者、文化芸術経験者、海外勤務経験者、伝統文化・音楽経験者、企業技術者、造園業、大工、自然体験活動指導者、レクリエーション指導者、調理師、和裁・洋裁、茶道・華道　等

# 放課後子どもプラン推進事業

「放課後子ども教室推進事業」は、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともにスポーツ・文化活動や学習、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。同事業は厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」(放課後児童クラブ)と一体的あるいは連携した総合的な放課後対策として推進するもので、国、県、市町それ

## 県の取組

**放課後子どもプラン部会**

教育委員会と福祉部局との連携、研修の企画等、子ども達の放課後対策のあり方について総合的に協議を行う。

**放課後子どもプラン指導者等研修会**

コーディネーター、運営委員会委員、安全管理員、ボランティア、専任指導員、関係職員等が一同に集まり、情報交換、情報共有、資質の向上に努める。

## 市町の取組

**放課後子どもプラン運営委員会**

・事業計画の策定・安全管理方策・広報活動方策・ボランティア等の人材確保
・活動プログラムの企画・事業実施後の検証・評価

調整・企画

**コーディネーター**

・両省の事業間の連携調整
・参加呼びかけ
・関係機関との連絡調整
・協力者の確保

**(放課後子ども教室推進事業)**
**放課後子ども教室**

連携

**(放課後児童健全育成事業)**
**放課後児童クラブ(学童保育)**

| | | |
|---|---|---|
| ○すべての子ども | 対象 | ○下校時に保護者が家庭にいない児童で、おおむね10才未満の児童 |
| ○学び・体験・遊び・交流の場<br>地域の大人が、スポーツや学習、文化活動、地域住民や異年齢の子どもとの交流活動を行う。 | 内容 | ○生活の場<br>専任指導員が、保護者に代わり、健康管理、安全に対する配慮、活動状況の把握、児童の遊びの指導、活動の意欲や態度の形成、家庭との連絡などを行う。 |
| ○遊び、学習(宿題)、スポーツ、文化活動など | 主な活動 | ○遊び、学習(宿題) |
| **安全管理員**<br>体験活動や交流活動を支援する。子どもたちの安全管理を図る。<br>**学習アドバイザー**<br>学習機会を提供する取組の充実を図る。<br> | スタッフ | **専任指導員**<br>遊びや生活をとおして、子どもたちの健全育成を図り、安全確保に努める。<br> |
| ○小学校の余裕教室、体育館、グラウンド、地域の公民館など | 実施場所 | ○小学校の余裕教室、小学校敷地内やその付近の専用施設など |
| ○平日の放課後・週末(教室により異なる) | 開催日 | ○平日の放課後、土曜(クラブにより異なる) |
| ○無料<br>(教室により保険、材料費などの徴収あり) | 利用者負担 | ○月額5,000円～10000円程度<br>(施設により異なる) |
| ○7市町47教室　(平成24年度)<br>登録者数(調査中)昨年度は約2200人 | 県内数 | ○１９市町　２６６クラブ　10,６６１人<br>(平成２４年5月1日現在) |

# 家庭教育支援活動

**背景**

**○家庭の教育力の低下**

都市化，核家族化及び地域における地縁的なつながりの希薄化等により，家庭の教育力の低下が指摘されるなど，社会全体での家庭教育支援の必要性が高まっている。また、育児に自信を持てない保護者が増えている。

**○教育基本法の改正（「家庭教育」新設）**

第１０条　父母その他の保護者は，子の教育について第一義的責任を有するものであって，生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに，自立心を育成し，心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

２　国及び地方公共団体は，家庭教育の自主性を尊重しつつ，保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

**■県の事業（県推進委員会）**

・総合的な在り方の検討

・事業関係者の資質向上や情報交換等の研修会の実施

**■市町の事業（市町運営委員会等）**

県推進委員会・部会の開催（年間3回）

家庭教育支援に関する研修会の実施（年間3回）

## 各地域における子育て経験者など多様な人材の参画

**持続可能な支援のための地域人材の養成（3市）**

**・子育てサポーターリーダー等の養成**

【養成講座例】家庭教育の重要性と支援者の果たす役割、関係機関・地域との連携のコツ等

近江八幡市・湖南市・高島市で実施

**家庭教育支援チームの組織化（2市）**

**・家庭教育支援チームによる相談対応や保護者支援**

【チーム構成員例】子育てサポーターリーダー、民生委員、児童委員、元教員、保健師、ＮＰＯ関係者　等

近江八幡市・湖南市で実施

**学習機会の効果的な提供（6市町）**

**・保護者への学習機会や親子参加行事の企画、提供**

【講座例】小学校入学時講座、思春期理解講座、父親講座、企業出前講座　等

近江八幡市・甲賀市・高島市・東近江市・竜王町・日野町で実施

家庭教育や子育てに無関心、孤立化している親

## 子育て中のすべての親への支援

仕事などで学習会に参加できない親

**身近な地域において、家庭教育に関する学習や相談ができる体制を整え、地域全体で家庭教育を支援する**

# Ⅰ　推進委員会の取組

# Ⅰ　推進委員会の取組

## （Ⅰ）県推進委員会の概要

### ◆第１回推進委員会

期　日：平成２４年６月２６日（火）
会　場：大津合同庁舎　５Ｅ会議室

出席者：「学校支援地域本部」部会
白石委員（部会長）、今井委員、佐敷委員、谷口委員、築山委員、松田委員
山田委員
「放課後子どもプラン」部会
神部委員（部会長・委員長）、岡本委員、久保委員、中澤委員、廣岡委員
山田委員
「家庭教育支援活動」部会
千原委員（部会長）、髙木委員、谷口委員、宮嶋委員、山本委員、吉田委員
事務局：県生涯学習課（６名）子ども・青少年局（２名）

１　開　会
・県生涯学習課長　挨拶

２　委員紹介

３　推進委員会について
・県生涯学習課　説明

４　委員長、副委員長選出
・委員長　　神部委員（放課後子どもプラン）
・副委員長　白石委員（学校支援地域本部）
・副委員長　千原委員（家庭教育支援活動）
※３名は、各部会の部会長を兼務

５　協　議
（１）「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」について
・文部科学省補助事業の説明
・年間スケジュール
・質疑応答
（２）その他
・本日の日程説明、連絡

## ◆第２回推進委員会

期　日：平成２５年１月１１日（金）
会　場：県庁新館７階大会議室
出席者：「学校支援地域本部」部会
　　白石委員（部会長）、今井委員、佐敷委員、谷口委員、築山委員、松田委員
　　山田委員
　　「放課後子どもプラン」部会
　　神部委員（部会長・委員長）、岡本委員、久保委員、中澤委員、廣岡委員、
　　山田委員
　　「家庭教育支援活動」部会
　　千原委員（部会長）、髙木委員、谷口委員、宮嶋委員、山本委員、吉田委員
事務局：県生涯学習課（６名）子ども・青少年局（２名）

１　開　会
　・神部委員長　挨拶

２　協　議
（１）事業報告
　①各部会の報告
　　・「学校支援地域本部」部会
　　・「放課後子どもプラン」部会
　　・「家庭教育支援活動」部会
　②協議の要点確認
（２）効果的な連携のあり方について
　　＊三事業および他機関（企業・ＮＰＯ・子育て支援団体等）との連携等も含む
　　多様な連携について意見交流していただいた。

意見の概要

・今後、３つの事業の中で、学校支援地域本部が軸となり、取組を進めていくことが基本となるのではないか。そのリーダーシップを執るのは校長である。校長には、学校サイドからだけでなく、地域を育てるマネージメントに取り組んで欲しい。
　また、校長が替わっても、同じ機能を果たせる組織を創っていくことが、将来、地域の担い手となる子どもたちを育てることにつながっていく。
・校長が今取り組んでいることをうまく融合させ、学校独自の新しいカリキュラムとして残していくための見極めやコーディネート力が重要である。
・学校支援地域本部とコミュニティ・スクールとの取組の違いを整理し、２つの取組の連携をどのように考えていくのか検討したい。
・家庭は、乳幼児から老人までのパーソナリティを重んじ、お互いを育むところである。
　家庭基盤が弱まっているところへの継続した支援が就学前までは、うまくいっても、就学後、福祉の視点が無くなることがあり、その重なりを誰がどう創っていくのかが大切である。

３　閉　会
　・県生涯学習課長　挨拶

## （Ⅱ）各部会の概要

## １「学校支援地域本部」部会

**◆第１回部会**

期　日：平成２４年６月２６日（火）
会　場：大津合同庁舎　７Ａ会議室
出席者：白石委員（部会長）、今井委員、佐敷委員、谷口委員、築山委員、松田委員、山田委員
事務局：県生涯学習課（３名）

１　開　会
・県生涯学習課　あいさつ

２　協　議

（１）部会における取組
①平成２４年度「学校支援地域本部」の概要
県内の状況について
１０市町４２本部、８０校（小学校６３校、中学校１７校）、地域コーディネーター４６名
②平成２３年度「学校支援地域本部」部会の概要
③平成２３年度「学校支援地域本部」部会の意見
（２）意見交換
テーマ
地域に根ざした取組にするために存続できる「無理のない組織」の活用

３　連絡事項

今後の部会の予定
○第２回部会　　内容：部会および現地視察研修
○第３回部会　　内容：今年度のまとめ

４　閉　会

**◆第２回　部会**

期　日：平成２４年１０月２２日（月）
会　場：東近江市立蒲生西小学校
出席者：白石委員（部会長）、今井委員、佐敷委員、谷口委員、築山委員、松田委員、山田委員
事務局：県生涯学習課４名
事例提供者：蒲生西小学校校長　西川　敦子氏
まちづくり協議会会長　向井　隆氏
東近江市立蒲生西小学校　地域コーディネーター　大塚　ふさ氏

１　開　会

・白石部会長　あいさつ

２　授業公開

・４年　総合的な学習の時間

「川の自然調べ」

川づくり委員会ボランティアさんが中心となり、学校に隣接している日野川に生息している生物について調べる学習を参観しました。

（「川の自然調べ」の様子）

３　協　議

①蒲生西小学校「学校支援地域本部事業」の取組について

・学校経営の中での本事業の位置づけ

・学校支援地域本部事業の取組状況について

②まちづくり協議会との連携について

・日々の取組について

・学校を核にしたコミュニティ意識の醸成

・地域の活性化

（蒲生西小学校の取組について）

③地域コーディネーターの取組について

・学校側が求める支援活動と支援者側の意見との反映についての工夫

・教員との連絡調整についての工夫

・ボランティアバンクの作成

・地域支援コーディネート計画表、広報の作成

・教職員や地域へ支援活動を求めた後の変容

④蒲生西小学校の実践から学ぶべきこと（質疑・応答）

・参観を通して

・報告から

⑤学校支援地域本部事業を地域に根ざした取組とするために大切にしたいこと（意見等）

・外部団体との連携のあり方

↓

※大切にしたいキーワード　→　まとめ

⑥「学校支援地域本部」部会の今後のスケジュールについて（確認）

・３事業合同研修会［１月２４日（木）］：県庁新館７階大会議室

・第３回「学校支援地域本部」部会　１月１１日

・実践事例集のまとめ方について

◎委員の方々よりいただきました御意見等

（別紙参照）

４　閉　会

・閉会あいさつ

◆第３回　部会

期　日：平成２５年１月１１日（金）
会　場：県庁北新館　５Ａ会議室
出席者：白石委員（部会長）、今井委員、佐敷委員、谷口委員、築山委員、松田委員、
　　山田委員
事務局：県生涯学習課員（３名）

１　開会
２　日程説明
３　協議
　テーマ：地域に根ざした取組にするために存続できる「無理のない組織」の活用
（１）学校支援地域コーディネーター研修会の経過説明について
（２）「学校支援地域本部」部会の意見概要
（３）地域に根ざした取組事例
　　栗東市立栗東中学校「ブースターズクラブ」
　　・地域コーディネーターの確保について
（４）テーマについて意見交流
　　息の長い活動にしていくために
（５）「効果的な連携のあり方について」

４　連絡事項
　・実践事例集の編集構想について
５　閉会

## 第１回～３回「学校支援地域本部」部会の意見概要

**部会テーマ：地域に根ざした取組にするために存続できる「無理のない組織」の活用**

◇は、部会テーマとの関連があると考えられる内容

**１．既成団体の活用等**

**【まちづくり協議会の役割】**

◇自治会（区長会）が中心となり、今日まで培われてきた気風を大事にしながら、行政と地域住民とのパイプ役となり、地域における課題解決のため、地域で考え解決していくまちづくりをめざしている。この地域に住んでよかったと思える地域にしたいとの願いをもとに取組を進めてきた。

◇毎年行われる「わたしの意見発表会」で、子どもたちはとても良い話をしてくれる。その内容をホールに参加した２００人しか聞けないため、発表されたものを原稿にし、全戸配布（４，２００戸）し、地域住民に知っていただいた。今後も、こうした積み重ねをしていく中で、お互いのものの考え方を共有していきたい。

◇あかね夏祭りでは、子どもたちが地域住民（３，５００～４，０００人が参加）の前で学校で学習した内容等を発表していく。その後も、伝統を受け継ぎ、自分たちの力で取り組んでいきたい。

【まちづくり協議会との連携】

◇北里小学校では、学校支援ボランティアグループが、北里学区まちづくり協議会専門部会「こどものみらい部会」の中に位置づけられて、様々な支援が行われている。各学年のそれぞれの取組に合わせて依頼する団体が決められている。

【自治会】

◇地域住民は、ほとんど自治会組織に加入している。また、自治会が教育後援会をつくり、学校としての側面的援助を行うシステムができている。

## ２．学校を支える体制づくり

【地域住民の支援体制】→【地域住民の知恵に学ぶ】・【地域への愛着】

◇学校経営の中に本事業が位置づき、学校・家庭・地域が一体となり、「地域の子どもは、地域で育てる」を合い言葉として取り組んできた。「子どもによし、地域によし、大人によし。」→三方よし。

◇自治会の理解を得て、通学合宿の取組を続けてきた。（４年目を迎えた）
自治会が公民館を利用し、責任をもって通学合宿に取り組む。子どもたちが今、何を考えているのか、地域住民も知りたい。胸襟を開いて、学校側が子どもたちを地域に任す気持ちが大切である。

◇「学校支援地域本部」の取組内容

①学習支援活動（総合的な学習の時間、生活科、町探検、昔のくらし、社会科、人権学習等）

②学校行事への参加［田植え、稲刈り、脱穀等、親子ふれあい活動（竹とんぼづくり）］

③環境整備（庭木の手入れ、除草作業）、登校旗の整備

④登下校の安全確保

支援のキャッチ・フレーズ［だれでも、いつでも、どこでも］

【ボランティアさんの協力】

◇子どもたちが川に親しむため、中州に橋をかけたり、除草作業等に意欲的に取り組んでいただいた。

【他の取組との連携】

◇その呼びかけに成功した例（東近江市）
蒲生地区では、まちづくり協議会と川づくり委員会との連携が見られた。日野川での学習のため、ボランティアさんによる手作りの橋が造られ、川づくり委員会のスタッフとしての喜びが感じられた。

【組織】

◇コミュニティーセンターの中の組織に学校支援地域本部事業が入っている。続けていくことが大切である。

【より良い関係性】

◇人の支援があれば安心して取組を進めることができる。お互いの関係（学校と地域）を気楽に構築していきたい。人の思いでつながるより良い関係性を大切にしたい。

## ３．地域コーディネーターの存在

【地域コーディネーターとしての姿勢】

◇ボランティアさんと仲良くし、依頼する時は、必ず出会うようにしている。また、ボランティアさんの思いをくみ取り、学校側に伝えるようにしている。

【ボランィアだよりの発行】

◇ボランティアさんを誘うためのボランィアだよりを地域の組単位で発行している。

【ボランティアバンクの作成】

◇ボランティアバンクに登録してもニーズが無い場合があるので、個別にお願いするようにしている。

【地域住民による子どもたちへのかかわり方】

◇地域住民の中には、通学合宿などで子どもたちにどのようにかかわっていけばよいか不安を抱きながらも、多くの人に関わっていただいた自治会が多数あった。

【校務分掌での位置づけ】

◇各学校の校務分掌の中で地域コーディネーターを誰が担当するのかによって、その後の取組方が違ったものとなる。

【地域コーディネーターと学級担任との良好な関係】

◇地域コーディネーターの席が職員室にあり、担任がいつでも相談できる関係づくりに努めている。

## ４．地域で支えようとする意識づくり

【地域との関係づくり】

◇地域コーディネーターが通学合宿を担当し、自治会長さんと直接折衝することで、ネットワークづくりに努め、地域住民に自分自身の立場を御理解いただいている。

【学校ニーズの必要性】

◇まちからのボランティアニーズはたくさんあるが、学校からのニーズがないと地域コーディネーターは動けない。それらをどのようにつないでいくのかと常々考えている。

【学校としての役割】

◇学校は、明治時代から学力を育てる、社会性を身につける仕組みを担ってきた。今、学校の第３の役割として、（子どもと地域の大人を）つなぐ役割が必要である。しかし、校長や職員につなぐ役割の温度差（意識差）を感じる。

【他府県の事例】

◇岡山県の取組事例・・・学校の職員であれば誰でも地域との連携をすることができる。
県内の各校で、地域連携として事務職員等が担当している。

【指導者育成】

◇高齢者が中心となり、まちづくりを考えているが、中間層（子育て段階）の指導者が育ちにくい現状が見られる。

【資金自立】

◇自分達の学校をよりよくしていくため、補助事業の終了段階を見据え、地域住民が気運を高め、補助事業に頼らない方向で、資金自立しようとする取組が見られることは、素晴らしい取組である。今後、大切なことである。
地域コーディネーターは、有償でやらないと組織がこわれてしまうのではないか。
補助金の切れ目が、取組の切れ目にならないようにしたい。教育後援会から運営資金を回すことも考えられる。

【学力支援】

◇これからの学校支援地域本部の取組として、家庭の生活基盤、学習基盤が身についていない児童に、どのように学力支援していこうとするのか、地域として、学校として応援していくのか検討していきたい。

## ５．意識の変容

【通学合宿の広がり】

◇以前、通学合宿を経験した子どもたちが成長し、ボランティア・スタッフとして参加している地域がある。

【子どもたちの変容】→【大きなうねり】

◇「川の自然調べ」の学習を通して、子どもたちが保護者と共に、自主的にゴミ拾いに取り組むようになった。この取組を今後も、地域での大きなうねりとして継続していきたい。

【成長】

◇ＰＴＡの役員等を経験することで、以前は自分の子どものことしか見られなかった方が、他の子のことも見られるようになり、親として成長することができたとする事例が見られた。

【事業規模】

◇今後、事業規模を縮小し、コンパクトに取り組むことも考えられる。
地域コーディネーターが、週１６時間で動ける体制づくりを進めている。

【連携のあり方】

◇通学合宿では、放課後子ども教室との連携が見られる。通学合宿で、世界一受けたい授業を取り入れ、その講師を放課後子ども教室から招くため。お互い最初から一緒に取組を進めようとしているのではなく、それぞれがこれまで取組を進めてきたノウハウを蓄えてきたところで、繋がっていこうとする連携のあり方が自然である。

## ２「放課後子どもプラン」部会

**◆第１回部会**

期　日：平成２４年６月２６日（火）
会　場：大津合同庁舎　５Ｅ会議室
出席者：神部委員（部会長）、中澤委員、廣岡委員、
　　山田委員、岡本委員、久保委員
事務局：県生涯学習課（３名）
　　県子ども・青少年局（２名）

（第１回部会）

**－協議概要－**

**１．今年度のテーマについて**

（１）昨年度の部会協議で確認できたこと
・放課後は子どもたちの大切な育ちの場である。
・大人や社会で子どもたちの放課後を支えていく必要がある。

（２）今年度の部会テーマ
「子どもたちの育ちの場を豊かにしていくために」
～子どもの育ちと、大人のかかわり～

**２．協　議【意見概要】**

**〇部会長より提起**

・今年度は、支援する大人の側に焦点を当て、『大人が子どもたちにどう関わっていけば豊かな育ちが生まれるのか。』という部分を深めていきたい。

**〇委員からの主な意見**

・子どもには、群れておもいきり遊ぶという経験が少ない。放課後子ども教室へ参加する児童は、群れておもいきり遊ぶことを期待しているのではないだろうか。
・子どもには、設定された遊びに対する抵抗感がある。子どもの発想の中からこんなことがしたいということが一番で、大人が何かを企画して与えた場合、終わったあとに「遊んでいい？」という言葉が出てくることが多い。
・学童の１年間の中には、自分の親、自分の子ということと関係なく活動する場面が何度かある。その中で大人と子どもの様々なかかわりが生まれている。
・子どもではなく、親が学童から離れづらくなるという場合がある。子どものことで、一緒に喜んだり、心配したりする第三者（指導員）がいなくなることを寂しく感じるようである。親への支援という視点も必要ではないか。
・放課後子ども教室には、地域の大人（団塊の世代の方が中心）が関わっている。
・おじいさん・おばあさんと接する時間を増やすこと、ふれあいの場を持つことで、子どもにいい影響が出ている。
・子ども教室に来ていたり学童に入っていたりする子にとっては、そこに時間、仲間、場所があるから、集団での遊びが生まれているが、そういう場所に来ていない子に、集団遊びを保障することがかえって難しい時代になったと感じる。
・学童の指導に、指導員以外が関わることは難しい。
・地域のボランティアが運営されている活動に、学童クラブの児童が参加するという事例がある。こういう取組を増やしていけばいいのではないか。
・直接的なかかわりではないが、学童クラブから子どもが帰るときに、地域の大人が時間を合わせて外に出て、声かけを行うなどの見守りサポートが定着しているところがある。

**〇まとめ、次回協議への展望**

・さらに焦点を絞り、子どもたちの育ちの場を豊かにしていくための大人のかかわりについて考えていきたい。そこで、今年度は、さらに幅広い視点を得るためにも、両事業で子どもとかかわる方へのアンケートを行い、次回の議論につなげていくこととする。

◆アンケートの実施

実施数：１６４（放課後子ども教室関係者１０、放課後児童クラブ関係者１５４）

実施時期等：８～９月実施　主に記述回答式　委員の関係する教室・学童等の指導者を対象

－結果概略－

問１「子どもの感心する姿と良い面をのばすための工夫」について

①　子どもの感心する姿への記述

・放課後に見られる子どもは、素直でやさしく、子どもらしさを失っておらず、大人から見て感心できる姿がたくさん見られるとの意見が多かった。

②　良い面をのばすための工夫に関する記述

・指導者は、子どもの良い面をのばすために様々な工夫をしている。

**接し方として**

・ほめる　・よりそう
・見守る　・声をかける
・子どもの目線に立つ
・あいさつを投げかける
・いっしょに活動する　等

**姿勢、心がけとして**

・子どもの行為にも感謝の思いをもって接する
・手本となるよう行動する愛情を持って接する
・子どもに解決させる　・信頼を裏切らない
・異年齢で活動することを仕組む
・嘘をついたり適当な対応をしたりしない　等

まとめ:子どもたちには感心することが多く、それを関わりのある大人(指導員)が支えている。

問２「子どもの気になる姿と解決を目指す工夫や心がけ」について

①　子どもの気になる姿の解決を目指す工夫や心がけの記述

・子どもには、(問１)でわかった感心する姿が見られる反面、気になる姿も増えてきているという意見が多く出されていた。その内容で特に目立ったものは、自信がない、うまく人とかかわれない、粘り強さに欠けるなどである。しかし、それらの姿の背景には、親や家庭の問題を含んだ複雑な原因が見られた。

まとめ：年々気になる子どもは増えている。放課後に子どもを指導する教室や児童クラブが個別に工夫や努力するだけでは解決できなくなってきているのではないか。

問３「子ども教室と児童クラブとの連携、及び地域の他事業との連携の可能性」について

①　子ども教室と児童クラブの連携についての記述

・回答者の多くをしめる学童クラブ関係者は、子ども教室の実態が理解できていない。

②　地域まで広げた幅広い連携についての記述

・連携への思いは多く認められるが、実際に行われている連携例は、たまたま施設同士が近いというものが中心で、積極的な連携を行っている姿はあまり見られない。

まとめ：子ども教室・学童クラブの中だけで考えるのでなく、様々な連携を工夫しながら子どもの育ちを支えられるようになっていくべきではないか。

◆第２回部会

期　日：平成２４年１０月１０日（水）
会　場：野洲市中主学童保育所
出席者：神部委員（部会長）、津田委員、中澤委員、廣岡委員、山田委員、岡本委員、久保委員
事務局：県生涯学習課（４名）
　　県子ども・青少年局（２名）
現　地：中主学童保育所所長　芝崎みどり氏
　　野洲市より傍聴４名

（第２回部会）

－視察概略－

１．所長説明【内容よりテーマとの関わりがある部分】

・保護者の多様な要望や年々支援児が増加している現状の中、指導員の知識や経験だけで対応できないこともあり、家庭との連携、市、県などの関係機関との連携も必要である。

・指導員と保護者との連携で子どもの課題を解決した例がいくつもある。一言の声かけが保護者に響くことがある。

・学校との情報共有は最初困難があったが、学童や行政からの粘り強い働きかけで学校にも連携の必要性を感じてもらえるようになってきた。

・安全・安心で、子どもたちが楽しく元気に暮らせる場所を目指している。

（宿題をする子どもたち）

２．保育視察

・多くの指導員に見守られ、落ち着いた雰囲気の中、集中して宿題に取り組めていた。

・見守ることが中心に行われ、支援が必要な児童には、そばについて指導が行われていた。

・早く宿題が終わった児童には指導員による読み聞かせが行われていた。

－協議概要－

１．アンケート結果（前頁結果概略に記載）及び経過について説明

２．協　議【意見概要】

〇部会長より提起

・検討課題の「大人のかかわり」については、地域の大人や指導員をイメージしてきたが、親も含めて、子どもの育ちをより豊かにすることについてイメージをふくらませていきたい。

〇委員からの主な意見

・アンケートから、学童の指導者は、放課後子ども教室のことを知らないことが見えてきた。学童と地域をつなぐ仕組みづくりに行政が取り組まなければならないと感じた。

・子ども教室や学童を子育て支援のサービスと捉え、とにかく子どもを預かってもらえばいいという考えで、自らの要求のみを訴える親が増えてきているように感じる。

・親との関係を大切にしてきたが、世話を焼かれたくないという親が増えたり、プライバシー保護のため実名を挙げた話ができなくなったり、社会が変化する中で親も変化してきている。

・地域ごとの差も大きい。都市部では、習い事をいくつもしている子をせかすように連れて帰る親や、月曜日にものすごく疲れていると感じる子などを多く見てきた。

・保護者会運営の学童は、親子で一緒に活動する機会も多い。そういう機会が多くなると、自分の子どもだけにしか向かなかった親の目が他の子どもにも向けられるようになり、他の子を理解することが増えてくる。また、子育てを学び合う保護者の異年齢交流も生まれている。

・学童ではお迎えがあるので親と毎日顔を合わすが、その場で子どものことをひとことふたこと話すことで、いい関係が生まれているように感じている。

・学童を利用している半数程度が休日に実施している子ども教室にも進んで参加している。自ら積極的に事業に関わろうとする保護者もあり、地域の方の取組に対する理解や連携は深まってきている。しかし、問題は、指導者の話を拒絶し、地域との関係も望まない親である。

・学童では以前、情報交換や引き継ぎなど保育園との連携は定期的に行われていた。保育園と児童クラブの連携はさらに必要であるという声もある。また、竹細工をする地域の人に来ていただいて体験するなどの地域の人との交流もあったが、今は忙しくて、時間も短くなって難しい。

・忙しいから余計に、宿題などの部分で学童にも地域の人に来てもらい見てもらうというような形が生み出せたらいいのではないか。

・地域の人を巻き込んで活動しており、地域の総合型スポーツクラブとの連携も行っている。しかし、地域の方も忙しいので参加は週１回程度が限度ではないかと感じている。また、参加者の保護者から行事をするときに責任の所在を問われることがある。関わるものは、細心の注意

を払って子どもを見なければならないという難しさもあるのではないか。

**○まとめ、次回協議への展望**

・親の課題や親との関係を作る難しさについて多くの意見が出された。「子どもの育ちを支える大人のかかわりをさらに高めていくには」という検討課題を深めるためには、地域の人と親という２つの視点から考える必要がありそうである。地域の人に関する課題、親に関する課題等をさらに抽出し、それらを整理し、その中からアイデアを見つけていきたい。

**◆第３回部会**

期　日：平成２５年１月１１日（金）
会　場：県庁本館７階大会
出席者：神部委員（部会長）、津田委員、中澤委員、
　　廣岡委員、山田委員、岡本委員、久保委員
事務局：県生涯学習課（３名）
　　県子ども・青少年局（２名）

（第３回部会）

**－協議概要－**

**１．　年間の部会経過、まとめの方向性について説明**

**２．協　議【意見概要】**

**○部会長より提起**

・今回まで検討を重ねてきた課題や取組を整理し、実際に事業に関わっている方に提供できるアイデアとしてまとめ、放課後子どもプランの推進につなげていきたい。

**○委員からの主な意見**

・子ども教室は、実施地域の子どもをもつ家庭にしか理解されていない。まだまだ PR 不足ということが言えるように思う。もっと積極的に PR を行うことや、運営する側が地域のお年寄りなどに気楽に声をかけていくことで、人が人を呼び、教室に関わる人の輪が広がっていくのではないか。
・知らないことで構えてしまうが、関わることでよさがわかってもらえることがある。
・地域の人を巻き込んでいくキーパーソン（コーディネーター）が重要である。
・親が子どもを育てるとはどういうことなのかということを地域で共通理解していくことが大切ではないか。
・地域にいい取組があっても、そこに子どもを参加させるということにつながっていかないのも親の意識の低さに起因していると感じる。
・子どもの育ちということを十分考えられていないと感じる親や、教室・学童にあずければ終わりと考えている親も多い。家庭教育支援として行われている講座等の情報を指導員やボランティアからも積極的に提供して、親の学びの輪を広げていくことや、両事業に関わる親の課題をもとに、親同士、スタッフ、地域の人がともに学ぶ研修会を意図的に行っていくことが必要である。そういう機会は、親育ちの機会だけでなく、親同士、親と地域の顔つなぎの場ともなる。
・成功しているのは、子どもの意欲を大人がうまく引き出している場合ではないか。子どもの意欲を引き出す地域の取組が大切ではないか。
・子どもの関わり方、言葉がけなどを大人が学ぶことが大切である。
・地域の人と子どもたちとの関わりを深めるきっかけが必要である。行政も積極的に支援して、既存の「もの」を中心として、子ども・保護者・地域の人・学校が集える祭りなどを実施し、地域の人の理解や意欲を高めるような取組が重要ではないか。
・行政として、学童保育の支援にも取り組んでいる例もある。子どもの体験は親同士の話題にもなり、親の参加のきっかけにもつながっている。
・知り合うことからすべてが始まる。公民館や地域の行事、あるいは、学童の行事でもいいので、スタッフや地域の人や親が、まずは、年に１回一緒に創っていく機会を設ける。そのことから相互理解が深まっていくのではないか。

## ◆放課後子どもプラン部会まとめ

### 理想とする姿

・子どもを取り巻く環境の変化を踏まえ、放課後等に子どもが安心して活動できる場（放課後子ども教室・放課後児童クラブ）が確保され、そこで次世代を担う児童の健全育成が図られている。
・地域の方々の参画を得て、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境が整っている。

（放課後子どもプラン・放課後子ども教室各実施要項より抜粋）

地域の中でのびのびと元気いっぱいに過ごす子どもたち

### 地域やプランの現状

・県内では、児童クラブの充実が優先され、子ども教室がない地域も多い。（安心、安全な遊びの環境が地域にある？）
・子どもの課題が多様化・複雑化する中、指導の現場も多忙化し、以前行えていた連携への取組が難しくなってきている。
・県下ではほとんどの地域で親の送り迎えが前提になること、責任を問う声の高まり、行政の壁などから積極的な取組が難しい。

テーマ

**「子どもたちの育ちの場を豊かにしていくために」**
～子どもの育ちと、大人のかかわり～

### 地域の大人や親の課題

**地域や親の意識**

・地域で子どもを育てるという意識が弱い。地域
・子育てを※親（保護者）の責任や問題と考える地域、社会との関わりを積極的に望まない親。地域・親
・子どもの豊かな育ちについての理解が十分深まっていない。（例えば子どもを管理することを優先し子どもに我慢させている等）地域・親
・子ども教室や児童クラブをサービスの面から捉え、子どもの成長の場として捉えることができていない。親

**プランの推進**

・子ども教室や児童クラブの取組や理念が十分認知されていない。地域
・子ども教室や児童クラブに関わるきっかけがない。地域
・関わることへのハードルがある。（多忙な中でのボランティアとしての参加、子どもと関わることの責任等）
・積極的に事業をコーディネートする人を育てきれていない。地域
・それぞれの立場で子どもを良くしようと取り組んでいるが、連携して協力して子どもを育てるという取組ができていない。地域・親
・子育てに自信がなく孤立している親、アドバイスや支援が必要な親が増えている。親

### 市町（教室・学童）の取組

**取組の成果**

・指導者と親のつながりから子どもの課題を解決したり、子どもの理解が深まったりすることがいくつも見られている。
・子どもたちは、地域の方とのふれあいを楽しみ、活動の中で成長している。
・親子で事業に参加することで、他の子どもや地域の取組に目が向けられるようになった親も見られる。
・学校との連携など様々な連携による効果が生まれつつある。

### 滋賀県の放課後子どもプランを推進するアイデア

※基本姿勢…子ども教室や児童クラブで行われている優れた取組を活かしながら、それをつなげ、広げていくことで子どもたちの育ちの場を豊かにしていくことを目指す。

☆広げる
・親や地域の人が自由に参観できる日を設ける。
・地域全体で子どもを育てることの大切さを学び合う研修会をもつ。
　対象：親、地域の人、教員、指導員等、行政
→行政、事業関係者が一体になって上記の方法も含め積極的な PR を行い、きっかけを作っていく。

☆つなげる
・地域の人や保護者が子どもと一緒に活動できる行事を行う。
・子ども教室も児童クラブも支援できる、新たな地域組織をつくっていく。
→行政の支援により、他の事業と一体になって、公民館等が主体となって等

※この頁で表記する「親」とは全て親（保護者）のことである。

## ３「家庭教育支援活動」部会

**◆第１回部会**

期　日：平成２４年６月２６日（火）
会　場：大津合同庁舎　５Ｄ会議室
出席者：千原委員（部会長）、髙木委員、谷口委員、宮嶋委員、山本委員、吉田委員
事務局：生涯学習課（３名）

１　開会
　・生涯学習課参事　挨拶
２　自己紹介
３　今年度の補助事業の概要について、昨年度の部会の課題について（担当より）
　〇部会の位置づけの確認
　　・事業の目的及び事業内容についての説明
　　・「家庭教育」についての確認
　　家庭教育支援関連法令（教育基本法 10 条、社会教育法 5 条）
　　文科省通知（都道府県の役割、家庭教育支援と子育て支援）
　〇県内家庭教育支援活動についての説明
　　・県内家庭教育支援実施状況について
　　・昨年度の部会の意見について
　　（持続可能な取組、福祉部局・地域との連携、企業との連携、コーディーネーターの養成）
４　部会協議　「地域の家庭教育支援の取組を活性化させるための仕組みづくり」について
５　連絡事項
　・日程等の諸連絡
６　閉会

**◆第２回部会（現地視察研修）**

期　日：平成２４年１１月６日（火）
会　場：近江八幡市立老蘇小学校
出席者：千原委員（部会長）、髙木委員、谷口委員、山本委員、吉田委員
　　近江八幡市家庭教育支援コーディネーター等（１２名）
事務局：生涯学習課（３名）

１　開会
　・生涯学習課参事　挨拶
２　現地視察研修
（１）近江八幡市における家庭教育支援活動について（近江八幡市教育委員会参事）
　　・近江八幡市における家庭教育の状況、子どもの様子
　　・学校支援地域本部事業と家庭教育支援の連携状況
（２）老蘇小学校の家庭教育支援の取組報告
　　（老蘇小学校家庭教育支援コーディネーター）
（３）近江八幡市家庭教育支援コーディネーターとの意見交流
（４）老蘇小学校保護者研修会（講演・座談会）見学
３　部会協議　「地域に根ざした家庭教育支援のあり方」について
４　連絡事項
５　閉会

◆第３回部会

期　日：平成２５年１月１１日（金）
会　場：県庁北新館５Ｂ会議室
出席者：千原委員（部会長）、髙木委員、谷口委員、宮嶋委員、山本委員
事務局：生涯学習課（３名）

１　開会
　・部会長　挨拶
２　今年度の事業経過および研修内容について（報告）
　・各市町における事業概要について
　・家庭教育支援に関する研修について
　・部会意見集約
３　部会協議　報告「地域に根ざした家庭教育支援のあり方」について
　・報告文章の検討
　・自治体の役割について
４　学校・家庭・地域の連携について
　・家庭教育支援活動と他の取組との連携について
５　連絡事項
　・実践事例集編集構想について
６　閉会

## 第１回～第３回「家庭教育支援活動」部会　意見の概要

**○【事業全般について】**

・行政と学校、地域の連携について、どんな形でもよいので、そのモデルを作っていく必要がある。
・家庭によっては、福祉の支援が必要な場合もあれば、ちょっと話を聞くだけで、次にチャレンジしていく人もいる。ネットワークの中で、親が元気になり、何でも話ができるようになれば、学校も一気に変わる。
・子どもが病気になったとき、隣のおばさんが子どもを見てあげる関係をつくることも家庭教育支援である。システムとして当たり前の地域をどう作っていくか、その風土をいかに３つの事業を融合させながらつくっていくかが大事である。
・学習の機会の提供が県内の大半であるが、昔の家庭教育学級の発想であるなら、行政主体でやっているだけでは、事業が終わるとなくなってしまう。ポイントは支援チームがどうなっていくかである。
・研修等に参加しにくい、しんどい思いを持っている保護者が参加できる工夫が必要である。
・無理をするのではなく、頑張るけれども、身の丈にあったところで、つなぎ合わせてつくられたしくみが必要である。
・御神輿方式と言われるが、重たい御神輿も一人でなく、１０人、２０人いれば担げるというように、しんどくなったら別の人に頼むというような形でいけばよい。ずっと頑張ってくれる人も大事であるし、御神輿を担ぐ人を一人でも多く増やしていくということも大事である。
・本補助事業も新たな枠組みとなって２年目となった。県内の家庭教育支援の基盤を形成し、持続可能な安定した体制の確立が重要な課題となっている。とりわけ、各地域で行われている様々な取組から、地域に根ざした効果的な家庭教育支援の事例に学んでいくことが重要である。
・難しいことをいっぱい聞いてうなずくことよりも、何かを意図的に仕組むことで、コミュニケーションを促進させる取組も家庭支援の中で考えてもよいのではないか。
・講演会も一つのやり方であるが、料理をしたり、芋掘りをする等、何か一緒にできることもあるのではないか。
・子どもが通っている学校において、保護者に相談に来てもらうのは難しいのではないか。
・さまざまな市町でいろんな取組をしており、講演会もいいけれどもそこに来られない人もお

り、セイフティゾーンをつくっていくことも必要である。家庭教育支援コーディネーターだけでなく、ＮＰＯもあるし、福祉、大学ともコーディネートし学生も含めて行うのも、一つではないか。
・地域コミュニティにある様々な社会関係資本（ソーシャルキャピタル）を整備していくことが重要である。
・近江八幡市では、学校支援地域本部事業に取り組んでいる１０小学校で家庭教育支援コーディネーターを配置し、学校・家庭・地域をコーディネートする役割を担っている。学校や地域での家庭教育の課題やその把握に努め、学校やＰＴＡと連携しながら、家庭教育支援にも取り組んでいる。家庭教育支援は学校支援になっている。
・各市町の独自の組織、団体で考え、いろんな取組があって良い。

**○【保護者について】**
・子どもの課題の背景には、保護者や家庭の課題が見られる。子どもと十分に接することができない家庭や、経済的にも精神的にも不安定な家庭もある。
・保護者の価値観の多様化や地域の人間関係の希薄さが、学校と保護者との信頼関係を結びにくい状況にある。地域で孤立している家庭は、学校に対して批判的な面もある。
・保護者はいろんな問題を抱えており、問題を抱えた方々が子どもを一生懸命育てているということに、多くの方が関わっていくことが大事である。
・子育て講演会も悪くはないが、若い保護者に自分から相談に行くという感覚は少ない。ケース会議をしなければいけない段階の人たち、重い状況にある人には別の手だてが必要である。
・保護者もできていないところだけを指摘されると、精神的にしんどくなる。本人は分かっているが、そうはいかない事情があるのではないか。そういう人が思わず出てきてしまうような何か仕掛けが必要である。
・研修に自分から参加する保護者には特別な支援はいらない。そうでないところに「少し子どもの方へ目を向けてね」とか、「あなたのしんどいことを受け止めるよ」ということがないとなかなか子どもに目が向かない。
・生きるか死ぬかという程のしんどさを持っているときに、「あれをしろ」と言われたら、辛いものがある。特に精神的な問題も増えてきており、怠惰でできていないのではなく、病気でできていない家庭が目立つ。親も傷ついていて、できているところを認めていく必要がある。
・どこが課題かしっかり見ることは大事であるが、それをどう伝えていくかも大事なことである。
・何が課題かしっかり見て、この家庭ならどこまで話をしてよいかが大事である。家庭支援は家庭を叱責するのではなく、エンパワメントできるように支援し、参加して良かったというようになってもらうことである。

**○【学校について】**
・学校自体も制度疲労をしている現実がある。行政も地域と学校・家庭といった形になるとみんな行政の縦割りのすき間の課題がある。コーディネーターなどの力強い方々が出てきて、線となり面となって、みんながそのエネルギーを結集していく必要がある。
・学校の中では学力の二極化、経済力＝学力という形になっており、学校は二極化した保護者への対応に困り果てている。その現実を地域と一緒に克服する学校づくりが必要である。
・学校は確認主義であり、子どもの様子から家庭の状況なども早く察知できる。イニシアティブは学校が持ったらどうか。行政が形の上でしくみを作るといつか壊れる。
・教師自身が社会を正しく認識できているかが重要である。地域全体で学校と一緒に子どもを育てていこうという風土に繋げることが大切である。
・一人ではなかなか元気になれずに萎えていってしまうが、マンパワーを活かす学校の体制、在り方が必要である。

**○【地域について】**
・地域にお願いする関係でなく、地域と一緒にやる関係が重要である。地域が、同じ目の高さで、自分たちも地域の子どもを育てるという意識で、学校と一緒に取り組んでいくという発

想が、学校支援地域本部事業を実施していても、まだまだ高められていない現実がある。
・ＮＰＯ活動は貴重であるが、ＮＰＯを地域で生かす全体像やビジョンがない。そのビジョンを、どこがどう持つのかが経営の手腕である。
・地域と連携する学校の取組により、荒れていた中学校が落ち着きを取り戻してきている。しんどい層の子どもたちを地域と学校で支え、全体の学力を伸ばそうという発想が必要である。
・例えば、就学前の親子を対象に、大型ショッピングセンターのコミュニティルームを借り、そこを経営している企業とＮＰＯと近くにある大学（学生）と協働して、未就学（3 歳まで）を対象にした「つどいの広場事業」を開催している。リピーターの姿を見ながら、気になる親は専門家につなぐという支援をしている。
・これからまちづくり協議会で、事業消化型ではなく、人と人がつながれる協議会にしていくことが大切である。

**○【行政について】**
・福祉と連携するという部分では、各市町には地域福祉計画があり、その中で子どもを地域でどう育てるかがポイントである。
・いろんな層の子どもや親をキャッチできるシステムをどこでつくるかが明らかにされていない。
・教育委員会と市町部局との横のつながりがない。
・行政が、学校とコーディネーターのコーディネートを行う等の条件整備が大事である。コーディネーターがどういう取組をしているかを教師が知ること、地域に知らせていくことからはじまる。
・県教委は何をするのか、市教委はどうするのかを整理していかなければならない。

**○【コーディネーターについて】**
**（コーディネーターの構成について）**
・コーディネーターには様々な立場の人がなっている。例えば、民生委員、補導委員、ＰＴＡ役員、元教員などがおり、それぞれの立ち位置で活動をしている。
・民生委員・主任児童委員が学校と接点を持つことは、地域の児童や保護者と顔見知りになれ、またトラブルを抱えた家庭があった場合は、学校と連携して早い対応ができる
・民生委員、教員出身などの強みがあり、その強みをうまく生かせていけるように、システムができると良い。強みを生かせるコーディネーターが多いほどよい。

**（コーディネーターの活用に関わって）**
・コーディネーターは子どもにとって親にとって評価しない人、一番受け入れやすい存在である。
・コーディネーターが時間やお金抜きにして保護者の相談相手になって、しんどい家庭に関わり、学校が知り得ない内容などを聞いていてくれるケースがある。
・子どもが「おばちゃん、おばちゃん」と家で話しているうちに、すっと子どもと一緒に家庭に関わるケースがある。
・コーディネーターの良さは、近くにいて、すぐに相談でき、身近で使いやすいけれど、誰の味方かという部分がある。
・つなぐ人がころころ代わらない方がよい。自分の子どもが卒業したから自分も卒業ではなく、そこに居続けてくれる人が必要である。
・次の年は、その人プラス何人かのように広がっていくと、裾野が広がるように思う。頑張ろうという気持ちに火がついたら良い。
・コーディネーターは何をするのか。横文字で中身が見えないところがある。自分が何かをしないといけないというように、まじめな方ほど悩んでしまう。

**（行政で考えていきたい課題）**
・コーディネーターの存在がこれからは必要になっていくと思うが、その役割等を行政内でしっかりと整理することが大切である。

・行政内でコーディネーターを活かすシステムを整備することが必要である。
・コーディネーターの活動内容について、年間計画や活動の道筋をはっきりと出していくべきである。
・ケース会議をする専門分野のレベルと声を聞くだけのレベルを分ける必要がある。福祉や精神的ケアのケースまで受け止めることはできない。活動範囲を整理することにより、安心して自分の強みを出せる。

**（学校と考えていきたい課題）**
・学校の中でコーディネーターが相談できる相手を明確にすることが大事である。学校によって格差がある。必ず、意図的にチームを組んでおくことも大事である。
・仕掛けづくりを、コーディネーターの孤軍奮闘ではなくて、学校と連携して教員の思いが出てくるような関係性が必要である。

**（コーディネーター研修について）**
・コーディネーター同士が集まって情報交換をし、元気を得てまた学校へ戻るようにしている。コーディネーターは情報交換会を求めている。
・時にコーディネーターと教頭との合同研修をするのも良い。
・コーディネーターに何でもお任せになるとしんどさがある。その方しかいないというやり方は厳しい。もう一方でしんどさをバックアップする必要がある。
・必ず仲間づくりをしておくことが、コーディネーターの出発点である。

**〇【地域に根ざした家庭教育支援について】**
・地域でしんどい人たちと関わり、頼れる人たちが増えていき、人は変わっても地域の中でいつまでも話ができる存在がいることが大切であり、そういう方々が地域のコンビニのように出てくることが、今の取組の値打ちである。
・事業の終了を見据えて、卒業制度を作り、地域に貢献してもらう約束をして活動してもらうという組織の作り方が必要である。コーディネーターとして勉強しながら、地域に巣立っていくという発想をすることで、地域に寄り添う理解者が増えていくのではないか。
・頼れる人たちがコンビニのように地域の中で存在することが、地域の関係性、人と人との関係性を作り替え、何を大事にする町なのかという雰囲気を作っていくことに結果としてなる。その時に、苦しんでいた保護者が自分の気持ちを語れるようになる。長い期間を見通しながら、こつこつと積み上げることが大切である。
・コンビニとは、コンビを組める場所とも言える。どこにも行きようのなくなった人を地域や民間で相談を受けることも一つのコンビニである。そういう人が増えていくことをどう仕組んでいくかが重要である。

## （Ⅲ）研修会の概要

### ◆三事業合同研修会

１　目　的　　「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」に基づき、県内で実施される「学校支援地域本部」「放課後子どもプラン」「家庭教育支援活動」（以下「教育支援活動」）に関わるコーディネーターや安全管理員等の事業関係者が一堂に集まり、資質向上や情報交換等を図るための研修等を行い、県内における「教育支援活動」の総合的な推進を図ることを目的に実施する。

２　主　催　　滋賀県、滋賀県教育委員会

３　参加対象　　各市町担当職員・学校支援地域本部関係者・放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者・家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者

４　日　時　　平成２４年７月１１日（水）９：３０～１２：００

５　日　程

９：１５～　９：３０　受付
９：３０～　９：４５　開会行事・三事業の事業説明
９：４５～１１：００　講演　　講師：髙木　和久　氏（前湖南市教育研究所所長）
１１：１５～１１：５５　情報交換会
１２：００　閉会

６　場　所　　県庁東館７階大会議室

７　参加者数　　４４名

８　概　要

（１）演題　「学校・家庭・地域が協働で子どもの育ちを支える」

（２）内容

分業型社会から協働型社会へ。地域の課題を明らかにし、学校・家庭・地域が協働して子どもの育ちを支えることを目指し、学校が核となり地域全体の教育をマネジメントし、大きな成果を上げておられる湖南市立岩根小学校の学校支援地域本部の理念や取組を分かりやすくご指導いただいた。また、事業を地域に根付いたものに高めていくための意識改革やコミュニケーションの重要性等についてもご教示いただいた。

（３）情報交換会について

参加者が関わる事業ごとにグループ分けを行い、情報交換を行った。現場で事業を支えている参加者の悩みや他市町に尋ねたいことなど具体的な意見の交換がなされ意義深い時間となった。

（４）参加者のアンケートより

・学校支援、家庭教育支援について大きな方向や基本的な捉え方を教えていただけた。情報交換では、短い時間であったが、他の市町の悩みや課題等が聞けてよかった。
・子どもを育てるのは、親だけでもなく、学校でもなく、社会全体ということが再認識できた。地域活動の大切さがわかった。
・先生のお話は、大変学びになった。児童クラブの生活の場で、子どもができることは子どもたちにやらせていくことが大切だと思った。

## ◆学校支援地域コーディネーター研修会１

１　目　　的　　学校と地域ボランティアを結びつけるために学校支援地域コーディネーターが果たす役割は、さらに期待されており、学校支援地域コーディネーター等の資質向上とネットワーク構築を図る。

２　主　　催　滋賀県、滋賀県教育委員会

３　参加対象　学校支援地域コーディネーター

４　日　　時　平成２４年(2012年) ８月６日（月）１３：３０～１６：３０

５　日　　程

１３：００～１３：３０　受付
１３：３０～１３：３５　開会あいさつ
１３：３５～１４：５０　講演
講師：高橋　興　氏
（青森中央学院大学）
１５：００～１６：２０　県内の取組状況の情報交換
１６：２０～１６：３０　まとめ（講師より）

６　場　　所　滋賀県庁新館７階　大会議室

７　参加者数　３１名

８　概　　要

（１）演題　「学校・家庭・地域の連携を推進するためコーディネーターが果たすべき役割」

（２）内容

学校・家庭・地域の連携が必要であることは、これまでの教育の大きな流れである。そうした中、地域総参加で子どもを育むための課題は何か、それぞれの立場で確認したい。特に、コーディネーターは、教職員の信頼獲得が大切であり、そのため学校が望む活動ができるボランティア確保に努めたい。「口こみ」と「ネットワーク」を大切にし、自信をもって、ゆっくりと取り組む必要があることを指導助言いただいた。

（３）学校支援コーディネーター同士の意見交換

これからの社会状況や教育課題を踏まえ、地域と協働で子どもの育ちを支えるため、日頃の活動を振り返り、コーディネーターの立場から、課題だと思われることについて意見交換を行いました。

（４）参加者のアンケートより

・学校と地域の結びつきの大切さ、教員の現状などについて学ぶことができました。地域と教員の結びつきにより､教育課題を解決していかなければならないと思いました。
・高橋先生の講演は、大変役に立ちました。全体的な流れ、制度をお話しいただき、自分の役割、仕事、これからの方向性がよくわかりました。

## ◆学校支援地域コーディネーター研修会２

１　目　　的　　学校と地域ボランティアを結びつけるために学校支援地域コーディネーターが果たす役割は、さらに期待されており、学校支援地域コーディネーター等の資質向上とネットワーク構築を図る。

２　主　　催　滋賀県、滋賀県教育委員会

３　参加対象　学校支援地域コーディネーター

４　日　　時　平成２４年(2012年)　９月４日（火）１３：３０～１６：３０

５　日　　程

１３：００～１３：３０　受付
１３：３０～１３：３５　開会あいさつ
１３：３５～１４：５０　講演
講師：大谷裕美子　氏
辻　実千代　氏
（大阪府河内長野市立
美加の台中学校）
１５：００～１６：２０　県内の取組状況の情報交換
１６：２０～１６：３０　まとめ（講師より）

６　場　　所　滋賀県庁新館７階　大会議室

７　参加者数　３６名

８　概　　要

（１）演題　「学校支援地域本部　ゆめ☆まなびネットの取組と課題
―　学校との信頼関係をむすぶ・つなぐ　―　」

（２）内容

大阪府河内長野市美加の台中学校では、地域全体で学校教育を支援する体制づくりとして、①子どもの豊かな学びと心を育む②学校教育の充実③地域の教育力の向上をめざして取組を進めている。

そうした中、地域コーディネーターとして学校と地域人材との連絡調整・派遣、主体的な取組と企画、参加・協力人材の募集、人材バンクの作成、活動の取材、広報活動、学校と地域の間のクッションとなることなどを具体的事例をもとに紹介いただいた。

（３）学校支援コーディネーター同士の意見交換

日頃の活動を振り返り、ボランティアさんの募集にかかわり、御苦労されていることやボランティアさんに気持ちよく活動していただく上で、課題だと思われることについて情報交換を行いました。

（４）参加者のアンケートより

・講演で具体的な学習支援の内容を紹介していただき、参考になった。
・講師の「新しいことがやりたい。」という行動力がすばらしいと思いました。
・先生からの依頼を待つだけでなく、自分達で活動の場を広げられるように、いろいろアンテナを張っていらっしゃるのがわかりました。必ず、フィードバックされていることがすばらしかったです。

## ◆二事業合同研修会（放課後子ども・家庭教育支援活動）

１　目　的　　県内で実施される「放課後子どもプラン」・「家庭教育支援活動」に関わるコーディネーターや安全管理員、指導員等の事業関係者が一堂に集まり、資質向上や情報交換等を図るための研修等を行い、県内における各事業の効果的な推進を図る。

２　主　催　　滋賀県、滋賀県教育委員会

３　参加対象　　放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者・家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者・各市町行政関係者

４　日　時　　平成２４年１０月２５日（木）９：３０～１２：００

５　日　程

９：１５～　９：３０　受付
９：３０～　９：３５　開会行事
９：３５～１１：５０　講演　講師：鈴木　秀一　氏
（滋賀県スクールソーシャルワークスーパーバイザー）
１１：５０～１２：００　閉会行事
１２：００　閉会

６　場　所　　滋賀県庁東館７階　大会議室

７　参加者数　　９０名

８　概　要

（１）演題　「子どもを理解し、子ども同士のつながりを創造する指導者の関わり方」

（２）内容

スクールソーシャルワーカーや心理カウンセラーとして多くの子どもや保護者と関わってこられた経験をもとに、子どもや保護者と関わる者が持つべき資質や、指導する際のポイントを具体的に指導いただいた。専門的な内容も分かりやすく講義いただき、子どもの本質を理解することや感受性をみがくことなどの重要性について、参加者全員がしっかりと理解を深めることができた。感想にも多く書かれていたが、参加者が自らを振り返り、意欲を高めることのできる研修となった。

（３）参加者のアンケートより

・「キョウミ」を持つことでなく「カンシン」を持つ、「カンガエル」ことより「カンジル」こと、現在までの活動の根っこが変わるぐらいの感覚を知ることができた。
・心理学なのでわかりにくい感じだと思っていたが、アニメも取り入れてくださり、また、内容も具体的で非常に分かりやすかった。自分自身を知るきっかけもできたように思う。
・スクールソーシャルワークの福祉的視点、子ども理解について、今までの自分の考え方と違う新しい視点が感じられてとても勉強になった。現場に持ち帰り一つ一つ取り組んでいくことで、子どもたちのためになりたいと思いました。
・初めての参加ですが、専門的な知識が必要だと感じ、今後も研修を受けたいと思いました。少し難しいけど参考になりました。
・たいへん分かりやすい講演で、日々子どもに接していく上での基本的なかかわり方に改めて気づき、自分の思いこみを反省した。自己理解と感受性訓練を日々心がけて、より子どもたちを理解し、少しでも貢献できればと思った。

## ◆三事業合同研修会

１　目　　的　　実施市町における取組の成果を広く関係者に情報発信し、それぞれの取組の連携を深め、社会全体で子どもの育ちを支える体制づくりを推進する。

２　主　　催　滋賀県教育委員会

３　参加対象　学校支援地域本部関係者、放課後子ども教室関係者、家庭教育支援活動関係者市町担当職員、小中学校の教職員、ＰＴＡ関係者

４　日　　時　平成２５年(2013年）１月２４日（木）１３：３０～１６：２０

５　日　　程

１３：００～１３：３０　受付

１３：３０～１３：４０　開会行事

１３：４０～１５：００　講演

講師：熊谷　慎之輔　氏

（岡山大学大学院教育学研究科

学校教育学系）

１５：１０～１６：１０　事例報告

１６：１０～１６：２０　まとめ（講師より）

６　場　　所　滋賀県庁新館７階大会議室

７　参加者数　１１２名

８　概　　要

（１）演題　「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業の意味と今後のあり方」

（２）内容

社会全体の教育力向上のため、学校・家庭・地域が連携・協働を進めることの意味を先進的事例をもとに紹介いただいた。また、こうした取組を積極的かつ継続的に行っていくための推進母体となる組織（チーム）の必要性を御指導いただいた。

（３）事例報告

＊栗東市立栗東中学校の取組　　＊湖南市家庭教育支援チームの取組　　＊米原市子ども教室の取組

（４）参加者のアンケートより

・東洋医学の漢方薬としての地域連携が、即効性はなくても、じんわりと効いてくるんだという話が心に残った。

・何のために連携するのか、連携することが目的ではないことを改めて思い知らされました。

・組織づくりをするにあたって、必要なことや考えなくてはならないことがよくわかりました。

## ◆ 「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」推進委員会　委員名簿

【任期：平成24年6月26日～平成25年3月31日】

| 部会 | 氏名 | 所属 |
|---|---|---|
| 学校支援地域本部部会 | 今井　佳代子 | 近江八幡市立北里小学校支援地域本部地域コーディネーター |
| | 佐敷　恵威子 | 滋賀県教育委員会事務局学校教育課主幹 |
| | 白石　克己 | 佛教大学教育学部教授 |
| | 谷口　茂雄 | 湖南市教育研究所所長 |
| | 築山　えり子 | 草津市立矢倉小学校校長 |
| | 松田　幸夫 | 湖北おやじクラブ事務局長 |
| | 山田　淳 | 東近江市教育委員会事務局生涯学習課指導主事 |
| 放課後子どもプラン部会 | 岡本　明美 | 日野町必佐学区学童保育指導員 |
| | 神部　純一 | 滋賀大学社会連携研究センター教授 |
| | 久保　和子 | 滋賀県学童保育連絡協議会事務局長 |
| | 津田　忠克 | 栗東市立治田西小学校校長 |
| | 中澤　瑠美 | 東近江市生涯学習課主事 |
| | 廣岡　眞弓 | 甲賀市かふか生涯学習館館長 |
| | 山田　裕美 | 米原市近江公民館館長 |
| 家庭教育支援活動部会 | 髙木　和久 | 湖南市立岩根小学校学校支援本部事務局、元公立小学校長 |
| | 谷口　久美子 | NPO法人CASN理事長 |
| | 千原　美重子 | 奈良大学社会学部教授・奈良大学心理クリニック所長 |
| | 宮嶋　誠一郎 | 株式会社ミヤジマ　代表取締役社長 |
| | 山本　清八郎 | 近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課参事 |
| | 吉田　亮 | 滋賀県健康福祉部子ども・青少年局主幹 |

計20名

＜敬称略50音順＞

# Ⅱ　学校支援地域本部の実践事例


◆平成２４年度学校支援地域本部一覧・・・・　３１
◇彦根市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３２
◇近江八幡市・・・・・・・・・・・・・・・・・　５８
◇栗東市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８４
◇湖南市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８６
◇東近江市・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０３
◇米原市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０９
◇竜王町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１１
◇愛荘町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１４
◇甲良町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１６
◇多賀町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１７

## 平成２４年度　滋賀県学校支援地域本部一覧

| No | 市町名 | 本部名 | 学校名 | ページ数 | 小学校 | 中学校 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 彦根市 | 東中学校区支援地域本部 | 城東小学校 | 32 | 17 | 7 |
| | | | 佐和山小学校 | 33 | | |
| | | | 旭森小学校 | 34 | | |
| | | | 東中学校 | 35 | | |
| | | 西中学校区支援地域本部 | 城西小学校 | 36 | | |
| | | | 城北小学校 | 38 | | |
| | | | 西中学校 | 39 | | |
| | | 中央中学校区支援地域本部 | 平田小学校 | 40 | | |
| | | | 金城小学校 | 41 | | |
| | | | 中央中学校 | 42 | | |
| | | 南中学校区支援地域本部 | 城南小学校 | 43 | | |
| | | | 城陽小学校 | 44 | | |
| | | | 若葉小学校 | 45 | | |
| | | | 亀山小学校 | 46 | | |
| | | | 南中学校 | 47 | | |
| | | 彦根中学校区支援地域本部 | 河瀬小学校 | 48 | | |
| | | | 高宮小学校 | 49 | | |
| | | | 彦根中学校 | 50 | | |
| | | 鳥居本中学校区支援地域本部 | 鳥居本小学校 | 51 | | |
| | | | 鳥居本中学校 | 52 | | |
| | | 稲枝中学校区支援地域本部 | 稲枝東小学校 | 54 | | |
| | | | 稲枝西小学校 | 55 | | |
| | | | 稲枝北小学校 | 56 | | |
| | | | 稲枝中学校 | 57 | | |
| 2 | 近江八幡市 | 近江八幡市学校支援地域本部 | — | 58 | 10 | 2 |
| | | 八幡小学校支援地域本部 | 八幡小学校 | 60 | | |
| | | 島小学校支援地域本部 | 島小学校 | 62 | | |
| | | 岡山小学校支援地域本部 | 岡山小学校 | 64 | | |
| | | 桐原小学校支援地域本部 | 桐原小学校 | 66 | | |
| | | 桐原東小学校支援地域本部 | 桐原東小学校 | 67 | | |
| | | 馬淵小学校支援地域本部 | 馬淵小学校 | 68 | | |
| | | 北里小学校支援地域本部 | 北里小学校 | 70 | | |
| | | 武佐小学校支援地域本部 | 武佐小学校 | 72 | | |
| | | 安土小学校支援地域本部 | 安土小学校 | 74 | | |
| | | 老蘇小学校支援地域本部 | 老蘇小学校 | 76 | | |
| | | 八幡西中学校支援地域本部 | 八幡西中学校 | 78 | | |
| | | 安土中学校支援地域本部 | 安土中学校 | 80 | | |
| | | 金田幼稚園支援地域本部 | 金田幼稚園 | 82 | | |
| | | 安土幼稚園支援地域本部 | 安土幼稚園 | 83 | | |
| 3 | 栗東市 | 栗東中学校支援地域本部 | 栗東中学校 | 84 | 0 | 1 |
| 4 | 湖南市 | 岩根小学校支援地域本部 | 岩根小学校 | 86 | 9 | 0 |
| | | 菩提寺北小学校支援地域本部 | 菩提寺北小学校 | 87 | | |
| | | 菩提寺小学校支援地域本部 | 菩提寺小学校 | 89 | | |
| | | 水戸小学校支援地域本部 | 水戸小学校 | 90 | | |
| | | 石部南小学校支援地域本部 | 石部南小学校 | 92 | | |
| | | 石部小学校支援地域本部 | 石部小学校 | 95 | | |
| | | 下田小学校支援地域本部 | 下田小学校 | 97 | | |
| | | 三雲東小学校支援地域本部 | 三雲東小学校 | 100 | | |
| | | 三雲小学校支援地域本部 | 三雲小学校 | 102 | | |
| 5 | 東近江市 | 蒲生地区学校支援地域本部 | 蒲生東小学校<br>蒲生西小学校<br>蒲生北小学校<br>朝桜中学校 | 103 | 7 | 2 |
| | | 湖東第二小学校区学校支援地域本部 | 湖東第二小学校 | 104 | | |
| | | 玉緒小学校支援地域本部 | 玉緒小学校 | 105 | | |
| | | 八日市南小学校支援地域本部 | 八日市南小学校 | 106 | | |
| | | 船岡中学校区学校支援地域本部 | 八日市西小学校、船岡中学校 | 108 | | |
| 6 | 米原市 | 米原市学校支援地域本部 | 柏原小学校<br>山東小学校<br>大原小学校<br>伊吹小学校<br>春照小学校<br>米原小学校<br>息郷小学校<br>醒井小学校<br>坂田小学校<br>息長小学校 | 109 | 10 | 0 |
| 7 | 竜王町 | 竜王町学校支援地域本部 | 竜王小学校<br>竜王西小学校<br>竜王中学校 | 111 | 2 | 1 |
| 8 | 愛荘町 | 愛荘町学校支援地域本部 | 秦荘東小学校<br>秦荘西小学校<br>愛知川小学校<br>愛知川東小学校<br>秦荘中学校<br>愛知中学校 | 114 | 4 | 2 |
| 9 | 甲良町 | 甲良町学校支援地域本部 | 甲良東小学校<br>甲良西小学校<br>甲良中学校 | 116 | 2 | 1 |
| 10 | 多賀町 | 多賀町学校支援地域本部 | 多賀小学校<br>大滝小学校<br>多賀中学校 | 117 | 2 | 1 |
| 合計 | | | | | 63 | 17 |
| | | | | | 80 | |

# 伝統を引き継ごう　～マーチングバンド活動の充実に向けて～　【彦根市】

**【東中学校区支援地域本部：城東小学校】**

**１【事業の概要・特色等】**

○編成と指導体制

・マーチングバンドは、６年生（後期は５年生）児童で編成し、管楽器・打楽器・カラーガードに分かれて毎週金曜日の６校時に練習を行っている。

・教職員が分担して指導（前期９名、後期９名）にあたり、年間３０時間程度活動している。

・外部から、非常勤講師（社会人活用）１名、ボランティア２名の方に演奏指導に来ていただいている。

○活動内容

・各パートの練習（毎週金曜日６校時）

・運動会、卒業式歓送などの校内行事への参加

・市民運動会、城祭りパレードなどの地域行事への参加

・東中学校吹奏楽部との連携

**〈工夫した点〉**

・指導者確保のため、以前からボランティアとしてトランペットの指導をしていただいていた方に社会人講師をお願いし、毎年来ていただけるようにした。また、学校支援地域本部が発行する「学校支援ボランティアだより」に、指導ボランティアの募集を掲載してもらったところ、２名の方がトロンボーンや打楽器の指導にきていただけることになり、指導体制が充実した。

・１２月上旬から１月下旬にかけて、６年生から５年生への引き継ぎ期間を設定している。子ども同士の交流を通して、楽器等の演奏技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を大切にしていこうとする心も引き継いでいる。

**〈他校の参考となる点〉**

・毎年５月下旬頃（中体連の期間中）に東中学校吹奏楽部の生徒に本校に来てもらい、全校児童が生演奏を聴く機会をもっている。音楽鑑賞会の後には、東中学校吹奏楽部員に、マーチングバンドの演奏指導をしてもらっている。

**２【事業の成果】**

・本校を卒業した先輩の演奏を聴いたり、直接指導してもらったりすることで、音楽活動への意欲や中学校の部活動への期待感につなげることができた。

・学校支援地域本部との連携と小中連携をうまく重ね合わせることで、指導体制を充実させることができた。

**３【今後の課題】**

・学校支援ボランティアの活動をさらに充実させていくためには、学校支援地域本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくとともに、地域コーディネーターとの連携を深め、人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。

# 地域に開かれた学校づくりをめざして　【彦根市】

**【東中学校区支援地域本部：佐和山小学校】**

**１【事業の概要、特色等】**

**（１）図書ボランティア**

**○読み聞かせボランティアの取組**

「たくさんの絵本との出会いと本の楽しさを届けること」を目的として毎週金曜日のさわやかタイム（8:20 ～ 8:35）に読み聞かせボランティアの方からの読み聞かせを実施している。

**○ポケットさんの取組**

読み聞かせボランティアの他に図書室の環境整備（本の整理整頓、修理、掲示物の作成）や子どもたちの本の貸し出しの見守りにも来ていただいている。子どもたちからも親しまれやすいように、この取組をしていただいている方を「ポケットさん」という愛称で呼んでいる。

**（２）ふれあいルーム**

昨年度から、お年寄りと子どもたちとの交流を目的とした「ふれあいルーム」の取組をしている。毎週木曜日の昼休みを「ふれあいルームの日」として、多くのお年寄りに来校いただいている。本事業の活動が、「地域に開かれた学校」の取組の一環としての役割を担い、より一層地域の方から信頼される学校になることを願っている。

**〈工夫した点〉**

・「読み聞かせボランティア」の取組において、今年度は、本の読み聞かせ以外に、１年生を対象にした「３枚のお札」のペープサートを実施していただいた。準備のために何回も学校に足を運んでいただいた。当日は、食い入るようにペープサートを鑑賞した１年生の子どもたちの表情が印象深かった。

・「ふれあいルーム」の取組において、今年度は、佐和山小学校区以外のお年寄りからも「ふれあいルーム」に参加したいという声をいただき、一度来校してもらった。その際には、登校の見守りを一緒に行っている犬も連れてこられ、子どもたちと犬との触れ合いの時間となった。

**〈他校の参考となる点〉**

東中学区支援地域協議会の担当者会議の中で、他の小学校では、英語による読み聞かせを実施しているという話をお聞きした。国際理解教育との関連を加味しながら、本校での導入について検討していきたい。

**２【事業の成果】**

【ポケットさんによる本の紹介】

【ふれあいルームの様子】

・読書ボランティアの方々の活動により、子どもたちの本への興味・関心が高まってきた。

・ふれあいルームの取組を通して、お年寄りの方からたくさんの愛情をいただき、子どもたちの心の潤いにもつながっている。また、お年寄りの方からも子どもたちと触れ合うことで「元気がもらえる。」という感想をいただいている。

**３【今後の課題】**

これら取組以外にも多くの活動で保護者や地域の方からの支援をいただいている。

今後もより一層「地域に開かれた学校づくり」をめざして保護者、地域の方との連携を深めていきたいと考えている。

# 外部団体による生の体験に学ぶ　【彦根市】

【東中学校区支援地域本部：旭森小学校】

## 1【事業の概要、特色等】

○水資源機構の出前講座

フローティングスクールでのびわ湖学習を発展させる意味と、総合的な学習の時間としての環境学習を進める意味で、琵琶湖開発総合管理所の方に来校していただいた。

映像を交えて、具体的に琵琶湖の役割や水質浄化の取組について説明してもらった。

実際にパックテストを実施して、子どもたち一人ひとりが身近な芹川の水と北湖・南湖の水を比較した。グループに分かれて、目の前でパックテストをすることができたので、水の汚れ具合が一目瞭然で分かった。

○日本の伝統文化の体験

ミシガン州立大学の学生さんとの交流会（日本の伝統文化を通して）に先立って、6 年生の子どもたち自らが日本の伝統文化に直接触れたり体験したりできるように、学校に狂言・琴・茶道の先生を招いて体験教室を開催した。

狂言･琴･茶道の体験をそれぞれ別の日に設定した。

〈工夫した点〉

・グループごとにパックテストがしっかりできるように、琵琶湖開発総合管理所から 10 名のスタッフの方に来校していただいた。

・日程や時間設定を工夫して、1 学級ができるだけゆったりと体験できるようにした。

・琴は、子ども一人につき 1 台ずつ使えるように用意し、子どもたちが実際に琴に触れる時間が少しでも長くなるようにした。

・体験の内容によって、活動場所の設定を工夫した。（簡易能舞台の設置・上敷をしく・和室の利用）

## 2【事業の成果】

・実際にパックテストをして水の汚れ具合を確かめたり、琵琶湖の現状と果たしている役割の重要性について詳しく説明してもらったりしたので、子どもたちの中にもっと琵琶湖を大切にしていこうとする気持ちが強まった。

・自分たちがしっかりと伝統文化の体験をした上でミシガンの学生さんたちと交流したので、自信をもって日本の伝統文化のよさをアピールすることができた。

## 3【今後の課題】

・水環境の出前講座を受けた後の子どもたちの取組が、やや弱くなってしまったので、意識を持続させるような活動を用意したい。

・日本の伝統文化の体験は、ミシガン交流のためというだけではなく、日本の伝統文化に触れ愛着をもつという意味でも今後も継続していきたい。

# いきいき学習相談における学習支援　【彦根市】

【東中学校支援地域本部：東中学校】

## １【事業の概要、特色等】

①実施時期・取組時間
2012 年 11 月～ 2013 年 3 月までの毎週火・木曜日の週２回、放課後１時間程度

②対象生徒
今年度、学習支援を希望する３年生
（男子１０名、女子１６名、計２６名）

③スタッフ
地域の学習支援ボランティア（　１２　名）
学生チューター（　５名　）

④内　容
・中学校で学習する内容のテキストを利用し国語、数学、英語を中心に基礎的・基本的な内容の学習に取り組む。
・それぞれの学習支援ボランティアやチューターが、得意とする教科や分野の学習支援を担当し、１人が生徒２～３名に対して個別指導をする。

### 〈工夫した点〉

・学習支援ボランティアやチューターの指導教科（得意分野）を明示することで、生徒自身が学習したい教科に取り組みやすくすることができた。
・生徒の机を前後に間隔をあけ、対面式に並べることで、指導者と生徒の距離感が縮まり、個別指導がしやすくなった。
・指導者の都合を事前に把握することで、各開催日毎の指導者の過不足がでないよう調整できた。

### 〈他校の参考となる点〉

・生徒２６名を２グループ、２つの教室に分け、少人数的な学習相談を行うことで、生徒の緊張感もやわらぎ、生徒にとって学習しやすい環境となった。

## ２【事業の成果】

・卒業後の進路選択や進路実現を目指している３年生のこの時期に、基礎的・基本的な内容を中心に学習支援を行う機会を設けることは、生徒一人ひとりの学習意欲を高めたり、目的意識を持った学習態度を養うことができた。
・生徒が自ら学習に意欲を持って取り組むことで、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができた。
・年齢の近い学生チューターや地域の学習支援ボランティアなど、異年齢の方々とふれあうことを通して、幅広い人間関係を培うことができた。
・将来、教員を目指す学生チューターには、学習指導や生徒理解等の経験を積む場の提供ができた。

## ３【今後の課題】

・対象教科や学習レベルなど、学習活動内容の拡大を目指したいが、学習支援ボランティアの人数が確保できなかったり、教科の調整がつきにくい。
・対象生徒を１，２年生の生徒にも広げたいが、放課後の時間帯は部活動に参加するため、時間的な課題があり、開催時期や時間の工夫が必要である。
・学習相談の開始時期を早めたいが、前述の課題により困難である。しかしながら長期休業中の補充教室や質問教室での学習相談の開催にむけて、今後前向きに検討し、地域の力を活用する機会を拡げたい。

# 学校支援地域本部事業の取組　【彦根市】

**【西中学校区支援地域本部：城西小学校】**

## １【事業の概要、特色等】

ＰＴＡのウィークエンドクラブ活動の一環として始まった「お正月で遊ぼう」は、今やその枠を超えて、学区内の社会福祉協議会や青少年育成協議会、老人クラブに加え、日頃から学校での子どもの活動を支援する地域の高齢者でつくる「子どもらと楽しもう会」も参画する事業として、子どもと地域をつなぐ役割を担っています。

昔はお正月遊びの定番であったカロムやコマまわし、カルタ取りや剣玉、お手玉といった懐かしい遊びを、テレビゲームしか知らない現代の子ども達に体験させることで、昔ながらの遊びの楽しさと伝統遊具を継承することを目的として毎年１月に開催されています。体験の重要性が必要と考え、遊びという切り口だけでなく、餅つきをプログラムに加え、子どもらに杵と臼で餅つきを体験させ、高齢者らが手返しを行い、小餅に丸めてきなこや餡をまぶして子どもらに振る舞う時間は、参加する子どもだけでなく保護者や地域の皆さんも楽しみにする時間となっています。

〈工夫した点〉

ＰＴＡ事業である点を踏まえて、地域とＰＴＡとで役割分担を決め、地域として無理なく無駄なく事業サポートできるよう、一定の裁量を与えていただくようにしています。また、この事業に限らず引き続き学校支援のお手伝いをしていただけるよう、事業サポートが決して難しいものでないことをアピールすると共に、サポート依頼のチラシを幅広く配布し、活動のＰＲにも努めています。

## ２【事業の成果】

事業の運営そのものは城西小学校のＰＴＡが主体となっていますが、事業の特性上、地域の高齢者や各種団体の協力は必要不可欠であり、年に一度とはいえ高齢者を中心とした多くの地域の方々が学校を訪れて、子ども達に遊び方の指導をしたり、杵を持たせて餅つきの仕方を教える姿は微笑ましく、また双方にとって地域や学校との交流により「地域の中の学校」としての認識や「地域の中での役割」という意識の醸成につながるものと考えます。

年々お手伝いをしていただける地域の方々が増えつつあることは、地域コーディネーターとして声をかけさせていただく上で非常に励みになり、地域と学校をつなぐ意味と役割をこの事業に互いが見い出せているものと考えます。地域の方が顔なじみとなった子どもらの日頃の活動も支援しようと、様々な行事に顔を出していただくようなったり、「子どもらと楽しもう会」に参加して、あらゆる活動にご協力いただけることは、学校にとっても地域にとっても、大変有り難く心強い事業成果の表れであると認識しております。

**３【今後の課題】**

年々、事業に参加してくださる地域の方々の人数が増える一方で、子どもらの参加人数が低調であります。これは冬の寒い時期の開催であることもその原因のひとつと考えられますが、保護者にも事業の必要性や意義を、より深く理解していただく必要があると感じます。そのためには、事業サポートをしていただける地域の方々を更に増やしていくことと合わせて、事業の内容も幅広いものにし、地域による学校支援の色合いを強く打ち出すことで、「地域による学校支援の見本市」のようなＰＲを通じて、地域の方々には学校支援の必要性や自身の地域での役割、ボランティアとして活躍できる場を、子どもや保護者の方には地域が支える学校という認識を新たにしていただくと共に、身近な学校で様々な体験ができる地域環境の有意性を、それぞれに認識していただくことが必要であると考えます。

# 「全校児童による総合学習でふるさと探訪」　【彦根市】

【西中学校区支援地域本部：城北小学校】

## １【事業の概要、特色等】

恵まれた学区内の自然環境や点在する文化財等を生かしたふるさと探訪オリエンテ-リングを全児童が毎年行って、身近な自然や文化を地域から学ぼうとする心情や郷土愛の心を育み、又、地域の人達に引率サポートや説明を受けながら学習をより深め、たくましい心身を養う機会として取り組んでいる。

国宝彦根城、井伊家住まい跡地、屋敷庭園やその由緒ある神社・寺をはじめ、石田三成の城である佐和山城址・旧松原内湖・埋め立て干拓工事・旧回転橋跡・水主水軍番所跡・現在の農業ハウスの立ち並ぶ田園・観光船が出入りする彦根港・スポーツ施設等色々な次代を背景に歩み変遷してきた場所を積極的に観察したり、当時の人々達の生活実態を聞いたりして社会の移り変わりを学習する。

今年度も児童会の縦割りグループを利用して全校児童を１６班に編成され、学校支援ボランティア２５名の応援を受け班別行動での安全サポートや訪問箇所での補完説明などをおこなっていただき、地域の潜在的な教育力を継続的に高め合うことが出来、恵まれた自然環境の有りがたさをしみじみと感じる機会である。

**〈工夫した点〉**

障がいの程度に関係なく、全員が現地訪問（彦根城天守閣等）できるようサポート体制（人数・安全確保）を取った。その結果、全児童及び保護者に喜びと感動を与えることができた。

## ２【事業の成果】

学習の場を校内だけでなく地域に広げたことにより、児童たちは史跡や昔の人々の生活の様子などを知り、様々な世の中の移り変わりに、人々が立ち向かいたくましく生活していた事実に感動を覚えた。また地域の遺産や自然の恵みを守る大切さ、命の尊さ、生活の知恵、力強く生き抜く地域の団結力について、子どもなりに感じた言葉を会話の中で多く聞くことができた。さらに、学校支援ボランティアの人達も、笑顔の絶えない楽しい学習と世代間交流がおこなえた。

## ３【今後の課題】

学校支援地域本部の立ち上げから３年半が過ぎ、特に学習面に於いては、支援要請を受けても何とかクリアできる人材確保状態になってきた。
しかし、次の点を課題として取り組んでいくこととする。

その１
校内環境整備（運動場の除草、農園管理）において、他校よりも面積が大きく定期的な支援ボランティアの確保が急務となってきたこと。

その２
登下校時のスクールガードマンの人数確保と体制の在り方に検討の余地が残っているように思われるのでこちらも早急に安全確保に努め、地域の協力を最大限得ること。

その３
朝の読み聞かせ読書支援ボランティアの増員を図ること。

# 本校の学校支援活動　【彦根市】

**【西中学校区支援地域本部：西中学校】**

**１【事業の概要、特色等】**

西中学校ですでに１０年以上も続いている「読み聞かせ」。

大学生チューターによる「補充学習」や基礎学力を伸ばすための「楽習広場」。特に生徒の要望が非常に多い「補充学習」は地域の力をさらに集めて実施していかねばならない。

また、３つの部活動の地域の方々による指導支援。さらに、延べ年間１，０００名にも及ぶ「地域貢献活動」の活発化。

生徒とＰＴＡによる協働作業としての「環境整備」には、地域のボランティアが昨年から加わった。

教職員の支援要求についてのアンケートを隔年で実施し、毎年支援の重点として決定し活動。

**〈工夫した点〉**

「読み聞かせ」では各学期ごとに反省会をもち、中学生や教職員との相互理解が必要であることを感じ、教職員にも御協力を得ることができた。

「地域貢献」では事前に地域のリーダーと折衝し、受け入れ態勢や生徒理解に改めて認識を新たにしてもらえ、参加した生徒たちが気持ち良く活動ができる素地をつくろうとした。

「環境整備」では生徒・ＰＴＡ・地域などとの協働作業をすることによって、相互理解を図ろうとし、地域の支援が生徒たちを育てるために尽力していることを情報として周知してもらえた。

**２【事業の成果】**

「読み聞かせ」では年間３回の反省会をしている。生徒たちに読み聞かせているだけではなく、生徒たちがどのように受け取ってくれているのかなども知りたいなど、生徒理解のためにも交流もしてみたいといった意見も出された。

「部活動」の支援では、教職員の負担軽減や技術のさらなる向上にもつながり、生徒の意欲を喚起することもできている。

「地域貢献活動」でも、今までは生徒が参加しても受け入れ態勢が不十分なため、生徒がどうしてよいのかも分からず、不本意な活動に終始していたが、事前に地域が受け入れ態勢について学校側やコーディネーターなどと協議していただけ、生徒たちも気持ち良く活動ができるようになり、地域の方々とのコミュニケーションも倍増している状況が出ている。

「環境整備」では何年も手が入っていなかった前庭の樹木にも２年前から剪定作業がなされ、学校の表玄関が見違えるように整備された。作業日も今年から生徒やＰＴＡが行う「愛校作業」の日に設定し、相互理解ができるような配慮もすることができた。

「教職員アンケート」では、学校や教師サイドの要望も集約することができ、その要請によっても重点的に活動することが少しずつできてきた。

**３【今後の課題】**

「地域貢献活動」では、生徒たちが地域で活動するための受け入れや生徒理解がさらに進展するためには、コーディネーターの役割は大きい。

どの活動でも言えることであるが、地域ボランティアのさらなる増員が望まれている。

「中学校は敷居が高い」「中学生は親しみにくい」などの声もあり、学校行事をさらに公開したり、地域の方々に親しんでいただける学校づくりが大切である。

# 本校の学校支援活動　【彦根市】

**【中央中学校区支援地域本部：平田小学校】**

**1【事業の概要、特色】**

本校の学校支援地域本部事業は、今年で2年目を迎え、少しずつその成果を上げてきている。地域の方の学校に対する期待は大きく、また協力的である。

今年度の主な活動は、以下に示すとおりである。

| | |
|---|---|
| 6月　6日 | 第1回総会 |
| 6月末～7月初 | 学級園の整地及び除草 |
| 6月18日～ | 読書ボランティア開始（毎週水曜日） |
| 10月25日 | 第2回総会 |
| 11月　7日 | 「ふれあい遠足」協力 |
| 11月　末 | 学級園・一人一鉢用土作り |
| 12月　5日 | 一人一鉢苗植え補助<br>学校花壇苗植え |
| 12月11日 | お菓子作り |
| 3月中 | 感謝のつどい |

**〈工夫した点〉**

学校支援地域コーディネーターの方との連携をできるだけ密にするよう心がけた。学校主体の取組であっても、学校の思いと地域の方との思いは微妙に違っていることがある。活動に入る前に、互いの考えるところをしっかりと話し合うことで、同じ目的をもって活動に取り組み、どの活動も成果が上がったと思う。

**〈他校の参考となる点〉**

様々な活動の中で、「ふれあい遠足」の協力は、特色ある活動である。地域の歴史についてお話しいただいたり、ウォークラリーのポイントに立ってもらって指令を出してもらったり、各班の引率を一緒にしてもらったりと、なくてはならない役割をしていただいている。どの活動でも、子どもと直接ふれ合う機会が多く、ボランティアの方にとっても有意義な時間になっている。

**2【事業の成果】**

今年度は1学期から活動に取り組み、1年間をとおして計画的に進められたことが大きな成果であった。

ボランティアの方にとっては、継続的に活動があることから、学校との連携が深まり、学校の行事や活動に関心をもってもらうことができた。

また、何度か学校に出向いてもらうことで、子どもとの交流の場ができ、子ども達にとっては地域の方に感謝する気持ちが育つよい機会となった。

**3【今後の課題】**

活動については、学校から依頼すると学校支援本部事業の方の中で、都合のつく方が、ボランティアとして協力いただくという形が多かった。そのため活動が単発的で、受動的なものに終始してしまった。

今後は、学校花壇の運営を任せ、そこを交流の場とするなど、学校支援地域本部事業の方がより主体的に学校の教育活動に参画していただくという形を取っていきたい。

そのために、毎月第○週○曜日を活動の日と定め、定期的に来校していただく機会を作ることで、意識して学校の教育活動に参画してもらう体制づくりを推進したい。

# 学校と地域の「豊かなつながり」　【彦根市】

**【中央中学校区支援地域本部：金城小学校】**

## １【事業の概要、特色等】

子どもと地域住民、学校と家庭や地域との「豊かなつながり」をつくり、金城学区全体として子どもたちの確かな学力向上を図るとともに、安全で安心、快適な学校づくりをめざして本事業に取り組んでいる。

（１）登下校、校外学習の安全パトロール

金城見廻り隊の方々が毎日要所に立ち、子どもたちの登下校の安全を見守り、「おはよう。」「お帰り。」の声をかけてくださっている。

その見守りに対して、子ども達は感謝の気持ちを込めたメッセージカードを贈っている。また、安全確保のため校外学習の引率をしていただいた。

（２）絵本の読み聞かせ・影絵

朝の読書活動時を活用し、年間を通して水・木・金曜日に各クラスを回り、絵本の読み聞かせを行っていただき、読書教育に寄与してもらっている。子ども達はお話の世界に浸っている。

また、秋の全校集会では、読書の秋にちなんで、例年、絵本を題材にした影絵を全校児童に見せてもらっている。

（３）ゲストティーチャー

３年「昔のあそび」（総合的な学習の時間）にゲストティーチャーとして地域の方々に昔の遊び（「輪ゴム鉄砲」「あやとり」「お手玉」等）を教えに来ていただいている。子ども達は、「○○名人」として憧れの気持ちを抱きながら、楽しく学習を進め、地域の方々との結びつきを深めている。

（４）学校施設の整備

昨年度に引き続きＦＢＣ花壇や一人一鉢栽培の活動にかかわって苗植えや水やりを手伝っていただいている。

また、本年度は新たに、校庭樹木の葉刈りや運動場への土入れ、鶏小屋の跡地整備など学習環境を整えていただいた。

## ２【事業の成果】

登下校時の子ども達の安全が確保され、子ども達だけでなく保護者からの安心感も得られている。また、感謝カードなどの取り組みにより、ボランティアとのつながりも深まってきている。

## ３【今後の課題】

ボランティアに学校側のニーズや願いを明確に提示しながら、学校がめざす姿を共有化したいと考える。そのためには、時間の確保が難しいことがあるが、定期的に会合を持つ必要がある。

また、さまざまな教育活動に対応できる人材を豊富に確保し、ボランティア活動を教育活動の中に位置づけ、定着化と活性化を図ることが重要だと考える。

さらに、本事業に対する教職員の理解を深めながら、教師や子どもとボランティアとの「豊かなつながり」（信頼関係）をつくっていくことが一層求められる。

# 「学校と地域を結ぶ支援地域事業」の体制づくり　【彦根市】

**【中央中学校区支援地域本部：中央中学校】**

## １【事業の概要、特色等】

地域住民による学校への支援体制を構築することによって、生徒が様々なことを体験し多様な生き方を学ぶことができる体制づくりを確立する。

本校では、昨年度から学校支援地域本部を設置して、学区内の２小学校と連携しながら学校と地域が一体となった学校づくりを目指している。定期的に担当者会を開催して、交流を深めている。担当者会は、各学校地域コーデイネーター・学校担当者・管理職で構成している。現在のこどもたちの課題解決と身につけさせたい力を育成できるような取組を展開している。

### 〈工夫した点〉

地域ボランティアの方々のコミュニケーションを図り、連帯感を持っていただき、学校へいつでも来ていただける雰囲気づくりに努めている。

教員に対して授業での学校地域支援ボランティアに関するアンケート（学習支援・学習アシスタント・環境支援等）を行った。

### 〈他校の参考となる点〉

学期に１回、地域支援担当者会を開催して小学校と中学校の交流を深めている。その中で、中央中学区の子どもたちの様子の交流や学校での取組の状況がよくわかり、学校のニーズや生徒につけさせたい力が地域コーデイネーターにもよく伝わり、支援事業の役割が確認できた。

## ２【事業の成果】

昨年度からの環境整備は、今年も順調に進めることができ、中庭の花壇に花を植える事ができた。今後は生徒や教職員と地域の方々とともに花の世話をしたりしていきたい。

支援事業を地域にさらに知らせるための広報活動として、チラシを配布する予定である。

学校の図書館運営のボランティアを募っている。

## ３【今後の課題】

地域には、まだまだ潜在的に多くの支援者がおられるので、環境支援や学習支援などで、自身の経験や専門性を生かしながら、生徒とともに活動することで成果を上げていきたい。

- 地域の方々の人材登録バンクづくりの推進を図る。
- 広報活動やＰＲ活動をさらに進めていくことで、地域と学校のつながりを深めていきたい。
- 学校支援地域事業に対して教職員の意識の差の解消のための研修会等を実施していきたい。
- 「生徒につけさせたい力」を地域コーデイネーターと教師が共有して、取り組みを考え実践していきたい。

# 地域ぐるみで学校を支援する体制づくり　【彦根市】

**【南中学校区支援地域本部：城南小学校】**

彦根市立城南小学校の実践事例

**ー事業の趣旨ー**

昨年度から南中学校区で学校支援地域本部を立ち上げ、中学校区内で実践交流したり協力したりしながら、今までの取組を継承しながらも、さらに地域との連携を充実・発展していけるように事業を進めている。

**１【事業の概要、活動の実際】**

○事業の概要

①読書ボランティア

・朝のさわやかタイムの読み語り

・図書室の環境作り

②スクールガード

・登下校時の通学路の見回り

・下校後の公園等の見回り

③生活科・総合的な学習の時間の学習支援

１年　生活科「昔からの遊び」

２年　生活科「野菜を育てよう」

　　生活科「町の人と仲よくなろう」

３年　総　合「私たちの町の行事調べ」

　　社会科「店ではたらく人」

４年　総　合「人にやさしい町・環境」

　　社会科「郷土を開く」

５年　総　合「お米博士になろう」

６年　総　合「城南学区の歴史を探ろう」

**２【事業の成果】**

・生活科や社会科、総合的な学習の時間などにおける学習支援に進んで参加してくださる地域の方が年々増えてきている。子どもたちは、近くに住む親近感と本物にふれる喜びから地域の方とのふれあう時間をとても楽しみにしている。

～２年生児童のふり返りから～

（生活・野菜を育てよう　さつまいも栽培）

今日は、さつまいもの収穫祭をしました。植えたり、世話したりするときに教えてもらったり手伝ってもらったりしたおじさん、おばさんを招待しました。おいもは、やきいもにして食べました。いっしょに食べてとてもおいしかったです。

・読書ボランティアの活動では、季節や学年にあった本を選定してくださるので、読み聞かせを楽しみにしている。環境整備にも力を入れていただいたので読書に関心をもつ児童が増えている。

・スクールガード活動では、毎日見守り活動をしていただいている。

**３【今後の課題】**

学校をいろいろな面で支援をしてくださる方が年々増えてきている。学校と地域とが一体となって子どもの教育に取り組むために、今後も意見交換や交流を盛んにしていく必要がある。地域に学校公開するなど開かれた学校づくりに取り組みたい。

# 本校の学校支援地域本部事業の取組　【彦根市】

**１【事業の概要、特色等】**

地域のよさや歴史、文化に精通されている地域の方や、専門的な技術をもった方から、ご指導いただく機会を積極的に設け、地域の方々とのふれあいを深めるとともに、本事業による活動を本校の教育活動の特色の一つとして位置づけている。

【ゲストティーチャー】

○地域の歴史や文化についての講話

写真や書物などを効果的に使って、子どもたちの住む町の寺院や神社の歴史、カナダ移民の歴史、各町や犬上川、荒神山等の歴史について説明いただいた。伺ったことをまとめて、「城陽子どもまつり」で地域の方に発表もした。

○クラブ活動

日本文化クラブでは、茶道の指導をしていただいた。

○昔遊びの名人

児童の祖父母を中心に昔の遊びを教えていただける方を講師として招聘し、指導していただいた。

【環境サポーター】

○図書ボランティア

毎日図書の貸し出し作業をしていただいたり、図書の整理、修理をしていただいたりしている。新刊図書の紹介や季節にあった図書の紹介もしていただいた。

【学習アシスタント】

○本の読み聞かせ、お話会4/20、11/9

毎週火曜日８：３０から１０分間、各学級で本の読み聞かせをしていただいた。さらに、年に２回「お話会（４５分間）」を開き、子どもたちに読書の楽しさを味わわせていただいた。

**【南中学校区支援地域本部：城陽小学校】**

○算数教室指導

夏休みには３日間「算数教室」を開き、地域の方にも子どもたちの学習指導をしていただいた。

○歌唱指導

音楽会のシーズンには、声楽を学ばれた方に発声法等を楽しく指導していただいた。

○校外学習引率補助

生活科の町探検では各地域ごとに引率の補助をしていただいた。

○スキー指導

少人数でのスキー指導を実施するために、教師だけの指導ではなく地域の方にも協力を依頼した。

**〈工夫した点〉**

指導していただいた成果を発表する場を設け、発表会（城陽子どもまつり）に招待して、聞いていただくようにしている。

また、ボランティアに協力していただいた活動や学習については、「学校だより」で保護者や地域住民にも広く知らせるようにしている。

**〈他校の参考となる点〉**

教育計画にそれぞれの活動を位置づけて実施する。また、ボランティア名簿を作成し依頼がしやすいようにする。

**２【事業の成果】**

毎年ボランティアを招いて様々なことを教えていただくことが、わが校の自慢となり学校の特色づくりとなっている。

また、多くのボランティアに来校していただくことで開かれた学校づくりの一助となった。

**３【今後の課題】**

ボランティアの高齢化が進んでいることから、新しいボランティアを探さなければならない。児童は○年生になったら、自分たちも、あの活動ができるという思いをもっているため、できるだけ継続できるようにボランティアの確保に努めたい。

ただ、今実施している活動にこだわるのではなく、新しい活動を計画していくことも大切であると考えている。

# 心のふるさと「若葉の森」での豊かな交流を　【彦根市】

**【南中学校区支援地域本部：若葉小学校】**

**ー事業の趣旨ー**

若葉小学校はたくさんの樹木に囲まれ、四季折々の変化を楽しませてくれる「若葉の森」を心のふるさととして教育を推進しています。

新興住宅街の中にある学校であるからこそ、特に自然や異世代の方々と児童の関わりが必要です。今までから地域の高齢者の方々を中心に学校支援活動にご尽力いただいています。

開校以来、若葉の森で自然とふれあい、そこでの地域の人々との交流によって「若葉の文化」が根を張り、幹を太らせ、葉を繁らせいくものだと思います。

《若葉の森での活動》

**１【事業の概要、特色等】**

１　図書ボランティアの活動

今年度は、児童が本の世界に浸りきり心豊かに育つよう、朝の活動時間を読書にした毎週金曜日は「読み聞かせ」としてボランティアや教師が各教室の児童に読み聞かせを行っています。児童は毎週金曜日になると「今日は誰が来てくれるのかな？」「どんなお話かな？」と楽しみにしています。

《みんな大好き・読み聞かせの時間》

ボランティアさんが読んでくださった本を自分でもう一度読んだり、そのシリーズを図書室で探したりして、読書の冊数が増えジャンルの幅も広がっています。

読み聞かせ以外にも図書室の整備ボランティアとして来ていただいています。新しく入った本の紹介、学年のコーナー、本の整頓など、図書室が児童にとって心の安定を図れる場になるよう取り組んでいただいています。

２　地域の老人クラブとの交流

あ：玄関に生花を

年間を通して、老人クラブの方が学校の正面玄関にお花を生けていただいています。四季折々の美しい花を見ると心が和みます。学校に来られる保護者やお客さんも思わず足をとめて見ておられる姿があります。

児童も「これはドウダンツツジやなあ」「ユキヤナギきれいだね」と、若葉の森の樹木と繋げながら見ています。

い：生活科や社会科の時間の交流

１年生の生活科の時間には、昔遊び体験をします。地域の高齢者の方々が、独楽回し、お手玉、羽子板、剣玉、竹馬、竹とんぼなどといった遊びを１年生の子どもたちに手ほどきして一緒に遊んでいただきます。

３年生の社会科の学習では、昔の生活体験を学習します。洗濯板を使っての洗濯、火鉢に火をおこし、かき餅を焼く体験、かまどに火をおこす体験、はたきや座敷箒を使って掃除体験など、若葉の森がこの日ばかりは昭和初期に戻ったようです。昔の生活での苦労話や楽しかった思い出を語り児童との交流を深めていただきます。

**２【今後の課題】**

本校では、以前から支援をいただいている方々が中心となってこの事業を担ってくださっています。事業としての定着はしても組織の広がりにつながっていかないことが課題です。

今年度は、図書ボランティアや昔体験のボランティアを募集して、活動は継続しつつ組織を広げていこうと取り組んでいます。

心のふるさと「若葉の森」で児童が豊かな自然と地域の人々とゆったりと活動できるよう今後の取組を計画していきたいと思います。

# 地域人材との交流を通して生まれる豊かな学び　【彦根市】

## １【事業の概要、特色等】

「学校支援地域本部事業**彦根南サポートオフィス**」は、昨年度から始まり、南中学校を中心に区域内小学校の計５校で運営されている。

本事業は、学校･家庭･地域が一体となって地域ぐるみで子育ての体制を整えることを目的とし、学校教育に地域の多彩な人材を活用することによって、学力向上やキャリア教育、体験的･実践的教育、さらに教育環境整備など、学校教育のさらなる充実をめざすものである。

これまで本校は、学習の都度、直接依頼したゲストティーチャーやボランティアから教育支援を受けてきたが、事業開始後は、地域コーディネーターを通して、手配や依頼をしていただいている。さらに学区内に呼びかけていただき、より多くの学校支援者を募り、ボランティアとして登録をしてもらえるよう、地域に働きかけを行ってもらっている。また、南中学区内で交流を進めて、他校でも人材協力ができ、より多彩な人材を活用した学習ができるようつなげていきたい。

### 〈工夫した点〉

本校では、地域コーディネーターを退職教員にお願いしている。学校の事情に精通し、ニーズもよく理解していただき、幅広い人脈を生かして学習のねらいにそった人材を、紹介していただいている。また、「学校あっての地域」として、本事業をきっかけに地域を活かすという観点で取り組んでいただいている。

### 〈他校の参考となる点〉

「彦根南サポートオフィス」のブログがあり、各校の活動の様子を書き込むことで、関係校だけでなく保護者等にも周知を図っている。各校の活動状況がわかり、また、自校の活動も発信している。

**【南中学校区支援地域本部：亀山小学校】**

## ２【事業の成果】

○５･６年生図画工作科の指導

学校周辺の病院や寺院をモデルに描画に取り組んだ。いずれも手応えのあるものだけに、専門家からの的確な指導によって、子どもの描画対象への見方が変わり、自身でも驚くほどの素晴らしい作品制作につながった。

○３年：昔の亀山学習

地域の老人から、昔の亀山学区の様子についてくわしく話を聞いた。

○花壇整備

地域コーディネーターの人脈をもとに、“田畑の先生”に集合していただき、栽培委員会の児童や教師が花壇整備について指導を受けた。

## ３【今後の課題】

学校側の問題点として、年間計画を立てていながら、にわかにコーディネーターに連絡をするということがあった。前年度の実践をもとにしつつ、中長期の見通しをもって学習を進めることが必要である。一方、地域が抱える問題点としては、高齢化による人材不足が懸念されることである。今後ボランティア活動にいかにしてやりがいを見出してもらえるか､そのために学校がどのような発信をし、児童の学習成果としてフィードバックしていくか、が大切になる。地域とのコミュニケーションがあってこそ展開できる事業であることを改めて痛感する。

# 「彦根南サポートオフィスの取組」　【彦根市】

**【南中学校区支援地域本部：南中学校】**

**１【事業の概要、特色等】**

◎ 広報活動による人材の発掘

・彦根南サポートオフィスのＰＲリーフレットを作成。

各小学校・中学校の家庭に配布すると共に、地域の団体の集まりに持参し、ボランティアへの協力をお願いした。

・「ボランティア便り」の発行

◎ 図書ボランティア

図書室の整備と廃棄図書の整理を中心に活動していただく。

7/6 図書ボランティアミーティング

◎ 放課後学習支援ボランティア

昨年度まで、三年生対象に短期間で開催されていた放課後学習を、今年度は全学年対象に定期的に行った。

「南中水曜ゼミ」として、毎週水曜日の放課後一時間程、数学の基本プリントを用いた学習活動を支援している。

**＜工夫した点＞**

＊ＰＴＡ総会でチラシを配布し、直接ボランティア協力のお願いをする時間をいただいた。→図書ボランティア３人増

＊図書ボランティアさんが増えたことで、不定期開催だった活動日程の調整が難しくなり、毎週の定期活動日を設定して、「できる人が、できる時に」気軽に来ていただけるようにした。

**＜他校の参考となる点＞**

チラシなどを作成しても、なかなか目に留めていただけないこともあるので、少しでも活動の情報発信が出来るよう、ブログを開設している。

| 彦根南サポートオフィス | 検索 |
|---|---|

**２【事業の成果】**

・ＰＲリーフレットの作成・配布

各小学校・中学校の紹介やボランティアの内容、協力お願いを記載したカラー全 12 ページ

・放課後学習の拡大

今年度より、全学年対象に行うことができた。行事等で変更もあるが、毎週水曜日の定期開催とし、熱心にゼミを受ける生徒も多い。

また、教員を目指す県立大学生の方にチューターとして参加していただけたので、先生方や生徒にとって頼もしい存在になっている。

**３【今後の課題】**

学校支援ボランティアの活動がスタートして二年目、まだまだＰＲが不足していると感じる。活動を軌道に乗せるため人材の確保が第一であるので、「ボランティア便り」を定期発行にして、地域への回覧の頻度を高める必要がある。

そのためにも、各小学校との連携を深め、タイムリーな情報交換ができるよう各小学校のコーディネーター・担当の先生方と、もっと連絡を密にとって、お互いの距離を縮めることも必要と考える。

# 「 河瀬小学校の学校支援事業の取組 」　【彦根市】

**【彦根中学校区支援地域本部：河瀬小学校】**

## １【事業の概要、特色等】

### （１）米作り体験ボランティア

５年生の総合学習として、『米作り』を教育課程に位置づけている。本校の前にある学習田を利用して、地域の農業委員などのボランティアの協力を得て、田植え・稲刈りなどの体験活動を実施している。

田植えでは、昔からの田植えの方法を教えていただいて実際に苗を植えた。また、稲刈りでは、各自が鎌で刈り取った稲を千歯ごきや足踏み脱穀機で脱穀するといった昔の方法を体験したり、コンバインを使って脱穀する様子を見学したり、コンバインに同乗させてもらったりするなど貴重な体験をすることができた。

### （２）図書ボランティア

毎週火曜日の午後から、保護者を中心に１０名ほどの方々が当番制で、図書室での児童の本の貸し出し業務や、図書の補修･整理を中心とした支援活動を実施している。時には、低学年の児童を対象に読み聞かせなども行っている。

### （３）お菓子作りボランティア

２年生で、生活科の学習で栽培収穫したさつまいもを使ったお菓子作りを実施した。包丁を使って切ったり、ホットプレートで焼いたりするときに子どもたちのそばについて助言をいただいたり指導していただいたりした。

### （４）音楽ボランティア

１１月の校内音楽会での発表に向けて練習を重ねる子どもたちへの支援をお願いした。歌唱指導、合奏指導さらには、ピアノ伴奏をしていただいた。子どもたちへの指導だけにとどまらず、指導教員が相談できる相手としてご支援をいただいた。

**〈工夫した点〉〈他校の参考となる点〉**

本年度６月に、学校支援ボランティアとして協力をお願いしたい内容について河瀬学区全戸に募集要項を配布した。これから先も、年々ボランティアとして学校の教育活動にご協力いただける方を増やしていきたいと考えている。

「このような活動で学校の支援をお願いしたいと考えている」という情報発信を続けていきたいと考えている。

## ３【事業の成果】

様々な学校の教育活動に、自発的なボランティアが支援をしていただいている。どの活動も子どもたちの学習活動などを充実させることにたいへん役立っている。ご協力いただく方々の専門性を活かした活動や、学校職員が時間的な制約があってなかなか取り組めないような活動への支援が多く学校教育の大きな助けとなっている。

## ４【今後の課題】

広く学区のみなさんに「学校教育の中に、自分たちが関われる場面がありそうだ。」と思っていただくことが一番の今後の課題である。

そのためには、河瀬小学校でどのような教育活動を進めているのかということを知っていただき、見ていただくことが必要である。

まだまだ『敷居の高さ』が感じられているかもしれないので、その点の改善をしたいと考えている。

# 学校支援地域本部事業の取組　【彦根市】

**【彦根中学校区支援地域本部：高宮小】**

## １【事業の概要、特色等】

本校周辺では、平成１５年５月に住民有志による「高宮の自然環境とホタルを守る会」が結成され、飼育観察会やホタルマップの作製など、地域環境に目を向けた継続的な活動が行われてきた。

本校においても、こうした地域性を活かした学習を「総合的な学習の時間」に位置付け、環境や地域について学ぶため、守る会からアドバイスを受けながら、幼虫を飼育したり、餌となるカワニナを捕りに行ったりする活動をはじめ、児童が育てた幼虫を地元河川「太田川」に放流する活動を積み重ねてきた。

６月には、地元高宮の民生委員・児童委員協議会・高宮の自然環境とホタルを守る会・高宮公民館・高宮学区連合自治会の協力を得ながら「高宮ホタル観察会」を開催し、児童の学習成果を広く発表する機会としている。

こうした活動は、今年で１０年目の節目を迎える。当初は第６学年の活動として位置付けていたが、第３学年から始まる本校の総合的な学習の時間の体系的な検討の結果、今年度より第４学年の学習とした。

### 〈工夫した点〉

・ゲンジボタルの一生を、単に図鑑等で調べる学習に終わらせず、児童自らの手で卵から育てる飼育活動に携わらせることで、「命の尊さ」に気づける学習とすること。

・ゲンジボタルの幼虫やさなぎが棲息するための自然環境の在り方に目を向けさせ、環境保全や人間社会との共生の精神に触れられる学習とすること。

・７月の産卵時期から翌年の６月まで、年間を通した飼育・観察活動の折々に、地域の方からの適切なアドバイスが生きるよう学習を旨くコーディネートすること。

### 〈他校の参考となる点〉

・地域特性を活かした学習とするため、地域諸団体との連携の在り方を模索したこと。特に、年間を通じた学校支援の在り方を吟味したこと。

## ２【事業の成果】

□ゲンジボタルについての知識を広める

児童は、ホタルの卵との出会いを皮切りに学習をスタートさせた。ホタルは身近な生き物ではあるが、その生態については皆無といっていい。そうした生き物に対し、児童は、飼育・観察活動を通して、日々、学びを深めていく学習とすることができた。

□「命の尊さ」を学ぶ

産卵後の卵の変化や幼虫の成長過程、さらに、たった１年の命を精一杯生ききるがごとく、夜空に舞うホタル。こうした姿を目の当たりにする中で、命の尊さに触れる学習とすることができた。

□環境の在り方を考える

ゲンジボタルの棲息条件を考える中で、環境保全と人間社会との共生の大切さと難しさに触れ、「ホタルは自然環境のバロメーター」であることに気づくことができた。

□地域との連携を深める

本校の地域連携は多岐に及ぶ。児童の登下校、朝の読書タイムにおける読み聞かせ、地域老人の方とのふれあいの場である「わくわく集会」等。どの活動においても地域の方の篤い思いのもと多大な協力を得ている。こうした取組を一層深め発展させるための方策として、両者の得意分野と役割分担、双方の活動にプラスとなる方向性を明らかにすることができた。

## ３【今後の課題】

・総合的な学習の時間を「探究」型の学習として位置付けるため、学習過程等について一層の吟味を施す必要がある。

・「ホタル学習」の６年から４年への移行にともなう成果と課題を分析する必要がある。

# 本校の学校支援活動　【彦根市】

【彦根中学校支援地域本部：彦根中学校】

## １【事業の概要、特色等】

○昨年度同様、本事業を進めていくにあたり、中学校区に２小学校があることから担当コーディネーターを各小学校から２名ずつ選出をした。１名は小学校の窓口とし、もう１名は中学校区全体の担当とした。
○組織のメンバーとしては、３小中学校の管理職、地域コーディネーター担当、事業のコーディネーター、ＰＴＡ会長とした。
○この事業を立ち上げる段階で将来的な見通しとして、事業としては３年の期限付きであることが予想される。そのため、その基盤つくりとしてその後も学区の学校が地域と連携し、地域に協力や支援をお願いしながら、よりよい学校作りを進めていきたいという旨を伝え、推進している。
○「地域に貢献する彦中生」をスローガンのもと、地域貢献活動も浸透してきているので、地域から学校へのボランティア依頼も多く、多くの生徒が地域に貢献している。このことにより、学校と地域が双方向で関わり合い、良い方向に進んでいる。

### 〈工夫した点〉

○教員及び他のコーディネーターとの連携を深め、継続的に活動ができるように可能な限り多くの会合(月１回以上)を持つようにした。
○学校の行事等の把握に努め、これに対応した支援活動を行った。
○コーディネーターやボランティアそれぞれが持つ特性や能力を生かした支援を行った。
○学校の行事などを把握するとともに、必要とする活動に応じられる人材の発掘に努めた。また、出来るだけ多面的に人材を得られるように運動を継続した。
○人間関係、協力と友愛の精神が大切である。

### 〈他校の参考となる点〉

○チラシ配布の他に、ポスターを作成し、自治会掲示板や近隣の大学や施設に掲示することで周知し続けていく。
○コーディネーターが地域の様々な関係団体に所属しているため、協力依頼の声かけがしやすい。

## ２【事業の成果】

○コーディネーター４名が、地域の人に個々で依頼され、少しずつ人材の確保ができるようになった。また実際の具体的な支援をしてもらったときに、それをきっかけにボランティアの登録をしてもらった。

### 〈主な活動〉

○入学式や各行事で駐車場の誘導。
○定期的に、ランやユリなどで花環境整備により、花のある学校づくり。
○夏休みの部活動単位で行う愛校作業での葉刈りや校地整備。
○体育大会や長距離遠足などの行事における、記録写真や負傷生徒の救護支援、交通安全支援など。
○校外学習後、生徒の撮った写真コンテストの審査。

## ３【今後の課題】

○連続して同じ人に支援してもらうことは、個人的な事情もあって難しい。
○必要に応じた人材を得るのは難しいので、多くの人に呼びかける必要がある。
○個人的な事情で参加できないときがあり、多くの人と信頼関係を深める必要がある。
○一時的な参加は得られても、定着への様々な工夫が必要と感じる。
○各種団体とどう連携するか、今後の課題である。
○コーディネーター相互、ボランティア相互の連携を深めたい。
○歩調を整えて、まとまった活動が出来るようにしたい。

# 「ふるさとに生きる喜びを」　地域とつながる体験活動の支援　【彦根市】

**【鳥居本中学校区支援地域本部：鳥居本小学校】**

**ー事業の趣旨ー**

本校では、教育活動を４つの「喜び」を軸に進めている。その中の一つに「ふるさとに生きる喜びを」がある。地域の自然・産業・歴史遺産や人々に学び、ふるさとを愛する心をもつ子どもを育てたいと願っている。

内容としては、１・２年生の生活科、３年生社会科の地域探検、地場産業、３年生以上の総合的な学習の時間の活動、５年生のたんぼのこ体験事業、６年生社会科の歴史学習、縦割り活動で行うウォークラリーなど様々な場面で地域とつながる活動を展開した。

**１【事業の概要、特色】**

□１・２年生活科　「川遊び」

１・２年生が、５月、仏生寺町の矢倉川に入ってマスやかになどをつかむ体験を行った。

青少年育成協議会の方々や仏生寺町老壮クラブの方々が、１週間前から川周辺の除草から川の整備、川へ降りる階段や手すりを作ることまで準備をして子どもたちを迎えてくださった。当日は、学校までたも網やかごを取りに来たり、子どもたちの活動の支援をしてくださった。帰りもマスが入っているかごやバケツを学校まで運んでくださった。

子どもたちは、自分たちが採ったマスを大事に持って帰り、塩焼きにして食べた。後日、お世話になった皆さんにお礼のお手紙を書いて、ありがとうの気持ちを届けた。

□４年総合　「矢倉川調査隊」

鳥居本にお住まいの彦根市環境保全員の池田さん、会長の下田さんの協力を得て、矢倉川の調査を行った。今年度は、彦根ロータリークラブさんが、環境学習に協力してくださり、水質調査用のパックを一人が２種類ずつ使うことができた。

川辺で、生き物調査から矢倉川がきれいな川かどうかを調べた。その後、学校へ戻って理科室で彦根港湾の水と矢倉川の水、水道水の水質をパックテストで確かめた。矢倉川の水質は、水道水に近く、きれいであることが分かった。

**２【事業の成果】**

子どもたちは、どの体験活動でも生き生きとした姿を見せ、大変意欲的に活動することができた。学校から出て、地域の中で地域の方々といっしょに活動をすることができたことは、子どもたちにとって貴重な学びになった。また、活動後に、お礼のお手紙を書くことで、振り返りをするとともに感謝の気持ちを伝えることができ、地域の方とのつながりが深まった。

# 「鳥居本学校サポートオフィスの取組」　【 彦根市 】

**【鳥居本中学校区支援地域本部：鳥居本中学校】**

**ー事業の趣旨ー**

「鳥居本学校サポートオフィス」を立ち上げ今年で４年目を迎える。近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化するとともに、家庭や地域の教育力が低下している状況の中、地域全体で学校を支援する仕組みを定着させるために取り組んでいる。

地域の大人が子どもに多く関わることで、多様な体験・経験の機会が増えたり、規範意識やコミュニケーション能力の向上などの効果が期待される。また、教員がより教育活動に力を注ぐことができるようになり、学校教育の充実を図ることができる。

鳥居本小中学校区を対象支援地域とし、学校支援ボランティア活動を中心に進めている。

**１　【事業の概要、特色等】**

**○学習支援**

中学校教員からの学習支援ボランテイア希望調査を行い、それぞれの希望から地域コーディネーターを通して打ち合わせをして計画した。実施においては、各教科の学習内容でさらに専門的な知識や作業をゲストティーチャーとして来校してもらい授業支援を行った。今年度は、技術・家庭科、美術科、総合的な学習の時間、道徳、朝読書、冬休みの補充学習の支援で実施した。また、３学期に、理科、社会科での実施を予定している。

☆２年家庭科（郷土料理について）

☆３年人権学習（部落問題学習）

☆各学年本の読み聞かせ（朝読書）　毎月１回（７月、９月、１０月、１１月、１２月）実施。

☆総合的な学習の時間

３年卒業研究として「鳥居本」を共通テーマに研究してきた成果の発表会の講師として講評をいただいた。

☆３年美術

３年の美術の授業の一環として、茶道体験を実施した。地域の茶道家のところへ出向き、茶室にて本格的なお点前等を体験した。この茶道体験の事前学習として、茶碗を作成（外部講師を招く）した。また、茶道体験の時にいただく和菓子をデザインして、和菓子店につくってもらった。このような活動を積み重ねて、地域コーディネーターと連携を取りながら、当日を迎えた。茶道の先生から、茶道についてのお話や作法について教えてもらい、茶室での本格的な体験ができた。

☆今年度の新たな取り組みとして、冬休みの補充教室に、地域の方に来てもらい、学習支援をしてもらった。今年度は４名来ていただき、４日間にわたり２時間ずつ支援活動をしてもらった。

**○環境支援**

鳥居本中学校のグラウンドが一昨年度「エコ化事業」として全面芝生化となった。そこで地域にも開放して活用してもらっている。活用していただいている地域の方々に、草刈り作業や水やり作業をしていただいている。

「鳥居本をゆりの花でいっぱいにする会」も一昨年より取り組み、ゆりの球根を提供していただき、昨年の７月に生徒が一人一球根をプランターに植えた。今年は、プランターのゆりの花を近在の駅や公民館など公共機関等に並べることができた。

**○その他の支援**

地域の要望もあって、地域の行事に生徒がボランテイアとして参加している。学区の運動会の役員や学区の文化祭でのソーラン発表、吹奏楽の演奏、合唱の発表、卒業研究（３年「鳥居本について」）の発表は、毎年参加している。

☆とりいもと学区文化祭（１１月）

**○広報活動**

ブログを開設して、鳥居本小中学校がおこなっているボランテイア活動を紹介したり、支援の依頼をお願いしたりして情報発信を行っている。

学校事務局と協力して更新を図り、活動の情報発信をすすめている。みなさま、ぜひ、検索して御覧ください。

鳥居本中学校サポートオフィス｜検索

**２【事業の成果】**

○昨年度から、学校支援地域本部事業に、鳥居本学区自治連合会が積極的に関わってくださり、ボランティアの募集を呼びかけていただき人材登録（約 100 名）ができた。その中から学習支援として授業へ講師を派遣する支援できたことが大きな成果である。

○今年度は、学校に来ていただいて、授業への講師という形での支援はもとより、校外へ出て、茶道体験ができたことが大きな収穫であった。地域の教材を活用できた点が評価できる。

○冬休みの補充学習に学習支援として地域の方が教えに来てくださったことも、大きな収穫と考えている。開かれた学校という観点からも、また、地域の人材を活用できたということ、地域の方と生徒とのつながりができたということ、などの視点からも成果があったと考えている。

○広報活動として、ホームページ「鳥居本サポートオフィス」を設立し情報発信できた。

**３【今後の課題】**

○茶道体験という、地域の教材を活用できたが、継続性と他の地域教材についても考えていくことが必要である。

○補充学習への支援ということで、地域の方を学校に来ていただくことができた。もっと多くの方が来ていただけると、学習ということで地域と生徒がつながることができる。そこをどのように切り拓いていくかを考えていく必要がある。

○放課後３年生を中心とした学習会の学習支援者学生（チューター）と教職経験者の確保。

○地域の人材を発掘する中で、まだまだ潜在的に支援者となっていただける方々が多数おられる。そのような方々にもっと気軽に学校へ来ていただき、自身の経験や専門性を生かしながら子どもたちと一緒に活動することで「生涯学習」の実現につながり、学習成果を活用できる有意義な場としていきたい。

○学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるように改善に努めていきたい。

**○今後に向けて**

このような活動を展開するには、学校とコーディネーターとの連携が大切になってくる。また、小中それぞれのコーディネーターとの連携も大切になってくる。小中合同の支援地域協議会の開催が定期的に設けられるようにしていきたい。

今後の学校支援地域本部の在り方として地域全体（鳥居本学区全域）とタイアップして活動が進められるように、組織の充実を図ろうとしている。

# 読み聞かせボランティア　【彦根市】

**【稲枝中学校区支援地域本部：稲枝東小学校】**

**１【事業の概要、特色等】**

本校では、トイレの神様プロジェクト、園芸ボランティア、児童支援ボランティア、スクールガード、読み聞かせボランティア等の方々に支援をしていただいている。

＜トイレの神様プロジェクト＞

清掃の時間帯に学校に来ていただき、子どもたちとともにトイレ掃除をしていただいている。

＜園芸ボランティア＞

畑や田んぼのお世話や専門的な指導助言をしていただいている。

＜児童支援ボランティア＞

主に特別支援学級の児童の学習や生活の支援をしていただいている。

＜スクールガード＞

通学路における毎日の下校時の見守りをしていただいている。

＜読み聞かせボランティア＞

この中から、＜読み聞かせボランティア＞について、紹介します。

読み聞かせボランティアさんは、毎月第１・３木曜日の朝読書の時間に各学級に入り、読み聞かせをしてくださっている。子どもたちは、毎回とても楽しみにしていて、時間になると机をさげ、静かに座って聞き入っている。

読み聞かせの題材には、季節や行事に合わせたり、担当学年の子どもに合わせたりして選んでいただいていて、読み聞かせの方法も絵本・紙芝居・大型絵本といった様々な形態での読み聞かせを取り入れてくださっている。また、お話にあった小道具や読み方を工夫され、子どもたちが本に親しめるように配慮していただいている

子どもたちの中には、自分で本を選んで読書することが苦手な子どもや、あまり読書が好きではない子どもも、読んでもらうと静かに聞き入っている。低学年の児童の中には、お話の主人公になりきって、聞きながら「なんで？」「かわいそう。」とつぶやきながら一喜一憂している児童も多い。読み聞かせの日には、担任もいっしょに聞き、子どもたちと楽しい時間を共有するようにしている。

**２【事業の成果】**

・子どもたちにとって、地域の方の温かさに接することができ、ふれあいの場が増え、有意義な活動が実施できている。
・ボランティアの方の活動がしっかりと定着してきている。
・教職員と地域の方とが日常的にふれあい、コミュニケーションを図ることができている。
・教師にとっても、学ばせていただくことが多い。

ある児童の作文（抜粋）

「ぼくは、小学校生活でたくさんの読み聞かせをしてもらいました。（中略）ボランティアの方々は、朝の忙しい中、自分の時間を削ってまで来ておられます。どんなに天気が悪くても時間通りに来て、笑顔で読み聞かせをしてくださいます。本の内容も、季節や行事にあわせて選んでくださることが多く、いつも楽しんで聞いています。ぼくは、そんなボランティアさんを尊敬します。」

**３【今後の課題】**

これからも、広報活動等により学校支援の活動を一層拡大、定着していくように努めていく。

中学校ブロックで組織されている稲枝地区学校支援協議会等における連携をこれからも大切にしていきたい。

# 本校の学校支援活動　【彦根市】

**【稲枝中学校区支援地域本部：稲枝西小学校】**

**―事業の趣旨―**

・学校の教育活動だけでは不十分な点に支援を受け円滑な推進を図る。
・学校・家庭・地域が一丸となった取組の充実を図る。

**１【事業の概要、特色等】**

（１）花壇への支援

本校では、特色ある教育活動の一環として栽培活動に取り組んでいる。本校の学校花壇は、歴代フラワーブラボーコンクールにおいて数々の賞を受賞している。

その学校花壇において、本年度は随分傷んでいた芝生の貼り替えをする計画を立てた。そこで、この芝貼りに、地域の老人会の支援を受けることとなった。

もちろん子どもたちも芝貼りをしたが、老人会のボランティアの方々には、子どもたちでは、十分行き届かない細かな部分に配慮をしていただきながら芝を張っていただいた。

老人会の支援から、芝生が生き生きと育ち、今年度もコンクールで優秀賞を受賞することができた。

（２）環境整備支援

本校は、児童数に対し、敷地面積が広い。当然雑草も生え、その管理が大変である。

そこで、地域コーディネーターの呼びかけで老人会に草刈りをしていただくことになった。

暑い中、長時間にわたり、学校をきれいにしようと熱心に草刈りをしていただいた。おかげで校庭は見違えるように美しくなった。

（３）学校ゆるキャラへの支援

児童会のフラワー委員会の発案で、全校からキャラクターを募集し、ゆるキャラの着ぐるみを作成することとなった。

休み時間を使っての作成だが、そこにＰＴＡ保護者ボランティアの支援を受けることになった。

子どもたちと、保護者が相談しながら、目や口の位置を決めるなどし、作成していった。保護者ならではの丁寧さを発揮していただき、よい着ぐるみを作り上げることができた。

できたゆるキャラは、ＰＴＡ保護者ボランティアに被っていただき、運動会や音楽会を盛り上げていただいた。

**２【事業の成果】**

本校は、児童数が年々減り、今までどおりの活動を維持することが難しい状況にある。その中、地域や家庭から学校支援を受けることは大変有り難いことである。

上記の支援ばかりでなく、学習支援や行事支援、読み聞かせなども行っていただいている。子どもたちの学びに大変有効な場となっている。

学校支援は、子どもたちに、地域の方々に支えられているという実感を育む場となっている。

**３【今後の課題】**

学校の担当が替わると、暫くの間地域とのパイプが途絶えてしまうことがある。人員の異動にかかわらず、息長く継続していくような学校支援の在り方が今後の課題である。

# 『本校の学校支援活動』　【彦根市】

【稲枝中学校区支援地域本部：稲枝北小学校】

１【事業の概要、特色等】

① 読書ボランティア活動

毎朝の読書の時間におはなしタイムを設定し読み聞かせ等の読書活動を実施している。今年度も９名の登録があり、毎月第２・第４木曜日の１５分間、各教室で絵本などのお話の読み聞かせをしていただいている。少人数での読み聞かせや紙芝居は子どもがとても心待ちにしている事業である。地域の方とのふれあいを深めると共に、豊かな心情を養う意味でも意義のある活動になっている。

② 稲村かるたオリエンテーリング

本校恒例の稲村かるたオリエンテーリングは、地域の自然環境や文化遺産をめぐりながら郷土のよさを知り、自然や文化を愛し郷土を愛する心を育むことをねらいとして実施している。

縦割りグループで行動することを通して、異年齢の子ども間の協力と信頼の気持ちを育てることができる意義深い活動である。児童会の１２班の縦割りグループごとに、平成２４年度は上西川・下西川・上岡部・田原・出路方面の「稲村かるた」に詠まれた地点を訪れた。

朝の開会式にも民生委員・児童委員さんや支援ボランティアの方々が参加してくださり、その後、子どもと共に各ポイントを回って安全確保、ふれあいに努めてくださった。

各ポイントでは、教師や地域の方々から説明を聞き、クイズに答えるように計画されていて、上西川の洪水標、上岡部の金全坊屋敷跡・長照寺、田原の子安地蔵、JA カントリーエレベーター、出路の本泉寺御真筆等のポイントで、地域の方々が熱心に説明してくださった。

到着したふれあい公園では、ゴミ拾い等の奉仕活動をしたり、集団ゲームをしたりしながら、異学年集団の仲間で楽しく活動をした。高学年が下学年の世話をするなど、各学年の絆を深めることができた。

支援ボランティア・民生委員・児童委員、保護者の方に温かく見守っていただき、安全に活動することができた。

③ 環境整備活動

各学年の教科に関連した栽培活動では、４年生の瓢箪栽培を始め、３年生の米作りなどに、多大な支援をいただいている。まちづくり協議会の方々には、校内の環境整備にも力を入れていただき、池の清掃や砂場の整備などにも支援をしていただいた。

２【事業の成果】

おはなし活動、学校行事やふるさと学習への支援活動以外にも夏季休業中の学力補充に８名の地域の方々に支援をいただくなど充実した活動が実施できた。

さらに地域の各種組織で構成されている安全・安心町づくり協議会との連携により、地域の幅広い協力を得ることができた。

３【今後の課題】

人材バンクへの登録により、人材はかなり増えてきたのでそれを生かすためにも、学校のニーズと地域の協力体制を話合いによってうまく融合することが大切である。支援者の専門的な技術や知識を生かして活動することをさらに増やしていくことを考えている。

# 「保・幼・小・中全校園に広がる学校支援の輪」　【彦根市】

【稲枝中学校区支援地域本部：稲枝中学校】

## １【事業の概要、特色等】

学校支援地域本部が発足して５年目を迎えました。当初から、「稲枝はひとつ」の考えのもと地域を挙げて支援を行い、稲枝地区の保育園、幼稚園、小学校、中学校の子どもたちが立派に育つようにと願い、連合自治会をはじめ各種団体で組織する「学校支援協議会」が中心となりボランティア活動を展開しています。「読み聞かせ」をはじめ、登下校、環境整備、地域学習、野菜花づくり、学習支援など、学校や園の要望に沿いながら、さまざまな活動が展開され、学校が地域の学校となってきました。

今年度は、特に読み聞かせのスキルアップを目ざして研修会を実施しました。

参加者からは、「本を手にとって読む時間が楽しかったです。自分なりにやっている読み聞かせですが、少し自信らしきこともできてきて、さらに続けていこうという気分が強くなってきました。」などの声が多数あり大変好評でした。読み聞かせは、８校園全てで行われていますが、この研修を機会に読み聞かせボランティアが増え、さらに充実したものになると確信しています。

### 〈他校の参考となる点〉

稲枝北小学校では、稲枝北学区町づくり協議会の学校支援部会が軸となって、自治会、老人会、青少年育成協議会等の団体のご協力を得ながら、樹木の伐採、剪定作業、草刈り、砂場整備などを行うことができました。

### 〈連続した支援活動〉

稲枝東幼稚園では、毎年、サツマイモや玉ねぎ、ジャガイモを支援ボランティアの方と栽培しています。今まで玉ねぎとジャガイモを使ってカレーパーティーをしてきましたが、今年は、サツマイモを石焼きいもにしようということになりました。支援ボランティアの方が聖泉大学から手作りの石焼きいも釜を借り、園庭で焼き芋にしてごちそうになることができました。このように、支援活動が繋がりをもつことによって、子ども、支援ボランティア、学校・園との心の繋がりに発展していくものと感じました。

## 2【事業の成果】

本事業も５年目に入り、各校園とも定着しており、充実発展のための工夫がなされてきました。校園の整備一つとっても、内容的に徐々に広がりを見せてきました。また、石焼きイモに見られるように、子どもとの関わりを広げようとする意味でサツマイモ栽培の域から一歩発展した活動になりました。

## 3【今後の課題】

組織の充実を図るために、新しいボランティアの発掘と学校支援協議会を、制度の有無にかかわらず継続していく方策を模索しなければならないと考えています。

# 学校と地域を結ぶ取組の発展を目指して　【近江八幡市】

【近江八幡市学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

今年度は、本市が学校支援地域本部事業に取り組んで４年になる。昨年度は、近江八幡市に１つの学校支援地域本部を設置し、市内９小中学校に地域コーディネーターを配置して事業を行ったが、今年度は、市内小中学校１６校中１２校に、さらには２幼稚園（実施校：八幡小学校、島小学校、岡山小学校、桐原小学校、桐原東小学校、馬淵小学校、北里小学校、武佐小学校、安土小学校、老蘇小学校、八幡西中学校、安土中学校、金田幼稚園、安土幼稚園）と一気に取組の輪が広り、それぞれに計１４名のコーディネーターとこれらを統括するコーディネーターとして、本部に１名配置して事業に取り組んだ。１４学校・園の取組を市内全域に発信して、地域全体で子どもを守り育てるための土壌を創りあげ、子どもとともにその効果を市内全域に拡げていくことで、次年度には、学校支援地域本部事業は近江八幡市全体の取組となることを目標としつつ、一方で、今年度一気に広がったことにより、以前から積み重ねのある学校と今年度初めての学校との間に取組の温度差が広がらないよう、コーディネーターやボランティアの研修に重点を置いて取り組んだ。

**（１）コーディネーター研修**

・第１回　５月１日（火）１５：３０～

今年度初めてコーディネーターが一堂に顔を合わせる機会として、委嘱状交付式のあと研修を行った。初めてのコーディネーターが具体的にこれからの取組をイメージできるように、以前から取り組んでいる学校のコーディネーターから、昨年度の取組内容を中心にそれぞれ話題提供をしてもらいながら、交流を行った。

・第２回　５月２９日（火）１０：００～

支援ボランティアの募集案内や便りの作成等、コーディネーターが情報発信できる力を身につける事を目的に、市マルチメディアセンターにて、パソコン研修を行った。また、研修の後、取組の交流を行った。

・第３回１０月１６日（火）１３：３０～

後述するボランティア研修会の意見交流会の時間を利用し、これまでの取組や悩んでいることなど、お互いの交流を中心に行った。

・第４回１２月２０日（木）１５：３０～

２学期までのまとめとして、発表会形式で各校園での掲示物等、資料を用いながら、各コーディネーターからの取組の発表と意見交流を行った。その後、懇親会を持ち、さらに交流を深めた。

**（２）ボランティア研修会**

・第１回１０月１６日（火）１３：３０～

近江八幡市立歴史資料館
講師　佐竹章吾館長
参加者２９名

小学３年生の社会科では、地域の歴史を扱うため、授業支援の材料として、そしてその歴史的資料を保存している資料館について知るために館長を講師に研修会を実施した。その後ボランティア同士の情報交換や意見交流を行ったが、その中で、参加ボランティアの話しから、歴史学習における地域人材の貴重な情報を掘り起こしすることもできた。

・第２回１１月８日（木）１４：００～
「読書ボランティア研修会」
北里小学校
講師　新谷照代先生
参加者４６名

すべての事業実施校園で、読書ボランティアによる「読み語り」が行われている。コーディネーター研修の意見交流の中で、読書ボランティアより研修を深めたいというニーズがあるとの意見を受け、本市教育研究所の協力も得て、市内の読書ボランティアを対象にした研修を実施した。多くの参加者があり、盛会であった。特に講師の新谷先生から、「読み聞かせ」ではなく、子どもたちの目線に立った「読み語り」と呼ぶべきであるとの話しがあり、それ以降、市内各校とも「読み語り」と呼んでいる。

**（３）学校支援メニューフェアin近江八幡**

・７月２５日(水)１３：３０～１６：３０
金田小学校
参加者　１４７名
出展団体　３１
（出展側参加者７０名）

昨年に続いて２回目の開催である。今年度は会場である金田小学校の教室を利用し、出展団体および近江八幡市「人生伝承塾」講師による模擬授業を取り入れた。参加者からは好評であった。また、終了後、出展団体と参加者との意見交換会を持ち、支援のあり方等について交流した。

〈工夫した点・他校の参考となる点〉

・今年度は、一気に実施校が増えた。当然、本市の事業実施時より実施している学校と、今年度よりの実施校では４年の差があり、取組の積み重ねにも差がある。そのため、温度差が広がらないように、また、初めてのコーディネーターの不安を解消するためにも、コーディネーター研修では、必ずコーディネーター同士の情報交換、意見交流の場を持つようにした。

・各校での取組計画を月ごとに本部に報告してもらい、それをまとめて各コーディネーターに発信して、常に取組内容の共有ができるようにした。

・コーディネーター研修では、地域や保護者への情報発信が大事と考え、実務に役立つパソコン研修を実施した。

・学校支援メニューフェアでは、スタッフとして、前日準備、当日の運営に関わってもらい、全員で作り上げるメニューフェアとした。

**2【事業の成果】**

・今年度は、市内１６校中１２校に取り組みの輪が広がった。これは、先進校を中心とした取組の積み重ねの努力により、市内の学校に学校支援地域本部事業の実績が周知され、さらにはその成果が認知されてきた結果であると考える。

・今年度は、初めて２幼稚園にも取組の輪が広がった。結果、幼稚園での支援のモデルづくりが進み、市内の各幼稚園にも本事業の認知が進んだ。

・昨年度よりも実施校が一気に増えたことにより、コーディネーターの人数も９名から１５名に増えたため、本部としては、各校の取組の情報交換、意見交流に重点を置いて取り組んだ。その結果、取組の共有化を進めることができ、また、それに伴って、ボランティアバンクの推進や地域への情報発信等が進んだ。

・地域人材を取り入れた親子での活動を通じて、保護者同士の交流や親と子の対話を図るなど、家庭教育支援事業と連携した取組も進めることができた。

・昨年度に続いて学校支援メニューフェアを実施したことにより、２年間でほぼ市内の小学校の教員の参加が見られ、企業・団体による学校支援の取組の周知を進めることができた。

**3【今後の課題】**

・打ち合わせ時間等、地域コーディネーターと学校側とのコミュニケーションがなかなか取りにくい現状がある。コーディネーター任せにならず、スムーズに取組を進めるためには、管理職を含めた窓口の教員との定期的な打ち合わせ等、日常的な時間確保と柔軟で組織的な推進体制をつくる必要がある。

・学校支援メニューフェアは、マンネリ化を避けるための見直しが必要である。

# 「地域の宝を学校教育に」　【近江八幡市】

【八幡小学校支援地域本部】

**１【事業の概要、特色等】**

本校は、近江八幡市の中心に位置し、創立１３９周年を迎えた歴史と伝統のある学校である。校区内には、土蔵の並ぶ八幡堀、朝鮮人街道が通り、市立資料館、近江商人屋敷、八幡伝統的建造物群が立ち並び、観光客が多く訪れる。また、八幡瓦や八幡靴、竹細工、数珠工芸などの伝統工芸品のほか、赤こんにゃくや丁稚羊羹、湖漁など特産物も多い。

このように町並みも含めて歴史を感じるものが多く、文化や産業を受け継いでおられる方が多いことから、今までから人権教育を軸にしながらいろいろな形で地域の方を招いて授業を展開してきた。平成２３，２４年度は道徳教育推進事業の指定を受けたこともあり、この数年は特に人との出会いに重点を置き、地域人材を活用した授業を通して人に出会い、人から学び、自分の生き方を考える機会を設けてきた。

本事業には今年度からの参加となるが、地域とのつながりを広げ、今までの実践を充実させるために、できることをできることから少しずつ取り組むことにした。

**〈工夫した点・他校の参考となる点〉**

地域コーディネーターが地域のさまざまな会合で、あるいは自治会の回覧板で、また、コミュニティーセンターに協力依頼をするなどして、本事業の説明とボランティアの募集を行った。

学校においては、各学年の年間指導計画を見ながら、必要なときにはいつでも自分に声をかけられるよう、コーディネーターが環境設定の面で工夫をした。教職員を対象にボランティアの登録状況やボランティアを活用した学年の授業の様子がわかるように「ボランティア通信」を発行したことも周知につながったと考える。

学校では、月１回発行する学校だよりの裏面を使って、活動の様子を掲載し、保護者や地域への周知を図った。

**〈活動事例〉**

**（1）環境づくりにおいて**

**①図書室大改装**

子どもにとって使いやすい、あるいは行ってみたいと思える図書室にすることがこの数年本校の課題であった。より使いやすく、心地よい空間になるよう、夏休み中に新刊の登録、書架の移動、図書の入れ替え、ラベル貼りなど、のべ１２人の方が７６時間をかけて大改装をしてくださった。畳は地域の畳屋さんが無料で分けてくださり、おかげさまで心地よい空間となった。

**②瓢箪名人**

４年生の理科で瓢箪を栽培し、学級で支柱を作ったものの台風で倒れてしまった。そこで、地域の瓢箪名人に声をかけたところ、たくさんの瓢箪がぶら下がっても倒れないようなとても丈夫な棚を作ってくださった。プロの技に触れることができた。

**③校庭のリフレッシュ**

自治会の回覧板でボランティア募集を行ったときに、庭木の剪定に２名の方が登録してくださった。

本校は校庭に樹木が多いため、大変ありがたかった。９月から松の木を中心に剪定していただいた。その方々のご家族やお知り合いの方も来てくださり、用務員さんと連携しながら、うまく作業を進めていただいた。

**④花いっぱい**

ＰＴＡ環境部と一緒にボランティアさんが花植えに参加してくださった。色を吟味しながら、手際よく植えていただき、昇降口正面の樽コンテナ、植栽場所にはきれいな花が咲いている。

**(2)学習活動において**

**①幻の北之庄菜栽培**

３年生が食農事業に関わって、幻の北之庄菜の栽培に取り組んだ。実際に栽培されている方に来ていただき、立派な北之庄菜が収穫できた。これをボランティアの方と一緒に調理し、スープを作った。持ち帰った北之庄菜を家

でも食べていただけるようレシピを配布した。

**②家庭科サポート**

家庭科は子どもにとっては興味のある学習である一方、うまくいかないことも少なくない。そこで、５年生ではボタン付けやなみ縫い、本返し縫いの指導補助に、また６年生ではミシンを使う学習のサポートに入っていただいた。担任一人で対応するときと比べて大変スムーズに学習が進んだことに驚いた。

**③水泳の時間に**

４年生では、水泳で泳法を学習するが、息継ぎや足の動かし方、手のかきなどの指導補助をお願いした。

個々への関わりが丁寧にできたため、子どもにとってわかりやすく、効果的であった。

**④八幡堀見学案内**

４年生の総合的な学習の時間および社会科の学習で八幡堀を扱った際に、八幡堀の歴史、背割り排水、水質等について説明をしていただいた。子ども１０人に一人のボランティアがついてくださり、話も聞きやすく学習が深まった。

**⑤和楽器に親しむ**

５年生の音楽の学習で箏と尺八の演奏を聴かせていただいた。両楽器とも複数ご持参くださり、子どもたちも体験演奏ができた。どちらの楽器もなかなか触れる機会がない楽器であり音を出す難しさを実感できた。

**⑥１年生への読み語り**

PTA 読書部と連携し１０月から週１回１年生４学級に一人ずつ読み語りボランティアに入っていただいている。

行事などと関連させた本を選定していただくなどタイムリーな内容になっている。子どもたちにも集中できる時間になっている。

**（3）クラブ活動において**

**①茶道に親しむ**

日本文化に親しむクラブが茶道体験をしたいと考え、茶道師範の方に来ていただき、お茶の立て方や飲み方、お菓子の食べ方、そして茶道で最も大事にされているお茶の「心」についても教えていただいた。

普段の様子とは異なり、心地よい緊張感が生まれ、貴重な機会となった。

**②卓球を知る**

４年生から６年生までが一緒に活動するクラブ活動の中で一番早く支援していただいたのが卓球クラブであった。ピンポンではなく、本物の卓球を体感させたいと、クラブ活動以外の時間にも空いた時間を見つけて来校くださり、ラケットの修繕もしていただいた。３名の方に来ていただけるので、時間を有効に活用し少しでも多く練習できるよう支援していただいている。

## 2【事業の成果】

初年度ということもあり、どれだけ事業が進むか心配もあったが、動き出すと教職員の意識も少しずつ高まり、学習活動の具体的な支援内容を地域コーディネーターに伝えられるようになってきた。初年度からこれだけの数の方々に支援をしていただけるとは当初考えていなかったので、予想以上の成果があったと考える。この事業を通して、地域の方々が子どもたちのために時間と労力を惜しまずにご支援いただけるありがたさをしみじみと感じている。地域コーディネーターが教育現場におられたことも功を奏し、意図を汲みながら的確な人材を確保していただき、本物の技や空気感を感じることができた。学校だけでは得られない学びができたことに加え、本物に触れる経験の重要性も感じている。次年度もぜひ継続して、子どもたちの学びの深まりを目指したいと考えている。

## 3【今後の課題】

大規模校における支援ボランティアの活用、支援メニューの運用についてはさらに工夫が必要である。また、施設面においては、空きスペースがないため、ボランティアさんの打ち合わせや休憩スペースが確保できず、心苦しいところである。

# 『地域との連携を深め学校教育の充実に向けて【近江八幡市】

【島小学校支援地域本部】

## １【事業の概要、特色等】

活動２年目となる本年度は、昨年度の活動を継続・発展し、以下の計画のもと取り組んだ。

| 実施期間 | | 内　　容 | 場所 |
|---|---|---|---|
| ４月～３月 | | 見守り隊・スクールガードによる下校指導 | 各通学路 |
| 月３回火曜日 | | 読書ボランティアによる読み聞かせ | 各教室その他 |
| ５月～３月 | １年 | ・昔遊び名人支援<br>・「生ゴミ大作戦」（環境学習）コンポスト作りの支援 | |
| | ２年 | ・生活科「生き物探し」<br>・「ヨシ学習Ⅰ」支援<br>・ヨシちまき作り支援 | |
| | ３年 | ・「まち探検」支援<br>・「ヨシ学習Ⅱ」支援<br>（ヨシ簾工場見学・ヨシ刈り体験等の支援）<br>・社会科「私たちの町で作り出される物」<br>（大中トマト畑見学・ロッテ工場見学支援）<br>・漁業に関する話支援<br>・「昔の暮らし」聞き取りに対する支援<br>・焼きいも会支援 | |
| | ４年 | ・「菜種学習」支援<br>（菜種刈り・種落とし体験等の支援）<br>・馬淵浄水場見学支援<br>・警察署見学等支援 | |
| | ５年 | ・「田んぼのこ」活動支援（田植え・稲刈り・魚道の生き物調べ） | |
| | ６年 | ・歴史学習（室町文化）「茶道体験」支援<br>・「調理実習」支援 | |
| | 全校 | ・「島アドベンチャー」下草刈り等実施支援<br>・「島小子ども祭り」実施支援<br>・「５・６年スキー教室」実施に関する支援（ボランティア募集など）<br>・学校林整備支援 | |

**〈工夫した点〉**

島小学校は、本年度から３年間「しが環境教育リーディング事業」を受け、環境教育の実践、特にエネルギー分野に関する新しいプログラム開発に取り組んでいる。このことを受け、事業を進めるにあたり、地域の自然と人材を活かし、環境教育の推進に寄与できるよう工夫をした。

**〈他校の参考となる点〉**

前述した環境教育の推進に寄与するため、例えば、市主催のメニューフェアを活用しながら人脈を広げ、コンポスト作りの指導をいただける方を学校に紹介するなどに努めた。

### 【１年「生ゴミ大作戦」（環境学習）コンポスト作り】に関する支援

１　日時：９月２８日（金）　５時間目

２　内容：１年生活科「生ゴミ大作戦」に関する支援

３　概要：

「市民・生ごみリサイクルプロジェクト」の森井サワ子様の御協力を得て、生活科「生ゴミ大作戦」を行う際の支援を行った。

子どもたちの食育・環境学習に寄与するため段ボール箱に腐葉土と米ぬかを混ぜ、２日間ほど置いて発酵を促し、残食を混ぜ入れてよくかき混ぜる活動を進めている。

### 【２年生活科ヨシ学習】支援

１　日時：６月１２日火曜日５・６時間目他

２　内容：２年生活科「ヨシちまき作り」「ヨシ刈り」「ヨシ簾作り」に関する支援

３　概要：

環境学習の一環として、地元在住の方の協力を得て、自分たちが西の湖畔で刈ってきたヨシを使って「ヨシちまき作り」に挑戦した。

また、同じく地元の方の御協力を得て、１月１１日ヨシ刈り体験、１７日のヨシの皮む

き、１８日ヨシ簾作り体験の支援も行った。

## 【３年社会科見学（大中トマトハウス見学）】に関する支援

1　日時：１１月８日木曜日３・４時間目
2　内容：３年社会科見学に関する支援
3　概要：
　３年社会科「私たちのまちでつくりだされるもの」の学習として、大中町でトマトを作っておられる地元農家のビニルハウスを訪れ学習する際の支援を行った。

## 【４年菜種学習】に関する支援

1　日時：菜種刈り５月２２日火曜日
　　搾油体験１１月８日木曜日　他
2　内容：４年「菜種刈り」や「菜種の実落とし」体験など「菜種学習」に関する支援
3　概要：地域で「ほんがら松明」の保存に力を注いでおられる地元の方に協力いただき、「菜種刈り体験」や「菜種落とし」体験をさせていただく際の支援を行った。

## 【６年歴史学習】に関する支援

1　日時：１０月５日３・４時間目
2　内容：「茶道体験教室」に関する支援
3　概要：
　近江八幡市「人生伝承塾」講師に御指導いただき、６年社会科「室町時代の文化」を学習する一環として「茶道体験教室」を実施し、その際の支援を行った。

## 【学校林整備】に関する支援

1　期日：９月２９日日曜日
2　内容：学校林の下草刈り等の支援
3　概要：
　島学区まちづくり協議会の有志の皆様により、学校林を設定していただき、下草刈り等整備に取り組んでいただいている。

## ３【事業の成果】と【今後の課題】

本年度は、事業二年目ということもあり、昨年度の活動を踏まえ「学校教育の充実」により寄与できるよう心がけた。例えば、「島アドベンチャー」や「スキー教室」での安全管理を含む支援をはじめとして、島学区まちづくり協議会との連携のもと、ボランティアの組織化に取り組んだ。

今後も、既存のボランティア団体の組織化を含め、善意ある個人の皆様の心をつなぎ、地域の教育力を高める為寄与したい。

# 地域とともに　学びの充実をめざして　【近江八幡市】

**【岡山小学校支援地域本部】**

**１【事業の概要、特色】**

岡山小学校のめざす子ども像は、お－おもいやりのある子　か－かんがえる子　や－やる気のある子　ま－まなびあう子である。

これらの目指す子ども像の実現に向けて、教職員と地域、学校支援ボランティアの方が、子ども達の「確かな学力」と「豊かな人間性」の育成という、共通の願いの下に一緒に活動することは、学校と家庭・地域の信頼関係を深めることにも繋がる。

本校では、地域が学校に対し協力的で、この事業が始まる前から学校支援ボランティアが関わる内容が多く展開されてきた。また、岡山学区まちづくり協議会を中心に地域で子どもを育てる行事や活動が多く展開されているのも大きな特色である。

**（１）環境整備支援**

**①生け花ボランティア**

毎週学校の正面玄関には、地域在住の女性ボランティアさんによる、季節に合わせた美しい生け花が飾られる。生け花の側には、花の色に合わせた色鉛筆で花の名前が記されている。

**②天井アートボランティア**

生け花の飾られた、正面玄関の奥の天井や壁面には、季節ごとに自然や節気等に関わる手作り作品が展示される。例えば7月は七夕をイメージした星飾り、12月はクリスマスを迎えるクリスマスツリーやサンタクロースの衣装などが華やかに飾られている。子どもたちもこの場所を通り抜けるのを楽しみにし、つい立ち止まって作品を見たり触ったりしている姿がよく見られる。

**③図書ボランティア**

図書の整理や修繕、飾り付け等子ども達が図書室に魅力を感じ、多くの本との出会いを楽しむための工夫を懲らしてくださっている。16名のボランティアさんが週1回午前・午後の2ｸﾞﾙｰﾌﾟに分かれ活動している。ここでも、入り口には季節の飾り物や新刊本の紹介等、楽しい工夫が見られる。

**④校庭の環境整備**

ＰＴＡの役員や教師が、土・日曜日の休みに学級園の耕しや小魚が住む岡山池の整備などをしていただいた。また12月には、運動場の高木の剪定作業をＰＴＡ本部役員を中心にしていただいた。高所作業車は、地域コーディネーターに手配していただき、地域の方に協力いただいた。

**⑤その他**

・通学路の危険箇所の点検

ＰＴＡを中心に通学路の危険箇所を点検し、地域コーディネーターが学区の連合自治会への協力・依頼、市役所への要望などに精力的に動いてくださった。

**（２）学習支援**

**①お話玉手箱ボランティア**

毎週水曜日の始業前に、各学級で教職員とローテーションを組みながら、９名のボランティアさんが、本の読み聞かせをしてくださっている。中には、高学年の子どもたちが、少しでも興味を持ってくれるようにと、挿絵を写真に撮って、電子黒板に映し出して読み気かせをしてくださる方もおられる。どの学級も、子ども達は真剣に静かに聴き入っている。

読み聞かせ後、部屋に集まっての話題は、次回の本の話題や情報交換等、ここでも地域の暖かい絆が生まれている。

**②各学年への学習支援**

１年生

・昔のあそび（祖父母）

２年生

・野菜づくりの名人

・田んぼの学校

（田植え、稲刈り、おにぎりパーティー）

・校区探検

３年生

◇岡山探検隊

・いろいろな人と出会おう

養鶏所見学

視覚障害者の方と盲導犬

賀茂神社宮司さん　など

・カルビースナックスクール

４年生
・ヨシランプ作り（成安造形大学）
・新町交番警察官（３名）
・フリーマーケットをしよう
　ミシンボランティア（保護者）
　手作りリサイクル品の販売
・地域の消防団
・おうみ作業所（障害者理解）所長さんの講話、見学
・元水茎干拓事業
・琵琶湖一周ボランティア（保護者）
５年生
・田んぼの学校（田植え、稲刈り、おにぎりパーティー）
・金環日食の話
・ミシンボランティア(保護者)
・放送局の仕事（ＺＴＶ）
６年生
・金環日食の話
・おでかけ演奏会
・茶道体験（人生伝承塾講師）
・ミシンボランティア（保護者）
・薬物乱用防止教室（滋賀医大生）
・部落問題学習
・「幸せな未来を」（キャリア教育）
・ふるさとの良さを紹介しよう

その他
・運動会での江州音頭の指導
・校内マラソン大会立哨ボランティア
・ジャンピングボード（なわとび練習台）の製作
・金環日食、金星太陽面通過の天体観測

**（３）児童の安全指導**

スクールガードの方が毎日、登下校の子どもの安全確保のために、立哨や引率をしていただいている。

**（４）地域行事との関連**

岡山学区には、まちづくり協議会を中心に子ども体験活動推進協議会等の組織がある。子どもを地域で育てようとさまざまな行事・活動が行われ、子どもたちも積極的に参加している。また教師もそうした地域行事に参加している。７月に開催された泥んこドッジボール大会には、岡山幼稚園と合同チームを作り参加した。１０月には、通学合宿があり、その最後の夜に行われる校舎を使用した肝だめし大会には、教師もスタッフとして協力した。数回ではあるが、学校も地域行事に参加することにより、地域とつながりを持ち、連携した学校づくりの一助になるのではないか。もちろん行事参加だけではなく、地域素材の教材化など、より充実した学びにするために地域に出かけたり、人と出会ったりすることが最も重要である。

**＜工夫したこと＞**
・地域コーディネーターの人脈を生かし、自治会等への協力・依頼等、連絡調整に精力的に動いていただいた。
・「田んぼの学校」では、地主さんや農業委員さんの協力の下、２年と５年の合同での田植え、稲刈り、おにぎり作りを実施することで、農業体験だけでなく、異学年の交流を深めるねらいも併せて計画実施した。

**＜他校の参考となる点＞**
・６年生「ふるさとの良さを紹介しよう」の学習では、グループで課題（テーマ）を設定し、課題解決のために、自分たちから地域に出かける場所を決め、（グループによって出かける場所が違う、出かける日も違う）子どもたち自身が、交渉していく学習活動は、子どもたちのより豊かな体験活動となり、主体的な学びを育てるのではないか。また大人が準備・段取りをしていくこれまでの方策と少し違った学校支援の方策ではないか。

**２【事業の成果】**
・さまざまなボランテイア活動やゲストティーチャーを招いての学習、地域へ出向いて地域の人たちや自然とふれあうことは、子ども達の生きる学びにつながっていくとともに、ボランテイアさん達の充実感の達成にもつながっている。子ども達の心を揺さぶる、本物の教材・人材・話題・文化等の大切さを改めて感じるものだと思う。

**３【今後の課題】**
・図書ボランティアやお話玉手箱ボランティアの方は、サークル的になっており、自主運営ができているが、環境整備や学習支援などの分野では、人材を探す必要がある。スムーズに調整していくためにボランティアの登録制を検討するなど体制づくりが今後必要である。
・学校支援が効果的に生かせる体制をつくるために、学校のニーズやプログラムと地域の人材や力を生かせる場を整理・調整していく必要がある。
・継続的な学校支援を増やし、子どもたちと地域の大人がつながる関係づくりにしていきたい。

# 給食の残菜を肥料にかえよう　【近江八幡市】

【桐原小学校支援地域本部】

## 1【事業の概要、特色等】

社会科でごみの処理と活用について学んだ４年生に、概念的なリサイクルの理解にとどまらず、ごみが生かせることを体感的に理解させたいと考えた。また、命をいただいている食べ物を大切にする食育の観点からも有効な取組であると考え、給食の残菜からの肥料作りを計画した。

### 〈工夫した点〉

９月４日、「市民生ゴミリサイクルプロジェクト」の皆さんを講師としてお迎えした。実施に当たっては、事前に担任が堆肥作りの指導を受け、実践体験した上で当日を迎えた。また、プロジェクター等を準備し、なぜごみを減らさなければならないか、どういうしくみで残菜が堆肥に変わっていくのかなど、地球温暖化や食物連鎖についても４年生なりに理解させ、堆肥作りのもつ価値を理解した上で取り組ませるようにした。

### 〈他校の参考となる点〉

「市民生ゴミリサイクルプロジェクト」さんが指導してくださる堆肥作りは、特別な設備や道具を必要とせず、段ボール・寒冷紗・米ぬか・腐葉土・移植ごて等、身近な材料・道具で取り組むことができ、多くの学校での指導の経験から残菜の堆肥化を確実に成功させてくださる。設置後は時折発酵状況を点検に来て必要な手立てもしてくださる。

堆肥化容器の臭いも意外に気にならない。他にも、ゴーヤの栽培による緑のカーテン作りを本校では２年生を対象に指導していただいた。

## 2【事業の成果】

児童の感想より

- 土とこぬかを手でまぜました。最初は冷たかったけどまぜてるうちにぬるくなってきました。
- 段ボールの中の温度は３５度～６５度だそうです。生ゴミが分解されて良い堆肥になります。
- 生ごみを本当に肥料にできるなんてエコだなぁと思いました。また家の人に教えて一緒に作りたいです。
- 堆肥をさわったら４０度ぐらいあったのであたたかかったです。生ゴミを使って堆肥を作るのはかんたんそうなのでびっくりしました。自分でもやれそうです。

感想からは食べ残しの残菜が意外に簡単に堆肥に変えられることの驚きと、「これならやってみられそうだ。」という実践への意欲が感じられる。また、発酵の進む段階での発熱や分解を進める目に見えない微生物の働きに感動する声もあった。

子どもたちは生命の循環について体感的に理解することができたと考える。

## 3【今後の課題】

この堆肥を元肥として大根の栽培をと学年では計画していたが、堆肥作りが種まきの時期に間に合わず、追肥として活用した。大根の種まきに合わせて１学期に堆肥作りを実施すると発酵でなく腐敗し、堆肥作りは成功しにくいらしい。完全な循環を児童に体験させ、収穫物を調理し、食するところまで体験させたいと考えるとき、実施時期や栽培作物について年間の見通しをしっかりもって計画・実践しなければならない。

# 白鳥川の体験学習　【近江八幡市】

【桐原東小学校支援地域本部】

## １【事業の概要、特色等】

校区の方を委員とする「桐原東学区地域教育協議会」を組織し、本校の学校支援地域本部事業が本年度よりスタートした。

本事業における教育支援活動は、様々な体験・交流・学習活動等を通じて、子どもたちの主体的に学ぶ姿と豊かな人間性を育てるとともに、地域の子どもたちと大人の積極的な交流による地域コミュニティの充実と地域社会全体の教育力の向上を図ることを目的としている。また、学習支援活動と学校環境整備活動を主として事業展開している。

活動例

学習支援活動例として、５年生の「白鳥川の体験学習」を紹介する。

１０月１９日、「白鳥川の景観を良くする会」のみなさんの御協力で、５年生が、校区内を流れる白鳥川に入っての環境学習を実施した。大きな網を使い、魚や貝等の生きものつかみをした。琵琶湖に生えるヨシに登る魚「ヨシノボリ」が多く見つかった。また、水質調査も行い、水の中に含まれる酸素の度合いや透明度を調べた。

（子どもの感想）

＊水の透明度を調べ、白鳥川の水がきれいだということがわかりました。白鳥川の水を汚さないよう気をつけて生活していきたいです。

＊白鳥川の生きもの調べをして、エビ、ドンコなど、いろんな生きものがいて、すばらしいなと思いました。

**〈工夫した点〉**

白鳥川の景観を良くする会では、毎月、白鳥川の美化作業に取り組んでおられる。会の活動について紹介もしていただくことで、環境保全のために自分たちができることを考える機会となった。

**〈他校の参考となる点〉**

白鳥川の景観を良くする会では、４月、白鳥川の川べりの桜の木にぼんぼりを灯す活動をされているが、子どもたちは、ぼんぼりの絵柄を描くことに参加させていただいた。子どもたちが、まちづくりに役立つ価値ある活動となった。

## ２【事業の成果】

地域コーディネーターが各学年の学習支援に役立つ仕事に取り組むことで、担任の負担軽減やボランティアの方との連携ができた。また、多様な人材活用を推進することができた。

## ３【今後の課題】

本事業における教育支援活動については、特色ある活動として定着してきたものと、その年度によって必要なものがある。人材リストを整備するだけでなく、新たな人材発掘に向けて地域や保護者に呼びかけていく必要がある。

# 地域とともに育てる馬淵っ子　【近江八幡市】

**【馬淵小学校支援地域本部】**

**１【事業の概要、特色等】**

本校では、以前から教育活動に地域の方々の力を借りて教育の充実に努めてきた。そのことは、子どもたちの「自分から学ぼうとする力」や「豊かな心」の育成に大きな力となってきた。

地域の方々が、自らが学び培ってきた知識と経験が次世代の地域を担う子どもたちの育成に寄与してきたものであると考える。

そこで、今年度はさらにその取組が充実するように、本事業を展開することになった。

さらに、地域全体で学校を支援する体制を構築することで、「地域の子どもは地域で育てる」ための地域教育力の向上を目指していくものでもある。

**＜工夫した点＞**

・空き教室にボランティアルームを設置して地域の方が来校しやすい雰囲気と居場所を作った。

・学区への全戸配付の地域広報誌（コミセンだより）で取組の周知を図ることを推進した。

**＜他校の参考となる点＞**

・ボランティアルームでは、ポットを設置し、お茶を出して休憩できるようした。

・児童昇降口ホールとボランティアルーム内に活動写真やチラシを掲示するコーナーを設置した。

＜ボランティア活動事例＞

**①　水泳支援**

全学年を対象に5名の方が13日間にわたり教師の支援や子どもへの個別支援を実施。手を添え息つぎなど細かな支援で上達できた子どもが増えた。

**②書道支援**

3・4・5・6年の書初め支援に1名の方が5日間にわたり、その場で手本を書き示しながらポイントを説明し、それぞれに添削等の支援を実施。子どもたちはゆっくり丁寧に書く気持ちを学び上手に書けるようになった。

**③図書室支援**

居心地の良い図書室作りを目指して保護者を含む8名の方が毎月2回活動。「読み聞かせ」と「図書室の本から作る工作」、本の整理・飾りつけなど昼休みを中心に図書委員の子どもたちと一緒に活動した。

**④　和菓子作り支援**

6年生が1年生と育てたさつまいもを使って卒業生の和菓子職人2名が「茶巾絞り」などの作り方を指導。6年生は1学期に学んだ茶道を生かし1年生をおもてなしすることができた。

**⑤　歴史を語る支援**

4年生の地域学習で昭和28年の台風被害による日野川堤防決壊当時の様子を4名の方が語ってくださった。緊急時の避難の大切さと自分たちが災害を伝えていく大切さを学んだ。

**⑥ハザードマップ作成支援**

4年生のハザードマップ作りに学区老人会の22名が協力。学区を5つに分け事前に子どもたちが調べた地図に地域の方の助言を受け避難経路などを書き記した。

⑦クラブ活動支援

4・5・6 年生のクラブ活動に 5 名の方が支援。「昔のあそびクラブ」で囲碁や将棋、「家庭科クラブ」で料理や編み物などを、13 回にわたり指導いただいた。

⑧茶道体験支援

6 年生の室町時代学習に 4 名の方が茶道の作法を指導。茶器の扱い、お茶の運び方、挨拶の仕方、畳の部屋での作法、おもてなしの心など日本古来の伝統を学んだ。

⑨田んぼと畑の支援

2・5 年生の田んぼの学習で地域の田んぼで米を作る学習の支援。さらに、5 年生の畑の学習では、地域のビニールハウスで菊菜栽培の話を聞いた。

⑩ソーラー電池学習支援

4 年生の太陽電池の理科学習に企業がパネルやソーラー電池で動く自動車などを持参して説明。ソーラー電池の力や電気の大切さを子どもたちは学んだ。

⑪その他の支援

・「スキー教室」支援
　5・6 年生のスキー教室に地域の方や大学生等が支援
・「昔の学習」支援
　3 年生に昔の学校・遊び・暮らしについての話
・「健康学習」支援
　全学年に食生活や健康についてジャンボ紙芝居を上演
・「環境学習」支援
　「びわこ守ったろうデー」にあわせて子どもたちと一緒に白鳥川の清掃活動を実施
・「大凧作り」支援
　5 年生の大凧作りの指導と支援
・「ホームページ」の更新とアップ

広報活動

校内では、ボランティアルームや校内の掲示板を通じて活動を展示。地域に向けては、コミュニティーセンターが毎月学区全戸配付される広報誌に活動内容を掲載して周知に努めた。

ボランティアの交流・研修

ボランティア同士の取組の発表や子どもへの対応などの研修会と情報交換を実施した。

〈参加者の感想〉

20 代～80 代まで幅広い世代の方が参加してくださった。久しぶりの学校を懐かしむ方や、初めての学校に緊張する方などがおられたが、子どもの学ぶ力に驚かれて、自分自身も学ぼうとされたりして楽しかったという声が多かった。

**２【事業の成果】**

年度当初に学区全戸にボランティア募集のチラシを配付したが申し込みがなく心配したが、知り合いや紹介していただいた方など、合計８０名余りの参加があった。

その結果、ボランティアさんは子どもたちのために力になれた事に喜びを感じて、地域で子どもを見かけると今まで以上に声をかけたり目配りしてくださるようになった。

また、子どもたちは、新鮮な目で地域の方たちの話を聞き学ぼうとする姿勢がみられた。

さらに、教師は専門的な支援をもらえたり細かな目配りに安心して授業をすすめられたりするなど多方面にとって成果の多い事業となった。

**３【今後の課題】**

本校では、１０年余り以前に「ふるさと先生」という取組があり、地域が子どもたちを支援する土壌はあったと思われるが継続が難しかった。今年度の本事業での取り組みでその必要性が再認識されたので継続のための関係者のさらなる理解の必要を感じた。

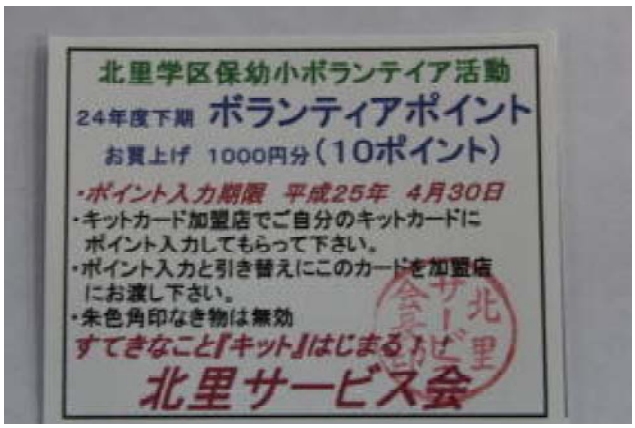
# 学校支援地域本部「北里小学校」の取組　【近江八幡市】

**【北里小学校支援地域本部】**

**１【事業の概要、特色等】**

(1)ボランティアポイント継続の取組

地域を挙げてたくさんのボランティアに学校を支援していただいているので、本年度も北里商業協同組合の御協力を得て、小学校・保育園・幼稚園にボランティアに来てくださった方々に北里商店街の買い物補助券を渡している。学校へ来ていただいた方へのお礼と共に地域商店街の活性化につながる取組として定着化してきた。




（２４年度下期分のボランティアポイント）

(2)２年目を迎えた校内研での実践の積上げ

本校が校内研究で総合的な学習・生活科に取り組んで２年目になる。研究主題を「自ら求め考発信する子どもの育成」とし、豊かな体験活動を通して主体的に課題と向き合う子どもを目指している。その中で必要に応じて地域の方々から学ぶ機会をできるだけ多く設けるように進めてきた。地域と学校のつなぎ役を地域コーディネーターに委ねているがすべてお任せではなく、教師自ら学習の目的やねらいと照らし合わせて、活用時期や活用方法を決めて、地域コーディネーターやボランティアと綿密な連絡調整を行った上で授業を進めている。コーディネーターを地域交流の要とし、教師自らも地域に積極的に関わろうと取り組んでいる。

(3)読書ボランティアによる読み語り

昨年度から、落ち着いた朝のスタートと学力向上を目指して、全校で毎朝１０分間読書に取り組んでいる。また、木曜日には読書ボランティアによる「読み語り」を行っている。１２月の人権週間の時には学校からの要望を受けて、人権に関する内容の読み語りを学年に応じた本の選定のもと実施して頂いた。読書ボランティアは在校生の保護者が中心となって活動してもらっているが、読み語り終了後、図書室の整備もして下さる方もおられる。また、地域には現役時代図書館に勤務されていた専門家もおられ、多いときには週に３回図書室の整備をしてくださっている。図書室整備の中心として活動していただいている。本年度、読み語りの継続に対してＰＴＡより予算をいただき、たくさんの本を購入できたことはこの事業の成功の証と考える。その中で大型絵本も購入し、読み語りにも活用してもらっている。

（大型絵本で読み語り）

(4)情報の収集と発信

本年度も近江八幡市主催の学校支援メニューフェアに全員参加して研鑽を積んだり、地域の行事に参加したり、地域を歩いたりすること等、取組を進めてきた。

また、地域コーディネーターの発行する広報紙「ネット輪～ク」と共に、学校だよりや学年・学級通信で随時活動を知らせるように心がけ、数多くの情報発信を行ってきた。

**〈工夫した点〉**

(1)地域商店街との連携

地域の子どもは地域でも育てるという意識の高い学区で、商店街の御協力のもと、学校のために尽力くださる方に「ボランティアポイント」を発行している。ボランティアは無料奉仕ではなく、ポイントを発行することで謝礼となるばかりではなく、地域商店街の活性化にも役立っている。

(2)地域の方々との豊かな体験活動
校内研究で、豊かな体験活動を通して主体的に課題に取り組んでいる。本校のボランティアは多彩である。例を挙げると・環境・図書・読み語り・昼休みおもちゃランド・紙芝居・学習支援（調理、福祉学習、平和学習、食育、ミシン）等々である。この豊富な人材を活かして学年毎に豊かな体験と交流の場が展開されている。

(3)教師自らの行動力・実行力が決め手
　地域ボランティアを地域交流の要として位置づけているが、すべてを委ねるといった安易なことはせず、教師自らが主体性を持って計画・立案するように心がけている。

(4)豊富な量の情報発信
　学習終了と同時に、学習の過程や成果物、感想等を織り交ぜた通信を保護者や地域に向けて発信している。保護者のみならず地域の方々にも情報を発信することで、新たなボランティア発掘の一助となっている。

**〈他校の参考となる点〉**

○地域商店街との連携
　・ボランティアポイントの発行で、地域商店街も活性化
○豊富な人材の発掘・登録
○成果は保護者のみならず地域全体へ情報発信

**２【事業の成果】**

(1)地域との連携
　教育活動に協力いただいた方々に、お礼の手紙や成果物、ボランティアポイントを渡した。中には学校にお招きして感謝の会や試食会を催した学年もあった。

（２年食育）
・１年を通して野菜作りに協力いただいた方とのおでんパーティと感謝状渡し

ボランティアポイントは現保護者は対象外とし、それ以外のボランティアの方々に渡した。このポイントは北里商店街のみ有効ではあるが、大変好評であった。地域の活性化にも貢献している。

(2)地域→学校→地域の循環型学習
　本年度も校内研究と繋ぎ合わせて実践している。単に話を聞いたり教えを請うといった受身の学習ではなく、子ども自らが課題を持って地域に出て行き課題を解決する学習活動を行っている。例を挙げると、６年生では地域商店街の方々と話し合い、活性化に繋がる方法を地域の方々と共に考え行動する学習に取り組んでいる。２学期末から商店街に地元の人をたくさん呼ぼうと、ポスターを作成し街角に掲示する計画を進めている。また、自分たちも地域の商店街に出かけようと話し合っている。

(3)図書室の充実
　朝学習で読書に取組み、木曜日にはボランティアによる「読み語り」を実施してもらうことで、本に興味を持つ子どもが増えている。昼休みになると子どもたちが図書室を訪れ、読書している姿が日増しに増えている。読み語りが終わるとボランティアの方々は図書室に移動し、書架の整理や飾り付けなどをしてくださっている。いつも整って落ち着いた環境を創り出してくださっている。この活動に対してＰＴＡから補助金を出し、ＰＴＡ文庫を図書室の一角に設けた。本の選定から文庫増設までボランティアが中心となって活動してくださっている。

（大人気でたくさんの本が貸し出されているＰＴＡ文庫）

**３【今後の課題】**
　本年度で４年を経過した本事業であるが、教師一人ひとりがこの事業の意義を深く理解し、自らがコーディネートできる力を持つことも必要であろう。そのためには、教師が地域に愛着を持ち、進んで地域に出かけ、情報を収集・教材化して、地域と共に子どもを育てるという高い意識が重要であると思われる。

# 子ども育ちを支える学校支援の取組　【近江八幡市】

**【武佐小学校支援地域本部】**

**1【事業の概要、特色】**

本校では、平成 21 年度の 3 学期から本事業を展開している。地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりをめざし、スタート時ボランティア登録者 20 名から始まり年々たくさんの方がボランティアとして学校の取組に参加してくださるようになり、現在、登録者数 89 名に至っている（スクールガード約 120 名は別に）。また、平成 23 年度から、ボランティア活動の活性化を図るため登録者の中から各町の代表と活動内容ごとの代表を決め（人数の多い活動のみ）、地域コーディネーターと相談しながら学校との連絡調整役としてボランティア活動の推進に関わっていただいている。今年度も本事業の一層の深まりをめざして、学校と地域の方々との連携を進めている。

◇ 町代表…８名

◇ 活動代表…５名（家庭科・図書・水泳・田畑・昔遊び）

**〈工夫した点〉**

ボランティアさんに気持ちよく活動していただくため、ボランティア心得を作成しボランティア室に掲示し啓発している。また、活動して終わりでなく活動に再度参加したくなるようボランティア活動に生き甲斐を感じられるよう、以下の取り組みをしている。

**〈他校の参考となる点〉**

(1) ボランティア室の設営（拠点づくり）

空き教室を利用してボランティア室を設営し、活動の事前打ち合わせや事後の反省を行っている。また、ボランティアさんが自由に話し合える雰囲気づくりに努め、時には、教育や生活について語り合ったりする憩いの場となっている。そして、その話し合いの中から新しい活動へとつながっていき、活動への広がりに役立っている。

(2) 名札の作成

来校者用とは別に 89 名全員の名札を玄関に常備し、活動の際に利用してもらっている。名前を知ってもらうことにより、子どもたちも親しみをもって接している様子がうかがえる。

(3) 封筒の用意・「通信」の発行

全員宛の封筒を用意し、月１回「学校だより」といっしょに支援ボランティア・教職員に「ボランティア通信」を配布して情報の共有化を図っている。通信には活動に参加していただいた方の名前を入れ、参加してよかったと思ってもらえるよう敬意を表すようにしている。登録者全員に活動の依頼をすることができ図書ボランティアに新たに男性が加わるなどの効果も見られた。

(4) 活動内容を伝える掲示物の作成

写真やカットを交えた掲示物を作成し、ボランティア用掲示板を利用して児童や来校者にも活動の様子を伝えている。

(5) 感謝の気持ちを表す

お礼の手紙やパーティへの招待のほかに運動会の招待状や年賀状を子どもたちが手書きで全員に送っている。また、音楽会や子ども祭り・人権集会・卒業式などの行事にも全員に参加を呼びかけ、ボランティア席を設けて感謝の気持ちを表している。

◆**事例①　町たんけん～ぼくらの町はどんな町**

３年生は、社会科の学習で自分たちの町のようすを調べるため各町に探検に出かけている。各町で町の特色を話してくださるボランティアを探して欲しいという依頼を受け、電話をかけたりお店を訪問したりして、７町のボランティアさんを探すことができた。伊庭家やエコ広場、中山道武佐宿、神社や町名の由来、近江牛、豆腐の作り方、コミュニティセンター、ムシャリンドウの話など、地域ならではのたくさんの貴重な話を聞くことができ、子どもたちが地域に親しみや愛着を持つことができる取組となった。

◆事例②　戦争体験の聞き取り

地域内にある高齢者施設の利用者さんとの交流についての事前打ち合わせの中で、最近戦争体験の話ができる人が少なくなってきているという話が出た。「利用者さんができはるで」ということで、６年生の子どもたちが平和学習の一環として高齢者の方から戦争体験の聞き取りをすることになった。２班に分かれ、２日間のべ 14 人のボランティアさんから話を聞くことができた。子どもたちと利用者さんたちが隣りあって座り、自己紹介をしながら和気あいあいと話し合いが進められた。戦争中の食べ物や服装・学校での授業・遊びなど、子どもたちの質問にボランティアさんたちは、昔を思い出しながらしっかりと話してくださった。そして、交流会では、一緒に仲良く料理を楽しむほほえましい姿が見られた。

◆事例③　室町文化の体験

６年生は、社会科の歴史学習で室町文化の学習をしたあと「自分たちも体験してみよう」ということで、華道・茶道・水墨画を教えていただいた（３班に分かれ交代で移動）。子どもたちは、緊張しながらも新しい体験に興味津々で、神妙な面持ちで助言を聞いていた。華道や水墨画では、作品のできばえに満足の笑みを浮かべ、茶道では「結構なお手前でした。」という言葉も出るなど、とても楽しい体験となった。花器や剣山・お花・茶器・茶筅・煎茶など持ち込みで教えていただき、また、後片付けには、この日他学年の活動支援に来ていた家庭科ボランティアさんに手伝っていただいて、いつもながら、地域で支えられ育まれていることを実感する取り組みとなった。

◆事例④消防団の見学

４年生の社会科の学習で、昨年はクラスのＰＴＡの団員さん１名に話を聞くだけだったが、今年は地域の消防倉庫にでかけ学区の分団長さんはじめ４人の団員さんに話を聞くことができた。消防団の主な仕事や苦労や工夫、本業との両立、喜びなどの話のほか、ホース作業や放水などの実演、災害時備蓄倉庫内の見学、また、消防車に実際に乗せていただき、正に目で見て手に触れる体験をすることができた。

◆その他

家庭科実習・地域学習・障がい者理解・外国の文化・朝の読み聞かせ・図書の整理・花壇の整備・クラブ活動・運動会等学校行事時の駐車誘導など、幅広い活動に支援をいただいている。

## ２【事業の成果】

今年度は、昨年度以上に地域にでかけ地域の人たちとのつながりを深めることに努め、新しい人材を確保することができた。支援体制も定着してきた。また、「次回もまた来たい。」「子どもたちのためになるのがうれしい。」など、ボランティアさんの喜びや生き甲斐につながっている。子どもたちも地域を身近に感じ「地域の人たちから大切にされている。」という実感を持てるようになった。

## ３【今後の課題】

カリキュラムとの兼ね合いもあるが、担任がボランティアの導入にもっと積極的になれるよう事業への理解を深めることが大切である。また、本事業の展開４年目で支援体制が整ってきたとはいっても子育て中の保護者の登録が少なく、ボランティアさんの高齢化が進んできているのが現状である。地域や若い世代への啓発もしていかなければと思う。そして、この事業が廃止されてもボランティアによる自主的運営ができるようなシステムを工夫する必要があると考える。

# 地域に根付く支援活動の輪とその広がり　【近江八幡市】

**【安土小学校支援地域本部】**

**１【事業の概要、特色】**

地域における人と人とのつながりが希薄化し、子育てや青少年の育成に関する地域の教育力の低下が叫ばれている現状。また、年々課題が多様化することによる教職員の負担の増加などに対して何らかの手立てや工夫が必要となってきた中での大変効果的な事業であった。

昨年度に引き続き、今年度も本校に配置されたコーディネーターを核として、体制の組み直しに努力してきた。

学校での学習活動や校外学習などの直接的な支援、生徒指導や生活指導などの側面からの支援も含め、教職員が子どもとゆとりを持って向き合うことができるよう、また、地域の多くの方にも学校を支えながら持っておられる力を発揮していただける場として位置づけ、事業を進めたいと考えたのである。

この取組が、学校の教育力を大きなものとすると同時に、地域の教育力を向上させることにつながるものと考えるのである。

**〈工夫した点〉**

昨年度の実績を踏まえ、今年度は、さらに多面的に学習活動に関わることでその支援を組み込みながら、児童と触れ合う機会を少しでも多く持つように考えた。

○学習支援
　読書・生活科・社会科・総合的な学習の時間
○環境整備
　田畑・運動場
○クラブ活動
　茶道
○行事
　安土っ子フェスティバル・講演会等の託児

**〈他校の参考となる点〉**

学校とボランティアの方々との連携を深めることよりも、教職員とコーディネーターとの連携強化を図り、学習活動においてどんなボランティアが必要なのか、どのような形で子どもたちと関わっていただくのか、などの学習計画と、コーディネーターの持っている情報について、日常的に交流しやすい環境を作ることが大切であると考えた。

年度当初は、職員がコーディネーターにどんなことを依頼すればよいのか戸惑いがあったが、徐々に連携がスムーズにとれるようになっていった。

まだまだ継続して取組を展開されている先進校のような積み重ねはないが、改めて本学区にはすばらしい力を持たれた人材がたくさんおられ、たくさんの方の支援をいただきながら学習活動を進めることができることに感謝している。

〈事例紹介１＝安土っ子フェスティバル＝〉

本校では、毎年地域のボランティアの方々が中心になって 15 前後のブースを担当しながら、子どもたちにさまざまな体験活動をさせていただいている。今年度は、安土小学校区のみならず、このような場があることを知ってくださった大津市在住の方も参加いただき、開催当日はあいにくの雨にもかかわらず、子どもと大人併せて 600 名規模の賑わいとなった。子どもたちにとっては、普段出来ない体験を数多くさせていただくことができ、とても充実した時間を過ごすことが出来たように感じた。

100 名を越えるボランティアスタッフの皆さんに対するアンケート結果では、ぜひ来年度も参加したいとのありがたい声をいただいている。

〈事例紹介２　＝学習支援＝〉

本校の３年生では、地域にある工場を見学させていただくとともに、地域の伝統産業の学習や物作り体験なども社会科や総合的な学習の一環として位置づけている。ここにも、地域のボランティアの方の協力がなくては成り立たなくなっている。

学習内容とボランティアとのいろいろな調整をスムーズにしていくコーディネーターの役割は大変ではあるが重要なポジションであることに違いはない。

## ２【事業の成果】

学校の中にコーディネーターが配置されて２年目になるが、担任の思いや要望が伝えやすくなった。一方、コーディネーターにとっても、昨年度に引き続きそのポジションについてくださっていることで、いつ頃、どの学年が、どのようなボランティアを求めてくるかをある程度予測した上での動きを取ることが出来たのも成果の一つとして挙げられる。また、支援してくださる多くのボランティアの方々と出会い、触れ合うことができる機会が増えたことは言うまでもない。

子どもたちにとってみても、地域の方々を身近に感じ、コミュニケーションを取ることに対しての抵抗感も小さくなったように感じた。

多様な形で学校を支援していただくということが、子どもに向き合う教師のゆとりにつながることはもちろんだが、子どもも含めて、人と人とがより深くつながり合う事業でもあったと感じる。

さらに、学習意欲の高まりや子どもたちの活動の広がりなどにつながって来たことが大きな成果だと感じている。

## ３【今後の課題】

・今後、さらに多様な形での学校支援をしていただける方々の登録を増やしていくことが求められる。また、ボランティアの方々や地域の方々に、多様な活動を通信などで発信していくことによる理解と協力の輪の拡大を期待している。

・コーディネーターを核として、ボランティア活動が定着していくためには、登録された方々に対して定期的にニーズに応じて活躍する場がなければならない。このことを考えると、その場その場、必要に応じて場を設定するものと、年間を見通して、一定の活動を計画していくとのバランスも考えていく必要があると考える。

・子どもたちとのふれあいの場がさらに膨らんできたとき、行事への招待状をボランティアの方々に送って、ともに参加していただいたり、学習発表の機会に聞いていただいたりと、双方向の交流が少しずつではあるが進めることが出来たが、今後もさらに深めていきたいと考えている。

・学校に対する支援の活動以外にも、ボランティアの方々の研修会の計画や、交歓会、交流会などの実施も必要になってくると考えている。

# 老蘇小学校　　学校支援の取組　　【近江八幡市】

**【老蘇小学校支援地域本部】**

**１【事業の概要、特色】**

本校は、この事業以前から水田学習や図書の読み聞かせをはじめ、その他、地域の方とつながりがある。

また、５年前から保護者や地域の方々に来校いただいてオープンスクールを開催している。

地域の方の支援を受け、学校、家庭、地域が一同に会して交流活動を行なっている。

今年度より、老蘇まちづくり協議会としての支援をうけた取組も始まった。

昨年度より募集を始めたボランティアの登録数はまだまだ十分ではない。本年度も募集を行ないボランテイアの確保に取り組んでいる。

また、学校支援の取組みの情報発信として、昨年に引き続き『ボランティア通信』を年に数回発行し、地域に配布・回覧することでボランティア活動の様子をわかりやすく紹介している。

〈支援活動の紹介〉

１年生

・大型紙芝居による道徳･環境のお話を聞く
　　森本佐市郎さん（人生伝承塾）

２年生

・たけのこ掘り

・まち探検（地域の方にお話をうかがう）

・野菜畑の耕作作業

・いちご園訪問（収穫）

３年生

・地域学習　(奥石神社・みつくりが池・蓮池のお話)

・地域学習(訪問)　(養豚・いちご園・蓮根栽培)

・企業支援『平和堂環境学習エコピースクラブ』

・福祉教育学習（盲導犬のお話　原田勇さん）
　　(人生伝承塾)

・森シゲミさん（でっちようかん作り）

４年生

・パッカー車によるゴミの学習(株)日吉南さん

・はちみつ採取（養蜂家他ボランティアの方）

・いちご園訪問（収穫）

・菜の花の刈り取りと脱穀

・菜種油を使った調理実習の支援

・西の湖学習　奥田修三さん（人生伝承塾）

５年生

・水田学習(田植え～稲刈りまで)サン・燦ファーム

・水生生物観察会（ボテジャコトラスト・仔魚の養流）

・家庭科ミシン実習支援

・消防署救急救命士による東日本大震災のお話

・地域の会社見学　山梶製作所(株)

6年生

・家庭科ミシン実習支援

・滋賀次世代文化芸術センター連携授業

（茶道体験・茶碗製作・お茶会体験）

・地域歴史聞き取り学習

・戦争体験のお話　（村地さん）

（その他）

・読書ボランティア（くすくすさん）

・全校交通安全教室支援

・託児支援

・全校縦割り遠足随行支援

・草刈りボランティア

・全校マラソン大会見守り支援

・オープンスクールデー支援

（おにぎり作り・餅つき・しめ縄つくり支援）

〈工夫した点〉

・記録は随時作成し、その時の様子を写真とともに次年度に役立つように学年別に残しておく。

・定期的に支援いただいた活動や事業の取組について情報紙を発行してお知らせする。

〈他校の参考になる点〉

・コーディネーターが学校支援事業予定にもとづき、地域の方との連携を図るために自由に動きまわることができる。

・学校支援地域コーディネーターに専用のパソコンを与えられているので、事業の記録を速やかに作成することができる。

**2　【事業の成果】**

本校では2年目に入り、昨年に比べて地域への支援依頼も増加している。たとえば家庭科におけるミシンの実習支援などは効果も大きく、学習の支援に貢献している。

特に各学年の地域学習において、地域の方に詳しくお話をしていただき、自分たちの住む地域についてより深く知ることができた。

また、子どもたちにとっても、地域の方とのふれあいの機会が増え、つながりで支えられていることが実感できた。

ボランティアの方も培ってこられた技術や経験を子どもたちに伝えることにより、生きがいや充実感を感じられている。

**3　【今後の課題】**

２年目を迎え本事業支援活動が継続していくために、ボランティアの人数を拡大していかなければならない。その点からも今後ボランティア登録の方の数を増やすようにどう啓発していくか。

また、子どもの学習や教職員の要望に応えられるようなボランティアをどのように発掘していくか。などに対して、地域のまちづくり協議会が発足始動するにあたり、既存のボランティア団体とも連携をとりながら支援強化をはかるよう努めていきたい。そして、将来的には組織として動くことができる核つくりをしていきたいと考える。

# 「八幡西中学校 学校支援の取組」 【近江八幡市】

【八幡西中学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

（１）平成２４年度八幡西中学校教育協議会の設置（４月）および、役員の一部改選と協議会の開催（４・８・１２・１月）

◆支援活動実施計画の策定と実施要綱の広報活動および、ボランティアの募集活動を行う。

（２）学習支援活動の実施（５～３月）

◆読書活動の一環として図書館の利用を活発化させるため、図書の整理と拡充および、図書の管理（製本・修理・登録・廃棄など）を行う。

（３）部活動支援活動の実施（４～３月）

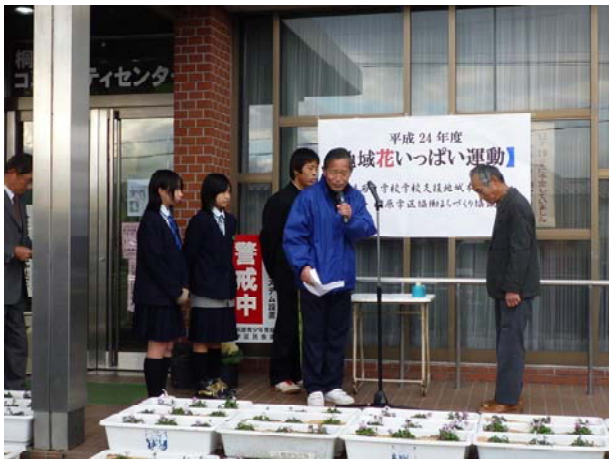
◆前年度から指導にあたっていただいている部については、引き続き指導をお願いし、今年度から新たに指導を願う部については、広報活動を行い、地域人材を活用して指導していただく。

（４）環境整備活動への協力支援

◆県下一斉で行われる環境活動（年間３回）に取り組む。また、ＰＴＡ本部やＰＴＡ環境整備部と協力し、校舎の美化活動や花植えなどを行う。

（５）地域コミュニティセンターとの共同事業への参画

◆桐原学区コミュニティセンターの事業である「地域花いっぱい運動」の拠点となり、季節の花の育成と栽培および、地域施設への頒布を行う。




（６）事業成果報告会の実施

◆本年度の学校支援事業の実施状況や活動成果および、次年度に向けた取組について報告する。

〈工夫した点〉

・事業内容が地域にも分かるよう、ビラを作成し、コミュニティセンターとの連携により校区内の全戸回覧を実施した。

・子どもたちにもどういう人が関わっているのかが分かるよう、玄関や図書室に新聞や広報を張り出した。

・部活動指導については、コーディネーターや部活顧問との連絡調整を緊密に持ち、学校教育方針に沿った指導をお願いした。

〈他校の参考となる点〉

・図書館支援員さんには、単に図書の整理や管理だけではなく、新刊紹介や読書の魅力について、紹介していただいた。それにより、支援員さんのモチベーションもあがっていったようである。

・今年度の取組を支援員さんを通して地域へ周知した。特に、コミュニティセンターとの連携を深め、事業報告を（別紙）を掲示していただいたり連携した取組を進めたりすることができた。

・成果については目に見える形で残すことにした。特に事業報告は大きく張り出し地域へも周知するように努めた。

2【事業の成果】

（１）部活動支援活動の実施

部活動については、毎年、大きな支援をいただいている。２４年度支援いただいた部活動は、軟式野球部・ソフトボール部・男女軟式テニス部で、ほぼ、１年を通してお世話になっている。

これらの部活動の支援員さんは練習試合、公式試合にも時間が許せばベンチに入り、指導をしていただいている。また、技術指導だけでなく、マナーや試合に臨む心構えなど、学校教育方針に沿って指導していただいている。

生徒数の減少に伴う教員数の減少により、部活動の指導や維持が難しくなってきている中で、支援員さんによる部活動支援は、生徒の部活動を保障するとともに、学校の活性化にもつながっている。

今後も、これらの部活動については、指

導・支援を継続してお願いする予定である。

（２）の各種学校行事の支援

今年度も、記録用として、入学式をはじめとした各種行事のビデオ撮影や写真撮影を支援員さんにお願いしている。

昨年の学校創立創立３０周年記念事業の一環としてホームページをリニューアルし、更新作業も、支援員さんにより定期的にお願いしている。特に、行事等があった場合は時間をおかずその日のうちに情報を提供していただいている。

（３）環境整備支援

支援員さんとＰＴＡによる環境整備事業と位置づけ年間を通して計画的に取り組んでいただいた。

大きくは、夏休みの一斉除草作業と、記念式典２週間前に行ったビオラとパンジーのプランターへの花植え活動をＰＴＡ本部・環境整備部と支援員さんとの合同で取組み、除草や水やりといった日常の世話を支援員さんにしていただいた。

支援員は時には、友人や地域の方をも誘われ、夏の暑い日にも熱心に水やりや草取りの世話をしていただいた。そのおかげでいっさい枯れることもなく花を育てていただいた。

中庭の花壇には、ミニひまわり、アリッサム、マリーゴールドが植えられ、黄や白、ピンク、オレンジと色とりどりの花を植えていただきプランターのビオラやパンジーとともに、校舎を美しく彩ってくれている。

正面玄関の植え込みも、１年を通して計画的に実施し、5月から途切れることなく、美しい花の数々が本校を訪れる方々の目を楽しませてくれた。

３月の卒業式、４月の入学式の頃には、さらにチューリップが花を咲かせ、ストック、桜草とともに、ピンクのグラデーションで華やかに彩る予定である。

また、中庭の校長室に面した花壇にも同じようにチューリップ、ストック、桜草が植えられ、卒業式や入学式を含め、校長室を訪れる来校者の目にも届くようにと、いつも細やかな心配りをしていただいている。

**3【今後の課題】**

・学校支援地域本部事業を立ち上げ４年目になるが、地域の人が、中学生や中学校を支援していただくことの難しさを痛感する。年３回、支援員募集の案内を行っているが、中学校の敷居は高いようで、思ったように人を集められない現実がある。

これは、「学校の考えるニーズと地域の支援者の一致」が事業発足当時からうまく進展しないという点にあると思われる。

そこで、昨年度と今年度見られた課題を再度検討し、次年度につながる取組を行いたい。

・別室登校の生徒や怠学傾向の生徒の数が増加しているが、学習の補助をお願いするこの分野の人材の発掘ができていない。教職経験者や本校卒業の大学生や保護者の協力、さらには、候補者の新規掘り起こしなどを行いたいと考えている。

・１月１０日現在、支援者登録数は、合計５０名であるが、年度が終わろうとする現在まで、支援者を十分に活用できなかった。今後は年間計画の中にしっかりと位置づけ、教科や総合、学活での活用を促進したい。

・コーディネーターを中心に、登録の支援者情報や状況を全教職員に周知徹底し、その都度、活用計画を立て実施する。

・支援員間の交流を活発にし、支援員からの情報提供を活用し、学校が活かせる人材を増やしていく。

# 地域の力を学校に!!　学校支援ボランティア　【近江八幡市】

**【安土中学校支援地域本部】**

**１【事業の概要、特色】**

本校は学校教育目標として「自律・鍛錬」を掲げ、その実現のための１つとして「家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校」づくりを進めている。

以前から本校では、「安土の子は安土で」をスローガンに、さまざまな教育活動の中で地域の方々の協力をお願いしてきた。

この事業２年目となる今年度は、昨年度展開していた事業の継続とそれぞれの事業の充実を図ることに重点を置くこととした。現在、６０名のボランティア登録があるが、それ以外にも学校や教員の要望に応じて地域の人材の中からボランティアを要請している。今年度は以下の活動を行うことができた。

①環境整備活動･･･ボランティア３２名

本校には中庭に和風庭園があり、その一角に茶室「天正庵」が建てられている。ツツジや松、モミジ、桜などの豊かな植栽が見られるが、その手入れが大きな課題となっている。また、同時に校舎周辺や敷地内に植えられている１０００株以上の紫陽花の手入れにも悩んでいた。

今年度より、ＰＴＡ会員にも協力を呼びかけ、参加を得ることができた。また、５人の方にはボランティア登録をしていただくことができた。

○５月２９日（火）

中庭の植栽の剪定と除草活動

ボランティア１５名・ＰＴＡ１３名

計２８名が参加。昨年の倍の参加があり、広範囲に除草活動ができた。

ボランティアとＰＴＡによる紫陽花の剪定

○７月１０日（火）

紫陽花の剪定

ボランティア１０名・ＰＴＡ５名参加

○３月上旬（予定）

中庭の植栽の剪定と除草

②読書活動･･･ボランティア１６名

本校１、２年生は朝の「こつこつタイム」で朝読書に取り組んでいる。そんな中、月に一度の読み聞かせを読書ボランティアに依頼している。今年度より、全クラスに入っていただいている。１０月には近江八幡市立図書館長を講師に迎えて、勉強会を開いた。

○読み聞かせ活動

毎月第１火曜日に実施

毎回、読書ボランティア１１名が参加

昨年度は８クラスのみだったが、今年度は全クラス（１２クラス）に入っていただいている。

○７月２６日（火）

図書室の書籍整理

ボランティア４名が参加

○１０月２日（火）

近江八幡市立図書館長を講師に迎え、勉強会を開催

安土小・中学校の読書ボランティアの方２０名が参加

○２月５日（火）（予定）

読書ボランティアの方との懇談会

生徒の様子や読書活動についての交流

③茶道活動･･･ボランティア１２名

本校では地域学習を兼ねた特色ある教育活動の１つとして、茶道体験学習を行ってきた。

毎年１年生は全員が和室と天正庵を活用し茶道体験学習を行い、お茶の作法を地域のボランティアより学び、２人１組で実際にお茶を点てていただくという体験まで行っている。さらに、今年度は茶道体験クラブを立ち上げ、部活動のない水曜日に年５回裏千家・三井古流煎茶の方に交代で指導していただいている。

また、昨年に引き続き本校の文化祭である「天正祭」において、保護者向けの茶会を開催した。当日は、事前予約の方を含め６４名もの参加を得、大変好評であった。

○５月９日（水）

茶道体験クラブ（第１回）生徒１４名

裏千家のボランティアの方…２名

○５月１１日（金）
ミリアン市中学生一行１４名茶道体験
裏千家のボランティアの方…５名
○６月２０日（水）
茶道体験クラブ（第２回）生徒１５名
三井古流煎茶ボランティアの方…３名

天正祭保護者向けの茶会（煎茶）

○９月２９日（土）
本校文化祭「天正祭」での保護者向けの茶会･･･ＰＴＡとの連携
保護者や地域の方６４名が参加
裏千家のボランティアの方…４名
三井古流煎茶ボランティアの方…３名
○１０月１０日（水）
茶道体験クラブ（第３回）生徒１０名
裏千家のボランティアの方…３名
○１１月１２日（月）
１年生（１１８名）茶道体験教室
裏千家のボランティアの方…７名
○１１月２１日（水）
茶道体験クラブ（第４回）生徒１２名
三井古流煎茶ボランティアの方…３名
○２月上旬（予定）
茶道体験クラブ（第５回）

④その他
昨年度から家庭科の授業で地域学習に取り組んでおり、地域の人材を活用し、西の湖の環境保全活動を行う傍ら、西の湖のヨシを食材として活用する取組を進めておられる方や地産地消を推進されている方を招いて授業を行った。３年生の進路学習会では安土在住の方を講師に迎えた。
○６月２８日（木）
地域の人材を学校に招き、西の湖の環境とヨシについての講演
○１１月５日（月）６日（火）
地域の食材と米粉を使った調理実習
地域ボランティア２名が参加
○１１月１７日（土）
３年生親子進路学習会
植物研究者の方を講師に迎えての講演

**＜工夫した点＞**
①環境整備活動の参加の呼びかけをＰＴＡ会員にも行ったこと
②読み聞かせボランティアの方は思春期の中学生に何を読んだらいいかなど不安に思っておられたので、勉強会を開いた。
③昨年の１年生茶道体験教室の生徒のアンケートで、お茶をやってみたいという声が多数あった。その声に答えて、茶道体験クラブを立ち上げた。

**＜他校の参考となる点＞**
①環境整備活動などをＰＴＡに呼びかけることで、この事業をＰＴＡにも周知してもらうことができ、新たなボランティア登録の確保につながったこと。
②読み聞かせの勉強会を中学校区の小学校ボランティアに声を掛けたことにより、ボランティアの方の交流になったこと。

**２【事業の成果】**
「安土の子は安土で」というこれまでの積み上げの上にさらに地域の方々に学校支援として関わっていただき、少しずつ中学生や中学校への関心も高まってきていると考えている。また子どもたちにとっても、ボランティアの方々の姿を学校内で見る機会が増え、地域の方々の思いを感じることが大きな教育となっているはずである。さらに、環境整備活動については、職員では充分にできない分野にボランティアの力が入ることで日々の教育環境が整備されると同時に学校の負担が軽減されており、この効果は大きい。また、ＰＴＡに呼びかけることで、保護者の方にもボランティアの活動を知っていただけたことを今後の活動の広がりにつなげていきたい。

**３【今後の課題】**
今後も学校と地域を結び、学校にさまざまな地域の人材や力を取り入れていく。そのためにはさらに多くのボランティアの発掘が必要である。また、支援活動の多くはコーディネータの調整によるところが大きいが、将来は日常的に地域の方々が学校に入り環境整備を中心とした活動を展開するということが大切であると考えている。次年度以降も規模を大きくすることを目指すのではなく、現在の活動をよりスムーズにきめ細やかに実施する事が方向性の１つであると思う。

# 地域の豊かな人材を保育活動のなかに・・・【近江八幡市】

【金田幼稚園支援地域本部】

**１【事業の概要、特色等】**

今年度より学校地域支援本部事業に取り組むことになった。金田学区では初めての事業であり、地域の方にこの事業を知ってもらうことから始まった。まずは保護者、そして、今までから交流のあった方を中心に今年度は事業を進めていった。

地域コーディネーターが保護者やコミセン等で人材発掘をして、幼稚園が必要とするボランティアを集めてもらって、保育活動に参加してもらうことができた。

従来の幼稚園と家庭だけでは経験できないことや、人とのかかわりがたくさんもてるように計画した。

（木工遊び）

**〈工夫した点〉**

初年度ということもあり、地域の方に事業を知ってもらうことを第一に考えた。

地域への情報紙の中にコーナーを設けたり、保護者同士の口コミでボランティアの参加者を増やしたりしてきた。

職員がどんな支援を必要としているのかも、指導計画をたてる時に一緒に考えてもらって、長期的な見通しのなかで、ボランティアの参加を募るようにした。

単発で終わらないような、継続できる活動を取り入れるようにした。また、幼児の見えないところで協力してくださっている方も、一年の中のどこかでお礼が言えるような場をもつことにした。

（今年度はおでんパーティに招待した）

（大根の種まき）

（おでんパーティに招待して）

**〈他校の参考となる点〉**

地域をよく知っておられる方にコーディネーターを依頼したので、職員が「こういう所に行きたい」「こういう地域の行事をしたい」などの要求に的確に対応していただいて、スムーズな活動ができた。

**2【事業の成果】**

・初年度であり、1学期はほとんど活動できなかったが、幼児の生活のなかに定着したものもできた。
（毎週火曜日の絵本の読みきかせ）

・地域の多様な人とのかかわりができた。ゆっくり・じっくりかかわってもらって、幼児の要求にも丁寧に対応してもらい、「やった」「できた」という自信ができた。

・参加いただいたボランティアの方も「子ども達のパワーをもらいました」「今日はこんな子ども達の要求があったので、今度は○○を用意してきます」と交流を喜んでいただけた。
（木工ボランティア）

・地域の特別な行事を知ることができ、幼児なりに地域の良さ（伝統行事）を知ることができた。（篠田の花火）

・事業のことが、少しずつ保護者や地域の人に広がってきて、ボランティアへの参加者も増えてきている。

**3【今後の課題】**

今年度、参加くださったボランティアの方や登録してくださった方の人材バンクの整理が必要である。

今年度の成果を地域の人に発信し、更なる多様な人の参加を望みたい。

# みんなの運動会を気持ちよく！！　【近江八幡市】

【安土幼稚園支援地域本部】

## 1【事業の概要、特色等】

みんなの運動会を気持ち良く！！
＝環境面をサポートしよう＝

・日時：平成24年9月18日～21日
　午前8時30分～9時00分
・場所：幼稚園園庭
・対象：保護者・地域ボランティア
・内容：運動会が近づいてきたこの時期に保護者や地域のみんなで園庭をきれいにし、子どもたちに気持ち良く運動会をしてもらおうというもの。
　朝、子どもたちを送ってきた後、1時間の除草作業を行う。
　園児も順次、自由に除草作業に参加していく。
　地域ボランティアにも参加の声かけをする。

**〈工夫した点〉**

・子どもを園へ送ってきたその続きに除草作業をしてもらえるよう、時間を工夫した。
・夏季ということもあり、時間を短くして、集中的に4日間を設定した。
・鎌を園でも用意した。
・パラソルやタープテントを用意し、日陰をつくった。
・子どもたちにも声をかけ、一緒に除草作業に参加する。
・園庭へ出てきて遊ぶ子どもたちの姿を見ながら、除草の作業ができる。
・「運動会」という目標を明示した。

**〈他校の参考となる点〉**

・園児を送ってきて、そのまま作業に入るという時間帯が良かったようだ。保護者も無理なく参加ができた。また、1週間という期間を設定したことで、自分の都合に合わせて参加ができたようだ。このことは、地域のボランティアにおいても同じことがいえるようだった。

## 2【事業の成果】

・4日間連続して行ったが、「みんながするのなら、私もするわ」「明日はそのつもりで送ってくるわ」という具合に、日に日に参加人数が増えていった。
・送ってきたそのついでにできるという気軽さが参加しやすかったようである。また、毎日短い時間だったので負担は軽かったようだ。
・運動会に向けてがんばっている子どもたちに、せめて環境面で協力したいという思いが大人にもあったようだ。
・自分達で「今日はこのエリアを…」とめあてを決めて取り組んだことにより、作業能率もあがった。
・地域ボランティアも積極的に参加し、保護者や園児とも交流しながら、楽しんで作業ができた。園児も除草の様子を見て自然とやりはじめ、ボランティアが教えるというかかわりも見られた。
・登録ボランティア以外の方も聞きつけて参加し、ちょボラ支援（ちょっとボランティア）となった。

## 3【今後の課題】

・参加保護者の口コミや園からの誘いかけによって、日を追うごとに参加人数が増えていったことは大きな成果であるが、ある程度のメンバーからもうひとまわり輪を広げていきたいと考えるが、なかなか広がっていきにくい。
・定期的なボランティア行事として根付かせていくようにしたい。
・保護者と地域ボランティアさんの交流を今後も深めていくための方策を考える。
・今後はさらに地域を巻き込んだ事業をいかに展開させていくかを考えていく必要がある。

# 『栗中サポーター』　【栗東市】

【栗東中学校支援地域本部】

## １【事業の概要、特色等】

今年度５年目をむかえた本校の学校支援地域本部事業は、平成１９年度末に問題行動が顕著化していた学校の状態を改善させようと校区の民生委員・補導員・自治会長・PTA が学校支援団体「栗中改革サポーター」を発足させたことがスタートである。「地域の大人」が学校の様々な教育活動の場面で生徒を見守る機会を設け、生徒たちの学校生活環境を支援する基盤が整った。

後にこの活動は現在の学校支援地域本部事業「栗中サポーター」に引き継がれることとなった。当初は、授業時間の校内巡回や清掃活動、通学立番など、生徒たちを「見守る」取組を中心にすすめてきた。４年間にわたる継続した「見守り活動」を中心とした取組を、今年度は「生徒との協働活動」を取り入れた取組へと支援活動を広げ、地域と学校が共通の活動を通して、共によりよい学校教育環境づくりをめざそうとしている。

現在、地域住民サポーター３２名、保護者サポーター９名、合計４１名の方々が栗中サポーターに登録をいただき、次の７つの活動に取り組んでいただいている。

**①　学習環境支援**
校内美化を兼ね授業中の校内を巡回。生徒の学習の様子や校舎内外の破損状況等を確認。

**②　図書室支援**
書籍整理、室内清掃など図書室環境の向上を担う。
また、蔵書データ登録作業支援も実施。

**③　清掃指導支援**
日常の清掃時間に生徒の清掃活動を指導、支援する。

**④　環境整備支援**
花の植え替えや除草作業などの環境整備作業を行う。主に PTA 環境整備作業との合同実施が多い。

**⑤　通学マナーアップ**
登下校時の危険箇所での交通立番。通学路の危険箇所や生徒の通学状況の報告が学校での通学指導に生かされている。

**⑥　学校行事・生徒会活動支援**

三者懇談会期間
駐輪場パトロール

１年生交通安全教室

１年生校外学習
交通立番

学校をきれいに
する取組

生徒会との校内美化活動
「みんなの生活向上隊」

**⑦　栗中コミュニティガーデン**
今年度からの新しい取組として、校内に生徒と地域住民が協働で運営する菜園を設け、様々な学校教育活動で活用できる野菜や花を栽培する。

## 2【事業の成果等】

～栗中コミュニティガーデンを通して～

これまで本校で実施してきた学校支援地域本部事業の活動内容は、通学マナーアップ支援での登下校立番、学習環境支援での校内巡回など主として栗中サポーターが生徒の学校生活を様々な角度から「見守る」ことが中心であった。しかし、学校支援地域本部事業をスタートさせた当時の学校教育環境は、数年にわたる継続した栗中サポーター活動により落ち着いた環境へと改善され、生徒、教師の表情にも良い変化が見られるようになってきた。常に栗中サポーターは学校生活を「見守り」、また学校が支援を要請するケースがあると、快く支援を提供してくれていた。この「頼もしい助っ人」は学校全体に大きな安心を生み出し、生徒たちの学校生活を支える一助となっていた。このように栗中サポーターと学校との一定のよい関係が築かれてきた昨年度末、栗中サポーターからこれまでの「見守り活動」からより一歩学校教育活動に踏み込んだ「協働活動」へと発展させたいとの声があがり、まずその最初の取組として、校内に菜園を設置し、生徒との協働活動による野菜、花の栽培を実施することとなった。

造園は本校の学校支援地域本部事業後援事業所に依頼し、肥料は地域の環境センターから堆肥を提供していただいた。また、さつまいもの苗は、栗中サポーターを通じて地域の農家から寄付していただくなど、まさに「地域の力が結集した菜園」となったのである。

生徒スタッフは、委員会や部活動などの既存の集団ではなく、有志生徒を募った。2 年生女子 8 名が生徒スタッフとして手を挙げ、栗中コミュニティガーデンが開園したのである。

栗中サポーターによる菜園運営会議により、今年度は、さつまいも、大根などの野菜を栽培し 2 年生の職場体験学習の一環である「起業体験学習」の店舗で、地域と学校が育てた「栗中産野菜」を販売することが決まった。

栗中サポーターが、長年の経験から培った知恵や技術を生徒に教え伝えながら苗植えから収穫までを行った。11 月初旬、無事 3 日間の開店日に合わせて野菜を収穫することができ、栗中サポーターと生徒が育てた野菜は、生徒運営の起業体験学習店舗「Hot House」に並び、地域の方々に販売することができた。収入の一部は社会福祉協議会に寄付し、一部は学校支援地域本部事業の活動費とし、次年度の菜園用の品々の購入費に充てることとした。

今後、年間を通じて食育や教科学習等に活用できる野菜や花等を栽培し、学校教育活動と栗中コミュニティガーデンとの関わりをさらに広げていきたい。

本校の学校支援地域本部事業は、この 5 年間、年を重ねるごとに学校環境の改善や生徒の表情の変化などに成果を感じ取ることができていた。さらに今回初めて実施した「栗中コミュニティガーデン　栗中産野菜販売」を通じて、校内だけの取組であった栗中サポーター活動が地域へと広がり、さらにこの新しい取組は新聞やテレビなどのメディアでも取り上げられ、栗中サポーター活動がより多くの方に認知されることとなった。これまで「栗中サポーター通信」を通じて地域へ活動を定期的に発信してきたが、実際に栗中サポーターが地域で生徒とともに活動する姿を地域住民が直接見る機会を設けることは、「栗中サポーター活動」がいかに学校教育活動に密着し、支援を着実に広げているかを伝える効果があると感じた。このことは栗中サポーター自身の活動への成就感、モチベーションへとつながっているようにも思われる。

## 3【今後の課題】

何よりこれまでの取組を継続していくには、事業費の確保が必要である。学校独自の対策を考え資金をやりくりしていくにも限界があり、ぜひともわずかでも国、県、市等からの一定の資金保障を継続していただきたい。また、長年携わっていただいている栗中サポーターはおられるものの、新規加入が伸び悩んでいる現状があり、地域、保護者への広報活動を活発にし、より地域に根差した取組へと発展させたい。

# 「地域と協働でつくる学校」　【湖南市】

**【岩根小学校支援地域本部】**

## １【事業の趣旨】

本校児童育成の大きなめあてとして「子どもをお客さんにしない」というスローガンを掲げているが、その取組の一つが「ホタルまつり」である。これは、ホタルが一匹でも多く光を放って飛んでくれることを願うとともに、ホタルを育ててくださっている地域の方に感謝するお祭りとして定着しつつある。これも最初から今のシステムが出来上がったのではなく、徐々に地域と学校が一緒になって創り上げてきた経緯がある。

今から６年前、地域の有志の方々が「岩根にホタルをとばそう会」を結成。卵から育てた幼虫の放流に本校児童が関わったことから、以後環境学習の一環として、河川愛護のための清掃や啓発活動につなげ、ひいては本市ロータリークラブさんの牽引と全面的な経費支援による「ホタルまつり」へと発展していった。

４年目からは、学校の企画、運営で、支援母体を地域に移しての活動を継続してきた。そして、今年度からは、企画や運営全般を本校コミュニティ・スクールの委員会が負う形への移行を試み、来年度には真に地域と学校が協働する形の「子どもをお客さんにしない行事」になればと考えている。

## ２【事業の概要、特色】

まつり当日は、６年生の児童が９つのブースに分かれ、保護者の手助けを得ながらチケットで買いに来る地域のお客さんにお店を開く催しである。これまでは、地域の農村集落センターで開催していたため、会場への移動が必要であったが、今年度からは、会場を学校に移したため、子どもたちにも時間的な余裕が生まれた。

当日、子どもたちは下校せずに、そのまま学校に残り、地域の方が準備してくださったテント内のブースに分かれ、これも保護者が大まかな準備をしてくださった材料をもとに、それぞれに開店の準備を行った。

夕刻、小学校の児童を中心に、卒業生や保護者の方が来校する中での開会式は、もちろん、子どもたちの進行で行い、いよいよチケットの販売へ。食べ物をつくる子、お客さんに渡す子、お店の呼び込みをする子と、それぞれが交替をして約１時間と少しの活動を完了した。また、後片付けがポイントで、それこそほんの小さなゴミも見落とさないよう、協力をして、きれいな後始末ができた。

その後は、グループ別に学校裏の川に飛ぶホタルを観賞して昨年以上に美しい光を見ることもできた。

## ３【事業の成果】

○会場を学校に移したことと、より地域の方が支援してくださったことで、地域をあげて子どもを支える催しに近づいてきた。

○コミュニティ・スクールの委員会が関わりをもち始めたことで、来年度からＣＳが企画、運営をしていく足がかりをつくることができた。

○学校裏のホタルをみんなが観賞したことで、これからもホタルが飛ぶ川としての環境を整えていこうとする気持ちをもつことができた。

## ４【今後の課題】

○大行事だけに、地域の方や保護者には、どうしても支援を仰がなければならないが、子どもたちにどこまでやりきらせるかを明確にしたい。

○限りあるチケットが児童に行き渡るよう来年度からは、何とかチケットの前売りを導入したい。その方法が煩雑にならなような手立てを講じなければならない。

○コミュニティ・スクール委員が主体となり、学校や地域とうまく連携していける方法と目的を共有していくことを確実に進めていかなければならない。

# 『第４回　あすなろウィンターカーニバル』
# あすなろボランティアの活躍【湖南市】

【菩提寺北小学校支援地域本部】

**１【事業の概要、特色等】**

今回で第４回を迎える「あすなろウィンターカーニバル」を 24 年 1 月 19 日（土）に開催しました。この事業は菩提寺北小学校が学校支援地域本部事業を始めた 21 年 1 月から、学校と地域を結びボランティア同士も顔見知りになり、結びつきを強くできるように。また子ども達の「ふるさとづくり」の一環として始まりました。年々、盛況になり第４回の今回は参加者（子ども、保護者、地域の人、教職員）約 250 人、ボランティア約 100 人総勢約 350 人の賑わうカーニバルとなりました。

**《中庭でのもちつき》**　前日の雪も溶けて威勢のいい餅をつく音が響きます

つきたてのもちをお母さんたちが手際よく、醤油、きな粉餅に丸めていきました。

昔遊び、こま、羽子板、お手玉、折り紙を地域の方に教えてもらいます

菩提寺北小学校のキャラクターあすなろちゃん

✿ ✿ ✿ ✿ ✿ ✿ ✿ ✿

〈工夫した点〉

《子どもボランティアも活躍》
受付、あすなろカフェ、バザー、配膳などを積極的に行う。

《ウッドクラフトに夢中になる子ども達》

〈他校の参考となる点〉

ウィンターカーニバルに向けて、バザーの品や、手作り品を用意して、カーニバルの会場であすなろカフェを開催しました。この日の売上金が、来年度のウィンターカーニバルや、あすなろ応援団活動の資金ともなります。
子ども達にも買えるように、求めやすい価格にし、実際のお金を使う練習にもなりました。

子どもたちを積極的に動かし、お客様にしないように、活躍の場を作りました。

《バザー&手作り品》

2【事業の成果】

お膳立てしたもので遊ばすのではなく、すべて手作りで、想像力を働かせ色々なものに挑戦しました。
その中で、いろいろな年代の地域のボランティアの方々との交流を図ります。

ボランティアも出来る事を担当し、誰もが主役に、誰もが楽しめる、そして学校を核として地域がひとつになる事業になったと思います。

3【今後の課題】

学校支援地域本部事業の予算が年々削られる状況の中、どうやってこの「あすなろ応援団活動」を継続していくか、毎年その課題とむきあっています。
　そんな中、少しずつ、アイデアを出しながら、資金作りに挑んでいます。
菩提寺北小学校は住宅地の中にあり、大きな会社や商店もないので、寄付を募ることも難しく、本当に個人個人の小さな努力、協力で成り立っています。コツコツとやっています。そんな意味でも、地域の絆作りは重要なものだと感じています。

あすなろちゃんのしおり

# 『菩っこを育てる会』　【湖南市】

【菩提寺小学校支援地域本部】

## １【事業の概要、特色等】

本校は「菩っこを育てる会」実行委員が柱となり、６つ（学習・見守り安全・読書活動・クラブ活動・環境整備・寄り添い）の支援活動を行ってきた。そのなかで、「寄り添い支援」は、『家庭教育支援事業』へと確立していった。

また、新たに「菩っこを育てる会」を中心にした、本校の裏山再生プロジェクトを長期計画で取り組んでいる。

### 〈工夫した点〉

○実行委員会の回数を増やし、学校で必要としている事を今まで以上に把握出来るようになった。

○事業を行うにあたり、ボランティアの拠点となる部屋の確保が必要だった。そこで、使用されずにあった旧用務員宿舎に風を通すことから始め、地域・保護者・実行委員の力でリフォームし念願のボランティアの拠点『菩っこはうす』が完成した。

昨年末には、『菩っこはうす』で初の実行委員会を行うことができた。今後それぞれの活動に大いに活用していきたいと思っている。

### 〈他校の参考となる点〉

地域のお年寄りパワーに支えられている。ネットワークの広さは、心強い限りである。

＊春の全校遠足＊
一緒に歩いてもらいました。

## ２【事業の成果】

昨年度に引き続き、それぞれの支援は継続して活動してもらっている。地域の人が多い中、「読書活動支援」では、ＰＴＡ保護者が図書室改革に取り組み始めて、少しずつだが成果が見えてきた。

支援活動の様子をホームページや全戸配布の広報誌で発信し、多くの人に知ってもらうことができた。

支援活動以外に本年度は、「裏山再生プロジェクト」、「旧用務員宿舎リニューアル（菩っこはうす）」を計画実行した。

「裏山再生プロジェクト」･･･本校の裏山は、子どもたちの絶好の学び・遊びの場であるが、長年の雨水浸食で危険な箇所があり、児童・保護者・地域の協力を得て再生するよう実行中である。来年度５月には“ヒメヤシャブシ”苗を植え、先人の砂防の工夫を知るとともに緑化を願う活動を計画している。

昔の再生事業を
学ぶための掲示物

「菩っこはうす」･･･活動後、ボランティアさんがゆっくりできるようになった。

## ３【今後の課題】

◈ 今年度は、保護者への発信「ほっ♪とサロン」の活動が定期的に開催できなかったので、来年度は『家庭教育支援事業』ほっとルームのみなさんと一緒に定期的にできたらと思っている。

◈ 学校・家庭・地域のそれぞれの立場でお互いの意見や思いを語り、話し合える場作りを積極的に設けたい。

◈「菩っこはうす」のより充実した活用方法を検討したい。

# 「心のふるさとづくり」水戸小学校　【湖南市】

【水戸小学校支援地域本部】

## 1【事業の趣旨】

平成 22 年より、地域ぐるみで学校運営を支援する体制（水戸っこ応援団）を立ち上げて教員が子どもと向き合う時間の拡充に務めている。また、子どもたちが「**社会や地域の自分**」を意識し「**心のふるさと**」として学校や地域を愛し、地域に貢献できるよう、学校を中心に家庭・地域と連携し育んでいきたい。

## 2【事業の概要、特色】

### （１）ボランティアルーム

水戸っこ応援団を立ち上げ 2 年が経ち、保護者や地域の方に毎月お便りでボランティアの登録を呼びかけ、活動の様子を写真や手書きのイラストを使って分かりやすく伝える工夫を続けている。月に一回、学期に一回、年に一回でも参加してくれる方を増やしていきたい。ボランティアが学校に自分の場所があると足を運びやすいという事やボランティア同士が交流できる居場所が必要と感じ、今年度は先生方と相談して一階にボランティアルームをつくり、会議や製作場所・活動後の休憩場所として活用している。窓の外には中庭の芝生ランドがあり、休み時間に子どもたちが元気に遊ぶ姿が見られる。

■水戸まつり後、お茶タイムでほっと一息

■過去のお便り、事業の仕組み、活動を紹介

### （２）ワールドカフェｉｎ水戸

夏休みには、ボランティアと全職員との交流会を企画・開催する事ができた。コーディネーターが研修で参加した会議の進め方である**ワールドカフェ**の手法を使ってゲームなどを用い自己紹介から始め、先生方にボランティアが聞いてみたい事や子どもたちについて感じている事などを話し合った。

本校で全職員との交流会は初めての試みであり、忙しくて時間がとれない先生方にとってもボランティアから見た子どもたちの姿はいつもと違ったものがあり有意義な会となった。

ワールドカフェでは対話が非常に重要であり、進行役であるコーディネーターにとってもなぜこの会を行うか、どのような目的があるのかを明確にする必要があった。会議と違い、いかに「心地よい」空間を演出するかも工夫した。

■４７名の参加があり、賑やかなカフェ♪

また、東日本大震災の被害を受けて避難場所となった小学校の様子や日頃から学校支援地域本部事業に積極的に取り組んでいた地域では、学校と地域住民とのつながりが強く、結果として避難所の自治組織がスムーズに進んだというデータを紹介し、地域の中の学校の在り方を考える機会とした。

### （３）図書ボランティアの活動

図書ボランティア「たんぽぽの会」は朝の読書、お昼休みのおはなし会の他、図書室の整備、本の修繕などの活動を通して子どもたちに本の楽しさを伝えてくれている。朝の自由読書で本を選びにくい子どもがいる事に気づいたボランティアが、チャート式のクイズを手作りし楽しみながら本選びができるように掲示してくれた。

■チャートクイズでタイプ別にお勧めの本を紹介。タイプはＡ～Ｏまで 15 タイプ。大人も楽しめる♪

## 3【事業の成果】

交流会を通じて先生・ボランティア・コーディネーターとが学校や子どもたちの状況や課題を共有できた。今後みんなが同じ目標を持って取り組むことにより、この事業がさらに豊かな内容になると期待できる。

図書ボランティアと図書協力員が連携し、授業時間に**ブックトーク**を行うなど、ボランティア自らがアイデアを発信できる場があった。また、本校で湖南市学校図書館ボランティア・協力員の交流研修会が開催された際には、他校の図書ボランティアから「チャートを作らせてほしい」「水戸の図書室が明るい雰囲気で素敵だったので見学に行きたい」という声をいただき、ボランティアの大きな自信となっている。

**水戸まつり**や**マラソン大会**などの学校行事では、ボランティアも経験を重ね、連絡や準備をスムーズに行う事ができた。今年度はボランティアから地域の方に声をかけてもらい参加した方もいて、理想的な形となった。

## 4【今後の課題】

### （１）保護者の参加

本校では保護者の参加がまだまだ少ない。ボランティア登録とまではいかないが、声をかけてもよいという方もおられるのでそういう方に参加しやすい案内を心がけ、また一度参加されると「楽しかった」という声を聞く事ができるので間をあけずにつないでいき、コーディネーターから、担任から、子どもから足を運びやすい案内をしていく。

### （２）ボランティア同士学びの場に

活動が定着していくようボランティアが経験した事を伝えていける場の提供やボランティアが学びたいことを聞き取り研修会を開催する。ボランティアと全職員との交流会は継続していきたい。

### （３）学校とコーディネーターの連携

事業に慣れてきた分、先生とコーディネーターの打ち合わせ時間が少ない。活動後ボランティアを交えた報告・反省の場は必要であるし、少ない時間でも密に連絡がとれる関係を築いていきたい。

# 「できる人が できる時に できる事を」　みなみっこ応援団　【湖南市】

## １【事業の概要、特色等】

石部南学区のみなみっこ応援団は、できる人が、できるときに、できる事を支援しています。子どもたちの為に役立ててうれしいと、生きいきと活動され、地域の活力にもつながっています。森林環境ボランティア「みどりのバトンタッチ」の活動は１２年目を迎え、年間を通して子どもたちに森林環境学習を行っています。

### 〈学校農園ボランティア〉

学校環境整備は地域ボランティアさんによって毎年手入れされています。この写真は学校農園を耕しています。

### 〈金環日食観測会〉

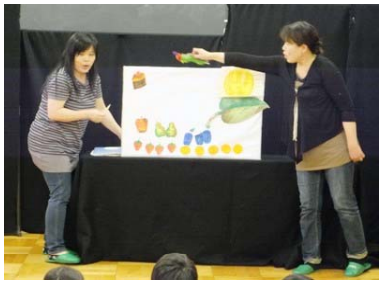
天体観測ボランティア、石部南まちづくり協議会と全校生徒合わせて５５０人が集まり合同観測会を行ないました。

## 【石部南小学校支援地域本部】

### 〈地域参加者打ち合わせ会〉

子どもたちと一緒にサークル活動に参加して下さる方と、先生方と一年間の計画や目標を話し合います。

### 〈図書ボランティア〉



本の読みきかせや、寸劇を交えて行われるお話会は子どもたちに人気です。

朝の読みきかせは、８時３０分から行われます。授業が始まる前に本の読みきかせをしていただくことで、子どもたちに落ち着きを与えてくれます。

**〈環境学習ボランティア〉**

環境学習ボランティア「みどりのバトンタッチ」の皆さんには、裏山の下草刈りや、年間を通して、子どもと一緒に活動をしています。

**〈ゲストティーチャー〉**

地域の方にゲストティーチャーとして来て頂く場合、授業の趣旨等を十分理解して頂くために、ボランティアの方と何回も打ち合わせをおこないます。電話やメールより、顔を見ながら打ち合わせするようにしています。

**〈PTA部会〉**

PTA部会のメンバーは、現PTAや元PTA、PTA役員を経験された方で構成されています。学校行事を把握されているので、行事が近まると「行けるときにはいくわ」と積極的に学校行事ボランティアに協力してくださいます。内容は校外学習付き添い、体育大会、マラソン大会等。

今年度行われた、滋賀県道徳研究大会では、会場設営や受付、駐車場係などお手伝い頂きました。

**〈地域との交流〉**

■「ふれあいフェスティバル」は地域ボランティアさんが指導者となり、子どもと保護者が一緒にアトラクションを体験します。

■地域のディサービスにて、高齢者との交流会を行いました。

■体育大会に石部高校吹奏楽部の皆さんが演奏をしに来てくれました。

■老人クラブの方と１年生との昔遊び交流会。交流会が終わったら、クラスに分かれて一緒に給食を頂きます。

■福祉施設の方との交流。子どもたちや保護者、地域ボランティアの皆さんが一つの輪になり、江州音頭を楽しみました。

■ふれあい音楽祭では、合唱クラブの方に歌を披露していただいています。

**〈工夫した点〉**

今年で３年目となる、学校応援団広報紙を月に１回発行することにより、ボランティアの活動内容や、地域の方の関わりを掲載し、地域の方に学校応援団の事を理解してもらう。

ボランティア自身の経験や専門性を生かせるようにコーディネートする。

活動に対するお礼は、子どもの「笑顔」と「ありがとう」の言葉です。ボランティア活動が行われた後のお礼は出来るだけ早く行う。

ゲストティーチャーとの打ち合わせは、何回も顔あわせをして行うように心がけている。

ボランティアさんの負担にならないように、出来る人が、出来るときに、出来ることをして頂くための雰囲気作りを心がけている。

**〈他校の参考となる点〉**

**「PTA部会」**

現PTAやOBの方が中心となって、活動しています。活動は主に、学校行事等の協力をして頂いています。部会の方には子どもさんが卒業されている方もおり、今後のみなみっこ応援団組織の中心的存在になって行く部会です。

**「ボランティア研修会」**

学校ボランティアと教職員との合同研修会を行っています。研修会の後の意見交換では地域と学校の思いを認め合う機会になれた。

**２【事業の成果】**

学校では、教師が子どもと向き合う時間の確保や学習活動の充実。

地域の方々とふれ合うことで、子どもたちの地域への愛着が深まるとともにコミュニケーション能力が高まる。

ボランティアさんの技術や経験を子どもたちに教えることにより、ボランティアさんの生きがいにつながっている。

**３【今後の課題】**

総合的な学習には、地域ボランティアさんがゲストティーチャーとして、来て下さることが多いので、様々な分野での地域ボランティアさんの発掘。

単発的なボランティア活動は、１回参加して終わりになりがちなので、今後継続性を持たせるためにも、ボランティア参加後の反省会を行い横のつながりの強化。

# 子ども、地域、ＰＴＡ共同活動
## ～「ふれあいまつり」で義援金を贈ろう　～　【湖南市】

【石部小学校支援地域本部】

**１【事業の概要、特色等】**

石部小学校と南相馬市の原町第一小学校は一昨年から学校同士の交流があった。そこで、石部小学校の学校支援本部事業、「石部小学校学校応援団」では活動のひとつとして南相馬市に義援金を送ることを検討した。

石部まちづくり協議会の「ふれあいまつり」で模擬店を出店し、収益金を原町第一小学校に送ることを計画した。

○事業の主旨

１石部小学校の子どもが自分たちで考え、計画し、主体的に活動を行う。「お客さんでない」社会の中で役に立った自分を経験してほしいと考えた。

２地域の方、ＰＴＡ等できるだけ多くの方に協力をお願いし、子どもと地域、大人が一つの目的を持って活動していく中で、子どもにはたくさんの大人の中で育っていることを感じてほしいと考えた。

３地域の方、ＰＴＡ、子どもが一緒に活動することで「学校を中心とした」多世代交流ができる様に考えた。

○経緯

１「ふれあいまつり」に模擬店を出店する子どもを募集した。すると１年生から６年生まで５７名の応募があった。子どもたちの「やる気」を嬉しく思う反面、人数の多さに人数を絞ることも考えたが子どもの「やりたいと思う気持ち」が大切だと考え、計画、内容を検討することとし、「石小子ども隊」を５７名でスタートした。

**２　石部小学校子ども隊」結成**

昼休みに計５回「子ども隊会議」を開いた。その場では地域コーディネーターである教頭を中心にみんな話し合った。

子ども隊会議

・目的の確認
「自分たちで働いて原町第一小学校へ贈る義援金を集める。」
・何の模擬店を出すか。
・班分け、役割分担
・どうしたら模擬店を成功させられるか。
・収益金を上げ、多くの義援金を集めるにはどうしたらいいか。
・スーパーボールすくい、たこせんとジュース、クレープ、カフェとワッフル、手作りとくじの５つの模擬店を出店した。

集まった意見

・たくさんのお客さんに来てもらえるようポスター、看板、招待状を作る。
・挨拶、声かけの練習をする。
・おつりを間違えないように算数の勉強をがんばる。

**３実行したこと**

・「ふれあいまつり」への招待状を一人１０枚、家族、近所の人に自分で渡しに行った。
・ポスターを持って朝の休憩時間に各教室をまわり，大きな声で「ふれあいまつり」に来てくれるよう呼びかけた。

手作り隊の活動

**４「ふれあいまつり手作り隊」の結成**

たくさんの義援金を集めるため、ＰＴＡと地域と子どもが一緒に活動を成功させるため、手作り品を作る「手作り隊」への協力を呼びかけた。地域の方、ＰＴＡと２０数名の方にご協力いただき学校応援団事務所で活動。昼休みには、「子ども隊」の子どもも一緒に活動した。

５　６年生のクラス全体の応援

「ふれあいまつり」に向けた活動を見て、６年生がクラス全体での協力を申し出てくれた。クラス全員が缶バッジを作って「ふれあいまつり」を応援してくれた。

６　「ふれあいまつり」

「ふれあいまつり」当日、悪天候の中、子ども５７名、大人１８名で５つの模擬店を出店。たくさんの地域の方、石部小学校の児童、教員がお客さんとして模擬店にきてくれた。また、テント設営等会場の準備も地域の方のご協力をいただいた。

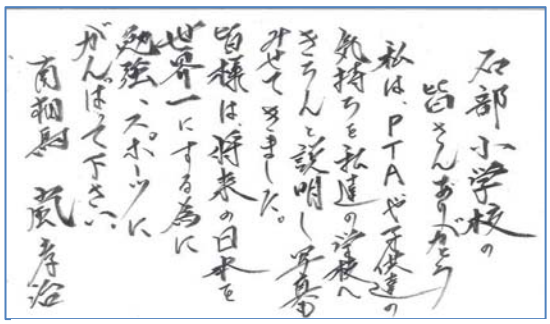
また、石部まちづくり協議会にもこの活動に協力していただけた。子どものお昼代を負担してくださったり、出店している子どもの安全確保を応援してくださった。

たくさんの方の応援をいただき、３０，４０１円の収益金となった。

ふれあいまつりの様子

７　結果

１１月２０日。以前から石部小学校と交流活動をしていた南相馬市の嵐孝治さんが石部小学校を訪問された際に、「ふれあいまつり」の義援金とＰＴＡの募金を預け、１２月６日、原町第一小学校に届けられた。


石部小学校の
皆さんありがとう
私は、PTAや子供達の
気持ちを私達の学校へ
きちんと説明し募金
させてきました。
皆様は、将来の日本を
世界一にする為に
勉強、スポーツに
がんばって下さい。
南相馬　嵐孝治

南相馬の嵐さんからのお礼の手紙

2012年（平成24年）12月8日（土曜日）　(18)

浜通り

# 友情の義援金 届く

## 原町一小　石部小（滋賀）から

## 合同絵画制作が縁

児童に石部小からの善意を手渡す嵐さん（右から４人目）

東日本大震災後、南相馬市の原町一小と交流を続ける滋賀県湖南市の石部小から六日、原町一小に義援金計五万九千六百七十二円が届いた。

両校は昨年七月、合同で命をテーマにした絵画作品を制作した。両校をつなぐきっかけとなった滋賀県栗東市の門田充史さんが震災直後にボランティアとして南相馬市を訪れた際、同市原町区の嵐孝治さんと親交を持った。嵐さんは十一月十八～二十日の三日間で石部小を訪問し、同校が原町一小を支援するために催した「ふれあいまつり」で募った浄財、同校の保護者が寄せた善意と児童らを応援する手紙を預かり、原町一小に届けた。

贈呈式は同日、原町一小で行われ、嵐さんが児童を代表した合唱部部長の草野日向子さん（六年）に浄財と手紙を手渡した。大和田博行校長、高野敦夫前校長、寺地宮彰原町一小PTA会長らが立ち会った。大和田校長は、心温まる思いをいただいた。義援金は子どもたちのために有効に使いたい」と謝辞を述べた。

か、クリスマスツリーの表彰式を行う。好きとで遊べるコーナーなスコット作り体験会も

だが、体験会は参加料
い合わせは県都市公園
会　電話024(593)1111

福島空港発フ

| 便名 | 発着 | 曜日 |
|---|---|---|
| ANA | 発 11:40 着 13:00 | 毎日 |
| ADO | 発 19:20 着 20:40 | 毎日 |
| ANA | 発 9:15 着 10:30 | 毎日 |
| ANA | 発 16:15 着 17:30 | 毎日 |
| ANA | 発 12:35 着 13:50 | 毎日 |
| ANA | 発 16:00 着 17:30 | 毎日 |
| ANA | 発 19:10 着 20:25 | 毎日 |

## 2【事業の成果】

「自分たちで働いて、東日本に義援金を送る」という目的を持って、子どもたちが今の自分にできることを自分たちで考え、話し合い、実行できたことはとても意義のあることであった。また、活動していく中で応援してくれる人たちが増えていったことも嬉しいことだった。

学校を拠点として、たくさんの人たちの交流の場ができ、地域の行事である「ふれあいまつり」に参加し、目的を達成できたことが、子どもも関わってくださったすべての方にとっても良い体験となり、自信になってくれたことを願う。

## 3【今後の課題】

今年度、この取組を次年度どう繋げていくかが課題だと考える。

# 自分がすき・友達がすき・学校がすき・下田がすき

## スクールサポートネットなすびぃず　【湖南市】

**1【事業の概要・特色】**

今年度の「なすびぃず」の活動は、昨年度より継続しているものに加え、新しく立ち上がったものもあるなど、幅を拡げることができた。

《各事業についての報告》

### 校外学習・街探検等における付き添いサポーターの充実

子どもたちが小学校以外で活動をするときに見守り・支援してくださるサポーターが増え、活動への参加の形もいろいろなものができてきた。

①従来通り、徒歩での校外学習で子どもたちに付き添って一緒に活動し、支援する。

②子どもたちが通行する商店街で、店頭や危険箇所に立って見守りをする。

③バスに乗っての校外学習など、遠出のときに付き添い、支援する。

### 図書ボランティア
### こっとん・トン♪チームY（よみきかせ）
### こっとん・トン♪チームB（図書室整理）

下田小学校では学校支援地域本部の活動開始以前より「よみきかせボランティア」（現こっとん・トン♪チーム Y）が活動を行っており、今年度もその活動は継続されている。その中で、サポーターのスキルアップや新しい人材の発掘となる「よみきかせ講習会」の開催や、「こっとん・トン♪チーム B」という図書室整理の活動が開始した。

**【下田小学校支援地域本部】**

### 学習支援サポーターの充実

今年度は、様々な形でサポーターが子どもたちの普段の活動（授業）に参加してくださった。特に盛んだった活動は以下の 4 例だが、ほかにも「ミシンの指導補助」や「新・体力テスト時の測定の補助」などの活動もあった。

**①「田んぼのこ」支援サポーター**

以前より 5 年生の「田んぼのこ」の活動に多数のボランティアが参加してくださっていたので、今年度からはなすびぃずも積極的に関わっていくようにした。

**②水泳指導補助サポーター**

先生方に必要性をお聞きしたところ、「見守りでいいのでどなたか来て下されば助かります。」ということだったので、数名のサポーターに声をかけたところ、1 名のサポーターが快く引き受けてくださり、水泳の授業に何度も参加し、指導・見守りをしてくださった。

**③「校内音楽会」練習サポーター**

昨年度より 2 名のサポーターが活動してくださっており、今年度は昨年度に比べ、練習のより早い段階から指導の補助についてくださった。

**④「スキー教室」付き添い指導サポーター**

以前より「スキー教室」時のサポーターの必要性があったので、今年度より数名の

サポーターに参加をお願いした。保護者の方だけでなく、地域の方も参加してくださり、子どもたちに丁寧に指導してくださった。

## 休み時間を利用したボランティア活動
## 「おり紙の日」
（月1～2回程度　中休みを利用）

地域の方から下田小学校に直接ご連絡くださり「**子どもたちと一緒に何かしたい、お手伝いをしたい。**」とお話があった。何度かコーディネーターと話をしていくうちに「**おり紙**」が得意とわかり、それを生かして子どもたちに教えてもらえることとなった。今では子どもたちも楽しみにしてくれている。

## 環境整備ボランティア
## 学校正面の花壇の整備

昨年末に学校正面の花壇を整備したいという地域のサポーターの声があり、他の方にも協力をお願いしたところ快く引き受けてくださり、花壇の整備が実現した。正月にむけて**葉ボタンやビオラ**などの植物を寄贈してくださり、それらをサポーターと先生、コーディネーターで植え付けた。今後も季節に応じて花壇を整備していくことになった。

## 清掃ボランティア
## コメットさん★
（金曜日／１３：３５～１３：５０）

昨年度から活動を開始した「清掃ボランティア」の愛称を「コメットさん★」と名付け、子どもたちに親しんでもらえるようにした。活動には1名のサポーターが参加してくださっており、子どもたちに丁寧に清掃の指導をしてくださっている。

## クラブ活動支援サポーター

今年度も昨年度に引き続き数名のサポーターがおのおの持っている特技を生かして活動に参加してくださっている。

## 定期的な情報の発信
## 「なすびぃずNEWS」

なすびぃず開設以降「なすびぃず NEWS」を発行してきたが、今年度はより定期的に発行するようにした。

**〈工夫した点〉**

①サポーターを募集する際、昨年度はチラシの配布など、広範囲に知ってもらえるようにしていたが、今年度は直接個人にお願いすることに重点をおいて募集をした。

② 1年生の保護者に学校支援地域本部の活動を知ってもらうため、こちらから積極的に関わるようにした。例えば、参観週

間中の１年生の活動に手伝いとして加わったり、小さいお子さんの相手をしたりしながら、なすびぃずのスタッフ（コーディネーター）の存在を知ってもらい、活動について話す機会を持った。

③活動に参加してくださったサポーターの方々に子どもたちから「**お手紙**」などを書いてもらえるように先生方にお願いした。

④地域の方々にイベント等を知ってもらえるように、商店街やまちづくりセンターに協力していただき、ポスターの掲示・チラシの設置をさせていただいた。イベント後にはポスターとチラシの回収を行い、イベントの様子を説明させていただき、今後の協力をお願いした。

⑤「なすびぃず NEWS」の紙面に、活動に参加してくださったサポーターの方々の写真やコメントを多く載せるようにし、サポーターの募集についても過去に参加してくださった方々のコメントや先生方からの声を載せるように心がけた。

**〈他校の参考となる点〉**

・子どもたちと直接関わりを持ち、休み時間などに子どもたちが遊んだり、話ができるような環境作りをしている。

・PTA 総会や学校行事の際に「なすびぃず」の活動について発信をしている。

**2【事業の成果】**

・「よみきかせ」のみの活動だった「**こっとん・トン♪**」が、活動の幅を拡げ「**チーム B（図書室整理）**」ができたことで、たくさんの子どもたちの前ではよみきかせをすることに抵抗はあるが、本が好きで、子どもたちとも関わりたいと思っていた「**隠れた人材**」を発掘することができた。他にも「**おり紙の日**」のように授業などとは関係がないが、**子どもたちの楽しみになるようなボランティア活動**をはじめることができたこと、「**花壇の整備**」のように**サポーターの声からはじまった活動**があったことも成果の１つ。

・昨年度と同様、なすびぃずのスタッフ（コーディネーター）が子どもたちと直接関わることが多かったことで、子どもたちに「**先生以外の大人**」が学校に出入りすることが特別なことではないと思ってもらえるようになってきた。子どもたちから「**今度はいつサポーターさん来てくれるの？**」という声をかけられることも多くなった。

・昨年度に比べ先生方からのボランティア（サポーター）の依頼が多かったように思う。先生方に学校支援地域本部があり、活動をしていることが普通のこととらえてもらえるようになったのではないかと思う。

・定期的に「なすびぃず NEWS」を発行したことで、サポーターの活躍を保護者の方々に知ってもらうことができるようになり、それを見た保護者がボランティアに興味を持ってくれるようになった。少しずつではあるが「なすびぃず NEWS」を見ての問い合わせもでてきた。

**3【今後の課題】**

・現在活動しているボランティアの内容・活動・支援が今後もうまく継続され、引き継がれていくようにしていくこと。

・学校側の細かな要望がスムーズに伝わるために学校や担任とどう関わり、連携をしていくか。

・ボランティア初心者が、活動に喜びを感じてさらに自ら主体的に参加できるように環境整備を進めること。

# 「東っ子応援団」の取組　【湖南市】

**【三雲東小学校支援地域本部】**

１【事業の概要、特色】

学校と家庭そして地域が、子どもの課題を共有し、課題解決に向け、一体となって連携の方向を探るとともに、地域の大人との様々なふれ合い活動を通して、子どもの安全と学習活動の充実を図る。そのために、大きく次の３点を中心に取組を進めている。

◇学習活動を支援する。
◇安心・安全を確保する。
◇学習環境を整備する。

（１）農園ボランティア

校門入り口近くと校舎裏の二ケ所に約５アールの農園があり、農園活動として、全校で野菜を育てる活動や３・４年生が菜種を育て収穫する活動を行っている。ボランティアさんには、農園の土づくりや農園周りの草刈りのお手伝いをしていただき、野菜や菜種の苗植えや収穫時には、植え方や収穫の仕方について、丁寧に指導していただいている。年度末には、「ありがとうの会」を設け、各学年で感謝の気持ちをプレゼントとともに伝えさせていただいている。

〈菜種の脱穀〉

〈収穫感謝の会〉

〈夏野菜の苗植え〉

（２）図書ボランティア

図書館協力員さんの来校に合わせて、図書ボランティアさんは、毎週月・木曜日に来てくださり、書架の整理や本の修繕、また季節に合った飾り付けや図書室の入り口に季節のテーマに合わせた本の紹介コーナーの設置等、主に図書室の環境整備をしていただいている。

雨の日には絵本の読み聞かせをしていただいたり、図書委員会の児童と一緒に本の貸し出しや返却の活動のお手伝いをしたりしていただいている。

〈図書の紹介〉

（３）教科等学習支援ボランティア

今年度より、学習参観日や PTA 総会等の機会をとらえ、保護者や地域の方に学習支援の募集を行った。また、地区の回覧版などにも、必要な内容のボランティアさんの募集ポスターを入れていただき参加を呼びかけた。

特に生活科や総合的な学習の時間において、校区内の引率のお手伝いをしていただいたり、学習活動の内容に関わって協力いただいたりしている。

〈５年家庭科支援〉

〈３年引率指導ボランティア〉

（４）見守りボランティア

子どもたちの登下校時、地域のポイントとなる場所に立っていただき、年間を通して安全を見守っていただいている。木曜日は、一年生だけが５校時で下校のため、ボランティアさんに学校まで来ていただき、一緒に各地区まで送っていただいている。

〈一年生の子どもたちと〉

２【事業の成果】

昨年度の活動から更に本年度の新たな取組として、応援団だよりの地区回覧の他、三雲まちづくりセンター・三雲児童館での掲示・学習参観の日には、校内に募集ポスターを掲示した。また、先生にもお願いし、各クラスで子どもたちから保護者への呼びかけを伝えてもらった。その結果、時間に余裕のある保護者、地域の方々から学校への協力の申し出があり、子どもたちの活動を知っていただくいい機会にもなった。その他に昨年度同様次のような成果がみられた。

・登下校時の子どもたちの事故もなく、日々の通学における安全が確保されていた。
・図書室の環境良くなり、子どもたちが気持ち良く図書室を利用し、進んで読書活動ができた。
・野菜の苗の植え方等を直接教わりながら活動し、収穫の喜びを味わうことができた。
・家庭科、生活科、総合的な学習の時間等を豊かなものにすることができた。

３【今後の課題】

・単発のボランティア募集に参加してもらう方々を少しずつでも増やし、そこからたくさんの常連ボランティアを増やしていくことが大切である。
・子どもの実態を大事にした課題の明確化に努めるとともに、より一層子どもが主体的に活動する姿を求めて、実現していく必要がある。
・４つのボランティアが今後も機能的に継続されるとともに、学習支援ボランティアの拡充を進めたい。
・地域総合センター職員の本事業への有効な関わりを求め、本事業を着実に展開していく必要がある。

# 三雲のこの一年　【湖南市】

【三雲小学校支援地域本部】

**１【事業の概要、特色等】**

本校では、この事業が始まる前から、“田んぼの応援団”の方や朝の読み聞かせや月一回のお話会のボランティアによりたくさんの方々が学校の取組に参加してくださいました。

23 年度から始まった事業の展開により、家庭科に関しては保護者の方々の支援もいただき、スクールガード（約２００名）については、地域の力を発揮していただいています。そのため、今までの取組を集約したり新しく本校にあった物を考えてきました。

ボランティアさんから地域の方への声かけがあり地域の方からこれはどうかなどの声をいただき、ボランティアに入ってもらい活動を始めました。

**〈工夫した点〉**

ボランティア加入については、学校地域コーディネーター自らが依頼して募っています。

また、ボランティア経験者から地域の方への声かけで広がりを見せています。無理せず、心よく来ていただけるように工夫しています。

さらに、各ボランティアの横のつながりとして、各ボランティアごとの集まりも持つようにし、ボランティア同士のつながりも作るようにしています。

**〈他校の参考となる点〉**

ボランティアさんと子どもとのつながりを大切にしています。また、できるだけ保護者に発信するように心がけています。

そのほかには、ボランティアさんから見た子どものいいところ、子どもたちからの言葉などふれあいを大切にしています。

今までからある、学校支援ボランィアを元に、活動をお願いし、そこから見えてきた子どもたちの姿を、学校とともに支えてもらい取り組めています。

**２【事業の成果】**

今年度は、地域の方からの声をもとに

**・環境ボランティア**

庭の枯れ木の処理、草刈り、昇降口のニス塗り、また子どもたちとボランティアさんと一緒に花壇に地域からいただいた花の苗を植えました。

**・通学ボランティア**

登校時、子どもたちと一緒に歩いていただき声かけをしていただいています。

**・図書館ボランティア**

週２回、支援員さん以外にボランティアさんに入ってもらい、休み時間に本の貸し出し返却時に子どもたちと一緒に関わってもらい、本を探したり、話し相手になってもらっています。また、朝の読書活動において読み語りを行ってもらっています。

低学年高学年問わず、静かに聞いています。いま、図書室に来る子どもたちが増えてきています。

**・学習ボランティア**

水泳、陸上ボランティアに入ってもらいフォーム等いろいろと指導してもらい記録が伸びたようです。

**３【今後の課題】**

現在、地域で花を育てくださっているので大きくなったら子どもたちと一緒に学校支援委員会といった組織で花を植えたいと思っています。 また、挨拶のできる子どもたちを増やすにはどうすればいいか？今後、同じ中学校へいく三雲東小との交流会もしていきたいと思っています。一番重要なのは、財源の確保かもしれません。この事業をもっとたくさんの方に知っていただく事も必要だと考えています。

# 蒲生の子は蒲生で守り育てよう　【東近江市】

**【蒲生地区学校支援地域本部】**

## １【事業の概要、特色等】

### （１）子どもは地域の一員

地域の大イベントである秋の「いきいきあかねフェアー」で蒲生西小学校と蒲生北小学校の３年、４年児童の希望者による発表を企画した。そして地域の幅広い年代層のみなさんの前で運動会で踊ったよさこいをまちづくり協議会のよさこいチームと共演した。あいにくのお天気だったが、子どもたちは元気に、整然と踊ってイベントに華を添えることができた。

### （２）地域の子は地域で育てよう

今年度で４回になる「あかね通学合宿」を実施した。地域と学校をつなぐ絶好の機会との考えから、出来るだけ自治会の皆さんに関わっていただいた。学校でも家庭でも出来ない事を子ども達に体験させる。地域の皆さんとかかわる中で子どもたちはいきいきと活動した。また「ふるさと蒲生」を認識してくれることを願い、地域から一芸に秀でた方、のべ１２０名にゲストティチャーとして参加していただき、７会場で６５名の子どもが学校では学ぶことのない学習を受けた。

### （３）ニーズにあったボランティアさんの紹介

中学校においては、２年生の職場体験を受け入れていただける事業所数の拡大ができた。なるべく地域内の事業所にお願いしたいとの学校からの希望もあり、地域内の事業所や近隣の事業所に依頼して中学校との連携を密にすることができた。

小学校においては学校からの依頼を受けてボランティアさんの紹介をした。図書ボランティア、読み聞かせ、田んぼの学習、遠足の同行、まち探検の自治会へのお願い、戦争体験のお話し、お掃除のお手伝い、マラソン大会の立哨など。

蒲生東小学校は、毎月ボランティア会議を開きその場で自主的にボランティアさんが支援の場を決定している。この仕組みは以前から実施されている。

蒲生西小学校では昨年度からまちづくり協議会の「川づくり委員会」と４年生の総合的な学習の時間での「日野川学習」が連携して取り組んでいる。

## ２【事業の成果】

子どもたちが地域に出かける事で、この事業を地域の皆さんも知っていただき、協力を得やすくなった。地域での通学合宿においては、地域の教育力、住民の結束に向上が見られ、関わっていただいた皆さんも充実感を持っていただくことができた。子どもたちも「ふるさと蒲生」のすばらしさを体感してくれた事がその後の学校生活から知ることが出来た。

## ３【今後の課題】

地域の人材、教育力、事業に関わった人の充実感、生き甲斐等を高める事を大切にしていることをアピールして、学校と地域の相互の向上を図る工夫をしていく。

# 湖東第二小学校の取組　【東近江市】

【湖東第二小学校支援地域本部】

## １【事業の概要、特色等】

目立つことや先頭に立つことはよくないという地域性からか、地域の方の協力を得ることは難しく感じていた。そこで、まず保護者に声をかけ、無理な場合に地域にお願いするという手順をとるようにしてきた。その結果、昨年一年間で保護者の方に学校支援ボランティアとして応援してあげようという意識をもっていただくことができ、実際に大変多くの保護者の協力を得られるまでになった。

そこで、今年度は地域の方に少しでも多く支援してもらえるよう心がけた。まち協（KoSVo＝湖東スクールボランティア）への協力要請はもちろんのこと、校区にお住まいの方々からの支援がいただけるように努めてきた。

**〈工夫した点〉**

例えば年配の方の体験談が聞きたい場合、まず、在籍している子どもたちの祖父母に依頼する。次に、校区内自治体の自治会長さんに支援していただきたい学習の趣旨を直接ていねいに説明し、各組回覧用のチラシ配布への理解を得るようにした。そのチラシの中には、支援をお願いする内容だけでなく、この事業の趣旨も加えるようにした。こうすることで、学校が今何を求め、何をしようとしているか、学校理解の一つにしていただけたように思う。

図書室ディスプレイの作成

## ２【事業の成果】

１学期…図書室ディスプレイ制作・まち探検・花苗ポット移し替え・野菜生産農家の見学・手芸クラブ指導

２学期…企業出前授業・ミシン実習支援・手芸クラブ指導・地球温暖化のお話・畑作業の見学・戦争体験のお話

３学期…昔のくらしのお話・企業出前授業・華道（池坊）体験とお話

**〈他校の参考となる点〉**

○６年社会科　戦争体験談

平和学習の一環として当時の話が聞きたいとの担任の願いに応える。

96歳のHさん　戦地での体験談

83歳のKさん　大阪空襲の経験談

戦争体験談

戦後６７年が経ったといえども、お二方にとってはつらい経験ではあることには変わらないが、当時の様子を一生懸命に子どもたちに話してくださった。戦争を二度と繰り返さないようにと熱弁のあまり、当初の予定時間をオーバーされた。しかし、地域の方の子どもの健やかな成長を願う熱き思いがひしひしと伝わる貴重が時間となったことに間違いはない。

〈工夫した点〉

・依頼する方の体調も考え、直接ご本人さんに依頼せず、まずはお家の方に相談させていただいた。
・子どもの理解を助けるために体験談のワンポイントを黒板に書きとめた。
・マイク・ビデオ撮影の準備
・時間配分をゆったり設定しておいた。

## ３【今後の課題】

◇保護者ボランティア同様、年度初めより地域向けのボランティア登録の発信ができるとよいが、その場合、具体的に学校ではどんなことを地域の方に求めているのかの詳しい説明が必要となる。

◇ボランティア活動をPTA事業に組み込むことでボランティア保険にかかる経費の解消(低コスト運営＝長期継続)につなげたい。

# 地域の支援で豊かな学校教育の創造をめざして　【東近江市】

【玉緒小学校支援地域本部】

**１【事業の趣旨】**

当事業は、学校を支援するため、学校が必要とする活動について、地域の方々をボランティアとして派遣する組織で、いわば「地域につくられた学校・子どもの応援団」といえる。これまでも登下校の見守りや朝の読み聞かせを行ってきたが、さらに社会科の地域学習や家庭科の実技指導など、教科学習の支援を行った。児童の学習活動の場面に、地域のボランティアが積極的に関わり、支援することにより、学習がより効果的にすすみ、有効な学校支援・児童支援となった。

**２【事業の概要、特色】**

今年度より,この事業が始まったばかりなので、5月中旬に、学校支援地域本部事業の設置を広く知らせるために,学校便りを使って,広報活動及び、ボランティアの募集活動を行った。また、地域のコミュニティセンターの方々にも呼びかけ、ボランティアの募集を募った。

**①　学習支援**

**１年生活科（木のみを使って）**では、ドングリや松ぼっくりなどの木のみを使って壁飾りや人形、こま、やじろべいなどのつくりかたを教えていただいた。

**２年生活科（川遊び）**では、学校の近くで安全に川遊びのできる場所を紹介していただき一緒に魚や虫などをつかむ体験を行った

**３年社会科（校区探検）**では、尻無神社の歴史や最上おどりのお話を現地でしていただいた。

**３年総合(こんにゃく作り体験)**では,近くの永源寺こんにゃくの道場で指導されていた方に来ていただき,こんにゃくの皮むきからつぶして、こねて、型に入れ、湯がいて出来上がるまでを学校で子どもたちと一緒にしていただいた。

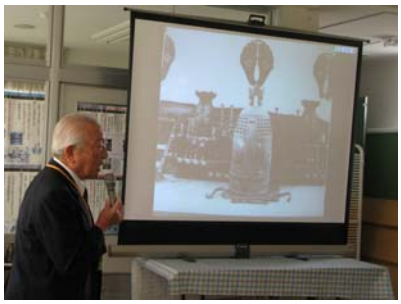
**４年総合（やまのこ）**では、地域に出かけることも多く、引率の補助をお願いした。

**５年(家庭科、初めてのソーイング。ミシンの学習)**では、延べ20人の方に来ていただき,きめ細かに子ども達に教えていただくことができた。

**５年総合(お米を使って)**では、子どもたちが育てたお米でボランティアさんに教えていただきながら炊き込みごはんやおはぎをつくった。

**６年家庭科(ミシンを使って)**では、延べ９名のボランティアの方の協力を得て、ミシンを使ったナップザックが仕上がった。

**６年総合(戦争体験談)**では、担任の先生の希望で,当時小学生だった方の話が聞きたいとのことだった。当時中学生だった方にお願いして、玉緒地域の戦争当時の写真を見せながらお話ししてもらった。



**②　外部からの支援**

**６年総合(輝け私の未来。いろいろな職業の方から学ぼう)**では、外部から８人のゲストティーチャーをお招きして職業観や人生観、夢などを語っていただいた。

**３【事業の成果】**

子どもたちは、学習活動がスムーズにすすみ、生き生きと活動し、地域の大人が来校することを楽しみにするようになった。

またボランティアの中には、学校に出向くことで、子どもたちと交流ができたことをとても喜んでいただき、「次も来てあげよう」と前向きに参加していただけるようになった。

**４【今後の課題】**

いろいろな活動を通して、地域の方の子ども理解の深化、学校ボランティアの発掘、相互の連帯強化を図っていく必要があると思われる。

また、校区・地域全体にボランティアの募集をかけて、組織を拡大していく必要があると思われる。

# 八日市南小学校　学校支援地域本部の取組　【東近江市】

【八日市南小学校支援地域本部】

## １【事業の概要、特色等】

「学校支援ボランティア」バンクをＰＴＡ共催で立ち上げ、保護者、地域の方の登録を募りました。今年から始めた事業なので、どんなことをするのか具体的に分かれば支援も増えるのではないかと思い支援メニューをあげてみました。

支援メニュー
- ●ゲストティーチャー型
  …理解を深めるために、直接学習指導します。
- ●学習アシスタント型
  …学習活動を効率よく進めるために、教師の指導を手助けします。
- ●施設メンテナー型
  …施設や設備の維持管理を支援します。
- ●環境サポーター型
  …安全で快適な学習環境を整えます。

南部地区まちづくり協議会、南部コミュニティセンターの方にご協力をお願いし、チラシを掲示していただき、地域の方に広く知ってもらうようにしました。ボランティア募集のお知らせも毎回掲示をお願いし、地域の窓口になってもらえるようにしました。

### 南部コミセンの畑でじゃがいも掘り

南部まち協から依頼を受け、3年生と保護者ボランティア2名民生児童委員2名の参加でじゃがいも掘りをしました。南部まち協やボランティアの方とふれあうことができました。

### 給食エプロンのお直し

サイズの大きい給食用エプロンを南部まち協の粋生サロンの方に子どもが使えるサイズに直していただきました。

### かまどベンチの作成

南部まち協からの依頼でPTA、子ども達にも参加してもらい、地域（自治連合会、防災会など）との連携、協働での製作、設置、炊き出し訓練を行いました。

### 図書室の壁面かざり

環境整備として、図書壁面飾りつけをしました。季節感のある楽しい図書室になるよう学期ごとに飾りつけました。

### 図書カードホルダーの作成

子ども達が図書室で使用する個人カードを管理するためのカードホルダーを各クラスに一つ作って欲しいと依頼を受け、粋生サロンから3名、保護者ボランティア4名の計7名で製作。教室の壁にかけ使用しています。

### アフタースクールのさつまいも掘り

外国籍の子ども達が毎週水曜日放課後に行っているアフタースクールが南部コミセンの畑でさつまいも掘りをさせてもらいました。

大きなさつまいものお土産をいただきました。

6年生のナップサック作り

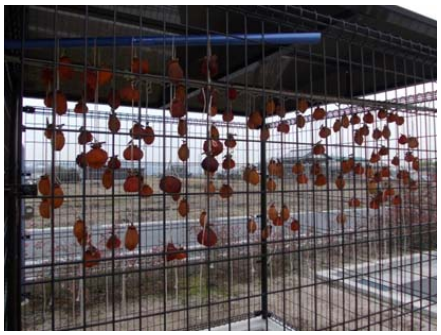
ミシン授業が始まる前に事前打ち合わせをしました。ミシンがきちんと動くかのチェックもしてくださったので、スムーズに授業に入ることができました。2日間で、のべ29名の地域、保護者ボランティアの方が来てくださいました。続いて5年生のエプロン作りでは、4日間でのべ37名来てくださいました。地域のボランティアさんから、「子ども達がとても熱心に作業に取り組んでいたので来てよかった。」「楽しかった。」と言ってもらいました。

2年生と干し柿作り

地域ボランティアの方とピーラーで渋柿の皮をむき、ひもを結び干しました。

一人1個ずつピーラーで皮をむいてひもに結び、熱湯に20秒ほどつけ吊してもらいました。

子ども達は「もう食べられるの？」「いつになったら食べられるの？」と、とても楽しみにしてくれています。



**〈工夫した点〉**

学期ごとにボランティアだよりを発行し、ＰＴＡとボランティアに参加してくださった地域の方にも配布し、どんなことをしているのかがわかるようにしました。

**〈他校の参考となる点〉**

**まちづくり協議会とのつながりを大切にしていきます。**

**2【事業の成果】**

今年度から始めた事業なので、ボランティアにどれだけの方が参画してくださるのか不安がありましたが、ミシン授業の補助のようにたくさんの方の協力を得ることができました。なによりボランティアの方に「楽しかった」「お手伝いできることがあったら言ってね」と言っていただけ、子どもたちからは「次の時間もきてくれるの？」と言ってもらえたことです。

**3【今後の課題】**

ボランティアの方の不安の解消、スムーズな取組ができるように、支援に入っていただく授業の前に先生と打ち合わせをできるようにしていきたいです。年に1度は学校と地域、保護者ボランティアの交流会などをして、少しでも学校に興味を持ってもらい、地域の方にボランティアへの理解を深めていただく努力をしていきます。そして、地域に眠っているボランティアの発掘をし、生涯学習の場として楽しみながら学校に来ていただけるようになればと思います。

# 八日市西小学校　学校支援地域本部の取組　【東近江市】

**１【事業の趣旨】**

社会が複雑多様化し、子どもを取り巻く環境も大きく変化する中で、学校が様々な課題を抱えているとともに、家庭や地域の教育力が低下し、学校に大きな役割が求められている。周囲を船岡山・雪野山などの低い丘陵や広々とした田園地帯に囲まれ、農業を営む家庭も多くある本校区においても、このことは同様の課題となってきている。

このような状況のなかで、これまで以上に学校・家庭・地域の連携協力のもとで、子育てを進めて行くことが不可欠となっている。

そこで、子どもの育ちを小学校だけで見ていくのではなく、中学校との小中連携も模索しながら、本事業を進めてきた。実施にあたり「地域コーディネーター」が、小・中を兼務することにより、小学校・中学校での取組の状況が把握しやすく、支援をしていただく方々にも、小中学校を通じて関わっていただけるのではと期待している。

**２【事業の概要・特色等】**

地域の方々から支援していただいた主な活動と工夫点は、およそ次のとおりである。

(1)地域の子どもは地域で守る

＊下校時の子どもたちの安全確保をとの呼びかけに、２地区が新たに「子ども見守り隊」を結成していただき活動がスタートした。

＊今後、校区全体での取組へという話し合いも進められている。

＊登下校時の中学生にヘルメット着用や挨拶の声かけの場にもなっている。

(2)教育活動への支援

（ア）学校行事

□ふるさと文化祭（ｹﾞｽﾄﾃｰｨﾁｬｰ・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ）

＊昔のおやつ・おもちゃ作り　＊縄ない体験

＊よもぎ餅作り・餅つき　＊戦争体験談

**【船岡中学校区学校支援地域本部】**

□校内マラソン大会

＊マラソンコース交通立番

＊応援垂れ幕作成

（イ）日常の教育活動

□２年生活科校外学習

＊見学地までの引率（安全指導）・活動支援

□６年総合的な学習の時間

＊身近な地域の歴史を学ぶ

□読書（読み聞かせ）

＊月１回・学年学級への読み聞かせ

(3)教育環境への支援

□校庭樹木剪定

(4)教職員研修等

□本校教職員の校区現地研修

＊校区の歴史遺産等の紹介・解説

**〈工夫した点〉**

□学校だより等で取組を地域へ発信

□地域の各種団体との連携を深める

□人材データをファイリング

**３【事業の成果】**

(1)専門的な知識や技能をもった方の支援により、学習内容や活動がより豊かになり、質が高く、わかりやすいものとなった。

(2)教員以外にも多くの支援者がいることで、人員的にもゆとりが生まれ、一人ひとりの子どもとより関わることができた。

(3)地域や保護者の方々が積極的に教育活動に関われることにより、地域に根ざした開かれた学校づくりに繋げることができた。

(4)子どもたちは地域の方々と交わることを楽しみにしており、保護者の方にも好評であった。

**４【今後の課題】**

子どもたちの学習や生活の充実（現場のニーズ）のため、地域の方々の多方面にわたる知恵や技術、地域の教育力等を有効に活用できるよう、教職員と地域コーディネーターとが連携を密にとり効果的な支援を図りたい。

また、教職員はもとより、ボランティアの方々の交流により、校区の子どもを育てる小中連携を深めていく手だてを探り工夫したい。

# 平成２４年度「読書で支援絆事業」　【米原市】

【米原市学校支援地域本部】

**１【事業の概要、特色等】**

米原市では“みんなで本を読もう”をキャッチフレーズに平成 20 年度から読書に特化した形で学校支援地域本部事業に取り組み、平成 23 年度より「読書で支援絆事業」として子どもたちの読書活動の支援を行っている。

主な事業は、

① 巡回文庫の実施

毎月ボランティアが 40 冊の本を子どもたちの教室に届け、おはなしも届けている。平成 20 年 7 月から市内全域の小学 1 年生に向けて開始し、平成 22 年 9 月からは 2 年生に、平成 23 年 9 月から 3, 4 年生に実施。平成 24 年度は 4 月から特別支援学級、9 月からは、5, 6 年生へと事業を拡大することにより市内の全小学校全クラス(10 小学校の 113 クラス)に実施できた。

② 学校図書館の整備

「モデル校」4 校を設定し、コーディネーターが学校・地域と連携・調整しながら、学校図書館の整理、本の修理や装備、学校図書館の壁面製作など、子どもたちの読書環境の整備を行っている。

③ おはなしの講習会

年 3 回開催し、ボランティアの活動のヒントや意欲につながるよう、学習の場を提供している。

④成果報告会

平成 25 年 1 月 26 日（土）にルッチプラザベルホール３１０にて、米原市学校支援地域本部事業成果報告会を行い、この事業のＰＲをするとともに、広く子どもの読書に関心を持ってもらう機会とした。参加者：約 190 人（関係者を除く）内容は、地域コーディネーターによる活動報告のあと、子どもたちの読書活動の様子をこの事業の成果として皆さんに知ってもらうため、まず「モデル校」の伊吹小学校 5 年生による群読。続いて読書感想文の発表。そして今年度は、市内の全小学校の児童全員が「わたしの好きなこの 1 冊」に取り組み、その中から 33 人に発表していただいた。

**〈工夫した点〉**

○巡回文庫の本の選書は、図書館が行い、学年に合った様々な分野の本がバランスよく入るようにしている。学校間の文庫移動はボランティアに依頼し、あわせて読み聞かせや本の紹介をすることで、子どもたちが本を手に取るきっかけづくりをしてもらっている。

○ボランティアや学校の図書主任からの要望を受け、「学校図書館の整備に関わる講習会」を開催した。(伊吹小学校：7/25)参加者は、専門知識を身につけようと熱心に受講されていた。

○おはなしの講習会は「モデル校」の図書室を会場とし、テーマに合わせて講習・実演をしていただいた。会場を各学校図書館内にしたことで、普段活動している学校とは違う学校図書館の雰囲気を感じることができ、大いに刺激を受けられ、活動の参考になった。

○「モデル校」は、市内の各地域の 4 小学校（息長小学校・息郷小学校・山東小学校・伊吹小学校）である。読み聞かせは、毎月定期的に行われており、子どもたちの本への興味

・関心が深まり、読書の幅が広がるとともに、地域の方とのふれあいの時間となっている。

また、新刊図書の装備、書架整理、配架など積極的に活動され、子どもたちが図書館に集まり、明るい雰囲気の中で読書を楽しめる学校図書館の環境整備に力を注いでいただいている。

〇子どもたちの普段の読書活動の１つとして市内全小学校全クラスで「わたしの好きなこの１冊」に取り組み、成果報告会で発表することにより､いろいろな人の思いを聞いたり、紹介してもらうことにより、より多くの本に出会うことができた。（冊子を作成し、配布することで今後の読書の参考にできた。）

〇今年度はボランティア交流会を２回開催した。1 回目は、他校で実演された内容を披露してもらい、その後、感想や意見交換をするなど交流の場を設定した。2 回目は、近隣の市で活動されているボランティアさんの活動の様子をお聞きし､子どもたちの現場の声を聞くことで、あらためて本を届ける時の参考になった。

**〈他校の参考となる点〉**

〇ボランティアは、学校での読み聞かせの枠を超えて図書館でのスペシャルおはなし会や他校への拡大おはなし会など活動の幅を広げている。

〇おはなしの講習会は､ボランティアの要望を受けて､それぞれの活動の参考となるものにし、冊子にまとめた。内容は、子どもたちに本を届けたり、読書活動を支援していく上ですぐに役立つものを企画して行った。

**２【事業の成果】**

①巡回文庫において、今年度で市内全小学校、全クラス（特別支援学級を含む）に本を届けることができた。

②図書館整備においては、昨年ボランティアグループが立ち上がったモデル校（伊吹小学校）で、図書館整備の講習会後に学校図書館の大幅なレイアウト変更を行い、オリエンテーションを行った。このことで、小学校図書館と公共図書館がそれぞれ関連して存在していることを学習できた。また、ボランティアが新刊書の装備や壁面飾りなどすることにより、読書環境が改善され、子どもたちが図書館へ行きたくなる環境作りが実を結んだ。

③おはなしの講習会では、実践を交えた絵本の紹介、おはなし会のプログラムの立て方、本の届け方、選び方、ブックトークなどボランティア活動の参考になる内容で、より実践的な技術向上が図れた。また、これらは、ボランティア同士の情報交換の場となった。

④成果報告会では、市内全小学校から代表して発表してもらうことで、広く地域の方にもこの事業の取組や子どもたちの読書の様子を知っていただく機会が持て、家庭での読書の啓発にもなった。

⑤モデル校（息長小学校）で、図書委員とボランティアが一緒に図書の整理や壁面飾りなどを行い、交流が深められた。

**３【今後の課題】**

5 年間で巡回文庫が 6 年生まで実施でき､全ての子どもたちの手の届く所に本がある環境が整った。次の段階として、本があるだけでなく、先生方の教材研究や学習支援、また子どもたちの読書の相談にのれる学校図書館司書の配置を地域と連携しながら検討していくことが､今後の課題である。

# 竜王町学校支援地域本部の取組　【竜王町】

【竜王町学校支援地域本部】

## １【事業の概要、特色等】

竜王町学校支援地域本部（通称名：学校応援団）は、竜王幼稚園、竜王西幼稚園、竜王小学校、竜王西小学校、竜王中学校の５校（園）を支援の対象としています。４名のコーディネーター（非常勤）と１名の統括マネージャー（常勤）で竜王町公民館を拠点として活動をしています。２４年４月～１１月までの学校園からの依頼支援回数は、竜王幼稚園２７回、竜王西幼稚園１５回、竜王小学校１３３回、竜王西小学校３９回の合計２１４回でした。

また、地域と学校の連携を図る環境作りとして、学校応援団からの働きかけによる花壇作りは、春花壇、秋花壇の種まき、苗植え、草刈り、夏場の水やりを含めて、１６１回でした。

以上の事業に協力頂いたボランティアの参加総人数は、３０６人、延べ人数は７５９人でした。

以下に実践事例の一部を紹介します。

### （１）竜王幼稚園で“流しそうめん”の支援

７月に、竜王幼稚園「預かり保育」で昼食作りとして、応援団１２人が流しそうめんの体験支援を行いました。前日より、竹や大鍋の準備をしての汗だくの支援となりましたが、子ども達は初めての流しそうめん体験に大喜びでした。

### （２）竜王西幼稚園で“砂場の木枠の修理”の支援

５月に、学校応援団５名が保護者と一緒に、砂場の枠を新しい物に交換しました。古い枠を取り除き、セメントを流し、ボルトで木枠を固定する大変な作業となりました。

子ども達が、楽しく遊んでいる姿を思い浮かべながらの作業でした。

### （３）竜王小学校、竜王西小学校で“家庭科ミシン”の支援

１０月に、竜王小学校５年・６年生の家庭科ミシンの支援を行いました。５年生には、応援団１０人がランリックづくりに延べ１８時間の支援をしました。また、６年生の応援団１２人がマイバックづくりも１８時間支援をしました。

竜王西小学校でも５年生のエプロンづくりにも応援団６人が延べ１２時間支援を行いました。

完成した時の、子ども達の笑顔に応援団の方々の「ホッ」とされた安堵の顔が印象的でした。

### （４）竜王西小学校で“戦争体験を語る”の支援

竜王西小学校で、社会科授業の一環として６～７人のグループ別に、戦争体験（戦時中、少年期であった方も含む）を、児童たちの質問に対して、戦争中の人々の生活の様子や苦労した思いを、ありのままに答える形で話す支援をしました。

子ども達は、戦争の悲惨さを感じてくれた様子でした。

### （５）竜王小学校で“クラブ活動”の支援

本年度から“クラブ活動”の支援として、イラストクラブ、将棋クラブ、家庭科クラブの支援を行っています。

自らの趣味活動が、子ども達に発揮できることに応援団の意欲が感じられています。

### （６）竜王小学校で“本の読み聞かせ”の支援

年間を通して毎週火曜日の朝、授業の始まる前８時１５分から８時３０分まで３年生～５年生を対象に、応援団６人が“本の読み聞かせ”の支援をしています。

子ども達の熱心に聞いてくれている姿と「次回は、どんな話をしてくれるの？」という期待感に、応援団はうれしさを感じています。

**〈工夫した点〉**

昨年度と比較すると、支援数が増加し過密スケジュールとなったため、学校園宛には、参加ボランティア名を、各個人宛には、内容や日時を記した案内通知をして、思い違いや、忘れを無くす工夫をしました。（昨年度は、コーディネーターからの電話連絡のみ）応援団からは、喜ばれています。

また、支援時にはコーディネーターおよびマネージャーが学校園へ行き、応援団と話し合いをしながら今後に繋がる情報交換話をする工夫もしています。

## 2【事業の成果】

### （１）竜王幼稚園で“流しそうめん”の支援

家庭ではできない体験を、学校応援団の多くの方々が携わり行われました。普段、食の細い子ども達もたくさん食べていました。よほど楽しかったのだと思います。

### （２）竜王西幼稚園の“砂場の木枠の修理”の支援

大変大掛かりな作業となったため応援と保護者ボランティアとの共同作業となりました。この事により、地域ボランティアと保護者ボランティアとのコミュニケーションを図る事ができたのではないかと考えています。

### （３）竜王小学校・竜王西小学校 “家庭科ミシン”の支援

小学校の家庭科のミシンの授業は、最も大きな支援活動の位置を占めるものであり、学校とボランティアを繋げる重要なポイントを持つと思われます。授業前のミシンの調整から始まり、多くのボランティアによる家庭科の指導補助は、学校、ボランティア、子ども達がそれぞれに多くを学ぶ支援活動です。まるで保護者のように丁寧な支援は、本年度の最高支援だと思います。多くのボランティアの参加の成果だと思います。

### （４）西小学校で“戦争を語る”の支援

学校や教科書では知る事のできない事実を少人数の班ごとにテーマを出して論議する非常にレベルの高い授業内容となりました。後に出されたレポートは、大人顔負けの素晴らしい内容のものでした。

### （５）竜王小学校の“クラブ活動”の支援

クラブ活動の支援は、ボランティアの方の得意分野が生かされていて、地域ボランティアと児童の楽しい時間となっています。

### （６）竜王小学校の“本の読み聞かせ”の支援

竜王町では、幼稚園児から読み聞かせがあるため、本の読み聞かせを楽しんで静かに聞く習慣ができています。

## 3【今後の課題】

＊子ども達にとってお兄ちゃん、お姉ちゃん的な存在のボランティアが地域ボランティアとして登録できれば、もっと幅の広い支援が出来ると思う。（例えば、中学生のクラブ活動の補助的なコーチやキャンプ等）

＊幼稚園、小学校の保護者ボランティアが、子どもの卒園、卒業と共に終了しています。継続性を持たせていく事が今後の課題です。

＊当町のシステムとして、学校応援団統括マネージャーからコーディネーターへ、そしてコーディネーターからボランティアとなっていますが、今後、学校園の支援科目ごとにリーダーを２人程度置ききめ細やかな連携を図っていきたいと思います。

＊地域支援として春花壇、秋花壇を各学校園で実施をしています。この活動が子ども達の授業に生かせれば良いと考えます。
（花の生育過程の観察、写生等）

# 『愛荘町における学校支援の取組』　【愛荘町】

【愛荘町学校支援地域本部】

## １．はじめに

愛荘町の学校支援地域本部事業は、初年度の平成20年度から町内4小学校と2中学校を対象に町全体で学校支援に取り組んできた。

しかし、一人の地域コーディネーターで町内６校の要望を十分把握し支援することが難しく、二年目から事務局（地域コーディネーター）をバックアップし事業推進の実働部隊として機能する「愛荘町学校支援部会」を設置し、組織的に取り組める体制の構築に努めてきた。各校の事業の窓口である学校と地域を結ぶコーディネーターの先生、警察、図書館、社協、教頭会、ボランティアの代表からなる学校支援部会は、各校の取組の紹介および成果や課題、ボランティアの発掘等について情報交換・協議を定期的に行い、事業の推進に大きな役割を発揮してきた。

また、学校長や地域の有識者で組織する「愛荘町学校支援事業実行委員会」は、各学期毎に開催し、事業の進捗状況の把握や評価等を行い、事業の推進のための指導的な役割を果たしてきた。

その結果、昨年は延べ5,800人以上の地域の方々が学校支援ボランティアとして協力していただけるようになってきた。

今年度は5年目を迎え、組織的な取組の進化・発展を図りつつ各学校が自主運営へと移行していく体制づくりを視野に事業を進めてきた。

そこで、地域住民や同窓会組織等の支援を中心に自主運営がかなり進んできている愛知川小学校の取組を紹介する。

## ２．愛知川小学校の実践

### （１）事業の趣旨

愛知川小学校区は、国道８号線や近江鉄道が南北に通り、大きな企業の工場が多く進出し、開発によってできた新興住宅の地域と昔ながらの農村地域からなり、ここ15年間の間に児童数が1.5倍に増えるという、人口増加が激しい地域である。

このような地域の急激な変化に伴い、子どもたちの学びの環境や地域との結びつきなど、年を追うごとに大きく変化してきているのが現状である。

そこで、本校では学校支援地域本部事業の取組を通し、

○子どもたちの学びの質を高める
○地域の良さに触れ、地域の方との交流を通して生き方や多様な考え方を身につける
○地域と自分自身との結びつきを深める
○学校と地域、保護者、関係機関との結びつきを深め、開かれた学校を目指す
○地域の方々の学校への関心を深める

ということを目指していきたい。

### （２）事業の概要・特色

本校では、地域と学校を結ぶコーディネーターが本事業の窓口となり、愛荘町学校支援部会や本事業事務局（生涯学習課）、既存のＰＴＡや同窓会組織（以文会）をはじめとする諸団体との連絡調整をしながら、学校支援事業に取り組んでいる。

この４年間に実施してきた主な取組は、以下の通りである。

○登下校時の安全指導
○参観日等の託児ボランティア
○餅つき大会の準備、指導支援
○野菜栽培の指導支援
○生け花ボランティア
○絵本の読み聞かせボランティア
○スキー教室の指導支援
○田植え・稲刈りの指導支援
○手話学習指導支援
○車椅子学習指導支援
○歴史学習指導支援
○理科学習ゲストティーチャー
○戦争体験・昔の暮らしゲストティーチャー
○しが学校支援センターの活用
（タイヤ製造工場見学、交通安全教室等）

#### ①登下校時の安全指導

本校の学校支援ボランティアの活動の中で、最も力を入れているのは、「登下校指導」と「挨拶運動」である。

ボランティアさんには、朝の登校時と下校時は２回、午後３時と午後３時50分に指導をしていただいている。

熱心に見守りをしていただいている某老人会には学校の下校時間を予定表にして知らせている。その予定表は組織内で配布され、一部は交番へも届けられ、警察の安全パトロールに活かされている。

#### ②野菜栽培の指導支援

本年度から、特別支援学級の児童が、自分たちの学習に活用する野菜を本格的に作ろうということになり、ボランティアの講師を紹介していただいた。年間を通じて、土作りから始まり、移植、世話、収穫までを教えていただいている。

時には、子どもたちがいない休業期間中にも、自主的に来校されて、植物の世話および管理もしていただいている。

このような献身的な活動に対して、子どもたちは給食に招くなど、野菜栽培以外でも深い交流をしている。

また、生活科で野菜の栽培に取り組んでいる２年生についても、同様に指導をしていただいている。

**③餅つき大会**

近隣の老人会、本校の同窓会組織である以文会の方々に、前日準備から当日の指導までしていただいているのが餅つき大会である。

２日間で、延べ７０名以上の方に支援をしていただき、毎年盛大に開催している。子どもたちにとっては、滅多に経験できない伝統的な行事に触れると共に、地域の方々との交流もできる大切な行事となっている。

**④託児ボランティア**

学習参観や懇談会、ＰＴＡ総会などの行事の時、未就学児や保護者を待つ児童を託児していただいている。保護者に安心して学校行事に参加していただくための措置であるが、学校支援地域本部や町の社協に協力をいただき、年間を通しての託児ボランティアを手配していただいている。

毎回利用される方もおられ、特に迎えに来られた保護者からは、いつも託児ボランティアの方への感謝の言葉を伺っている。

**（３）愛知川小学校の事業の成果**

登下校指導や託児ボランティア、餅つき大会など長年継続的に実施している事業については、協力していただいている支援ボランティアの方も心づもりをしていてくださり、とてもスムーズに運営ができている。

子どもたちも、毎日登下校時におられるボランティアさんに親しみをもち、休まれると、「昨日はどうしたん？」というように、挨拶をするだけでなく、いろいろな声かけもするようになり、地域の方々との結びつきが深まってきたと言える。

また、野菜栽培の指導支援や戦争体験・昔の暮しのゲストティーチャー等においても、子どもたちは深い知識や経験に裏付けされた指導を受けることができ、質の高い学習となっている。

また、学校支援ボランティアの方が多く来校されることで、学校と地域、保護者との結びつきも深まってきている。

**（４）愛知川小学校の今後の課題**

年度当初から支援ボランティアが必要とわかっている学習も多いが、学習を進める中で急に必要となることがあり、それに見合った支援ボランティアを探し出すことが難しいこともある。内容によっては人材の登録が少ない領域があり、今後更に多様な領域に対して支援ボランティアを開拓しておく必要がある。

また、教師が支援ボランティアを活用するというより任せてしまって、せっかくの支援ボランティアを十分に活かせないこともあった。事前の打合せの時間をしっかり確保し、それぞれの役割分担や目的を明確に伝える機会作りをしていくことが大切である。

## ３．愛荘町における実践の成果

**（１）ボランティアの確保に進展**

5年間の取組で、データの蓄積と人的ネットワークの広がりによりボランティアの確保がスムーズにできるようになってきた。

また、愛知川小学校では学校独自の人材バンク化も進んでいる。

**（２）部活指導ボランティアの増加**

懸案であった中学校の部活の指導にも、柔道、サッカー等において定期的にボランティアが指導・支援していただけるようになり、安全面で非常に助かっている。

**（３）町全体で取り組む子どもの安全・安心**

学校支援ボランティアの登下校の安全指導に併せ、小学校の通学路に防犯ブザー「愛ぼうくん」を50ヶ所、「子ども110番のおうち」を254ヶ所も設置して子どもの安全・安心の確保に全町あげて取り組んでいる。

## ４．愛荘町の今後の課題

**（１）ボランティアの高齢化**

ボランティアの主力は時間的にも余裕のあるお年寄りである。今後もその傾向は変わらないが、人材の補充を図ると共にPTAや大学生の若い人材の確保が必要である。

**（２）国・県の財政的支援を**

今後国や県の財政支援がなくなれば事業も消滅する可能性が十分考えられる。なくなれば地域本部の役割をどこが担うのか。まだまだ事業の継続が必要である。

**（３）教職員の意識の向上を**

残念ながら担当学年の教師によりボランティアの導入や活用に差が見られる。今後も継続して校内の推進体制の整備と教職員の意識の向上を図っていく必要がある。

# 地域ぐるみの子どもの育成～甲良町における学校支援の取組～　【甲良町】

**１【事業の概要、特色等】**　　**【甲良町学校支援地域本部】**

学校支援地域本部事業を充実するには、地域で子どもを守り育てる活動との連携が効果的であると考え、学校支援ボランティア活動と地域で子どもを守り育てる活動との連携を推進している。

これにより、地域の人材等の教育資源の発掘及び地域の人と教職員との相互理解の機会づくりを進め、学校支援地域本部事業の円滑な推進と充実を図りたいと考えている。

**（１）　放課後地域ふれあい活動**

家庭や地域における心豊かで安定した生活体験は、子どもが落ち着いて意欲的な学校生活を送る基盤になると考え、甲良町内の各集落では、地域のボランティアによる「子どもを中心に据えた地域ふれあい活動と子どもの居場所づくり」に取り組んでいる。

この活動を通じて、地域の人々の子ども理解が進み学校支援ボランティアへの参加が増え､相互の連携が深まることを期待している。

〔放課後地域ふれあい活動風景〕

**（２）　子どもの体験活動**

様々な体験活動を通して多くの人々とのふれあいを深めることを目的の一つとして、地域教育協議会を中心に体験活動事業を実施している。

○グリーンファイターズ（自然体験活動）
　小学４年生対象、月１回、通年

○せせらぎ探検隊（文化・科学等の体験活動）
　小学５・６年生対象、月１回、通年

○ちいさい秋みつけた（秋の自然体験、異年齢・地域の人とのふれあい）
　幼児～小学生対象、中学生はボランティアとして参加、年１回、
　学校支援ボランティアと地域のボランティアによるおにぎり・揚げイモ、自然遊びや読み聞かせ等のブースの設置

〔読み聞かせボランティアのブース〕

**＜工夫した点＞**

○魅力ある体験活動の設定
○新しいボランティアの発掘
○中学生ボランティアが意欲的に活動できる場の設定
○ボランティアと教職員の相互理解と協力

**２【事業の成果】**

○地域の人々の小・中学生に対する関心が高まり、理解が深まりつつある。
○ボランティアの方々が活動する喜びを感じられ、活動へのさらなる意欲が高まってきた。

**３【今後の課題】**

○新たな分野に対応できるよう、学校のニーズの的確な把握とボランティアとの適正なマッチング。
○ボランティアの高齢化への対応と新たな人材の発掘。
○ボランティアの受け入れ態勢の整備。
○ボランティアが意欲的に活動できる場の創出。

# 多賀町における学校支援地域本部の取組　【多賀町】

【多賀町学校支援地域本部】

## １【事業の概要、特色等】

近年、子どもを取り巻く環境は核家族化や両親の共働きなどにより、様々に変化しています。また、学校においても教師の業務が多様化しており、教育に満足な時間がとれないこともあります。一方、地域においては「何かしたい」とボランティア活動の場を求めておられる方が多くおられます。そこで、学校のニーズに応えるべく学校と地域との連絡・調整を図り、地域の協力のもとに教育環境を整えることで、教育が充実したものになればと考えます。学校、家庭、地域が連携して多賀町の未来を担う子ども達の健全育成を図っていきたいと思います。

### ①支援の対象

多賀町の学校支援の対象は、多賀中学校、多賀小学校、大滝小学校、多賀幼稚園、大滝幼稚園の３校２園です。なかでも小学校からの依頼がほとんどです。

### ②活動内容

・学校への説明

５月に各小中学校で職員会議の時間をいただき、「ボランティア説明会」を行いました。前年度の学校ごとの利用内容と人数の報告をしました。また、４月の異動により、学校支援ボランティアを知らない先生もおられるので、学校支援ボランティアの意味、利用方法、ボランティアさんに配慮していただく点などの説明をしました。

ボランティア説明会の様子

大滝小学校　　多賀中学校

・主な支援活動の内容

環境整備、本の読み聞かせ、ＰＴＡ総会時等の子ども預かり、プールの監視、遠足などの校外活動の引率補助、ウォークラリーやマラソン大会の立哨など、比較的誰にでもできる内容の活動をお願いしています。

≪活動事例≫

小学校 PTA 総会時の子ども預かり

多賀小学校

ウォークラリーの立哨

大滝小学校

本の読み聞かせ

多賀小学校　　大滝小学校

環境整備の様子

多賀幼稚園　　多賀小学校

プールの監視

多賀小学校　　大滝小学校

マラソン大会の立哨

大滝小学校

もちつき大会のお手伝い

多賀幼稚園

・ボランティア研修会

毎年、学校から依頼のある事業に関連付けた研修会を開く事で、ボランティアの質の向上とレベルアップを図りました。また、研修会の後に情報交換の時間を設け、ボランティアさんが活動される時の不安や悩みを軽減し、ボランティアさんの思いや活動における問題点などを知り、配慮や改善を図りました。

第１回「普通救命講習Ⅲ」５月３１日（木）

６月から始まる小学校のプール水泳の監視に先立ち、消防署から講師に来ていただき、心肺蘇生法（ＡＥＤの使用法含む）や止血の方法や応急手当の方法など、実技を交えて教えていただきました。

（心肺蘇生法）　（ＡＥＤの使用法）

第２回「ボランティアとは」９月５日（水）

過去から現在までのボランティアの変化や意味についてのお話をしていただきました。

第３回「大人のための絵本講座」11 月４日（日）

小学校では年間を通して、本の読み聞かせボランティアをお願いしています。本の選び方や、読み聞かせの仕方などのお話をしていただきました。

・広報紙の発行

学校支援ボランティア活動を一人でも多くの町民の方々に知ってもらうために月１回「ボランティアだより」を作成発行しました。活動報告や、ボランティアの登録募集、研修会の予告・報告などを掲載しました。

**2【事業の成果】**

ボランティアさんの中には、こちらからお願いする前に、そろそろ○○した方がいいとか、今年は○○は無いのかと言ってくださったり、段取りをしてくださる方もあります。また、ボランティアに参加することが、生きがいや喜びになっているようです。日常の生活の中にボランティアが溶け込み、子ども達・学校のために「何かしたい、何かしよう」という思いが定着してきていると思われます。

**3【今後の課題】**

多賀町は県下でも高齢化率の高い自治体です。学校支援ボランティアも登録者の高齢化に伴い、活動できる方が限られてきているのが現状です。

新たな登録者を確保するために、今以上の広報活動が必要です。「ボランティアをしたいけれど、どうすればいいのか分からない」「ボランティア活動をしていることを知らない」などの人に学校支援ボランティアを知ってもらうため、町内広報紙への掲載や、ボランティア広報紙の作成、有線放送の利用などです。また、町内の各団体との連携を深めるとともに、60 歳代の定年退職後の体力・時間のある年齢層や学生など若い世代の確保も図る必要があります。

高齢化により、ボランティアさんの活動意欲が低下しないよう、日常の生活の中で普通にしておられることを普通に活かせるように、年齢・体力に応じた活動の内容や仕方を考えて、学校に提案・調整をしていくことも必要です。

# Ⅲ　放課後子ども教室の実践事例

◆平成２４年度放課後子ども教室一覧・・・・１１９
◇長浜市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２０
◇栗東市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３５
◇甲賀市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４３
◇野洲市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４９
◇東近江市・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５７
◇米原市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５９
◇竜王町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６４
◆放課後児童クラブの現状調査・・・・・・・・１７３

# Ｈ２４　放課後子ども教室一覧表

| 市町名 | 教室数 | | 運営委員会・教室名 | 実施場所 | 開催曜日 | 開設時間 | 委託 | 委託団体名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 長浜市 | 14 | | ○長浜市放課後子どもプラン運営委員会 | | | | | |
| | | | 長浜小学校区土曜学び座 | 長浜公民館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | 長浜北小学校区土曜学び座 | 長浜サンパレス・養蚕の館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | 神照小学校区土曜学び座 | 神照公民館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | 南郷里小学校区土曜学び座 | 南郷里公民館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | 北郷里小学校区土曜学び座 | 北郷里公民館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | 長浜南小学校区土曜学び座 | 西黒田・神田・六荘公民館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | びわ地区土曜学び座 | びわ公民館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | 浅井地区土曜学び座 | 湯田・田根・下草野・上草野・七尾公民館、浅井体育館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | 虎姫地区土曜学び座 | 虎姫公民館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | 湖北地区土曜学び座 | 湖北公民館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | 高月地区土曜学び座 | 高月公民館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | 木之本地区土曜学び座 | 公立木之本公民館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | 余呉地区土曜学び座 | 余呉文化ホール等 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | 西浅井地区土曜学び座 | 西浅井公民館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| 栗東市 | 9 | | ○栗東市地域教育協議会 | | | | | |
| | | | 葉山ふれあい子ども広場（未実施） | 葉山小学校体育館 | 月 | 15:00～17:00 | ○ | 栗東市地域教育協議会 |
| | | | 葉山東ふれあい子ども広場 | 葉山東小学校体育館　コミュニティセンター葉山東 | 水 | 15:00～17:00 | | |
| | | | はるたっこ広場 | 治田小学校体育館 コミュニティセンター治田 | 金 | 15:00～17:00 | | |
| | | | チャレンジはるひがっこ | 治田東小学校体育館・コミュニティセンター治田東 | 水・土 | 15:00～17:00 | | |
| | | | 治西のびのび広場 | コミュニティセンター治田西　治田西小学校 | 水・土 | 15:00～17:00 | | |
| | | | 大宝わくわくタイム | 大宝小学校体育館 | 水 | 15:00～17:00 | | |
| | | | 大宝西ふれあい子ども広場 | 大宝西小学校体育館　コミュニティセンター大宝西 | 水 | 15:00～17:00 | | |
| | | | さんさん・キッズ | 大宝東小学校体育館　コミュニティルーム | 水 | 15:00～17:00 | | |
| | | | 金勝ふれあい子ども広場（未実施） | 金勝小学校体育館 コミュニティーセンター金勝 | 水 | 15:00～17:00 | | |
| 甲賀市 | 5 | | ○甲賀市放課後子どもプラン運営委員会 | | | | | |
| | | | 水口子ども教室 | 水口中央公民館　水口中部コミュニティーセンター　子どもの森他 | 土・日 | 午前2時間または<br>午後2時間 | | |
| | | | 土山子ども教室 | 土山中央・大野・山内・鮎河公民館 | 土 | 午前2時間または<br>午後2時間 | | |
| | | 新 | 信楽子ども教室 | 信楽中央公民館　信楽森林組合　隼人川みずべ公園他 | 土・日 | 10:00～12:00 | | |
| | | 新 | 甲南子ども教室 | 甲南公民館　かえで会館他 | 土 | 午前2時間または<br>午後2時間 | | |
| | | | 甲賀こども教室 | かふか生涯学習館　甲賀創健館他 | 土 | 午前2時間<br>天文クラブ19:00～20:30 | | |
| 野洲市 | 6 | | ○野洲市地域教育協議会 | | | | | |
| | | | 中主地域子ども教室（中里・兵主） | コミュニティセンターなかさと・ひょうず | 土・日 | 9:00～16:00<br>（内2時間） | ○ | 野洲市地域教育協議会 |
| | | | 篠原地域子ども教室 | コミュニティセンターしのはら | 水・木<br>土・日 | 9:00～16:00<br>（内2時間） | | |
| | | | 祇王子どもクラブ | コミュニティセンターぎおう | 土・日 | 9:30～19:00<br>（内2時間） | | |
| | | | 三上楽しいクラブ活動 | コミュニティセンターみかみ | 土・日 | 9:30～12:00<br>（内1時間半～2時間） | | |
| | | | 野洲学区わくわく子どもクラブ | コミュニティセンターやす | 土 | 9:00～13:00<br>（内2時間～3時間半） | | |
| | | | 北野っ子フレンドリークラブ | コミュニティセンターきたの | 土・日 | 9:30～11:30<br>14:00～18:00 | | |
| 東近江市 | 1 | | ○東近江市地域教育協議会 | | | | | |
| | | | 蒲生マックスクラブ | 蒲生コミュニティーセンターとその周辺 | 土・日 | 10:00～12:00<br>13:30～16:00 | ○ | 蒲生地区地域教育力体験活動実行委員会 |
| 米原市 | 4 | | ○米原市放課後安心プラン運営委員会 | | | | | |
| | | | 放課後キッズinおうみ | 近江公民館、周辺施設 | 土・日 | 9:00～11:30 | ○ | NPO法人　おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会 |
| | | | 放課後キッズinまいはら | すぱーく米原、周辺施設 | 土・日 | 9:00～11:00 | ○ | NPO法人　MOSスポーツクラブ |
| | | | 放課後キッズinきんせい | 三等生涯学習センターきんせい、周辺施設 | 水<br>土 | 15:00～17:00<br>9:30～11:45 | ○ | タウンルッチ |
| | | | 放課後キッズinジョイ | 伊吹薬草の里文化センター　周辺施設 | 水<br>土・日 | 16:00～17:45<br>10:00～12:00 | ○ | 伊吹山山麓青少年育成事業団 |
| 竜王町 | 8 | | ○公民館子ども教室運営委員会 | | | | | |
| | | | チャレンジクラブ | 竜王町公民館他 | 月～水<br>土 | 7:00～12:00<br>9:00～12:00 | | |
| | | | デジカメパソコンクラブ | 竜王町公民館 | 土 | 13:30～15:30 | | |
| | | | 宇宙科学クラブ | 竜王町公民館他 | 金・土・日 | 9:00～12:00<br>18:00～21:00 | | |
| | | | 華道クラブ | 竜王町公民館他 | 土 | 13:30～15:30 | | |
| | | | 絵画クラブ | 竜王町公民館他 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | | 吹奏楽教室 | 竜王町公民館他 | 木 | 19:30～21:30 | | |
| | | | 和太鼓クラブ | 竜王町公民館 | 土 | 9:00～12:00 | | |
| | | 新 | 書道クラブ | 竜王町公民館 | 土 | 10:00～12:00 | | |
| 県計 | 47 | | | | | | | |

# 長浜市

長浜市放課後子どもプラン
運営委員会

連絡先
長浜市企画部生涯学習・文化スポーツ課
TEL　０７４９－６５－６５５２
FAX　０７４９－６５－６５７１
E-mail　syougaku@city.nagahama.lg.jp

## １　運営委員会組織

委員数　（　１４　）人

構成委員（所属・役職名）

長浜市社会教育委員、長浜市放課後児童クラブ関係者、長浜市ＰＴＡ関係者、小学校校長、長浜市教育委員会教育指導課副参事、生涯学習・文化スポーツ課長、コーディネーター

## ２　運営委員会の協議内容

| 回 | 実　施　日 | 参加人数 | 協　　議　　内　　容 |
|---|---|---|---|
| １ | １２月１９日 | １４人 | ・土曜学び座事業内容について<br>・放課後児童クラブ事業内容について |

## ３　広報

・参加者募集については、学校を通じてチラシを配布し、学校で参加者の取りまとめをしていただいている。

・毎月のチラシを報道機関へ資料提供し活動内容をＰＲしている。

## ４　連携している関係機関、団体（学校・地域・企業）、指導者および連携・協力内容

〈学校〉

参加者募集について、学校を通じてチラシを配布し、学校で参加者の取りまとめをしてもらっている。

〈子ども会・地区社会福祉協議会・地域づくり協議会など〉

事業の共催や指導者・ボランティアとして協力してもらっている。

〈企業・大学〉

講師として協力してもらっている。

## ５　スタッフの研修・ミーティングなど

〈土曜学び座担当者会議〉　内容：事業内容の情報交換・活動の進め方についてなど（年 3～4 回）
対象：各公民館土曜学び座担当職員、コーディネーター

〈コーディネーター連絡会議〉内容：各公民館の実施状況や課題について
土曜学び座のつどいについて

# 長浜市　　土曜学び座　　長浜小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 39 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 3 日 |

## 活　動　内　容

### 子ども囲碁教室

定例講座として８月を除く毎月開講。毎年３月には、子ども囲碁大会を開催。長浜市囲碁クラブ会員に講師をお願いし指導を受ける。一回あたりの参加者平均２５名程度。そのうちの参加比率は低学年２：中学年１：高学年１で、他の講座と比べると高学年の参加が目立っていることが特徴。

### 飯ごう炊飯と肝だめし

平成24年長期休暇中の自然体験講座の一つ。当日は35℃近くに迫る猛暑を避け、夕方開講。日没前に食事を終え、夜は肝だめしで盛り上がる。高山キャンプ場やまのこ専任指導員をリーダーにボランティア11名を加え、60名の参加児童あり。

【平成24年度の取り組み】

| | | |
|---|---|---|
| 工作・絵画9講座 | 料理9講座 | スポーツ1講座 |
| 実験・観察1講座 | 遊び1講座 | 伝統文化1講座 |
| 自然体験2講座 | 趣味11講座 | 地域交流2講座 |

## 教室の実施場所

長浜公民館　長浜小学校　西中学校体育館
長浜農業高校　長浜バイオ大学

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】小学生**（1年生～6年生）
**【参加人数】 平日**　（　　）人
土日・祝日　（　42.0　）人
長期休暇　（　88.3　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**地域の大人と子どものふれあいの機会をとり持つことを一つの基準とし、講座内容に沿って適任な方に依頼している。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | 2 | ー | 0～3 | 1～2 |
| 登録者数 | ー | ー | ー | ー |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**参加は、保護者の送迎を原則とし、毎月の募集チラシで呼びかけている。

**【緊急対応】**「土曜学び座安全マニュアル」に基づき対応。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**コーディネーターや職員が場面に応じて支援体制はあるが、現在該当者なし。

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加　把握なし**

## 地域の機関等との連携

**【学校】**予定表の配布・申込書の回収
**【学校支援地域本部】**学校支援メニュー等の情報提供あり
**【児童クラブ】**長期休業中の出前講座
**【地域】**講師、ボランティアスタッフの依頼
**【企業・大学】**連携した講座を開催
**【その他】**市内関連施設との情報交換

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：子どもたちの週末の居場所づくりとして定着してきた。

**【子どもの声】**：やっぱりお菓子作りが一番好き。お友達と作ったり、お母さんと作ったりするのが楽しい。

**【保護者の声】**：家庭ではできない経験ができてありがたい。

**【スタッフの声】**：子どもたちからエネルギーをもらっている。土曜学び座が地域にも定着しつつあり今後様々な活動に地域の方が関わって頂けるよう、かけはし役も担っていきたい。

# 長浜市　　土曜学び座　　長浜北小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ● | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 27 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | |

## 活　動　内　容

「手話で話そう」
「聞こえない人との会話はどうすればよいの？」という問いに戸惑っていた子どもたちでしたが、講師（実際に聞こえない人）から口話・空書き・ジェスチャー・手話など色んな方法を教えてもらい、早速手話で自分の名前の自己紹介をしあいました。先生にもちゃんと伝えることが出来て自信満々でした。帰りには手話であいさつも出来てみんなでお礼を言って講座を終わりました。何かを掴んで帰ってくれたと思います。

「リズムダンス」
３Ｂ体操を取り入れながら色んなリズムに挑戦した「リズムダンス」です。１回では把握出来ないので今回は５回シリーズで実施しました。参加された保護者の方も、最初恥ずかしそうにされていたけれど、子どもたちとダンスする楽しさと身体を動かすことが楽しかったと言われ毎回参加されていた保護者の方もおられました。適度な運動は身体にはもちろん、脳の活性化にも繋がるので次回も継続してシリーズで実施したいと思っています。次年度は発表出来る場も考えています。

## 教室の実施場所

養蚕の館・長浜公民館・神照公民館

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校1年生～6年生
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
土日・祝日　　（　17 ）人
長期休暇　　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
施設から直接依頼します。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | ー | ー | 1 | 1 |
| 登録者数 | | | | |

ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】** 保護者の送迎を原則としている。帰る時は保護者の方が来られるまで見守り。

**【緊急対応】** 土曜学び座安全マニュアルに基づき対応。参加申し込み名簿には電話番号を記載。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**
地域担当の先生に相談。必要があれば対応。

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加** （把握なし）

## 地域の機関等との連携

**【学校】**地域担当・教頭先生にお願いしている。
**【学校支援地域本部】**なし
**【児童クラブ】** なし
**【地域】** 青少年育成会議・地域住民にボランティアを依頼。
**【企業・大学】**プログラムの紹介や講師の派遣
**【その他】** 他公民館との情報交換

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: シリーズの講座は深く進めていくことが可能であるため今後もシリーズで奥深く講座を実施していきたい。

**【子どもの声】**: 楽しかった。次回もやってほしい。

**【保護者の声】**: 参加して良かった。子どもと一緒に身体を動かす機会が良かった。

**【スタッフの声】**: 子どもたちと関わることで逆に学ぶことが多く今後も関わっていきたい。

# 長浜市　　土曜学び座　　神照小学校区

| 実施場所 | 学校内 | △ | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 19 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 1 日 |

## 活　動　内　容

1) 体験学習
　○さつまいも　：苗植えから収穫, 料理まで
　○もち米　　：田植えから収穫, もちつき
　　しめ縄まで

田植え

しめなわづくり

　○デイキャンプ：地元の歴史を学ぶ
　　・小谷城跡へ登山
　　・歴史資料館見学

2) スポーツ
　○3世代交流グラウンドゴルフ
　○むかしなつかし外遊び
　　転がしドッジボール, ゴムとび,
　　フリスビー, キャッチング・ザ・ポール
3) アート（工作）
　○テープサート, 絵手紙, プルトップの小物
　　デコスィーツホルダー, スノードーム
　　クリスマスの小物, 腹話術の人形づくり

4) 料理
　○さつまいも料理,　がらたてづくり,
　　バレンタインお菓子作り

## 教室の実施場所

神照公民館　神照小学校体育館
学区内の畑・田んぼ
小谷山及びその周辺

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 1年生～6年生
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
　　土日・祝日　　（　18．7）人
　　長期休暇　　（　　）人
　　※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
　地域の方々に声をかけ講師やお手伝いをお願いしている。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | － | － | 2 | 1 |
| 登録者数 | 2 | － | | － |

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】** 保護者の送迎を原則としている。帰る時は最後の一人まで見守る。

**【緊急対応】** 土曜学び座安全マニュアルに基づき対応。参加申し込み名簿に電話番号を記載。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**
　地域担当の先生に相談。必要があれば対応する。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（把握なし）

## 地域の機関等との連携

**【学校】** 神照小学校
**【学校支援地域本部】** 無し
**【児童クラブ】** 無し
**【地域】** 青少年育成会議・子ども会等地域住民団体
**【企業・大学】**
プログラムの紹介や講師の派遣
**【その他】** 他公民館との情報交換

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：異学年・保護者同士の交流ができ協力しあうことが出来るようになった。地域の方々のおかげで自然体験ができ交流もできた。
男女共に参加したくなる講座を企画したい。

**【子どもの声】**：「楽しかった」「また来るわ」「家で教えたるわ」

**【保護者の声】**：「楽しかった」「良かった」「いい経験をさせてもらった」

**【スタッフの声】**：学び座から色んな発見があり驚き、楽しく、やりがいがある。出来るだけ子どもに役割を持たせて皆でつくるイメージの学び座を目指したい。

# 長浜市　　土曜学び座　　南郷里小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 13 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

◆キユーピー株式会社の出前講座「マヨネーズ教室」を依頼。マヨネーズ工場の様子や食育についてビデオなどで学び、マヨネーズを作って試食。油汚れを水できれいに洗う方法まで教えていただいた。終了後のアンケートによると、子ども、保護者共に好評であった。

◆「みんなで大きな絵をかこう」と題し、２ｍ×４ｍの模造紙にポスターカラーやクレパスを使って絵を描いたり、手のひらに絵の具をつけ、紅葉に見立てたりして仕上げた。みんなで協力して一つの作品を作るために、譲り合うことなどを学べた。作品は文化祭に展示し、多くの来場者に見ていただいた。

◆他「わくわくおたのしみ会」「おりがみでフラワーアート」「たなばたささかざり」「あそびの宝ばこ」「Ｍｙうちわをつくろう」「マグネットクリップ」「たのしくからだをうごかそう」

## 教室の実施場所

南郷里公民館・南郷里小学校体育館

## 参加対象学年・参加人数

【対　　象】南郷里小学校 1年～6年生
【参加人数】平日　　(　　)人
土日・祝日　　( 32.8 )人
長期休暇　　(　　)人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
公民館利用者や地域団体に声かけして依頼。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | － | ー | 1 | 1 |
| 登録者数 | ー | ー | | |

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
保護者の送迎が原則。講座終了後は全員が帰宅するまで職員が見守り。
**【緊急対応】**
土曜学び座安全管理マニュアルに基づき対応。
**【配慮の必要な子どもへの対応】**
保護者が一緒に参加されている。保護者、学校との連携が必要。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（ 1 ）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　予定表の配布、申し込み用紙の回収
**【学校支援地域本部】**　なし
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**　民生委員児童委員
**【企業・大学】**　なし
**【その他】**

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 挨拶はほぼできるようになった。時間を守ることについては保護者の協力も必要。

**【子どもの声】**: 「楽しかった」「またやってほしい」

**【保護者の声】**: 子どもが楽しみにしています。

**【スタッフの声】**: 子どもたちの自主性、発想を活かせる講座を企画していきたい。

# 長浜市　　土曜学び座　北郷里小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 0 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 17 日 |

## 活　動　内　容

１）地域の方とのふれあい：三世代交流餅つき大会　・しめ縄つくり・長巻きすしつくり・フルーツ大福わらび餅クッキーつくり（健康推進員講師）
２）異年齢の人との交流：お化け屋敷をつくろう・卓球
３）さまざまなジャンルの体験：マジック・カーネーションつくり・砂絵・盲導犬にふれよう・木と遊ぼう・ユニカール・キャンドルつくり・ハンドベル

## 教室の実施場所

北郷里公民館・北郷里小学校体育館・屋外講座

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学生1～6年（講座内容により幼稚園児）
**【参加人数】** 平日　（ － ）人
土日・祝日　（ 21.４ ）人
長期休暇　（ － ）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
募集していない。　・コーディネーター１名
・地域のボランティアスタッフ　２名

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | － | － | 2 | 1 |
| 登録者数 | － | － | － | － |

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】** 原則として、保護者の方に送迎をお願いしている。

**【緊急対応】** 「土曜学び座安全マニアル」に基づき対応している。参加者の連絡先は申込み時に記入。

**【配慮の必要な子どもへの対応】** スタッフが気にかけながら、時折注意している。

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（ － ）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】** 学び座の案内配布・回収
**【学校支援地域本部】** 無し
**【児童クラブ】** 無し
**【地域】** 地区青少年育成会・地区社会福祉協議会
**【企業・大学】** 無し
**【その他】** 市内ボランティアサークルと連携し、講師をお願いしている。

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 子どもの意見を聞きながら、興味を持ってくれるような講座を考えたい。

**【子どもの声】**:「もっと、スポーツして！」「お菓子つくりたい！」「学び座たのしい！」

**【保護者の声】**:「学び座喜んで参加してます。」「習ってきたことを色々教えてくれます。」

**【スタッフの声】**: 子どもの喜ぶ顔を見ていると満足する。参加する子どもが固定化している。
他の子どもにも呼びかけたい。子ども達に忍耐力をつけたい。

# 長浜市　　土曜学び座　　長浜南小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 29 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 4 日 |

## 活　動　内　容

①料理教室４回（親子料理・そば打ち・クリスマスのお菓子・いちご大福つくり）講師は健康推進委員や地域の方に依頼。
②スポーツ教室５回（３世代交流グラウンドゴルフ大会・相撲大会・卓球教室・雪遊び）講師は地域サークルの方に依頼。
③体験・工作教室６回（工場見学ツアー・エコクラフト教室・切り絵・森の工作教室・食エコ体験）
④地域行事との合同開催２０回（グラウンドゴルフ大会・バイオ大学科学教室・キャンプ・運動会・文化祭・クリーン作戦・こどもふれあいフェスタなど）地域づくり協議会などが主催するイベントに参加する形で実施。

## 教室の実施場所

神田公民館・西黒田公民館・六荘公民館

## 参加対象学年・参加人数

【対　　象】小学1～6年生　講座によって保護者参加可
【参加人数】平日　　（　－　）人
土日・祝日　　（小学生21・全体41）人
長期休暇　　（小学生18・全体36）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用・募集方法】
通常の行事とあわせて開催するときは、地域の広報誌に情報を掲載したり、別にチラシを配布したりしている。
【スタッフ配置人数】　3つの公民館で1学区を担当している

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | － | － | 3 | 1 |
| 登録者数 | － | － | － | － |

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

【送迎】 基本的に保護者の送迎

【緊急対応】 受付時に個々の連絡先を把握している。

【配慮の必要な子どもへの対応】
グループ分けの時に大人の目の届くようにしている。
◎特別支援学級（学校）の子どもの参加（ － ）人

## 地域の機関等との連携

【学校】 長浜南小学校
【学校支援地域本部】 無し
【児童クラブ】 無し
【地域】 ３地区の地域づくり協議会
【企業・大学】 無し
【その他】 青少年・子ども会との連携

## 事業を実施して

【成果と課題】: 地域行事との合同開催が多いため、地域の人々と児童がふれあう良い機会となっている。設定予定人数に申し込みが満たないことが多い。

【子どもの声】: 色々な事がいっぱい学べて楽しかった。

【保護者の声】: 土曜日、学校の授業の補足として理科の実験などをしてほしい。

【スタッフの声】: 子どもたちの細かい作業をする時の集中力や豊かな発想力に驚かされます。

# 長浜市土曜学び座　浅井地区（湯田・田根・下草野・上草野・七尾小学校区）

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 126 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 12 日 |

## 活　動　内　容

≪土曜学び座≫
通常は各学区（浅井地区は5学区、5公民館）を対象に、各館がそれぞれ企画し、開催しています。
【工作・絵画】ボンボンマスコットづくり，デコスイーツ，母の日のカード作り，石鹸デコパージュ，スクラップブッキング，色ぬり教室，マンダラぬり絵他
【料理】ババロアとメッセージカード作り，作ってみようリンゴ餃子，クリスマスケーキを作ろう，よもぎ団子づくり，手作りランチ，がらたてづくり他
【実験・観察】マリーゴールド染め・マーカーの実験
【スポーツ】キッズダンス，スポーツ吹矢　，カヌー教室
【音楽】クリスマスコンサート
【伝統文化】Kids書道教室，百人一首，勾玉づくり
【自然体験】初夏の俳句づくりに挑戦
【地域交流】カラオケ大会inほたるまつり，たまり場へいこう，子どもフリーマーケット，大学生のみなさんと遊ぼう
【その他】Ipadであそぼう
≪あざいぷれすく2≫
年間を通して参加する講座で、子どもが中心となり活動しています。毎回、楽しみにしてきてくれ、スキルアップをしています。また浅井地区全体の小学校対象のため、学区間、異年齢の子ども達同士のふれあいの場になっています。
将棋教室　年11回　　陶芸美術教室　年8回
ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ教室　年9回　ﾌｯﾄｻﾙ教室　月2回
フラワーアレンジメント教室　年3回
ｷﾞﾀｰ＆ﾍﾞｰｽﾚｯｽﾝ　年8回
イラスト倶楽部　年9回

キッズダンス

スクラップブッキング

## 教室の実施場所

浅井地区５公民館
（湯田・田根・下草野・上草野　・七尾）
浅井体育館

## 参加対象学年・参加人数

【対　　象】小学校1年生から6年生
【参加人数】平日　（　　）人
土日・祝日　（　14.6　）人
長期休暇　（　10.7　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用・募集方法】講座の内容によっては、ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰや、地域の方々、保護者の方に協力をお願いしている。

【スタッフ配置人数】

| | 安全管理員 | 学習ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | － | | 1 | 1 |
| 登録者数 | | | | |

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

【送迎】　参加は保護者の送迎を原則とし、できない場合は、近所と友達と誘い合わせて参加するよう呼びかけています。

【緊急対応】「土曜学び座安全マニュアル」に基づき対応、募集の際に連絡先を聞いておき、緊急時に連絡が取れるようにしています。

【配慮の必要な子どもへの対応】保護者の人や、子ども達に様子を聞いたり、自信が持てるように声かけをしてあげられるよう心がけています。
◎特別支援学級（学校）の子どもの参加（　ー　）人

## 地域の機関等との連携

【学校】チラシの配布依頼・ポスター、見本の展示
【学校支援地域本部】無し
【児童クラブ】　無し
【地域】地域が主催する事業・祭りなどとの合同開催することもある。
【企業・大学】無し
【その他】無し

## 事業を実施して

【成果と課題】：子ども達との交流やいろいろな体験の場を提供できてよかった。今後も子ども達がいきいきと活動できる講座を考えていきたい。
【子どもの声】：「毎回楽しみにしている」「スポ少や習い事でこれなくて残念」
【保護者の声】：子どもと一緒に参加してくれる保護者の方もおられ、関心を持ってくれている。「工作をしたのは何年振りだろう」「とても楽しい」などととても喜んでくれている。
【スタッフの声】：今後もさまざまなジャンルの中から、子ども達が興味を持つような講座を考え、子ども達の活動の場・体験の場を提供していきたい。

# 長浜市　　土曜学び座　びわ北・びわ南小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 13 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 1 日 |

## 活　動　内　容

○工作
ネイチャークラフト、平面キューブ、砂絵など

ネイチャークラフト

枝木や木の実と人工物を組み合わせて自由に工作する。毎年恒例の講座で、回を重ねるごとに個性的な作品がたくさん作られる。自由な発想で作れるので、みんなが待っていてくれる講座である。

○体験　　新春お楽しみ会、遊びのフリマ

○料理　　ティラミス、おにぎり

○スポーツ　バドミントン

バドミントン

基礎から教えてもらい、最後は講師の方と打ち合いをしてもらう。スポーツの講座は参加者が少ないが、バドミントンは身近なスポーツということもあり参加者も多く、今後も続けて行きたい。

## 教室の実施場所

びわ公民館

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校1～6年
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
土日・祝日　（　48.1 ）人
長期休暇　　（　83.0 ）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
講座内容や参加人数によってその都度、地域の方や公民館のボランティアグループにお願いする。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | ー | | 3 | 1 |
| 登録者数 | | | | |

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】** 保護者の送迎

**【緊急対応】** 安全管理マニュアルに基づき対応。また、申込書提出時に連絡先の記入をお願いしている。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**　（　ー　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】** 予定表の配布・申込書の回収
**【学校支援地域本部】** 無し
**【児童クラブ】** 無し
**【地域】** 無し
**【企業・大学】** 無し
**【その他】** ボランティアグループ『サークル・キラリびわ』

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 〖成果〗毎回多くの児童が参加してくれる。
〖課題〗事業によっては多くのスタッフを必要とする。ボランティアスタッフの増員方策について組織化するなど、研究の必要がある。

**【子どもの声】**: 「次はなにするの？」「バドミントンまたやって！」

**【保護者の声】**: 「普段体験できないことができてよかった。」

**【スタッフの声】**: 今後も多くの子どもの居場所となるような講座を企画したい。

# 長浜市　　土曜学び座　　虎姫小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 17 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | |

## 活　動　内　容

〇ものづくり（ネィチャークラフト、紙粘土）
〇エコ学習（ふうりんづくり）
〇スポーツ（卓球、ボウリング）
〇料理（バウムクーヘン、和菓子など）

## 教室の実施場所

虎姫公民館、虎姫中学校体育館

## 参加対象学年・参加人数

【対　　象】小学1年～6年
【参加人数】平日　　（　　）人
土日・祝日　（ 15．5 ）人
長期休暇　　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用・募集方法】

【スタッフ配置人数】

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | ー | ー | 2 | 1 |
| 登録者数 | ー | ー | | |

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

【送迎】　保護者の送迎

【緊急対応】「土曜学び座安全マニュアル」に基づき対応している。毎回、参加者（保護者）の緊急連絡先の提出をお願いしている。

【配慮の必要な子どもへの対応】

◎特別支援学級（学校）の子どもの参加（ ー ）人

## 地域の機関等との連携

【学校】　無し
【学校支援地域本部】　無し
【児童クラブ】　無し
【地域】　無し
【企業・大学】　無し
【その他】　無し

## 事業を実施して

【成果と課題】: 参加してくれた子どもたちは喜んで帰っていく。高学年の参加が無い。材料費が高いと参加が少ない。部屋の中でのプログラムには限りがあり、なかなか参加者が集まらない。

【子どもの声】: 物づくりが好きだから、また来るね。と言ってくれる男の子もいる。

【保護者の声】: 楽しいのに。もっと参加があるといいですね。

【スタッフの声】: スポ少に１年生から加入している子どもがいるし、３年生以上となると５０％を超えている。必然的に参加率が下がる。室内での活動だけでなく野外での活動も取り入れるプログラムができないか模索している。

# 長浜市　　土曜学び座　　湖北小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | △ | 年間開催日数 | 20 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 3 日 |

## 活　動　内　容

・造形あそび教室（公民館教室で自主事業）
毎月第１土曜日開催。
４月フィルムケースを使ってはんこ
５月マーブリング絵の具を使って紙染め
６～８月染め紙を使って、ｽﾃﾝｼﾙﾛｰﾗｰ
９・１０月粘土でお菓子つくり
１１月指先に絵の具をつけて絵を描く
１２月ちぎり絵
１月スチレン版画
２月

・土曜学び座
毎月１～２回開催。
４月アイロンビーズ
５月バスボム
６月大豆でかりんとう（湖北の特産を使う）
　マグネットクリップ
７月染め紙でうちわ
　手話教室
８月サンドブラスト（親子で参加）
　しゃぼん玉とスライム
９月勾玉作り
　手作り月見だんご
１０月ボンボンマスコット
　ランプシェード
１１月ケークサレで簡単ブランチ
　来年のカレンダー作り
１２月チャンバラフィットネス
１月デコスイーツ
　ホールで遊ぼう
２月海苔巻きで節分
　おひなさまつくり
３月ホワイトデーのお菓子

## 教室の実施場所

湖北公民館（厨房・会議室・工房・和室）
湖北文化ホール

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 1～6年生
**【参加人数】** 平日　（　30　）人
土日・祝日　（ 32.５ ）人
長期休暇　（　15　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
特になし

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | － | | 2 | 1 |
| 登録者数 | 5 | | 2 | 11 |

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】** 保護者の方に部屋までの送迎をお願いし、直接、保護者の方に子どもを引き渡し、併設施設で待たせることは一切お断りしている。
**【緊急対応】** 職員が普通救命講習を受講している。救急箱・ＡＥＤ装置を常備している。連絡先は周知している。
**【配慮の必要な子どもへの対応】** 必要な場合は保護者から対応方法を聞いておく。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加** (0)人

## 地域の機関等との連携

**【学校】** 課題があれば連絡をとる
**【学校支援地域本部】** 無し
**【児童クラブ】** 無し
**【地域】** 地域で活躍されている方・団体を講師に依頼する。
**【企業・大学】** 出前講座を依頼する企業がある
**【その他】** 無し

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 講座によっては高学年の参加もあるので、内容の程度に差が必要な時がある。工作系の講座はかなり人気が高く、ホールを使用する事が増えた。スポーツ系の講座のあり方を考える必要がある。低学年の参加が多く、どうしても手をかけがちになるが、できるだけ子どもの自主性を重んじ、達成感を味わえる活動にしていく。
**【子どもの声】**: ・何でもやってみたい。・美味しかったから家でも作ってみたい。・お母さんに見せてあげる！・もっといっぱい作りたい。・スポ少が無い時は行く。
**【保護者の声】**: 家では材料を揃えるのも大変だし、広々とできないので、色々体験させていただけて嬉しいです。
**【スタッフの声】**: それぞれが一生懸命取り組んでいる姿や楽しそうにしている様子をみると嬉しくなる。せっかく３小学校が寄っているので、もっと異小学校同士や異学年の交流が自然とできる場になればと思う。

# 長浜市　土曜学び座　高月（富永・高月・古保利・七郷）小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 17日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | |

## 活　動　内　容

「日本のことを知ろう、見よう、やってみよう！」をテーマに日本らしさに挑戦しています。
〇古来より稽古ごとと呼ばれた伝統文化から、生け花、茶道、日本舞踊の教室を開催。師匠（講師）には高月公民館で活動する各サークルの方々に依頼。礼儀作法から習いました。

〇日本の工芸からちぎり絵・染色にも挑戦しました。美しい作品ができあがりました。

〇日本の食文化にも注目し、身近な食べ物の中から豆腐と蕎麦を取り上げ手作りの味を楽しみました。また祭りには欠かせないみたらし団子も作って、みんなで美味しくいただきました。
〇１月には「お正月あそびを楽しもう」と称して昔の正月遊び、かるた・こま回し、羽子板などをやってみました。日本の昔の遊びも結構楽しめました。

## 教室の実施場所

高月公民館（長浜市高月町渡岸寺141-1）

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校全学年児童
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
土日・祝日　（　17　）人
長期休暇　　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**　公民館サークル代表者会議を開き、趣旨を説明、講師の依頼。特技としている人へ直接指導

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | ー | ー | ー | 4 |
| 登録者数 | ー | ー | ー | ー |

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**　保護者による送迎

**【緊急対応】**　「土曜学び座安全マニュアル」に基づき対応。申込時に個々の連絡先を把握している。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**　（　－　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　富永・高月・古保利・七郷小学校
**【学校支援地域本部】**　無し
**【児童クラブ】**
**【地域】**　高月地域づくり協議会
**【企業・大学】**　無し
**【その他】**

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：年間を通してテーマと日程を決め取り組んだことで、ぶれずに深めることができた。講師も公民館サークルの方々に依頼したことで、地域の子どもたちとの交流ができ両方に良い体験となった。

**【子どもの声】**：むずかしいところもあったけど楽しかった。

**【保護者の声】**：子どもと一緒に参加でき、日本文化をの素晴らしさを改めて知ることができました。近年、住まいを始め生活に「和」が無くなりつつあり日本の伝統文化を活かす場面が少なくなってきています。次世代に意識してつなげていく努力が必要になりました。

**【スタッフの声】**：今年度学び座で取り組んだことで少しは子どもたちに日本の良さを感じてもらえたかどうか楽しみです。

# 長浜市　　土曜学び座　　木之本小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 14 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 1 日 |

## 活　動　内　容

月２回を基本として、その内１回をキッズアートグループの協力を得て実施。テーマとして自由に描く・創る・表現する事で、アートの力を借りて自分自身を大切にする心・仲間を思いやる心を育んでいます。

もう１回は紙･自然・布・糸等を使い、また、スポーツなどを取り入れ体験学習を中心に行っています。

## 教室の実施場所

公立木之本公民館

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 1～6年

**【参加人数】** 平日　　(　　)人
土日･祝日　　( 9.7 )人
長期休暇　　( 9 )人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用･募集方法】**　無し

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | － | － | 1 | 1～2 |
| 登録者数 | － | － | － | － |

※ボランティア･講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**　保護者での送迎

**【緊急対応】** 公民館で応急処置をし、保護者に連絡する

**【配慮の必要な子どもへの対応】**

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（ － )人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　無し
**【学校支援地域本部】**　無し
**【児童クラブ】**　無し
**【地域】**　無し
**【企業･大学】**　無し
**【その他】**　無し

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 高学年が低学年に優しく教えることが出来、学年に関係なくみんな仲が良い。
参加者が固定化している。

**【子どもの声】**: いろんな物が作れてうれしい、毎回楽しみにしている。

**【保護者の声】**: 親同士の交流も出来て良い。

**【スタッフの声】**: 子どもが笑顔で帰っていく姿を見ると、こちらもうれしくなる。
地域のボランティアの発掘が必要。

# 長浜市　　土曜学び座　　余呉小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 15 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

４月
「みにみにミニチュアクッキング」
５月
「ツクル・アソベルキューブパズル」
「おっ、おにぎりなんだな・・・」
６月
「たまごＫＡＲＡマスコット」
「あめとたこ？」
７月
「しゃぼんだまづくし」
「ブロックＤＥペーパーウエート」
９月
「ハッピーフェイスのマグネット！作るッピー」
１０月
「かぶるんジャー１」
「かぶるんジャー２」
１１月
「プラバンでオリジナルmyストラップを作ろうよ！」（はごろもアートフェスティバル）
「いもーいもーやきいもやでー」
１２月
「クリスマスお楽しみ会」
１月
「体をつかってあそびましょ～」
２月
「そば打ち体験」

## 教室の実施場所

余呉文化ホール

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】**　余呉小学校1～6年生
**【参加人数】**　平日　（　　）人
土日・祝日　（　20　）人
長期休暇　（　0　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
無し　参加の保護者が協力

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | － | － | 2 | － |
| 登録者数 | － | － | － | － |

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
原則として保護者で送迎。毎月その事を掲載。
**【緊急対応】**
「土曜学び座安全マニュアル」に基づき対応。
**【配慮の必要な子どもへの対応】**

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（ － ）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】** 毎月チラシ配布、参加申込書回収箱を依頼
**【学校支援地域本部】**　無し
**【児童クラブ】**　無し
**【地域】**　地域行事や園、小学校との調整
**【企業・大学】**　無し
**【その他】**　青少年育成、文化芸術協会、社協との連携

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 楽しい中にもルールーや助け合いの大切さを学んでくれたと思います。

**【子どもの声】**: 「楽しかったー！」「がんばった！」

**【保護者の声】**: 「（子どもが）楽しみにしてるよ。」

**【スタッフの声】**: 地域の方々の協力を得ながら、色々なことを計画していきたいと思います。

# 長浜市　　土曜学び座　西浅井（塩津・永原）小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 14 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 2 日 |

## 活　動　内　容

毎月１～２回開催
・ふる一つ大福づくり
・お琴をひこう
・アートバルーンにちょうせん
・七夕ささかざりとデザートづくり
・スイーツデコ
・グラスデコ
・３Ｄアートおめんづくり
・デコパージュせっけんづくり
（西浅井文化祭、土曜学び座体験コーナー）
・手作りボンボンでマスコットづくり
・おもちつき大会
・肉まんづくり
・ひな人形づくり
・カレンダーづくり

アートバルーンにちょうせん

お琴をひこう

## 教室の実施場所

西浅井公民館

## 参加対象学年・参加人数

【対　象】小学生1年～6年
【参加人数】平日　（　０）人
土日・祝日　（18，1）人
長期休暇　（18，5）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用・募集方法】
特に行っていないが参加人数や講座の内容によってコーディネーターや地域の方のお手伝いをお願いしている。

【スタッフ配置人数】

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | － | － | 3 | 1 |
| 登録者数 | － | － | － | － |

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

【送迎】
基本的に保護者の送迎

【緊急対応】
土曜学び座安全管理マニュアルに基き対応。

【配慮の必要な子どもへの対応】
無し
◎特別支援学級（学校）の子どもの参加（　１　）人

## 地域の機関等との連携

【学校】塩津・永原小学校～チラシ配布、申込み受け付け
【学校支援地域本部】無し
【児童クラブ】無し
【地域】青少年育成会・子ども会・老人クラブ
【企業・大学】無し
【その他】

## 事業を実施して

【成果と課題】：土曜学び座は定着してきているが、参加人数が少ないことや参加者が限られてきていることが課題。

【子どもの声】：「参加してよかった」「いつも楽しみにしている」

【保護者の声】：「いつも楽しみにしています」という声もある一方で「送り迎えができず参加できない」という声も多い。

【スタッフの声】：今後も子どもたちの居場所として、また地域の方々とのふれあいの場としても参加を呼びかけたい。

# 栗東市

連絡先
栗東市教育委員会　生涯学習課
TEL　０７７－５５１－０４９６
FAX　０７７－５５２－５５４４
E-mail　syogaigakusyu@city.ritto.lg.jp

## １　運営委員会組織

運営委員会名

栗東市地域教育協議会

委員数　（　１６　）人

構成委員（所属・役職名）

各学区地域教育協議会またはふれあい子ども広場スタッフ、学童保育所、校長会
ＰＴＡ連絡協議会、民生委員児童委員協議会、社会教育委員、子育て応援課、学校教育課

## ２　運営委員会の協議内容

| 回 | 実　施　日 | 参加人数 | 協　　議　　内　　容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ８月２７日（月） | １１人 | 平成２３年度「放課後子ども教室」推進事業報告及び決算<br>平成２４年度「放課後子ども教室」推進事業計画及び予算<br>「放課後子ども教室」の現状<br>「放課後児童健全育成事業」との連携 |
| 2 | ３月 | | 平成２４年度「放課後子ども教室」の実施結果について<br>平成２４年度「放課後子ども教室」のアンケート結果<br>次年度「放課後子ども教室」推進事業について<br>「放課後児童健全育成事業」との連携 |

## ３　広報

参加者の募集チラシを各小学校へ配布。
コミニュティーセンター広報誌に支援者募集を掲載

## ４　連携している関係機関、団体（学校・地域・企業）、指導者および連携・協力内容

- コミュニティセンターが、地域の支援者と栗東市地域教育協議会事務局・コーディネーターとのパイプ役、地域の支援者の相談役となっているところもある。
- 民生委員児童委員や体育指導委員のなかには安全管理員として登録してくれているかたもいる。
- 各小学校とは体育館の使用、備品の貸し出しや備品を置くスペースの提供、参加児童への呼びかけ、次月案内文を月末に手渡ししているので欠席した参加者へ学校から渡してもらうことなどで協力してもらっている。
- 学童保育指導者への研修会への参加の呼びかけ

## ５　スタッフの研修・ミーティングなど

＜研修会　１２月１３日（木）＞救命救急の講習　講師：消防署職員
対象：安全管理員、学童保育指導者
＜ミーティング＞月に一度程度、安全管理員が集まり活動内容について話し合う教室がある。

# 栗東市　葉山東ふれあい子ども広場　葉山東小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ● | 活動の特徴 | 自由活動型 | ● | 開催日 | 平日 | ● | 年間開催日数 | 29 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ― | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

スポーツ

囲碁･将棋

クラフト

【スケジュール】
①出席確認　②宿題　　③囲碁・将棋、クラフト、スポーツ　④お迎え

3グループに分かれて実施。「囲碁・将棋」「クラフト」はコミニュティーセンター葉山東、「スポーツ」は体育館で行う。
「囲碁・将棋」は初心者向けの基礎、「クラフト」は折り紙、塗り絵、手芸など、「スポーツ」はドッジボール・縄跳び・バドミントン・卓球などを子どもたちが自由に選択し遊ぶ。上級生は下級生のまとめ役をしてもら

## 教室の実施場所

葉山東小学校体育館　コミュニティセンター葉山東

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 1～6年
**【参加人数】** 平日　　（　27.3　）人
土日･祝日　（　　）人
長期休暇　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用･募集方法】** 地域の方々に声をかけ参加してもらっている。参加している方に誘われて、来てくれる方もいる。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 8 | － | － | － |
| 登録者数 | 14 | － | － | － |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**保護者の迎えが参加条件になっている

**【緊急対応】**参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらったり、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュアル･救急箱を用意。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　0　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　学校と体育館の調整や緊急時の協力などしてもらうよう話をしている。月末に次月の案内文を手渡ししているので欠席者がいたら学校から渡してもらうようにしている。

**【学校支援地域本部】**　なし

**【児童クラブ】**　なし

**【地域】**　民生委員・体育指導員の方が参加してくれている。コミュニティセンターと連携してスタッフとの仲介・道具の保管などしてもらっている。

**【企業･大学】**　なし

**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 異学年の交流、リーダーの役割を学んでいる。地域の子どもを地域で育てる取組となってきている。協力者を増やし、スタッフ一人当たりの負担を減らして継続的な活動になるようにしていく。

**【子どもの声】**: 友達に会えて楽しい。お楽しみ会が楽しい。

**【保護者の声】**: 地域のかたとふれあえるいい場所だと思う。

**【スタッフの声】**: 安全面に気をつけて元気に活動してほしい。行儀などの意識も持たせたい。

# 栗東市　はるたっこ広場　治田小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ● | 活動の特徴 | 自由活動型 | ● | 開催日 | 平日 | ● | 年間開催日数 | 27 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | △ | | 土日・祝日 | ― | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

自由に遊ぼう

いろいろつくろうよ

【スケジュール】
①出席確認　②宿題　　③ラジオ体操　④自由遊び　⑤お迎え

授業終了時間が早い低学年はコミニュティーセンター治田に集まる。体育館が空いたら移動。
主に縄跳び・バドミントン・ボール投げ・折り紙・クラフトなどを子どもたちが自由に選択し遊ぶ。
スタッフの考えた遊びや季節の催し（七夕・クリスマスなど）も計画して取り入れている。

## 教室の実施場所

治田小学校体育館・コミニュティセンター治田

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 1～6年
**【参加人数】** 平日　　（　49.2　）人
土日・祝日　（　　）人
長期休暇　　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** 地域の方々・保護者に声をかけ参加してもらっている。参加している地域の方に誘われて、来てくれる方もいる。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 6 | － | － | － |
| 登録者数 | 7 | － | － | － |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**保護者の迎えが参加条件になっている
**【緊急対応】**参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらったり、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュアル・救急箱を用意。
**【配慮の必要な子どもへの対応】**

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　0　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　学校と体育館の調整や緊急時の協力などしてもらうよう話をしている。月末に次月の案内文を手渡ししているので欠席者がいたら学校から渡してもらうようにしている。
**【学校支援地域本部】**　　なし
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**　民生委員の方が参加してくれている。コミュニティセンターと連携してスタッフとの仲介・道具の保管などしてもらっている。
**【企業・大学】**　なし
**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 異学年の交流、リーダーの役割を学んでいる。地域の子どもを地域で育てる取組となってきている。協力者を増やし、スタッフ一人当たりの負担を減らして継続的な活動になるようにしていく。

**【子どもの声】**: ボール遊びや折り紙などが楽しい。スタッフの人が遊んでくれて楽しい。

**【保護者の声】**: 元気に遊んで子どもも楽しそう。

**【スタッフの声】**: 安全に配慮し子ども達を自由に遊ばせたい。

# 栗東市　チャレンジはるひがっこ 治田東小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ● | 活動の特徴 | 自由活動型 | ● | 開催日 | 平日 | ● | 年間開催日数 | 27 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | △ | | プログラム型 | △ | | 土日・祝日 | ― | うち長期休暇日数 | 1 日 |

## 活　動　内　容

話をするときはちゃんと聞く

お楽しみ会もあるよ

【スケジュール】
①出席確認　②宿題　　③ラジオ体操　④自由遊び　⑤お迎え

主に縄跳び・バドミントン・ボール投げ・折り紙・クラフトなどを子どもたちが自由に選択し遊ぶ。上級生は下級生のまとめ役をしてもらう。
季節の催し（七夕・クリスマスなど）も計画して取り入れ、お誕生日のお祝いもしている。

## 教室の実施場所

治田東小学校体育館　コミュニティセンター治田東

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 1～6年
**【参加人数】** 平日　（　40.4　）人
土日・祝日　（　　）人
長期休暇　（　42.0　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** 地域の方々、保護者の方に声をかけ参加してもらっている。参加している方に誘われて、来てくれる方もいる。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 6 | － | － | － |
| 登録者数 | 9 | － | － | － |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**保護者の迎えが参加条件になっている。

**【緊急対応】**参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらったり、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュアル・救急箱を用意。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　0　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】** 学校と体育館の調整や緊急時の協力などしてもらうよう話をしている。月末に次月の案内文を手渡ししているので欠席者がいたら学校から渡してもらうようにしている。

**【学校支援地域本部】**　なし

**【児童クラブ】**　なし

**【地域】**　民生委員の方が参加してくれている。コミュニティセンターと連携してスタッフとの仲介・道具の保管などしてもらっている。

**【企業・大学】**　なし

**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 異学年の交流、リーダーの役割を学んでいる。地域の子どもを地域で育てる取組となってきている。協力者を増やし、スタッフ一人当たりの負担を減らして継続的な活動になるようにしていく。

**【子どもの声】**: ボール遊び、折り紙などが楽しかった。スタッフの人が遊んでくれて楽しい。

**【保護者の声】**: 異学年の交流ができる場所でいいと思う。

**【スタッフの声】**: 安全に気をつけて子ども達にいろいろなことを体験させてあげたい。

# 栗東市　治西のびのび広場　治田西小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ● | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ● | 年間開催日数 | 28 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | △ | うち長期休暇日数 | 5 日 |

## 活　動　内　容

始まりと終わりにあいさつをします

牛乳パックで工作中

【スケジュール】
①出席確認　②活動　③お迎え・分団下校・地域のかたと帰宅

ニュースポーツ、工作、季節に合わせた催し、平和学習、地域の祭りで合唱の発表などを行う。

## 教室の実施場所

治田西小学校体育館　コミュニティセンター治田西

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 1～6年
**【参加人数】** 平日　（ 35.2 ）人
土日・祝日　（ 30.1 ）人
長期休暇　（ 32.1 ）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** 地域の方々、保護者のかたに声をかけ参加してもらっている。参加している方に誘われて、来てくれる方もいる。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 7 | － | － | － |
| 登録者数 | 17 | － | － | － |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**保護者のお迎え、分団下校、地域の方が付き添って帰宅する方法をとっている。
**【緊急対応】**参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらったり、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュアル・救急箱を用意。
**【配慮の必要な子どもへの対応】**
保護者、安全管理員が付き添っている
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（ 2 ）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】** 児童への開催案内作製・配布
活動の計画立案
**【学校支援地域本部】** なし
**【児童クラブ】** なし
**【地域】** 民生委員の方が参加してくれている。コミュニティセンターと連携してスタッフとの仲介・道具の保管などしてもらっている。
**【企業・大学】** なし
**【その他】** なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 異学年の交流ができている。学校・地域・保護者が連携して子どもを育てる取組となってきている。協力者を増やし、スタッフ一人当たりの負担を減らして継続した活動となるようにしていく。

**【子どもの声】**: ニュースポーツが楽しかった。

**【保護者の声】**: いろいろな体験をさせてもらえてよかった。

**【スタッフの声】**: 子ども達が楽しく活動できるようにしたい。

# 栗東市　わくわくタイム　大宝小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ● | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ● | 年間開催日数 | 22 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ー | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ー | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

優しく教えてくれるよ

けん玉できるかな

【スケジュール】
①出席確認　②宿題　③ラジオ体操　④メニュー遊び　⑤ドッジボール　⑥お迎え

紙飛行機、七夕飾り・クリスマスリース作りなど季節に関係する工作やじゃんけんリレー、グラスゴルフ、大玉ころがしなどの運動を子どもたちの要望をもとにスタッフで計画し実施。上級生は下級生のまとめ役をしてもらう。

## 教室の実施場所

大宝小学校体育館

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 1～3年
**【参加人数】** 平日　（　44.3　）人
土日・祝日　（　　）人
長期休暇　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** 地域の方々・保護者に声をかけ参加してもらっている。参加している地域の方に誘われて、来てくれる方もいる。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 8 | － | － | － |
| 登録者数 | 10 | － | － | － |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**保護者の迎えが参加条件になっている
**【緊急対応】**参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらったり、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュアル・救急箱を用意。
**【配慮の必要な子どもへの対応】**

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　0　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　学校と体育館の調整や緊急時の協力などしてもらうよう話をしている。月末に次月の案内文を手渡ししているので欠席者がいたら学校から渡してもらうようにしている。
**【学校支援地域本部】**　なし
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**　民生委員の方が参加してくれている。コミュニティセンターと連携してスタッフとの仲介・道具の保管などしてもらっている。
**【企業・大学】**　なし
**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 異学年の交流、リーダーの役割を学んでいる。地域の子どもを地域で育てる取組となってきている。協力者を増やし、スタッフ一人当たりの負担を減らして継続的な活動になるようにしていく。

**【子どもの声】**: いろんな遊びができて楽しい。ドッジボールが楽しい。

**【保護者の声】**: 地域のかたとふれあえていい場所だと思う。

**【スタッフの声】**: 子どもたちがたくさんの経験を怪我なく活動できるようにしたい。

# 栗東市　大宝西ふれあい子ども広場　大宝西小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ● | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ● | 年間開催日数 | 31 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ー | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

いっしょに遊ぼう

ランドセルや帽子はカゴに入

【スケジュール】
①出席確認　②宿題　③自由遊び④お迎え

主に縄跳び・バドミントン・ボール投げ・折り紙・クラフトなどを子どもたちが自由に選択し遊ぶ。
季節の催し（七夕・クリスマスなど）、平和学習なども取り入れている。上級生は下級生のまとめ役をしてもらう。

## 教室の実施場所

大宝西小学校体育館・コミニュティセンター大宝西

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 1～3年
**【参加人数】** 平日　（　50.1　）人
土日・祝日　（　　）人
長期休暇　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** 地域の方々・保護者に声をかけ参加してもらっている。参加している地域の方に誘われて、来てくれる方もいる。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 12 | | | |
| 登録者数 | 16 | | | |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**保護者の迎えが参加条件になっている
**【緊急対応】**参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらったり、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュアル・救急箱を用意。
**【配慮の必要な子どもへの対応】**

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　0　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　学校と体育館の調整や緊急時の協力などしてもらうよう話をしている。月末に次月の案内文を手渡ししているので欠席者がいたら学校から渡してもらうようにしている。
**【学校支援地域本部】**　なし
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**　民生委員の方が参加してくれている。コミュニティセンターと連携してスタッフとの仲介・道具の保管などしてもらっている。
**【企業・大学】**　なし
**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 異学年の交流、リーダーの役割を学んでいる。地域の子どもを地域で育てる取組となってきている。協力者を増やし、スタッフ一人当たりの負担を減らして継続的な活動になるようにしていく。

**【子どもの声】**: いろいろなことが体験できて楽しい。スタッフの人と遊んで楽しい。

**【保護者の声】**: 子どもが楽しそうでよかった。

**【スタッフの声】**: 怪我なく楽しい場所にしていきたい。

# 栗東市　さんさんキッズ　大宝東小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ● | 活動の特徴 | 自由活動型 | ● | 開催日 | 平日 | ● | 年間開催日数 | 25 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ー | | プログラム型 | ー | | 土日・祝日 | ー | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

元気においかけっこ

おりがみ

【スケジュール】
①出席確認　②宿題　③ラジオ体操　④自由遊び⑤お迎え

体育館でドッジボール・バスケット・フラフープ・縄跳び・ボール遊び、コミュニティルームで本読み・折り紙・お絵かきなど子どもたちが自由に選択し遊ぶ。

## 教室の実施場所

大宝東小学校体育館

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 1～3年
**【参加人数】** 平日　　（　36.1　）人
土日・祝日　（　　）人
長期休暇　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** 地域の方々・保護者に声をかけ参加してもらっている。参加している地域の方に誘われて、来てくれる方もいる。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 9 | － | － | － |
| 登録者数 | 14 | － | － | － |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**保護者の迎えが参加条件になっている

**【緊急対応】**参加者の保護者に活動中いつでも携帯電話などへの連絡がつく状態にしてもらっている。怪我をしたときは先生に協力してもらったり、学校の保健室で対応を依頼することもある。安全管理マニュアル・救急箱を用意。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　0　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　学校と体育館の調整や緊急時の協力などしてもらうよう話をしている。月末に次月の案内文を手渡ししているので欠席者がいたら学校から渡してもらうようにしている。

**【学校支援地域本部】**　　なし

**【児童クラブ】**　なし

**【地域】**民生委員の方が参加してくれている。

**【企業・大学】**　なし

**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 異学年の交流、リーダーの役割を学んでいる。地域の子どもを地域で育てる取組となってきている。協力者を増やし、スタッフ一人当たりの負担を減らして継続的な活動になるようにしていく。

**【子どもの声】**: ボール遊び、折り紙が楽しい。スタッフの人が遊んでくれて楽しい。

**【保護者の声】**: 楽しく遊べる場であってほしい。

**【スタッフの声】**: 安全面に気をつけて遊べるようにしたい。

# 甲賀市

連絡先
甲賀市教育委員会　社会教育課
TEL　0748-86-8021
FAX　0748-86-8380
E-mail　koka30104500@city.koka.lg.jp

## 1　運営委員会組織

運営委員会名

甲賀市放課後子どもプラン
運営委員会

委員数　（　11　）人

構成委員（所属・役職名）

放課後児童クラブ関係者、社会教育委員、PTA 役員、民生委員児童委員、主任児童委員、学校関係者、行政職員

## 2　運営委員会の協議内容

| 回 | 実　施　日 | 参加人数 | 協　議　内　容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 3 月実施予定 | | 実績報告と次年度の予定 |

## 3　広報

小学校を通じ募集チラシの配布
自治会に開催のお知らせ

## 4　連携している関係機関、団体（学校・地域・企業）、指導者および連携・協力内容

特になし

## 5　スタッフの研修・ミーティングなど

自然体験活動担当職員研修
①KYT（危険予知トレーニング）による安全意識の向上
②事業実施における責任体制と書類および下見の必要性
～自然体験活動事業の企画から事業評価のポイントについて～
③野外等における危険要素～応急手当から救急措置まで～
④子どもたちの安全な自然体験活動の実施に向けて（実技研修）
～アイスブレイク、危険予知トレーニング、野外炊飯等～
⑤子どもたちの安全な自然体験活動の実施に向けて（実技研修）
～危険予知トレーニング、着衣泳法～
⑥甲賀市青少年活動安全誓いのつどい「安心安全のまちづくり」

# 甲賀市水口子ども教室　水口・綾野・貴生川・伴谷・岩上小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ― | 活動の特徴 | 自由活動型 | ― | 開催日 | 平日 | ― | 年間開催日数 | 21 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 8 日 |

## 活　動　内　容

【親子ふれあい講座】
・皮革で遊ぼう、曳山に乗って水口囃しを体験しよう、お茶染めハンカチ作り、里山で見つける夏の虫たち、タヌキ作り、クリスマスクッキーを作ろう、木工工作を体験しよう。
【子ども公民館講座】
・皮革で遊ぼう、曳山に乗って水口囃しを体験しよう、お茶染めハンカチづくり、たぬき作り、クリスマスケーキを作ろう、木工工作を体験しよう。

## 教室の実施場所

水口中央公民館、柏木公民館、貴生川公民館、水口中部コミュニティセンター、みなくち子どもの森他

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校１～６年生
**【参加人数】** 平日　（　－　）人
土日・祝日　（　15.1　）人
長期休暇　（　13.7　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**　小学校へのチラシ配布、市民センター、公民館へのチラシ配布・ポスター掲示、市民センターだよりへの記事掲載

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | 1 | － | － | 1 |
| 登録者数 | － | － | － | － |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**　保護者に送迎をしていただいている。

**【緊急対応】**スタッフは、普通救命講習を修了。ＡＥＤ・救急箱を用意。保護者から緊急連絡先を聞いておき、連絡をとる。安全対策マニュアルを作成し、スタッフ間で共有する。館外事業においては、下見（事前現地確認）、下見報告書安全対策計画書によりリスク管理を行う。その内容については、打合せによりスタッフ間で共有する。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**
保護者からの申し出により聞き取りを行う。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**　把握なし

## 地域の機関等との連携

**【学校】**募集チラシの配布依頼
**【学校支援地域本部】**なし
**【児童クラブ】**なし
**【地域】**　講座開催場所
**【企業・大学】**　講座開催場所
**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 甲賀市の伝統芸能や産業の体験を行い、甲賀市のことを知ってもらうきっかけになった。さらに地域間の人の行き来、交流や郷土（地域）の人、モノを活かせる社会教育の推進をする。

**【子どもの声】**: ・もっと作ってみたい。・水口祭りはこんなことをするだなあと思いました。とてもむずかしかった。またやりたい。・皮革でこんなにいろいろなものが作れるなんて思いませんでした。・お茶でこんなにきれいな色が出せるなんて。・はじめて土で作っておもしろかったです。

**【保護者の声】**: ・皮革を使って何かを作ることが全く初めてだったので、親子共とても良い経験になりました。・（曳山は）昔は女の子が乗ってはいけないなど、最初の話を聞けて良かった。指導もやさしく内容もとても充実していたと思う。曳山に乗れて良かったです。・お茶できれいに染められるのに驚きました。また出来上がりが面白く、予想もつかない形に染め上がり感激でした。・色々な虫や花を近くで見れて良かったです。虫を捕まえる度に本当に詳しく説明して頂いて、驚くことばかりでとても楽しかったです。また家族で来たいです。・子どもならではの発想力に驚きました。

**【スタッフの声】**: いろいろな体験を通して、自分を発見することや自分たちのまちをよくしたいという気持ち、また親子間の交流や保護者の方には子どもの新たな長所を知るきっかけづくりにしていただければ幸いです。

# 甲賀市土山子ども教室　大野・土山・山内・鮎河小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ― | 活動の特徴 | 自由活動型 | ― | 開催日 | 平日 | ― | 年間開催日数 | 12 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 3 日 |

## 活　動　内　容

■あいの土っこ“きらねっ人”いきいき活動

　地域の大人が指導者・スタッフとなり、さまざまな体験活動を行っています。

・特産品や季節に応じたおやつづくり
・作品制作（押花、デコパージュ、トールペイント）
・野外活動（東海道ウォークラリー、天体観測）
・ふれあいあそび（カロム、紙芝居、お手玉）

## 教室の実施場所

公民館や小学校

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 保育園児・小学１年～６年生
**【参加人数】** 平日　　（　　0）人
土日・祝日　　（　８．６）人
長期休暇　　（　８．5）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** ボランティアバンクに約３０人の登録があり、事業への参加はその都度登録者に案内し、協力を求めている。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | 1 | ― | 4 | ― |
| 登録者数 | 1 | ― | 4 | ― |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】** 保育園児や小学生低学年には、保護者のつきそいをお願いしている。
**【緊急対応】** ＡＥＤ・救急箱を用意。保護者から緊急連絡先を聞いておき、連絡をとる。安全対策マニュアルを作成し、スタッフ間で共有する。館外事業については下見を実施。
**【配慮の必要な子どもへの対応】**
特になし
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**　未把握

## 地域の機関等との連携

**【学校】** きらねっ人スタッフが小学校の生活科授業に出向き、昔の遊びを指導することもある。
**【学校支援地域本部】** なし
**【児童クラブ】** 参加の呼びかけ
**【地域】** 文化祭や区の祭など、地域の行事に参加することもある。
**【企業・大学】** なし
**【その他】** 甲賀市レクレーション協会の事業にきらねっ人スタッフが出向き昔の遊びを指導することもある。

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 子どもたちの間では「きらねっ人」の名前が定着してきている。親子で参加する家庭もあり、家族のふれあいの機会となっている。本事業はボランティアスタッフの力によって成り立っている。今後も活動を続けていくにはスタッフの後継者育成も必要となる。

**【子どもの声】**: 今日教わったことを家でもやってみたい。もっといろんなものを作ってみたい。

**【保護者の声】**: おうちではできない体験でよかった。

**【スタッフの声】**: 年々、参加者が減少する傾向にあるが、参加した子どものが「楽しかった」と言ってくれる以上、今後も続けていきたい。また、内容がマンネリ化しているので、新しい体験内容（活動）を取り入れるなど工夫が必要と感じる。

# 甲賀市信楽子ども教室　信楽・雲井・小原・朝宮・多羅尾小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 10日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 1日 |

## 活　動　内　容

《物づくり夢工房》
・ランプシェード作り
・万華鏡作り
・木工細工
・クリスマスリース作り
・パズル作り　　等

《自然体験学習》
・川の生き物観察
・牧場体験

## 教室の実施場所

信楽中央公民館　他

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学生1～6年生
**【参加人数】** 平日　（　ー　）人
土日・祝日　（　18.7　）人
長期休暇　（　35　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
特に募集はせず、特定の技術を持った人に個別に依頼している。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 1 | ー | ー | 1 |
| 登録者数 | ー | ー | ー | ー |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
保護者に送迎して頂いている
**【緊急対応】**
スタッフは、普通救命講習を終了。ＡＥＤ・救急箱を用意。保護者に事前に緊急連絡先を聞いておき、連絡を取る。館外事業については、下見を実施。
**【配慮の必要な子どもへの対応】**
保護者、学校から聞き取りを行い、個別に対応する。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　０　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】** 無し
**【学校支援地域本部】**　無し
**【児童クラブ】** 無し
**【地域】** 無し
**【企業・大学】** 無し
**【その他】** 無し

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 様々な講座を通して、参加児童それぞれの創意工夫を引き出せたことは成果として挙げられるが、対象学年が低学年（１年）～高学年（６年）と広く、成長度合が違う対象に対してのスタッフの支援体制に難しさを感じた。

**【子どもの声】**: とても楽しかった、来年もやってほしい。

**【保護者の声】**: 講座に参加して、学校とは違った仲間づくりができたように思う。

**【スタッフの声】**: 講座を通して、子どもならではの視点を発見したりして、逆に刺激になる部分もあった。

# 甲賀市甲南子ども教室 甲南第一・第二・第三・中部・希望ヶ丘小学校区

| 実施場所 | 学校内 | － | 活動の特徴 | 自由活動型 | － | 開催日 | 平日 | △ | 年間開催日数 | 23 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 8 日 |

## 活　動　内　容

①親子・家族のわくわく講座　６回／年
・料理や工芸、工作などの共同体験を通して、親子・家族のきずなを深める。

【パン屋さんでパン作り】

【かんたん燻製づくり】

②夏・冬のこども体験講座
・子どもたちに体験と出会いの場を提供し生きる力と知恵を育む。
○連続講座（こども大正琴教室）
○夏のこども体験講座（科学的要素を取り入れたミニ実験とものづくりなど）
○冬のこども体験講座（手芸やお菓子づくり、楽器演奏体験など）

【夏のこども体験講座】

## 教室の実施場所

・甲南公民館　・杉谷公民分館　・柑子公民分館
・かえで会館　・甲南B&G海洋センター
・希望ヶ丘防災コミュニティセンター　ほか

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** ①親子・家族のわくわく講座
4歳～小学3年生までの児童と保護者
②夏・冬のこども体験講座
小学3年生～小学6年生の児童

**【参加人数】** 平日　（　14.0　）人
土日・祝日　（　12.1　）人
長期休暇　（　10.3　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
なし

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 1 | － | － | 1 |
| 登録者数 | － | － | － | － |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**・会場の校区外から参加する場合と小学２年生　以下の子どもは保護者の送迎を条件としている。

**【緊急対応】**・AED、救急箱を用意　・保護者から緊急連絡先を聞いておき、連絡を取る。・安全対策マニュアルを作成し、スタッフ間で共有する。・館外事業については下見を実施。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**
・館外事業や試食等を伴う事業の場合は、事前に健康調査票を提出いただき、アレルギー等についてスタッフ間で情報を共有している。

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**　把握なし

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　チラシ配布を依頼
**【学校支援地域本部】**　無し
**【児童クラブ】**　無し
**【地域】**　無し
**【企業・大学】**　夏のこども体験講座では、毎年地元の甲南高校の先生と生徒に講師や指導をお願いし、協力いただいている。
**【その他】**　保育園、幼稚園へチラシ配布を依頼

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：・１回講座に参加した子どもや家族は、２回・３回と別の内容の講座にも参加し、ある一定の満足度は得られていると感じるが、全く参加したことのない子どもや家族にどう興味を持ってもらい、どう取り込むかが課題。
・今後も事業を継続して行い、地元の地域のことをもっと知ってもらえる機会を提供していければと考えている。

**【子どもの声】**：講師さんが優しくて、とても楽しかった。
難しいところもあったけど、できあがって楽しかった。

**【保護者の声】**：家ではなかなかできない体験でよかった。　おもしろく、ためになりました。
大人も楽しめたし、子どもがとても楽しそうでした。

**【スタッフの声】**：今後も、1人でも多くの方に様々な出会いや体験の場を提供していければと思います。

# 甲賀市　甲賀子ども教室　大原・油日・佐山　小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 24 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 4 日 |

## 活　動　内　容

KOKA楽こども公民館
　さまざまな文化活動を楽しく体験することを目的に実施。

①お菓子づくり教室　４回
　ものづくりに対する関心や興味を深めるとともに、仲間づくりを目的として実施。
②茶道教室　４回
　伝統文化に対する関心や興味を深めることを目的として実施。

③こども天文クラブ
　天文知識の向上とともに子どもたちの親睦を深めることを目的に実施。かふか生涯学習館の天体望遠鏡で季節の星座や惑星などを見る。

④甲賀★忍者隊
　自然体験やものづくりを通じて、創造性を育み、グループ活動をすることで自主性や協調性を育てる機会とすることを目的に実施。名札つくり、ダンボールオーブンで野外調理、電車を利用しての旅など。

## 教室の実施場所

甲賀公民館（かふか生涯学習館）、甲賀創健館

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学1年～6年、中学1年～3年
（事業によって制限あり）
**【参加人数】** 平日　（　－　）人
土日・祝日　（ 16．5 ）人
長期休暇　（ 19．3 ）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
　ボランティアとして地域の方々に声をかけ参加してもらっている。
**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 1 | ー | 1～3 | 1 |
| 登録者数 | ー | ー | ー | ー |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
保護者に送迎していただいている。
**【緊急対応】**
ＡＥＤ、救急箱を用意。保護者から緊急連絡先を聞いておき、連絡をとる。安全対策マニュアルを作成し、スタッフ間で共有する。館外事業については下見を実施。
**【配慮の必要な子どもへの対応】**
　対象の参加がないため、特に実施していない。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（ ０ ）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】** 募集にあたって、チラシなどを配布してもらっている。受講生名を各学校に連絡している。
**【学校支援地域本部】** 無し
**【児童クラブ】** 無し
**【地域】** 無し
**【企業・大学】** 無し
**【その他】** 無し

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 継続して参加している子どもは学習が深まってきている。参加者の減少が課題である。甲賀★忍者隊では講師がいないため継続して学習の積み上げができていない。また、スタッフも不足している。

**【子どもの声】**: 普段できない体験ができた。

**【保護者の声】**: 楽しく参加している。

**【スタッフの声】**: 安全な実施に心がけ、受講生は楽しく熱心に活動している。

# 野洲市

連絡先
野洲市教育委員会　生涯学習スポーツ課
ＴＥＬ　077-587-6053
ＦＡＸ　077-587-3835
E-mail　syougai@city.yasu.lg.jp

## １　運営委員会組織

運営委員会名

野洲市地域教育協議会

委員数　（　１８　）人

構成委員（所属・役職名）

元野洲町教育委員会委員長、野洲市社会教育委員、野洲市青少年育成市民会議会長、野洲学区青少年育成課委員、三上地域教育推進委員会地域教育推進サポーター、祇王学区青少年育成会議副会長、篠原地域子ども教室運営協議会会長、北野学区青少年育成会会長、中里学区青少年育成会議会長、野洲学区わくわく子どもクラブ事務局、三上地域教育推進委員会事務局、祇王子どもクラブ事務局、篠原地域子ども教室運営協議会事務局、北野っ子フレンドリークラブ事務局、中主地域子ども教室運営協議会事務局、小学校校長会、小学校教頭会

## ２　運営委員会の協議内容

| 回 | 実　施　日 | 参加人数 | 協　　議　　内　　容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ６月８日 | １７名 | （１）平成 23 年度 野洲市放課後子ども教室の実施結果について<br>（２）平成 24 年度 野洲市放課後子ども教室実施状況について |
| 2 | ２月実施予定 | １８名 | （１）平成 24 年度 野洲市放課後子どもプランの実施状況について<br>（２）平成 25 年度 野洲市放課後子どもプランの概要について |

## ３　広報

①参加者募集チラシ配布…各学区ごと、コミュニティセンターから小学校に配布
②参加者募集チラシ配布…各学区ごと、コミュニティセンターから学区内世帯に配布
③地域の青少年育成会議等に指導者・安全管理ボランティアの協力依頼

## ４　連携している関係機関、団体（学校・地域・企業）、指導者および連携・協力内容

・野洲市青少年育成市民会議　・学区青少年育成会議　・民生児童委員
・健康推進員　・体育振興会　等

## ５　スタッフの研修・ミーティングなど

地域子ども教室の諮問機関である『地域教育協議会』において、『オープンキャンパス』と称した教室内容の相互見学会を、各学区ごと（７学区年１回・計７回）に実施している。

# 野洲市　中主子ども教室（中里）　中主小学区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 20 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 4 日 |

## 活　動　内　容

### 茶道クラブ

月1回活動。
裏千家の作法を学ぶ。

### 手芸クラブ

月1回活動。
糸の止め方など初歩から学び、簡単な作品作りを行っている。

## 教室の実施場所

コミュニティセンターなかさと

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学生以上
**【参加人数】** 平日　　（　ー　　）人
土日・祝日　　（　　6　　）人
長期休暇　　（　　6　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
中主地域の小学校全生徒へチラシ配布。学区自治会へチラシ配布回覧やポスター掲示を依頼している。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | ー | ー | ー | 1～2 |
| 登録者数 | ー | ー | ー | 3 |

※ボランティア・講師が安全管理員を兼ねる

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
保護者の判断にまかせている。

**【緊急対応】** スタッフは、基本的救急法講習を受講。救急箱は用意。保護者から連絡先を聞いておき、連絡する。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　0　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　教室のチラシの配布依頼。
**【学校支援地域本部】**　無
**【児童クラブ】**　無
**【地域】**　無
**【企業・大学】**　無
**【その他】**　無

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：子ども達に根付いているものもあるが、教室によっては参加人数が少ないこと。

**【子どもの声】**：できることが、楽しい。

**【保護者の声】**：手軽に学ぶ機会があり、助かっています。

**【スタッフの声】**：低学年の場合、集中力持続時間が短いため、あきさせない工夫が必要。

# 野洲市　中主子ども教室（兵主）　中主小学区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 55 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 14 日 |

## 活　動　内　容

手漕ぎ船の体験

春の野草摘み

## 教室の実施場所

コミセンひょうず等

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学生～中学生
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
土日・祝日　（　38　）人
長期休暇　（　21　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** 自治会長など地域の役員の方にお手伝いをお願いしている。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 2 | 0 | 0 | 1 |
| 登録者数 | 20 | 0 | 0 | 10 |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
出来るだけ保護者の方に送迎をお願いしている。

**【緊急対応】**
保護者の携帯番号を聞いておく。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　0　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　課題が出た時は連絡をする。
**【学校支援地域本部】**　無し
**【児童クラブ】**　無し
**【地域】** 応援が必要な時に自治会にお願いする。
**【企業・大学】**　無し
**【その他】** 青少年育成会議との連携

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 異学年が一緒に遊ぶことで思いやりの心が育まれるが同じ遊びが困難な場合もある。

**【子どもの声】**: 来年も教室に参加したい。

**【保護者の声】**: 子どもが楽しみにしているのでぜひ来年も教室を開催してほしい。

**【スタッフの声】**: ボランティアが定着しない地域性もあり、少人数のスタッフでの運営は厳しい。

# 野洲市　篠原地域子ども教室　篠原小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 90 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 10 日 |

## 活　動　内　容

①科学クラブ教室　楽しい実験・ものづくりなどいろいろな体験を通して科学について学んでみよう！！ということで年間10回の活動を計画しました。小学3年生から6年生15名の参加者で実施。ペットボトルで水ロケットを作って飛ばしたり、なぜ船が浮く？水の性質の実験をしたり興味津々に学んでいます。　（子ども１５名参加）
②夏休みワクワク合宿　毎年好評となり、募集人数もすぐに埋まる人気となっています。初めて親と離れお泊りを経験する低学年の子どもたち。低学年の子どもたちのお世話をする高学年の子どもたち。１年生～６年生の縦のつながりを大切に４回目の実施となりました。（子ども４０名参加）
③子どもとサンタの夢パーティー　子どもたちに夢を与えようと、自治会・ＰＴＡ役員等の協力を得て毎年実施しています。工作・ｹﾞｰﾑ等で楽しく盛り上りました。（子ども１１９名参加）

## 教室の実施場所

コミュニティセンターしのはら

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校1年生～6年生
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
土日・祝日　（　８　）人
長期休暇　　（　29　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** 青少年育成会議、地域子ども教室、センター職員、健康推進員等の中から事業規模、内容に照らして適任な方を支援者に依頼している。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | １～２ | ー | 40 | １～２ |
| 登録者数 | ー | ー | 40 | ー |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**保護者による送迎、友達同士での自転車利用

**【緊急対応】**緊急連絡先、健康状況調査票の提出により安全を第一に考え把握している。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**保護者との連携を取っている。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　１　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**募集の段階で知らせている。

**【学校支援地域本部】**無し

**【児童クラブ】**　連携あり

**【地域】**　学区自治連合会・学区老人会及び健康推進員による指導。更生女性会・小学校ＰＴＡ役員・民生委員の協力を得ている。

**【企業・大学】**無し

**【その他】**

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: コミセン以外のスポーツ活動・習い事により参加者が限定されてくる。

**【子どもの声】**: 楽しかった・おもしろかった等、好評であった。

**【保護者の声】**: 感謝の声をいただいている。

**【スタッフの声】**: 子どもたちの笑顔が最高！！子どもや保護者に喜んでもらえてやりがいを感じる。

# 野洲市　祇王子どもクラブ　祇王小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ● | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 65 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ー | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 4 日 |

## 活　動　内　容

教室名　「よさこい妓王」
よさこいの音楽に合わせて踊る。
小学校1年から大人まで年齢の幅がある仲間同士楽しく踊る。
地域のお祭りやイベントに参加してまちづくりの一助となっている。
老人クラブや中学校から教えて欲しいという依頼を受ける。

## 教室の実施場所

コミュニティーセンターぎおう

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校1年～6年
**【参加人数】** 平日　（　0　）人
土日・祝日　（　6　）人
長期休暇　（　65　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
地域の方々に声をかけ参加してもらっている

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 1 | 0 | 1 | 1 |
| 登録者数 | 7 | 0 | 1 | 7 |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
基本保護者が車で送迎。高学年児童は自転車

**【緊急対応】**
救急箱を用意。対応できない場合は救急車対応

**【配慮の必要な子どもへの対応】**

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**　（ － ）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　野洲市立祇王小学校
**【学校支援地域本部】**　無し
**【児童クラブ】**　無し
**【地域】**　祇王学区青少年育成会議
**【企業・大学】**　無し
**【その他】**　無し

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 課題は子どもの参加が非常に少ない。

**【子どもの声】**: 楽しい

**【保護者の声】**:

**【スタッフの声】**: 参加者がもっと増える為に如何にすればいいのかが課題

# 野洲市　三上楽しいクラブ活動　三上小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 35 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 2 日 |

## 活　動　内　容

①楽しいクラブ活動「児童合唱団」
月２回のペースで練習。地域の音楽教室の先生の指導のもと、イベント（『野洲文化芸術祭』、『悠紀まつり』等の発表会を楽しみにして、練習している。
②楽しいクラブ活動「茶道」
月１回の練習。季節に合わし『楽しいゆかた会』や『悠紀まつり』では呈茶による学習発表をしている。

茶道

児童合唱団

## 教室の実施場所

コミュニティセンターみかみ

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 三上小学校　1～6年生
**【参加人数】** 平日　（　0　）人
土日・祝日　（　11　）人
長期休暇　（　9　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** 新学期の開始と同時に三上小学校を通じて「楽しいクラブ活動」の募集要項を全児童に配布。本人の調整で複数のクラブ活動にも参加できる。５月からの開始となる。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | 4 | | | 3 |
| 登録者数 | 4 | | | |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**自転車・自動車・徒歩と様々な方法で来館する。文書等を発信するときは、「お子様の送迎よろしくお願いします」の旨書き添えるようにしている。
**【緊急対応】**クラブ中のちょっとしたアクシデントがあったときは、その旨保護者にも連絡している。（軽い怪我程度は応急的な処置をすることもある）
**【配慮の必要な子どもへの対応】**特定して配慮が必要な子どもは把握していないが、集団を乱すなどの行動が顕著な場合は学校とも連絡を取り合いたいと考えている。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（わからない）

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　三上小学校
**【学校支援地域本部】**　なし
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**　三上地域教育推進協議会
**【企業・大学】**　なし
**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：縦の関係が上手に機能しているように思われる。クラブ中ではマナーや常識が身に付いた。日常生活の場でも習慣化でできるようになればと期待している。
**【子どもの声】**：異なる学年の子と友達になれた。大人とコミュニケーションが取れるようになった。
**【保護者の声】**：約束時間を守り、思いやりのある子になった。楽しみを見つけられるようになった。
**【スタッフの声】**：子ども達の笑顔から元気をもらう反面、わずかな時間の中でも大切な子ども達をお預かりしていることを念頭におきたい。また、地域サポーターの方々にも熱心に指導していただき感謝している。

# 野洲市　野洲学区わくわく子どもクラブ　野洲小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 19 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 3 日 |

## 活　動　内　容

わくわくえてがみ
【対象】3年生から6年生　5名　9回開催

わくわくカロム①
【対象】1年生から3年生　21名　7回開催

わくわくカロム②
【対象】4年生から6年生　23名　7回開催

わくわくいけ花①
【対象】1年生から2年生　15名　8回開催

わくわくいけ花②
【対象】3年生から6年生　15名　8回開催

わくわく日本舞踊
【対象】1年生から6年生　12名　8回開催

## 教室の実施場所

野洲市コミュニティセンターやす

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】**小学生1年生から6年生
（えてがみは、3年生から6年生）
**【参加人数】**平日　（　　）人
土日・祝日　（　75　）人
長期休暇　（　77　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**　コミュニティセンターやすの広報紙に募集掲載する。指導者及び安全管理員からの紹介。
**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 6 | ー | ー | 4 |
| 登録者数 | 6 | ー | ー | 4 |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**保護者に送迎をお願いしている。

**【緊急対応】**参加児童・保護者名簿を作成し連絡を取れる体制をとっています。また、不審者対策として、さすまたを施設に常設している。応急処置用の救急セット及びAEDを常設。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**指導者に有資格者が在籍するクラブもある。また、保護者と連携して対応する。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**　把握なし

## 地域の機関等との連携

**【学校】**募集チラシの全学年配布を依頼
**【学校支援地域本部】**無し
**【児童クラブ】**カロム指導者、安全管理員として参加してもらっている。
**【地域】**　指導者、安全管理員の情報の提供
**【企業・大学】**無し
**【その他】**

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：地域の高齢者との交流を深める事が出来た。指導者が高齢化しており、事業を継続する為に次に後継者を探すのがむずかしい。異学年との交流。

**【子どもの声】**：上手に出来たのがうれしかった。楽しかった。

**【保護者の声】**：毎回が楽しみで参加させてもらっています。

**【スタッフの声】**：クラブ活動のなかで挨拶、後片付けを指導、皆で楽しく出来るようにしている。

# 野洲市　北野っ子フレンドリークラブ　北野小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 26 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 3 日 |

## 活　動　内　容

１．開催日、開催時間
土曜日　午前９時３０分～１１時３０分

２．教室名
囲碁（３回/年）、将棋（４回/年）、
パソコン（３回/年）、工作（２回/年）、
料理（２回/年）、百人一首（１回/年）、
絵画（１回/年）、オセロ（４回/年）、
菓子作り（１回/年）、
グランドゴルフ（５回/年）

３．教室風景

絵画教室（H24年6月30日）

工作教室（H24年12月1日）

## 教室の実施場所

コミュニティセンターきたの

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学生（内、学年範囲指定5回）
**【参加人数】** 平日　（　0　）人
土日・祝日　（　14　）人
長期休暇　（　15　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** 北野小学校区青少年育成会が年間計画策定時に、各教室の講師や安全委員を育成会の役員や地域有識者に依頼している。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | 5 | | | |
| 登録者数 | 21 | | | |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**小学校１～２年生については、保護者の送迎を要請している。

**【緊急対応】**緊急時は安全管理員がコミュニティセンターきたの事務局と連携して、迅速に対応する。

**【配慮の必要な子どもへの対応】** 配慮が必要な子どもの参加がある場合は、安全管理員が対応する。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　0　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**年間計画の開示、参加者募集
**【学校支援地域本部】**必要に応じて協力要請
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**北野小学校区青少年育成会（企画、実施）
**【企業・大学】**　なし
**【その他】**　必要に応じて地域有識者に協力要請

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: ゆとり教育見直しや子どもの家との関連で、地域子ども教室の要否検討が緊急課題
**【子どもの声】**:　（第３者にヒアリングを託したい。）
**【保護者の声】**:　（第３者にヒアリングを託したい。）
**【スタッフの声】**: 参加者が少なく、今後の継続性に懸念あり。

# 東近江市

連絡先
東近江市教育委員会　生涯学習課
ＴＥＬ：０７４８－２４－５６７２
ＦＡＸ：０７４８－２４－１３７５
E-mail：syogaika@city.higashiomi.shiga.jp

## １　運営委員会組織

運営委員会名

東近江市地域教育協議会

委員数　（　２４　）人

構成委員（所属・役職名）

自治会連合会代表、青少年育成市民会議代表、ＰＴＡ連絡協議会代表、子ども会連合会代表、スポーツ少年団代表、子育て支援団体代表、公立小学校長会代表、公立中学校長会代表、学校と地域を結ぶコーディネーター担当者代表（小・中学校）
各地区地域教育協議会代表（１４人）

## ２　運営委員会の協議内容

| 回 | 実　施　日 | 参加人数 | 協　　議　　内　　容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ５月３０日（水） | １８人 | ●平成２３年度事業報告・収支決算について<br>●平成２４年度事業計画（案）・収支予算（案）について<br>●交流会<br>各地区の活動を紹介、意見・情報交換 |
| 2 | １１月２８日（水） | １３人（委員以外１１人） | ●公開研修会<br>「通学合宿☆その人気の秘密に迫る。<br>～地域の教育力とは？その効果は？」<br>（滋賀県教育委員会生涯学習課社会教育主事　大辻　源　氏）<br>事例発表（２地区）、ワークショップ |
| 3 | ３月（予定） | ２４人 | ●平成２４年度活動報告と平成２５年度の見通しについて<br>●各地区取り組み状況の報告<br>●意見・情報交換会 |

## ３　広報

学校や自治会、各地区コミュニティセンター通信などを通して活動案内を配布し募集する。
東近江市ホームページへ各地区の活動報告を掲載
東近江市ケーブルテレビ

## ４　連携している関係機関、団体（学校・地域・企業）、指導者および連携・協力内容

特になし

## ５　スタッフの研修・ミーティングなど

特になし

# 東近江市蒲生マックスクラブ　蒲生東・西・北小学校区　朝桜中学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 47 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 9 日 |

## 活　動　内　容

活動クラブ
①茶道クラブ（毎月第２土曜日）
②そろばんクラブ（毎月第２土曜日）
③くらふと☆デコ（年９回）
④蒲生野太鼓わらべ組（毎週土曜日）
⑤キッズあかねＧＨＯＳＨＵ（年１７回）
⑥キッズダンス（毎月第３土曜日）
⑦ＩＴキッズクラブ（毎月第３土曜日）
⑧ＫＩＤＳ　ＦＬＯＷＥＲ（年６回）
⑨陶芸クラブ（毎月第４土曜日）
活動時間帯
１０：００～１２：００
１３：３０～１４：３０
１４：００～１６：００
１８：００～２０：００

## 教室の実施場所

蒲生コミュニティセンター

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学1年から中学2年まで
**【参加人数】** 平日　　（　０　）人
土日・祝日　（ 12．６ ）人
長期休暇　（ 12．６ ）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
地域の方々に声をかけ参加してもらっている。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | 1～6 | － | 2～4 | － |
| 登録者数 | 36 | － | － | － |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**送迎は保護者。迎えが遅い場合はボランティア当番が一緒に待つ。

**【緊急対応】**指導者・ボランティアスタッフには安全管理マニュアルで指導。事務所には救急箱を用意

**【配慮の必要な子どもへの対応】**
参加申込時に保護者から聞き取りを行う。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**　（　１　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**子どもたちへのチラシ配布や声掛けを依頼
**【学校支援地域本部】**無し
**【児童クラブ】**無し
**【地域】**地域のサークルに指導・安全監視をしてもらう
**【企業・大学】**無し
**【その他】**無し

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：違う学校や学年の人とも次第にコミュニケーションがとれるようになる。保護者の関わりを増やしていきたい。

**【子どもの声】**：違う学校や学年の友達が出来た。

**【保護者の声】**：子どもが楽しそうに活動している。以前より積極的になった。

**【スタッフの声】**：子どもたちの１年間の成長ぶりが見られてうれしい。

# 米　原　市

米原市放課後安心プラン推進委員会

連絡先
米原市健康福祉部　こども元気局
TEL　0749－55－8104
FAX　0749－55－4040
E-mailkodomokatei@city.maibara.lg.jp

## １　運営委員会組織

委員数　（　１２　）人

構成委員（所属・役職名）

米原市子ども会育成連合会代表、民生委員児童委員代表（２名）、放課後児童クラブ関係者（２名）、放課後キッズ関係者（1 名）、市民団体代表（３名）、校長会代表、学校教育課長、こども元気局長

## ２　運営委員会の協議内容

| 回 | 実　施　日 | 参加人数 | 協　議　内　容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ９月２７日 | ７人 | ・放課後安心プランの概要説明<br>・放課後児童クラブ、放課後キッズに関する意見交換 |

## ３　広報（参加者や地域の支援者の募集、活動内容の広報など）

・年度当初に小学校を通じて全児童へチラシを配布し参加児童を募集。
・放課後キッズ通信を参加者に配布。
・米原市行政放送（ＣＡＴＶ）にて活動の様子を放映。

## ４　連携している関係機関、団体、指導者および連携・協力内容

・放課後児童クラブ指導員は参加者を把握し、案内ちらしの配付や保護者のお迎え時間の調整などを行っている。また、活動場所への送迎や安心、安全に活動できる環境をつくっている。
・放課後キッズ事業は、民生委員・児童委員やシルバー人材センター、地域ボランティアの方々の協力を得て事業を実施している。

# 米原市　放課後キッズinまいはら　米原・息郷・醒井小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ● | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 9 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ・卓球･ﾃﾆｽ・ﾄﾞｯｼﾞﾋﾞｰ・折り紙・竹馬・ﾐﾆﾃﾆｽなど好きなｽﾎﾟｰﾂや遊びを楽しみました

運動会直前！かけっこ教室

うすと杵でお餅つき

## 教室の実施場所

市立醒井小学校・市立米原小学校
すぱーく米原・醒井水の宿駅

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校1年～6年
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
土日・祝日　（　17.0　）人
長期休暇　　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
地域のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱさん、運営委員さんへの声かけ。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 5 | 1 | 3 | ー |
| 登録者数 | 10 | 6 | 10 | ー |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
保護者による送迎。ｸﾞﾘｰﾝのﾀｽｷで保護者確認。

**【緊急対応】**
参加者緊急連絡先名簿、携帯電話の所持。

**【配慮の必要な子どもへの対応】** ｽﾀｯﾌﾐｰﾃｨﾝｸﾞで共通認識し、保護者同伴参加も許可。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　0　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　各小学校・募集ﾁﾗｼ等配布
**【学校支援地域本部】**　無
**【児童クラブ】**　無
**【地域】**　各種団体・ｻｰｸﾙ
**【企業・大学】**　地元大学生
**【その他】**　無

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 他校の子と仲良く交流が出来るようになる。送迎が出来ない保護者の方への対応。

**【子どもの声】**: 普段出来ないﾃﾆｽや卓球が上手になった。運動会が楽しかった。（かけっこ教室）

**【保護者の声】**: 学校・地域の行事と重なってしまう。

**【スタッフの声】**: 学校では出来ない体験を、異年齢の子ども同士・地元のｽﾀｯﾌと楽しんでほしい。

# 米原市　放課後キッズinおうみ　坂田・息長小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 6日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 2日 |

## 活　動　内　容

**①田植え体験とさつまいもの苗植え**
どろんこ農園にて、田んぼに入り、苗を手で植えた。また、さつまいもの苗植えも実施。

**②じゃがいもと玉ねぎの収穫＆ピザ作り**
どろんこ農園で収穫した、採れたての玉ねぎをトッピングしたピザ作り。

**③マサノヴァ・アート工作教室**
電子部品を使ったロボットキャラクター作りに挑戦。

**④やまんばの森でカヌー＆ゴムボート**
やまんばの森の池にて、カヌー(3年生以上)と、ボート(1・2年生)に乗り、窯で焼いたピザの試食。

**⑤どろんこ農園祭**
どろんこ農園で採れた野菜などを使った模擬店や、どろんこ農園に設置する看板の製作、宝探しや、的当てゲームなど、楽しい企画を実施。

**⑥ロング巻き寿司作りに挑戦**
農園で収穫したお米で、ロング巻き寿司に挑戦。

①田植え体験

②カヌー＆
ゴムボート体験
H24.8.18(土)

⑤どろんこ農園
(看板作り)
H24.9.30(日)

## 教室の実施場所

・近江公民館
・どろんこ農園(舟崎地先)
・やまんばの森(日光寺)

## 参加対象学年・参加人数

【対　　象】小学校1年生～6年生
【参加人数】平日　(　　)人
土日・祝日　(　41　)人
長期休暇　(　37　)人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

【採用・募集方法】
地域のボランティアの方々や、ボランティアグループに声をかけて参加していただいている。

【スタッフ配置人数】

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 3 | 3 | 7～8 | |
| 登録者数 | 5 | 3 | 15 | |

## 安全管理・配慮事項

【送迎】　送迎は、必ず、保護者の方にお願いしている。開催地への送迎は地域防犯安全パトロール隊員に依頼。

【緊急対応】保護者から緊急連絡先を聞いている。何かあればすぐに連絡をし、対応を検討する。

【配慮の必要な子どもへの対応】
事前に健康チェックを行い、配慮が必要な児童には安全管理員を配置。
**◎特別支援学級(学校)の子どもの参加**（　0　）人

## 地域の機関等との連携

【学校】児童への募集チラシ配布依頼と、先生方にも実施内容の通知。

【学校支援地域本部】無し

【児童クラブ】無し

【地域】地域のボランティアさんに、その都度、声をかけて協力していただいている。

【企業・大学】無し

【その他】どろんこの会　里山保全NPO法人やまんばの会

## 事業を実施して

【成果と課題】: 毎年、参加を希望する児童が多く、特に、核家族の多い団地に住む児童の参加が目立つ。普段、なかなか体験することのできない農業体験や自然体験への関心は、児童のみならず保護者の間でも高まっている。また、スタッフサイドにおいても、地域の交流の場のひとつとなり、この事業を通じて、青少年健全育成に熱心な、自立をされるボランティア団体も出てきた。

【子どもの声】: 学校ではなかなか出来ないいろんな体験ができて楽しい。

【保護者の声】: 家に帰ってくると体験したことを楽しそうによく話してくれます。今後も続けていただきたい。

【スタッフの声】: 子どもたちがのびのびと体験している姿が素晴らしい。学校では出来ない体験をどんどんしていただきたい。

# 米原市　放課後キッズinきんせい　　山東小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | △ | 開催日 | 平日 | △ | 年間開催日数 | 9 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

①さつまイモ苗植え付け
②うどん作り
③遠足（福井恐竜博物館と化石発掘体験）
④さつま芋収穫祭　焚き火での焼きイモ
⑤手品のネタつくり　　みんなマジシャン
⑥昔ながらの餅つき
⑦書と遊ぶ　　墨汁で書く今年の一文字
⑧室内ゲームを楽しむ
⑨キッズ皿回し大会　優勝は誰の手に？

化石発掘

お餅つき

書と遊ぶ

## 教室の実施場所

米原市山東生涯学習センター

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 1年生から6年生
**【参加人数】** 平日　　（　20　）人
土日・祝日　（　16．7　）人
長期休暇　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】**
地域の子どもに関心のある人や教職を引退された方たちが昨年に引き続いて参加

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 8 | 2 | 0.6 | 0.5 |
| 登録者数 | 10 | 1 | 1 | ー |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
学校休業日の実施のため保護者にて責任を持って送迎
**【緊急対応】**
事前調査票により緊急連絡先等を把握。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**
アレルギー等普段の留意点について把握。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　0　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　キッズ事業チラシ及び各回案内通知書を学校を通じて保護者に配布を依頼

**【学校支援地域本部】**　無し

**【児童クラブ】** キッズと開設場所が同じため競合しない配意

**【地域】** 地域の活動団体等に講師依頼

**【企業・大学】**　無し

**【その他】**　無し

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: 普段あまり見せることのない心からの笑顔が多くみられた。異年齢交流が自然と行われている。自主的に遊びを考えることが出来るようになった。現在プログラム型と自由活動型の併用の形で活動しているが自由活動型で集団としての遊びが出来るような場でありたい。

**【子どもの声】**: 自由遊びの時間が楽しかった。恐竜の化石発掘は面白かった。うどんをまた作りたい。

**【保護者の声】**: 家庭では出来ない体験が出来よかった。スタッフの皆さんに感謝です。

**【スタッフの声】**: 子どたちの成長ぶりに自分の孫のように可愛い。こどもたちの高い能力に驚いた。子どもたちのうれしそうな顔をみると頑張ろうとおもう。あいさつがちゃんとできるようになった。

# 米原市放課後キッズinジョイ　伊吹・春照小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ● | 年間開催日数 | 9 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | △ | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

第１回(5/30)
　体育館で遊ぼう！
　　ティーボール,ドッジビー、リレーなど
　　（伊吹山麓青少年総合体育館での活動）

第２回(6/20)
　古代体験シリーズ１～古代の鏡を作ろう～
　　（伊吹山文化資料館での活動）

第３回(7/11)　グラウンドゴルフを楽しもう

第４回(9/26)
　昔の遊びを体験しよう
　　Ｓケン、竹馬、輪回しなど

第５回(10/24)
　古代体験シリーズ２
　　～古代の骨のペンダントを作ろう～
　　（伊吹山文化資料館での活動）

第６回(12/12)
　クリスマスケーキを作ろう
　　※伊吹小児童対象
第７回(12/19)
　クリスマスケーキを作ろう
　　※春照小児童対象

第８回(1/20)
　かるた・百人一首大会＆もちつき大会
　　（米原市青少年育成市民会議
　　伊吹支部との合同事業）
第９回(2/20)
　室内ゲームを楽しもう
　（伊吹山麓青少年総合体育館での活動）

## 教室の実施場所

米原市伊吹薬草の里文化センター
米原市伊吹山文化資料館
伊吹山麓青少年総合体育館

## 参加対象学年・参加人数

**【対　象】**　小学校1～6年生
**【参加人数】**　平日　　(43.6)人
　　土日･祝日（ 30 ）人
　　長期休暇　（ 0 ）人
　　※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用･募集方法】**
　青少年育成活動に携わる人への声かけによる

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | ６～８人 | １～２人 | ー | ー |
| 登録者数 | 8 | 2 | ー | ー |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**必ず保護者の送迎による。放課後児童クラブ参加児童は、クラブ指導員の引率による。

**【緊急対応】**救急箱の携行。緊急連絡先を児童名札の裏面に記載し、緊急時に連絡を取る。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**
　必要に応じて、安全管理員が個別につく。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**　（０）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**募集ちらし、開催案内等の配布協力。
**【学校支援地域本部】**　なし
**【児童クラブ】**クラブ指導員が子どもと共に参加する。
**【地域】**活動内容に応じて資料館や地域のボランティアサークルに協力していただいている。
**【企業･大学】**　なし
**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: スポーツ、物づくり、調理など様々な活動に取り組めた。高学年の児童を核に班編成をしたことにより、異学年交流が進み高学年児童のリーダー性が育ってきた。
**【子どもの声】**: ケーキ作りが楽しかった。
　Ｓけんで、思いっきりあばれて楽しかった。
**【保護者の声】**: 普段できないことを体験でき、子どもも喜んでいました。体を動かす遊びから手先を使う工作まで毎回いろんな活動をさせていただいてありがとうございました。
**【スタッフの声】**: 子どもたちの楽しそうな笑顔をみると、こっちまで楽しくなります。
　けがや事故がなく実施できてよかったです。

# 竜王町

連絡先
竜王町教育委員会公民館
TEL　０７４８－５８－１００５
FAX　０７４８－５８－１９７９
E-mail　kouminkan@town.ryuoh.shiga.jp

## １　運営委員会組織

運営委員会名

公民館子ども教室運営委員会

委員数　（　１３　）人

構成委員（所属・役職名）

教育委員（１名）、社会教育委員（１名）、地域住民（７名）、小学校校長（１名）、小学校教員（２名）、元中学校教員（１名）

## ２　運営委員会の協議内容

| 回 | 実　施　日 | 参加人数 | 協　議　内　容 |
|---|---|---|---|
| 1 | ５月１２日 | １３人 | 今年の取り組みについて<br>活動内容の確認<br>親子で参加できる活動の取り入れ |
| 2 | １月下旬 | １３人 | 今年度の反省および次年度に向けての課題と対策 |

## ３　広報

４月に参加募集チラシ配布

各クラブ活動内容は、公民館ホームページにより随時掲載

## ４　連携している関係機関、団体（学校・地域・企業）、指導者および連携・協力内容

竜王小学校、竜王西小学校は：参加募集と発表会

竜王町教育委員会、みらいパーク竜王

→交流活動体験の支援協力

内容：発表会

## ５　スタッフの研修・ミーティングなど

研修会：①避難誘導訓練　　対象：安全管理員、講師

# 竜王町子ども教室【チャレンジクラブ】竜王・竜王西小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ● | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 10 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ー | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

宿泊体験（飯盒炊飯）

宿泊体験（ロープワーク）

## 教室の実施場所

・妹背の里　　・希望ヶ丘文化公園
・琵琶湖博物館　　・今庄３６５スキー場

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校4年生～6年生
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
土日・祝日　　（　16　）人
長期休暇　　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** ・住民、学校教員ＯＢ、行政職員などの情報により候補者リストアップ後、採用決裁により採用。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 2 | | | 2 |
| 登録者数 | 3 | | | 2 |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。また、講師や職員の前での開放。

**【緊急対応】**
・保護者への緊急連絡網作成。
・休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把握。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**
・個人健康調査票により受講生の健康状態を把握。その上で配慮の必要な子については、各担当講師へ伝える。

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　０　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　小学校２校、中学校１校
**【学校支援地域本部】**　あり
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**　なし
**【企業・大学】**　なし
**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につけると共に、技能を伸ばすことができた。
・少子化による参加者数の伸び悩みと子ども達の興味をひく内容設定が課題。
・野外活動体験のリーダーがいないため、今後は、子ども会と連携協力しながら養成講座により人材育成を進めていく必要がある。

**【子どもの声】**：・友達ができた。宿泊体験でいろんな事にチャレンジできてとっても良かった。

**【保護者の声】**：・体験活動後に、家で今日の体験したことを生き生きと笑顔で話してくれる姿にこの教室に参加させてよかったと思いました。

**【スタッフの声】**：・多くの子ども達に、様々な活動を楽しく、生き生きと体験してもらい、その体験や経験が、これからの子ども達の糧となり力となれば最高です。さらには、将来、指導者、リーダーとして地域貢献できる人になれば幸せです。

# 竜王町子ども教室【デジカメパソコンクラブ】竜王・竜王西小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 10 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

文字入力と表作成

イラスト・ポスター作製

## 教室の実施場所

・竜王町公民館

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校3年生～6年生
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
土日・祝日　（　５　）人
長期休暇　　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** ・住民、学校教員ＯＢ、行政職員などの情報により候補者リストアップ後、採用決裁により採用。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 2 | | | 1 |
| 登録者数 | 3 | | | 1 |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。また、講師や職員の前での開放。
**【緊急対応】**
・保護者への緊急連絡網作成。
・休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把握。
**【配慮の必要な子どもへの対応】**
・個人健康調査票により受講生の健康状態を把握。その上で配慮の必要な子については、各担当講師へ伝える。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　０　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　小学校２校
**【学校支援地域本部】**　なし
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**　なし
**【企業・大学】**　なし
**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につけると共に、技能を伸ばすことができた。
・少子化による参加者数の伸び悩みと習得したパソコン技能を発揮できる場所提供が課題。

**【子どもの声】**：・友達ができた。パソコン操作が覚えられてよかった。

**【保護者の声】**：・家のパソコンをよく利用するようになり、インターネットで調べものをしている姿に、この教室に参加させてよかったと思いました。

**【スタッフの声】**：・多くの子ども達に、楽しくパソコン技能を習得してもらえてよかった。その技能を、家族や友達にも教えてもらえれば最高です。

# 竜王町子ども教室【宇宙科学クラブ】竜王・竜王西小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ● | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 10 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ー | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

家族みんなで金環日食の観察

天体模型づくり

## 教室の実施場所

・竜王町公民館　　・妹背の里
・湖北野鳥センター　　・教育センターほか

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校1年生～6年生
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
土日・祝日　　（　17　）人
長期休暇　　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** ・住民、学校教員ＯＢ、行政職員などの情報により候補者リストアップ後、採用決裁により採用。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 2 | | | 2 |
| 登録者数 | 3 | | | 2 |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。また、講師や職員の前での開放。

**【緊急対応】**
・保護者への緊急連絡網作成。
・休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把握。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**
・個人健康調査票により受講生の健康状態を把握。その上で配慮の必要な子については、各担当講師へ伝える。

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　０　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　小学校２校
**【学校支援地域本部】**　　なし
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**　なし
**【企業・大学】**　なし
**【その他】**　湖北野鳥センター　　教育センター

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につけると共に、技能を伸ばすことができた。
・少子化による参加者数の伸び悩みと子ども達の興味をひく内容設定が課題。

**【子どもの声】**：・多くの友達と一緒に、天体観測や工作づくり、また自然観察ができて多くの事が体験できたし、星の名前もわかった。

**【保護者の声】**：・金環日食や夜空の星を見たことで、晴れた日の夜には、空を見上げて「あれは金星だよ」とか説明してくれるようになりました。

**【スタッフの声】**：・多くの子ども達に、様々な活動を楽しく、生き生きと体験してもらい、その体験や経験が、これからの子ども達の糧となり力となれば最高です。

# 竜王町子ども教室【華道クラブ】竜王・竜王西小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ● | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 10 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ー | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

四季折々の生花

親子でフラワーアレンジメント

## 教室の実施場所

竜王町公民館

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校3年生～6年生
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
土日・祝日　（　７　）人
長期休暇　　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** ・住民、学校教員ＯＢ、行政職員などの情報により候補者リストアップ後、採用決裁により採用。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | 2 | | | 1 |
| 登録者数 | 3 | | | 1 |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。また、講師や職員の前での開放。
**【緊急対応】**
・保護者への緊急連絡網作成。
・休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把握。
**【配慮の必要な子どもへの対応】**
・個人健康調査票により受講生の健康状態を把握。その上で配慮の必要な子については、各担当講師へ伝える。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　０　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　小学校２校
**【学校支援地域本部】**　なし
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**　なし
**【企業・大学】**　なし
**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につけると共に、技能を伸ばすことができた。
・少子化による参加者数の伸び悩みと子ども達の興味をひく内容設定が課題。

**【子どもの声】**：・花の名前がわかったり、四季折々の花が生けられて良かった。

**【保護者の声】**：・体験活動のお蔭で、家でも時々、花を生けてくれることがありとっても喜んでいます。また、親子でアレンジメントづくりに挑戦できてよかったです。

**【スタッフの声】**：・子ども達に、花を生けることの素晴らしさをしってもらったり、親子で一つの作品を完成させる協働作業ができてよかったです。

# 竜王町子ども教室【絵画クラブ】竜王・竜王西小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ● | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 10 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ー | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

デッサンをしよう

壁画アート作成

## 教室の実施場所

・竜王町公民館　　・三井寺

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校3年生～6年生
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
土日・祝日　　（　９　）人
長期休暇　　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** ・住民、学校教員ＯＢ、行政職員などの情報により候補者リストアップ後、採用決裁により採用。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | 2 | | | 1 |
| 登録者数 | 3 | | | 1 |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。また、講師や職員の前での開放。
**【緊急対応】**
・保護者への緊急連絡網作成。
・休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把握。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**
・個人健康調査票により受講生の健康状態を把握。その上で配慮の必要な子については、各担当講師へ伝える。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　０　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　小学校２校
**【学校支援地域本部】**　　なし
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**　なし
**【企業・大学】**　なし
**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につけると共に、技能を伸ばすことができた。
・少子化による参加者数の伸び悩みと子ども達の興味をひく内容設定が課題。

**【子どもの声】**：・公民館のキッズランドに壁画を描きました。これからもこの絵がずっと残るといいなぁと思いました。

**【保護者の声】**：・活動のお蔭で、家でも絵を描くようになり、鏡に映った自分を描いて楽しんでいる姿を見たときは、感激しました。

**【スタッフの声】**：・子ども達に、絵を描くことの素晴らしさを知ってもらえたことがありがたい。みんなと一緒に、壁画アートができたこともよかった。

# 竜王町子ども教室【吹奏楽】竜王・竜王西小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ● | 開催日 | 平日 | ● | 年間開催日数 | 45 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ー | | 土日・祝日 | ー | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

演奏会に向けて猛練習

ステージ発表会

## 教室の実施場所

・竜王町公民館

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校3年生～6年生
**【参加人数】** 平日　　（　10　）人
土日・祝日　（　　）人
長期休暇　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** ・住民、学校教員ＯＢ、行政職員などの情報により候補者リストアップ後、採用決裁により採用。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | 2 | | | 3 |
| 登録者数 | 3 | | | 4 |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。また、講師や職員の前での開放。

**【緊急対応】**
・保護者への緊急連絡網作成。
・休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把握。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**
・個人健康調査票により受講生の健康状態を把握。その上で配慮の必要な子については、各担当講師へ伝える。

**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　０　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　小学校２校
**【学校支援地域本部】**　なし
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**　なし
**【企業・大学】**　みらいパーク竜王
**【その他】**　竜王町文化協会

## 事業を実施して

**【成果と課題】**: ・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につけると共に、技能を伸ばすことができた。
・少子化による参加者数の伸び悩みと子ども達に音楽の興味をひく機会づくりと保護者への平日開催の理解が課題。

**【子どもの声】**: ・人数は少ないけれど、みんなが、それぞれに好きな楽器を選んでアンサンブル演奏ができるようになり、いろんな発表会で上手に吹けてよかった。

**【保護者の声】**: ・日々、家でしか楽器を一生懸命練習をしている姿を見ておりませんでしたが、演奏会を見に行った時の子ども達の素晴らしい演奏を聞き、拍手をせずにいられなかった感動が今でものこっています。

**【スタッフの声】**: ・毎日の練習の成果が、様々な舞台発表で発揮でき、子ども達のイキイキした笑顔に喜びを感じ、少人数でのアンサンブル演奏を思い切ってやってよかったという思いにひたっています。

# 竜王町子ども教室【和太鼓クラブ】竜王・竜王西小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ー | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 22 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ● | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

発表に向けて猛練習

ステージ発表

## 教室の実施場所

・竜王町公民館

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校1年生～6年生
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
土日・祝日　（　19　）人
長期休暇　　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** ・住民、学校教員ＯＢ、行政職員などの情報により候補者リストアップ後、採用決裁により採用。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| 1日あたり | 2 | | | 1 |
| 登録者数 | 3 | | | 1 |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。また、講師や職員の前での開放。

**【緊急対応】**
・保護者への緊急連絡網作成。
・休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把握。

**【配慮の必要な子どもへの対応】**
・個人健康調査票により受講生の健康状態を把握。その上で配慮の必要な子については、各担当講師へ伝える。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　０　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　小学校２校
**【学校支援地域本部】**　なし
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**　なし
**【企業・大学】**　みらいパーク竜王
**【その他】**　竜王町文化協会、竜王町教育委員会

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につけると共に、技能を伸ばすことができた。
・子ども達の練習成果の発表機会の創出とコーディネートが課題。小学校１年生を対象にするには、体力技術指導に無理が生じる。

**【子どもの声】**：・太鼓をバチでたたけるようになり、リズムよく演奏ができるまでになれてとっても良かった。

**【保護者の声】**：・活動後に、家で「バチをたたきすぎて、マメができた」、「今日は本番と同じように練習してきた」という話を聞くと、一生懸命頑張っている我が子に益々、声援を送りたくなりました。

**【スタッフの声】**：・和太鼓を通して、技能はもとより子ども達が自信に満ち溢れた姿と仲間同士が助け合う姿が最高です。

# 竜王町子ども教室【書道クラブ】竜王・竜王西小学校区

| 実施場所 | 学校内 | ー | 活動の特徴 | 自由活動型 | ● | 開催日 | 平日 | ー | 年間開催日数 | 20 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学校外 | ● | | プログラム型 | ー | | 土日・祝日 | ● | うち長期休暇日数 | 0 日 |

## 活　動　内　容

毛筆の練習

硬筆の練習

## 教室の実施場所

・竜王町公民館

## 参加対象学年・参加人数

**【対　　象】** 小学校1年生～6年生
**【参加人数】** 平日　　（　　）人
土日・祝日　（　17　）人
長期休暇　　（　　）人
※1回あたりの平均参加者数

## コーディネーターや地域の方々などの参加

**【採用・募集方法】** ・住民、学校教員ＯＢ、行政職員などの情報により候補者リストアップ後、採用決裁により採用。

**【スタッフ配置人数】**

| | 安全管理員 | 学習アドバイザー | ボランティア | 講師 |
|---|---|---|---|---|
| １日あたり | 2 | | | 1 |
| 登録者数 | 3 | | | 1 |

## 安全管理・配慮事項

**【送迎】**
・保護者による公民館玄関前および活動場所までの送迎。また、講師や職員の前での開放。
**【緊急対応】**
・保護者への緊急連絡網作成。
・休日活動が多いため休日急患診療所の連絡先、場所の把握。
**【配慮の必要な子どもへの対応】**
・個人健康調査票により受講生の健康状態を把握。その上で配慮の必要な子については、各担当講師へ伝える。
**◎特別支援学級（学校）の子どもの参加**（　０　）人

## 地域の機関等との連携

**【学校】**　小学校２校
**【学校支援地域本部】**　なし
**【児童クラブ】**　なし
**【地域】**　なし
**【企業・大学】**　なし
**【その他】**　なし

## 事業を実施して

**【成果と課題】**：・子ども達に活動体験を通じて、異年齢の友達づくりや何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につけると共に、技能を伸ばすことができた。

**【子どもの声】**：・硬筆も毛筆でも文字が綺麗に書けるようになって良かった。

**【保護者の声】**：・普段、鉛筆しか持たないため、毛筆が上手になればと思い参加させました。その甲斐あって、筆の使い方も上手になりとても喜んでいます。

**【スタッフの声】**：・子ども達が、文字を正しく丁寧に書けるようになり教室を開催してよかったと思います。パソコン時代であるからこそ、文字を書く大切さが必要と思います。

# 放課後児童クラブの現状調査

平成24年5月1日現在

## １　放課後児童クラブ数実施状況

### （１）　小学校の状況

| | | | |
|---|---|---|---|
| 小学校区数 | 228 か所 | 児童数 | 84,052 人 |
| 小学校１～３年生の総数 | 40,916 人 | ＊４～６年 | 43,136 人 |

### （２）　放課後児童クラブの概況

| 補助対象別クラブ数 | 国庫補助対象 | 大津市 | 市町単独実施 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| | 203 | 57 | 6 | 266 |

### （３）　放課後児童クラブの状況

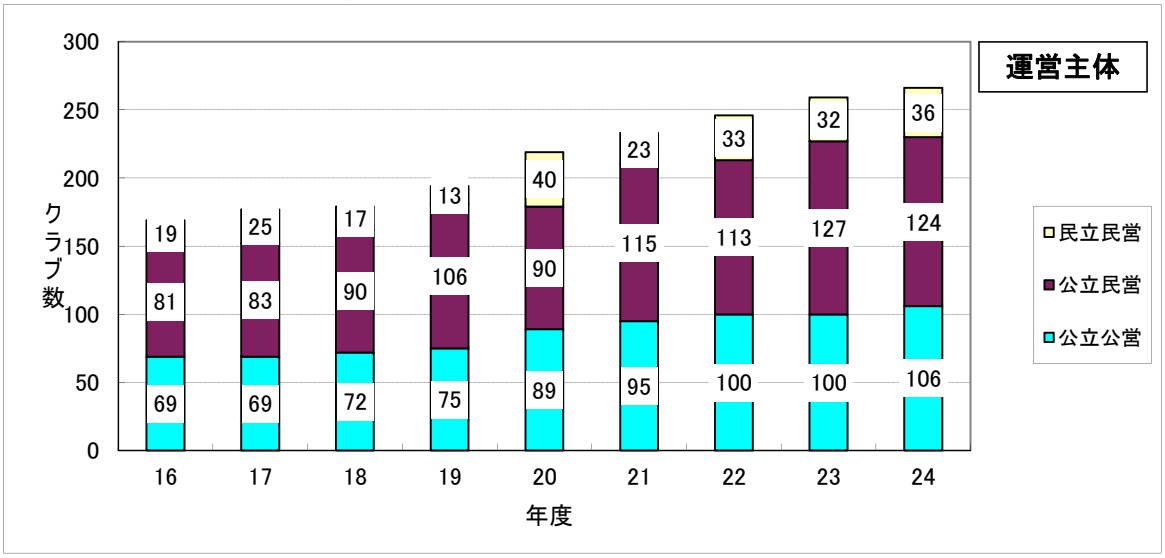
| 調査項目 | | 公立公営 | 公立民営 | 民立民営 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 実施場所別放課後児童クラブ数 | 児童館・児童センター | 0 | 3 | 5 | 8 |
| | 学校の余裕教室 | 44 | 17 | 1 | 62 |
| | 学校敷地内専用施設 | 34 | 44 | 2 | 80 |
| | 公有地専用施設 | 23 | 45 | 1 | 69 |
| | 民有地専用施設 | 2 | 1 | 8 | 11 |
| | 民家・アパート | 0 | 0 | 3 | 3 |
| | 公的施設利用 | 2 | 10 | 8 | 20 |
| | 団地集会室 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保育所 | 0 | 0 | 5 | 5 |
| | 幼稚園 | 1 | 4 | 0 | 5 |
| | 商店街空き店舗 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | その他 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| | 合計 | 106 | 124 | 36 | 266 |
| 登録児童数別放課後児童クラブ数 | ９人以下 | 0 | 2 | 2 | 4 |
| | １０人～１９人 | 7 | 11 | 8 | 26 |
| | ２０人～３５人 | 35 | 30 | 10 | 75 |
| | ３６人～７０人 | 60 | 73 | 13 | 146 |
| | ７１人以上 | 4 | 8 | 3 | 15 |
| | 合計 | 106 | 124 | 36 | 266 |
| 障害のある児童受入数別放課後児童クラブ数 | 受入なし | 21 | 28 | 16 | 65 |
| | １人 | 30 | 32 | 9 | 71 |
| | ２人 | 32 | 15 | 5 | 52 |
| | ３人 | 11 | 15 | 1 | 27 |
| | ４人以上 | 12 | 34 | 5 | 51 |
| | 合計 | 106 | 124 | 36 | 266 |
| 終了時刻別放課後児童クラブ数 | １７：３１～１８：００ | 78 | 19 | 3 | 100 |
| | １８：０１～１８：３０ | 28 | 39 | 6 | 73 |
| | １８：３１～１９：００ | 0 | 64 | 19 | 83 |
| | １９：０１～２０：００ | 0 | 2 | 7 | 9 |
| | ２０：０１～２１：００ | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 合計 | 106 | 124 | 36 | 266 |
| 休日の開館状況別放課後児童クラブ数 | 土曜日（毎週実施以外） | 105　(2) | 88　(18) | 36　(2) | 229　(22) |
| | 日曜・祝日 | 0 | 10 | 2 | 12 |
| | 長期休暇 | 106 | 104 | 36 | 246 |
| 学年別児童数 | 小学校１年生（障害のある児童） | 1,351　(61) | 1,488　(54) | 388　(5) | 3,227　(120) |
| | 小学校２年生（障害のある児童） | 1,216　(49) | 1,384　(69) | 334　(8) | 2,934　(126) |
| | 小学校３年生（障害のある児童） | 922　(30) | 1,079　(69) | 289　(11) | 2,290　(110) |
| | 小学校４～６年生（障害のある児童） | 712　(42) | 1,110　(101) | 388　(21) | 2,210　(164) |
| | その他（障害のある児童） | 0　(0) | 0　(0) | 0　(0) | 0　(0) |
| | 合計（障害のある児童） | 4,201　(182) | 5,061　(293) | 1,399　(45) | 10,661　(520) |
| 学年別登録できなかった児童数 | 小学校１年生（障害のある児童） | 6　(0) | 5　(2) | 0　(0) | 11　(2) |
| | 小学校２年生（障害のある児童） | 16　(0) | 0　(0) | 0　(0) | 16　(0) |
| | 小学校３年生（障害のある児童） | 14　(0) | 0　(0) | 0　(0) | 14　(0) |
| | 小学校４～６年生（障害のある児童） | 60　(0) | 13　(0) | 0　(0) | 73　(0) |
| | その他（障害のある児童） | 0　(0) | 0　(0) | 0　(0) | 0　(0) |
| | 合計（障害のある児童） | 96　(0) | 18　(2) | 0　(0) | 114　(2) |

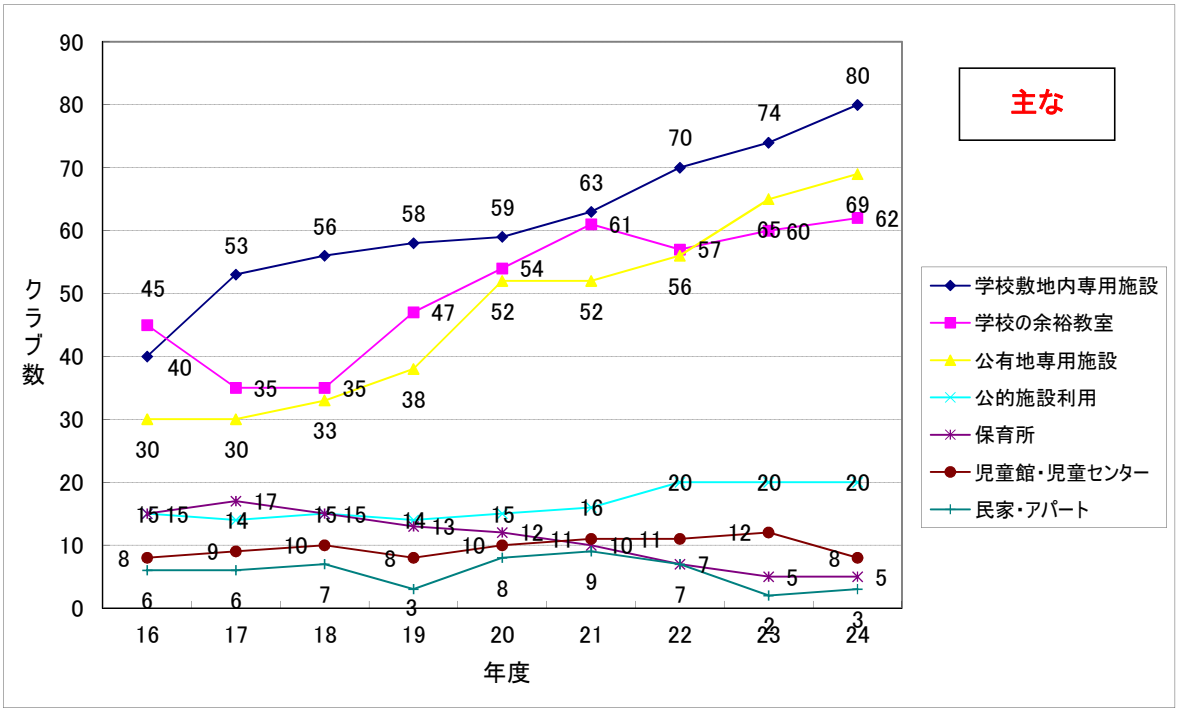
注：（　）内の数は、再掲である。

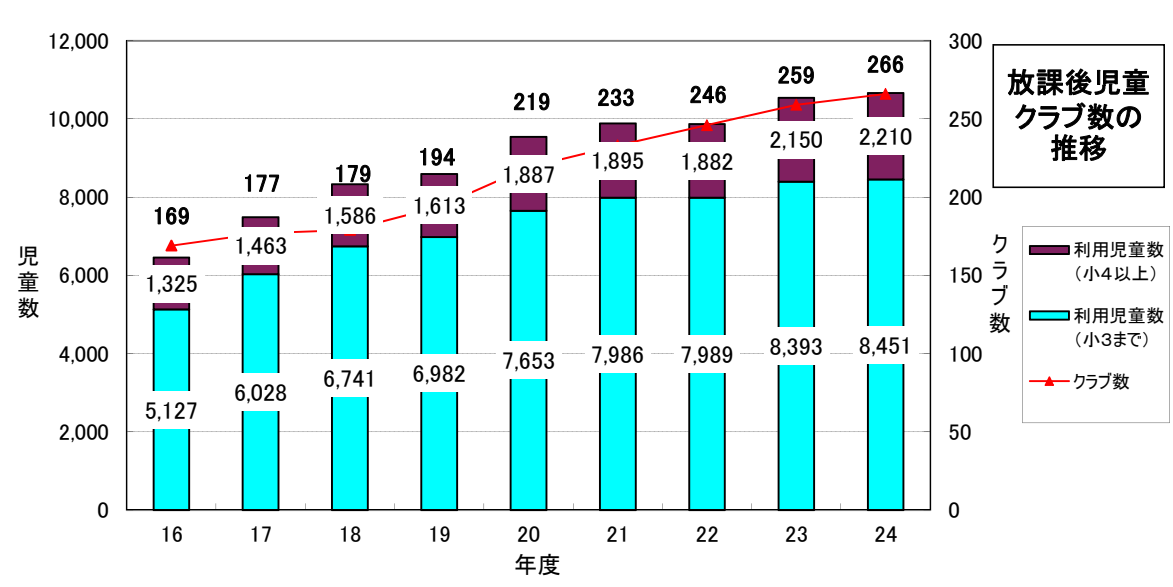
### （４）　市区町村の実施状況

| 全市区町村数 A | 実施率 （B／A） | 実施市区町村 | | | 合　計 B |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 市（特別区） | 町 | 村 | |
| 19 | 100 % | 13 | 6 | 0 | 19 |

## ２　放課後児童クラブ数の推移



# Ⅳ　家庭教育支援活動の実践事例

◆県内家庭教育支援活動事業一覧・・・・・・１７５
◇近江八幡市・・・・・・・・・・・・・・・・１７６
◇甲賀市・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７９
◇湖南市・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８０
◇高島市・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８１
◇東近江市・・・・・・・・・・・・・・・・・１８４
◇日野町・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８５
◇竜王町・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８６
◆報　告・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８８
「地域に根ざした家庭教育支援の在り方について（報告）」

## 平成24年　学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業
## 県内家庭教育支援活動事業一覧

### ○部会、研修会

**【部会の開催　年間3回】**

| | 日付 | 内　　容 |
|---|---|---|
| 第1回部会 | 6月26日 | ・協議（テーマ：地域の家庭教育支援の取組を活性化するための仕組みを整備する） |
| 第2回部会 | 11月6日 | ・現地視察（近江八幡市）、協議（テーマ：地域に根ざした家庭教育支援のあり方） |
| 第3回部会 | 1月11日 | ・協議（テーマ：報告書「地域に根ざした家庭教育支援のあり方」） |

**【家庭教育支援に関する研修会　年間3回】**

| | 日付 | 講師 | 内　　容 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 7月11日 | 高木和久氏 | 学校・家庭・地域が協働で子どもの育ちを支える |
| 第2回 | 10月25日 | 鈴木秀一氏 | 子どもを理解し、子ども同士のつながりを創造する指導者の関わり方について |
| 第3回 | 1月24日 | 熊谷慎之輔氏 | 三事業合同研修会、事例報告 |

### ○教育支援活動

**【学習講座】**

| | 市町名 | 実施学校区数 | 幼児期講座 | 学童期講座 | 思春期講座 | 父親向け講座 企業出前講座 | 親子参加行事 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 近江八幡市 | 10 | 3 | 7 | | | | | 10 |
| 2 | 甲賀市 | 12 | | 1 | | | 14 | | 15 |
| 3 | 高島市 | 16 | | | | 4 | 4 | 1 | 9 |
| 4 | 東近江市 | 9 | 9 | 5 | | | 1 | | 15 |
| 5 | 日野町 | 5 | 14 | 5 | 1 | 3 | 1 | | 24 |
| 6 | 竜王町 | 2 | | | | | 2 | 4 | 6 |

**【地域人材の養成】**

| | 市町名 | 講座数 | 対象者 | 養成後の活動の場所 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 近江八幡市 | 5 | 家庭教育支援コーディネーター | ・主に学校においての相談活動や研修会の企画<br>・関係機関や家庭と連携して、問題の解決を図る |
| 2 | 湖南市 | 1 | 地域教育活動支援者 | 家庭教育支援チームにおける活動 |
| 3 | 高島市 | 2 | 地域家庭教育アドバイザー<br>団塊の世代、シニア男性等 | ・グループワークの進行役<br>・学校や家庭、地域での子育てボランティア |

**【支援チーム組織化】**

| | 市町名 | 人数 | 年間活動日数 | 主な活動内容 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 学習機会のコーディネート | 相談対応 | 家庭訪問による支援 |
| 1 | 近江八幡市 | 10 | 300（延べ） | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 湖南市 | 18 | 59 | ○ | ○ | ○ |

# 学習講座・行事等の実施　【近江八幡市】

１【ねらい】

子育てで悩む保護者の一助となる教育相談、講演会、座談会などを開催し、子育てへの不安や悩みを解消する。

２【概要】

＊日時・場所・対象・参加者数・講師等

5 月 30 日(水)　岡山コミセン　４名
保護者同士による座談会
(10/11・10/18・12/18 にも開催)

6 月　8 日(金)　桐原東小学校　PTA 50 名
講師　中江亜希子さん

6 月 18 日(月)　武佐小学校　PTA 8 名
座談会助言者　冨永澄代さん

7 月 17 日(火)　桐原小学校　PTA 6 名
座談会助言者　川端典子さん
(1 月 30 日にも開催)

10 月 17 日(水)　島小学校　PTA 他 50 名
講師　川崎孝雄さん

11 月　6 日(火)　老蘇小学校　PTA 40 名
講師　内田玲子さん

11 月 21 日(水)　北里小学校　PTA 110 名
講師　谷口着太郎さん

11 月 22 日(木)　桐原東小学校 PTA 10 名
座談会助言者　岡田さよ子さん

12 月 13 日(木)　馬淵小学校　PTA 10 名
座談会助言者　桂田陽子さん

1 月 18 日(金)　安土小学校　PTA 32 名
講師　服部正彦さん

1 月 25 日(金)　八幡小学校　PTA 名
講師　小林美保子さん

３【参加者の感想】

・子育てで日々悩むことが多いが、話を聞いて、少し余裕を持って子どもを見ていく大切さを感じた。
・他の保護者と話せることは色々な情報や考え方もわかるのでとても良い。話しておられたことも取り入れて子どもに声をかけていきたい。
・ありのままの子どもの姿を受け入れることの大切さと難しさを深く感じました。
・今まで、自分は何も子どものためにできていないと思っていたが、そうではないということが分かって安心したと同時に自信を持つことができた。
・家での毎日を思い起こすと、大きくなるにつれて、子どもが自分で考えて行動する場面を増やすことが大事だと思った。
・かしこまると話せないけど、一緒におやつをつくりながらだと知らないうちにいろいろしゃべっていました。
・常にいい母親ではいられないが、子どもが安心できる母親でいたいと思った。

４【事業の成果と今後の課題】

コーディネーターを中心に家庭教育支援活動の取組を行って２年目になる。昨年度の反省に立ち、講演会だけでなくサロン形式や座談会等、保護者が参加しやすいようにそれぞれの実態に応じ工夫して実施することができた。その一方で、本当に来てほしい悩みを持つ保護者の参加が難しいのが課題でもある。全体を対象とする講演会とともに、悩みを持つ保護者が来校したり、相談したりしやすいようにさらに工夫を重ねていくとともに、そのような保護者の掘り起こしを、学校・地域と連携しながら地道に行っていく必要がある。

また２年目を迎え、家庭教育支援の取組の周知が一定できたと感じるが、さらにその輪を広げていきたいと考える。

# 地域人材の養成　【近江八幡市】

１【ねらい】

地域課題や現在の家庭教育の課題を経験上での理解に留めるのではなく､研修を通して、より客観性を持った視点で現状を見ることができる力をつけたい。また、さまざまな課題に対して適切な方法や関係機関との連携、人材の紹介と発掘等ができるよう、必要な知識と技能を身につけさせたい。

家庭教育の向上に必要な講座や研修のあり方を計画し学校やＰＴＡにも提案できる力をつけることをねらいとする。

２【概要】

＊日時・場所・対象・参加者数・講師等

第１回近江八幡市家庭教育推進協議会（7 月 30 日　18:00～19:50　15 名　市役所）

第２回近江八幡市家庭教育推進協議会（11 月 15 日　18:00～20:10　15 名　市役所）

第 1 回家庭教育支援コーディネーター研修会（7 月 10 日　11:00～12:00　10 名　市役所）

第 2 回家庭教育支援コーディネーター研修会（9 月 27 日　10:00～11:30 10 名　市役所：話題提供・助言者 岡田さよ子さん・藤井美智子さん）

第 3 回家庭教育支援コーディネーター研修会（11 月 6 日 13:30～15:00 11 名　老蘇小学校：県部会員との意見交流）

３【講座の企画運営で工夫した点】

・ 事業実施２年目となり、コーディネーターの学校配置数も増えたため、コーディネーターの力量アップとともに、力量差が広がらない様に取り組んだ。
・ 情報交換や取り組みの交流を行う中で、学校間での温度差やコーディネーターの抱える問題点を出し合い、方向性や取組重点を確認した。
・ 家庭教育推進協議会との連携を図り、指導助言と支援の強化に努めた。

４【参加者の感想】

・ 取り組み交流や情報交換により、自分だけが悩んでいるのではないことが分かり、前向きになれた。
・ 家庭教育推進協議会からの指導助言により、方向性が見えてきた。
・ 率直な意見や考えが聞けてよかった。

５【受講者の今後の活動について】

・ 地域での家庭教育や子育てに関する課題をさらに明らかにし、取り組みの実践を深める。
・ 学校と連携しながら、子育てに悩む保護者の掘り起こしと相談活動などの支援の強化に努める
・ コミュニティセンターなど、地域との連携を深め、家庭教育支援の活動の輪をさらに広げる。

# 家庭教育支援チームの設置・活動　【近江八幡市】

１【家庭教育支援チームの構成】

・地域コーディネーター
・子育てリーダー
・民生委員・児童委員
・ＰＴＡ役員

２【活動の範囲】

| | |
|---|---|
| 八幡小学校 | 馬淵小学校 |
| 島小学校 | 北里小学校 |
| 岡山小学校 | 武佐小学校 |
| 桐原小学校 | 安土小学校 |
| 桐原東小学校 | 老蘇小学校 |

３【活動範囲の児童数】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 八幡小学校 | ８５７名 | 馬淵小学校 | １８２名 |
| 島小学校 | １０９名 | 北里小学校 | ３０１名 |
| 岡山小学校 | ２９８名 | 武佐小学校 | １９３名 |
| 桐原小学校 | ４６０名 | 安土小学校 | ５３４名 |
| 桐原東小学校 | ５１５名 | 老蘇小学校 | １３２名 |

４【家庭教育支援チームの活動概要・特色】

・校内家庭教育の情報を収集する。
・PTA、教育相談担当教師に情報を伝え、既存の事業に反映させる。（講演会、学習会・座談会などの開催、適切な関係機関の紹介など）
・情報を学校・「家庭教育推進協議会」など連携機関に伝える。
・校区のコミュニティーセンターの子育てサポーターとの連携を行う。
・悩み相談への対応を行う。

５【活動の成果】

・家庭教育支援チームの人員、活動範囲が増え、家庭教育支援に対する重要性の認識を市内全体に広めることができた。
・同じく家庭教育を支援する体制が、市内全体に徐々にではあるができつつある。
・相談活動やサロン的な活動を始め、子育てに悩む保護者への取り組みが、各校の実情に応じて取り組むことができた。
・家庭教育推進協議会との連携を進めることができた。

６【今後の課題】

・２年目を迎え、支援チームの人員、活動範囲が広がったものの、保護者・一般教員へのコーディネーターの役割の周知がまだまだ不十分であった。周知の徹底をさらに図っていく必要がある。
・支援活動に協力していただける地域の方をどんどん増やしていく必要がある。

７【チーム員より】

・２年目となり、学校や PTA の協力のもと少しずつ取組みを始め、参加者はまだまだ少ないながら、継続的な活動に取り組めた。
・学習会等の企画を進めたが、子育てに悩む保護者や課題を持つ保護者の参加がなかなか得られなかった。次年度はさらに工夫をしていきたい。
・訪問や相談活動には取り組めなかったのが課題である。

# 学習講座・行事等の実施　【甲賀市】

１【ねらい】

保育園や幼稚園の保護者参観日などの機会に、親が子育ての中で、家庭教育の大切さ、子どもとのふれあいの楽しさなどを見つめ直す場として実施。また、小学４年生を対象に命の大切さを体感し、家族との絆を深める講座を開催。子どもの成長と共に、親自身も少しずつ成長していける講座を提供する。

２【概要】

■保護者を対象にした家庭教育学習

・１１月３０日（金）雲井保育園（４９人）
　演題「絵本を楽しもう」
　講師　市居　みか　さん（絵本作家）
　内容　絵本作家から見た絵本の楽しみ方
　　絵本の読み聞かせ（実演）　など

・その他、園長、保護者会の希望により内容や講師をコーディネートし実施した。

９／４甲南南保育園、１１／１４甲南北保育園、１／２１油日にこにこ園、２／８甲南希望ヶ丘保育園、２／１４大原にこにこ園、２／１９土山にこにこ園

■小学生を対象とした家庭教育学習

・１１月３０日（金）甲南第三小学校
・１２月１９日（水）山内小学校
・２月５日（火）多羅尾小学校
　演題「１０歳になった君達へ
　　～育ちゆく体とわたし～」
　講師　市岡　恵子　さん（助産師）
内容　妊婦体験スーツの妊婦体験や出産体験。
　新生児人形のお世話体験。
　家族からの「手紙」を読んで、「生まれてくれてありがとう」「生んでくれてありがとう」の返事を書く。
備考　保護者は当日参観していないが、子どもが生まれた日を思い返し、１０歳に成長したわが子をふり返りながら手紙を書く事で、生まれてきてくれたことを改めて喜べる機会となった。

３【参加者の感想】

・親の顔色、言葉ひとつで子どもは笑顔にも曇った顔にもなる。親の感情で子ども達にまで影響させてはいけないと思いました。
・忘れてしまっていた気持ち「生まれてきてくれてありがとう」を思い出せました。
　（甲南南保育園保護者アンケート）
・ぼくは、自分の命「キセキ」をだいじにまもります。ありがとう。
・今日のにんぷ体験で、自分が大人になったら子どもをうむまでママといっしょのことをして育てなあかんなあと思ったら、やっぱりママはたいへんやなあと思いました。
・わたしを産んでくれてありがとう。手紙を読んで感動したよ！
　（甲南第三小学校４年生「親への手紙」）

４【事業の成果と今後の課題】

今年度から始めた小学生を対象とした家庭教育学習では、保護者は「手紙」というかたちでの参加であったが、ゆっくり時間をかけて綴る思い出は、より効果的であったように思う。 保育園・幼稚園は昨年度に比べ、講座の希望が少なかったので、保護者への啓発により努めたい。

# 家庭教育支援チームの設置・活動　【湖南市】

**１【事業の概要、特色等】**

平成 12 年度菩提寺小学校において、教室に入れない子に寄り添うため、当時の民生委員さんを中心に「ほっとルーム」を立ち上げ、ボランティア活動がスタートした。

その後、人の入れ替わりはあったが、現在は３名で週３回活動を続けている。

子どもの対応としては、１対１の形で活動している。

今年度は、子どもだけでなく、親を対象に支援活動も始めた。

**２【事業の成果】**

子どものサポートは、教師との連携で随時スムーズにできている。子どもの言うことに耳を傾け、一緒に活動することで信頼関係を築くことができた。

今年度は、講師を迎え「親子で幸せになる」というテーマで講演を行った。保護者、地域ボランティアの皆さんが参加され、質疑応答も活発に行われた。

学校支援地域本部事業の「菩っこを育てる会」と協力しながら、”菩っこはうす”で『ほっ♪とサロン』を開催した。

（旧用務員宿舎を、ボランティアでリフォームし”菩っこはうす”という活動拠点ができた。）

授業参観後の開催だったが、まだまだ保護者に広報が行き届かなかったようで、参加者はやや少なかった。しかしながら、少人数であったからこそ、参加者からは、日頃思っていることや、聞いてみたいことがたくさん出てきた。

終了後には「思いっきりしゃべってすっきりした。」と言う声も聞きかれた。

**３【今後の課題】**

○子どもたちに寄り添う形を続け充実させるために、もう少し活動メンバーを確保したい。

○『ほっ♪とサロン』をより充実させ、定期的に開催できるようにしたい。

○親を対象の支援をより具体的にする必要があると考えており、次年度の重点課題とする。

# 学習講座・行事等の実施　【高島市】

## Ⅰ妊娠期家庭教育講座

### １【ねらい】

核家族化が進む中で、父親の子育て参画や役割、パートナーとのあり方などについて学ぶことで、父親が積極的に家庭教育や子育てに参画できるようになる。

### ２【概要】

健康推進課と協力し、父親の参加が多くなってきた妊婦教室時に、家庭教育講座を開催し、講演とグループワーク（語り合い）を行った。地域家庭教育アドバイザーが、語り合いの進行と教室・講座の補助を担当した。

●日時・参加者数
　５月１３日（日）２７人
　９月　９日（日）１７人
　１１月１１日（日）１０人
　２月２４日（日）
　計４回　１４時１５分～１５時１５分

●場所　南部・北部保健センター

●対象　妊婦教室参加者

●講師　ファザーリング・ジャパン
　副代表理事　小﨑　恭弘さん
　ファザーリング・ジャパン滋賀のみなさん

### ３【参加者の感想】

（父親）
・父親の視点での話がためになった。
・みなさん色々な意見があり、子育てに対する気持ちも少しかわった。

（母親）
・実際に育児を経験している、現役パパの生の声が聞けて、参考になった。
・夫婦で参加できたし、グループトークではいろいろ聞けてよかった。

### ４【事業の成果と今後の課題】

講演と、先輩ママである地域家庭教育アドバイザーが進行する語り合いを通じて、これからの育児の不安を共感し、親になる心構えを育てる学習の機会を提供できた。

今回のように、子育て支援を目的とする各種団体や組織と連携して、取り組みを進める必要がある。

## Ⅱ親子体験学習事業

### １【ねらい】

学齢期の子どもと保護者が、様々な体験活動を通してふれあうことで、お互いを尊重し合い、より良い親子関係を築きながら、他者との共同生活・活動を通じて、協調性や社会性を育む。

### ２【概要】

高島市ＰＴＡ連絡協議会に委託し、親子で体験学習と食育学習、環境学習に取り組む事業を、夏（日帰りと宿泊を各１回）と冬（日帰りを２回）に開催した。夏の宿泊には、中学生ボランティアが参加して、活動や運営を補助してくれた。

●対象　学齢期（小学生・中学生）の親子

●実施日・参加者数・場所・内容

＜夏＞
　８月２日（木）　２１家族６１人
　８月４～５日（土・日）２２家族６５人
　高島市今津町　椋川山の子学園
　野外調理（鹿肉カレー他）・生きもの観察・テント泊・天体観測など

＜冬＞
　１月１４日（祝・月）　５家族１６人
　１月２０日（日）　７家族１８人
　高島市朽木　朽木いきものふれあいの里
　　朽木東小学校
　郷土料理づくり（猪肉の肉じゃが他）・雪山かんじき体験・丁稚ようかんづくりなど

３【参加者の感想】

（親）

・いろんな状況で、周りの人と協力する活動をさせたいと思い参加したが、良かった。

・自然の中、家族で集団生活をしたことは、すごく貴重な経験になった。

（子）

・テントを家族ではるのが大変だった。中学生の人達が手伝ってくれたので、とても助かった。

４【事業の成果と今後の課題】

親子が協力して、食事づくりやものづくりを行い、子どもとふれあいながら、集団の中の子どもの姿を知り、成長を確かめる機会となった。

子どもたちは、様々な体験や中学生ボランティアの姿から、仲間と協力することや、自分の力でやり遂げることを学んだ。

今後は、地域の人の関わりを増やし、親は地域の人から学び、地域の人は子育てへの理解を深められる工夫が必要である。

## Ⅲ「社会教育（共育）研修会」

１【ねらい】

子ども社会の現実を知り、家庭、学校、地域が連携し、大人がすべきことを考える機会とする。

２【概要】

家庭教育支援事業と学社連携・融合推進事業および市青少年育成市民会議、市ＰＴＡ連絡協議会が合同で開催した。

●日時　平成２４年６月１６日（土）
　　１３時００分～１６時００分

●場所　安曇川公民館ふじのきホール

●対象　小中学校関係者、家庭教育・青少年教育等社会教育関係者等

●参加者数　１６５人

●内容

・パネルディスカッション

青少年育成や子育て支援関係者、スポーツ少年団指導者、地域の子どもの宿の推進委員が、活動を通して感じる子どもたちの変化や親子の関係、学校とのつながりなどについて討論した。

・講演「今、私たちがすべきこと」

講師　立命館大学産業社会学部
　　教授　野田　正人さん

３【参加者の感想】

・子どもの本質が変わったのではなく、周りが変わったということを大人自身が認識して、普段の言動や考え方を見直す。

・家庭、学校、地域、全体で子どもを見守り、育てていく。

４【事業の成果と今後の課題】

この研修会は、学校教育と社会教育が、初めて合同で開催し、子育てや子どもの健全育成、いじめや虐待などの問題について、参加者の共通理解を図ることができた。また、それぞれの立場で、子どもとのかかわりを振り返る機会となった。

今後は、大人たちが子どもの頃の体験を振り返り、子どもたちに伝えていくべきこと、必要なことを話し合い、家庭・学校・地域が連携して、地域ぐるみの子育てに向けた取り組みが行われるよう進めていく必要がある。

# 地域人材の養成　【高島市】

## Ⅰ地域教育力向上講座

**１【ねらい】**

退職シニア世代がゆとりの時間を生かし、孫育てや地域参画に対する関心を高め、地域で子育て支援や青少年育成に取り組む人材を育成する。

**２【概要】**

●日程　１１月２１日～１月２３日　全８回

●内容

①孫育てと地域参画　②おやつづくり

③服装・着こなし術　④似顔絵描き

⑤スマホの使い方　⑥絵本の読み語り

⑦遊びと子どもの育ち

⑧子育て事情と祖父母の役割

●場所　安曇川公民館

●参加者数　延べ１０４人

**３【講座の企画運営で工夫した点】**

体験を通じて、楽しく学べるよう、実習を多く取り入れ、実際に役立つ内容や、男性が関心をもてる内容を意識して企画した。

**４【参加者の感想】**

・自分が楽しくなる、自分みがきが必要で、それが地域で活かせればいいと感じた。

・時代の流れと学習の必要を痛感した。子育て、孫育ては自分の経験が基本になるが、変えてはいけないものと変えなければならないものを考える必要を感じた。

**５【受講者の今後の活動について】**

受講者には、家庭教育支援チーム「(仮称)地域子育て応援隊」の立ち上げに参画いただき、講座での学習成果を生かして「地域ぐるみの子育て」の推進に、中心的な役割を担っていただきたいと考える。

## Ⅱ地域家庭教育アドバイザー活動支援

**１【ねらい】**

講座修了者が、地域家庭教育アドバイザーとして活動する機会を設け、身につけた知識や力を生かす。

**２【概要】**

地域家庭教育アドバイザーが、妊娠期家庭教育講座でグループワークの語り合い進行と、運営の補助を担当した。

●日時・活動人数

５月１３日（日）５人

９月　９日（日）６人

１１月１１日（日）２人

２月２４日（日）

計４回　１３時００分～１６時００分

●場所　市内保健センター

**３【活動において工夫した点】**

アドバイザーは、妊婦教室と家庭教育講座の全体打合せと、終了後の反省会に参加することとし、事業を企画運営する立場で活動していただくようにした。

**４【語り合いの進行活動の感想】**

・時間に追われた感じがあった。自分の話ばかりにならないよう、気を付けた。

・参加して良かったとの声が多く、こういう機会の必要性を感じた。

**５【今後の活動について】**

地域教育力向上講座の受講者と一緒に、家庭教育支援チーム「(仮称)地域子育て応援隊」の立ち上げに参画いただき、今年の活動経験を生かし、相談対応等の親支援に取り組んでいただく。

# 学習講座・行事等の実施　【東近江市】

**１【ねらい】**

本市では、ＰＴＡを中心として親の学びを支援する研修会などが数多く開催されている。しかし、参加者がなかなか集まらないとか、ほんとうに来てほしい人がきてくれないなどの悩みがある。そこでそれらの研修会に無関心の人を、学びの場に取り込めるような工夫がなされた事業を展開し、多様な形態の学習会の実践を蓄え、啓発することを目的とする。

**２【概要】**

上記趣旨に合った研修会の実施を市内各幼稚園・学校・社会教育施設に呼びかけ、実施希望のあったところに本市の家庭教育支援コーディネーターが調整・支援をすることで事業を実施し、成果を広く報告することとした。

**３【実践と参加者の感想】**

①祖父母参観を利用した学習会

湖東第一幼稚園では、公立図書館の司書による読み語りを子どもたちとともに鑑賞した。そのあと、絵本の大切さを学んだ。子どもたちが本の世界に夢中になっている姿を見た後なので、学習の意欲が高まったようだ。

永源寺幼稚園では、子どもと祖父母のふれあい遊びを通して、自分の孫を愛するとともにまわりの子どもたちも愛することの大切さを学ぶ学習会を開催した。子どもたちの喜ぶ姿に感動して、いろいろな子に関わろうとする祖父母の姿が見られた。一緒に遊べて楽しかったという感想が多かった。

②サロン型の学習会

蒲生北小学校では、教育相談担当の先生が中心となり、授業参観後、気軽に寄れる場所を設定して、子育ての悩みなどを語り合えるサロンを開催した。

③親子参加型の学習会

湖東第一幼稚園では、木製の玩具を通して、親子がふれあう活動を行った。親同士の交流も図れた。

玉緒小学校では、児童書作家に来ていただき、子どもに絵本の世界を紹介してもらった。授業参観としたので親も一緒に学ぶことができた。

④一工夫して広く公募する研修会

箕作小学校では、楽しい講演で有名な講師を招き、参加しやすい雰囲気を作ろうと努力した。また、学習会の内容は、「子育て新聞」としてすぐに発行して、全保護者に配布した。終始笑いが絶えずあっという間に時間がすぎ、学習会に対するイメージが大きく変わったという感想があった。

⑤広報・啓発活動

市内２３の幼稚園ＰＴＡの研修担当者を一堂に集めて、ＰＴＡ幼稚園情報交換会を実施した。短時間の学習会と、ティータイムを楽しみながら、語り合いを通した学びあいを体験してもらった。アンケートには、いい話が聞けて、思いも喋れてよかったという感想が多く寄せられた。

各ＰＴＡにお願いして、講師情報を集めた。そして、まとめた一覧表を配布した。役員になった方がそれを見て、講師を選定することも多々あったようだ。

**４【事業の成果と今後の課題】**

ＰＴＡと連携して進めたが、社会教育施設や各種団体、さらに地域の人から家庭教育を進める動きが出てきており、いろんな所で気軽に学べるように各団体・施設が連携して取り組むことが大切である。

この２年間は、主に形態についていろいろなアプローチを行ってきた。いろんなやり方がそれぞれいいという考察はできるが、今後は、内容やテーマをもって、それを広げるためにどうしていくかという方法を考えていくことも必要である。

# 学習講座・行事等の実施　【日野町】

１【ねらい】

幼稚園へ児童を迎えに来られる時間や小学校の就学時健診・一日入学など、保護者が集まる機会に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にして欲しいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供し、家庭での教育力の向上をはかる。

２【概要】

○幼稚園井戸端学習会

| 開催日 | 場所 | 人数 |
|---|---|---|
| 11 月 6 日 | 西大路幼稚園 | 9 |
| 11 月 9 日 | 日野幼稚園(5 歳) | 7 |
| 11 月 15 日 | 日野幼稚園(4 歳) | 8 |
| 11 月 26 日 | 南比都佐幼稚園 | 15 |
| 11 月 28 日 | 必佐幼稚園 | 26 |
| 11 月 29 日 | 日野幼稚園(3 歳) | 17 |
| 12 月 6 日 | 桜谷幼稚園 | 14 |
| 12 月 13 日 | 日野幼稚園鎌掛分園 | 13 |

対象：幼稚園に通園している児童の保護者

講師：寺町卓 氏

○就学前学習講座

| 開催日 | 場所 | 人数 |
|---|---|---|
| 11 月 5 日 | 南比都佐小学校 | 8 |
| 11 月 9 日 | 西大路小学校 | 12 |
| 11 月 16 日 | 桜谷小学校 | 12 |
| 2 月 8 日 | 日野小学校 | 102 |
| 2 月 8 日 | 必佐小学校※ | 64 |

対象：平成２５年度就学予定児の保護者

講師：寺町卓 氏

※必佐小学校のみ早川和彦 氏

「共に生きる～へこたれない子に～」というテーマで、子どもと関わるうえで大切にしたい「信頼・安心・自信」という３つの関係づくりと、「話す・聞く・教える・伝える・つくる」という５つの接点、それぞれの家庭で、これだけは大事にしたいという「こだわり」を持つことなどを中心に講演会を開催した。

幼稚園井戸端学習会は園児の降園予定時間の３０分前に集まっていただき、就学前学習講座は就学予定児の保護者が集まる機会に講演を行った。

３【参加者の感想】

参加された保護者からは次のような感想が寄せられた。

・体験なども交えての話なので分かりやすかった。３つの関係をつくることが、子どもが「へこたれない子」になるために大切だと感じました。

・講演を聞いて、家で子どもとどのように接しているかを振り返り、少しでも５つの接点を持つようにしたいと思いました。

４【事業の成果と今後の課題】

乳幼児の保護者が集まる機会を捉えることで、普段は講演会等に参加されない方にも聞いていただくことができている。

しかし、そうした中でも参加されない保護者もあり、参加を促す工夫をしていきたい。

また、広く地域の方を対象に、現在の子育て家庭を取り巻く状況、地域で子どもを育てることの大切さなどについての講座等を開催し、地域も一体となって子育てに取り組める地域づくりに取り組んでいきたい。

# 竜王町教育フォーラム 2012　【竜王町】

## １【ねらい】

・子どもたちの夢や希望を育み、親が育つ研修会を開催する。
・町内単位ＰＴＡが一堂に会して研修会を開催することで、互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深めるなかで、地域の教育力の醸成を図る。

## ２【概要】

（１）日時　平成 24 年 11 月 23 日（金）
　　13:00~15:40
（２）場所　竜王町立竜王西小学校 体育館
（３）対象　保護者、教職員、
　　スポーツ少年団指導者
（４）参加者数　１４５名
（５）主催　竜王町ＰＴＡ連絡協議会
（６）共催　竜王町教育委員会
　　竜王町公民館
（７）内容
　①　開催趣旨説明
　②　事例発表
　　「子ども達の生きる力をはぐくむ竜王西幼稚園ＰＴＡの取組」
　　竜王西幼稚園
　③　記念講演
　　「子ども達の生きる力をはぐくむための家庭の役割」
　　講師　松田　保
　　（びわこ成蹊スポーツ大学教授）

10 代の体力が生涯の健康に最も大きく影響をしている。しかし、日本の小学生の運動量は、欧米２８カ国で最下位である。その原因は、子どもたちの生きる力の欠如、地域社会が機能していない、少子化などが考えられる。そこで、家庭は、生きる力や心を育てる庭として、くつろぎの場としての役割が必要である。悪い習慣を改善し、良い習慣を身につけ、学ぶ身体つくりや自己教育力の向上をめざしていくことが望まれている。そのためには、自己肯定感や有用感、自尊心や自信を育むよう良い点を誉め、ポジティブな働きかけをする。問題点には、改善を試みることを誉めて、改善するようにするなどの話を具体的に聞くことができた。

（松田　保氏の記念講演の様子）

## ３【参加者の感想】

・「良い子どもが良い親を育て、良い親が良い子どもを育てる。」と聞き、子育てを楽しみ、子どもの良さをもっと見つけていきたいと思いました。
・社会全体で、子育てを支える基盤をつくることが必要と感じました。

（竜王西幼内園ＰＴＡの事例発表の様子）

## ４【事業の成果と今後の課題】

町内単位ＰＴＡの三役の方を中心に準備や運営、後始末を協力いただき、学力や体力向上における家庭の役割について研修を深める機会となった。この時期小学校の体育館で行うことは、少し寒く、暖房の設備がある方がよかった。また、事例発表、記念講演という形式が続いたので、来年度、内容について検討していきたい。

【その他事業概要】

●（１）日時　平成２４年６月２日（土）
　　９：００～１１：００
（２）場所　雪野山とその周辺
（３）対象　園児と保護者
（４）参加者数　６７組の親子
（５）主催　竜王幼稚園ならびにＰＴＡ
（６）共催　竜王町公民館
（７）内容
①親子雪野山ハイキング
②草花あそび
　講師：かわせみグループ

●（１）日時　平成２４年６月２３日（土）
　　１０：００～１２：００
（２）場所　竜王西幼稚園遊戯室・保育室
（３）対象　園児と保護者
（４）参加者数　８０組の親子
（５）主催　竜王西幼稚園ならびにＰＴＡ
（６）共催　竜王町公民館
（７）内容
①親子で遊ぼう（体力づくり）
　講師：中原今日子氏
②子ども体験教室（お絵描き）

●（１）日時　平成２４年１０月２３日（火）
　　１５：００～１６：００
（２）場所　竜王西小学校
（３）対象　保護者と祖父母
（４）参加者数　４７名
（５）主催　竜王西小学校ならびにＰＴＡ
（６）共催　竜王町公民館
（７）内容
①講演「挨拶することの益について」
　講師：池田喜久子氏

●（１）日時　平成２４年１１月１０日（土）
　　９：００～１２：００
（２）場所　竜王西小学校
（３）対象　児童と保護者
（４）参加者数　３１９名
（５）主催　竜王西小学校ならびにＰＴＡ
（６）共催　竜王町公民館
（７）内容
①本の読み聞かせ「竜王弓物語」
　講師：ポエム
②講演「アラスカフォトライブ」
　講師：松本紀生氏

●（１）日時　平成２４年７月１４日（土）
　　１９：３０～２２：００
（２）場所　竜王町公民館ホール他
（３）対象　保護者、一般住民
（４）参加者数　１２１名
（５）主催　竜王中学校ならびにＰＴＡ
（６）共催　竜王町公民館
（７）内容
①講演「中学生の子育て」
　講師：福井進氏
②分科会「我が家の子育て」

●（１）日時　平成２４年１２月１３日（木）
　　１５：３０～１６：４５
（２）場所　竜王中学校
（３）対象　保護者と学校保健委員
（４）参加者数　３０名
（５）主催　竜王中学校保健委員会
　　竜王中学校ＰＴＡ
（６）共催　竜王町公民館
（７）内容
①講演「思春期に見られる心の変化」
　講師：三船直子氏

# 地域に根ざした家庭教育支援をめざして（報告）

滋賀県家庭教育支援活動部会

## １．はじめに

○家庭教育を支える環境は、核家族による身近な人から子育てを学ぶ機会の減少や、都市化による地域とのつながりの希薄化などにより、大きく変化しています。また、現在、若者の引きこもり、不登校、児童虐待の問題など、家庭と子どもの育ちをめぐる問題は複雑化しています。

○そのような中、平成 18 年 12 月には、教育基本法が改正され、第 10 条に家庭教育について、また社会教育法においても家庭教育に関する新たな規定が追加されるなど、家庭教育を支援することが国や県、市町の責務として明記されました。同時に教育基本法第 13 条には学校・家庭・地域住民等の連携協力についての条項が新たに定められ、社会全体で子どもの育ちを支える環境づくりが求められるようになりました。

○県ではこれまでの家庭教育支援総合推進事業を引き継ぎ、平成 20 年度より、家庭教育支援基盤形成事業を 2 市 5 町で実施し、家庭教育支援チームによる学齢期における子育て･親育ち講座の実施など全ての親へのきめ細やかな家庭教育支援手法の開発をめざした取組を進めてきました。平成 21 年度には訪問型家庭教育相談体制充実事業を 2 市町で実施し、積極的かつきめ細やかな相談体制の充実を図るための手法の開発を行ってきました。

○平成 23 年度からは「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」として、学校支援地域本部事業や放課後子ども教室事業と有機的な連携をめざし、家庭教育支援チームの組織化による相談対応、保護者への学習機会や親子参加行事の企画・提供など、全ての保護者が安心して家庭教育を行うための支援活動を実施してきたところです。

○今年度は、家庭教育支援事業が新たな枠組みとなり 2 年が経過し、県内の家庭教育支援の基盤を形成するとともに、持続可能な安定した体制の確立が重要な課題となっています。ここに、家庭教育支援活動部会で論議した内容についてその要点を取りまとめましたので、今後の各市町、地域における取組の参考としていただき、地域に根ざした効果的な家庭教育支援がさらに推進されることを切望します。

## ２．本事業における取組

（県内における取組概要）

○平成 23 年度は、近江八幡市、甲賀市、東近江市、日野町、竜王町において、

学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業における家庭教育支援活動を実施し、今年度はさらに、湖南市と高島市が新たに加わり、地域の実情に応じた家庭教育支援活動が実施されました。

○県では、市町担当者やコーディネーター、ボランティア等の資質の向上や情報交換を図ることを目的に家庭教育支援に関する研修会を年間 3 回実施しました。第 1 回研修会では元湖南市教育研究所長の髙木和久氏より、学校・家庭・地域が協働して子どもの育ちを支えることの意義や重要性について講演をいただきました。第 2 回研修会では放課後子どもプラン事業と合同で研修を行い、県教育委員会スクールソーシャルワークスーパーバイザーの鈴木秀一氏より、子どもを理解し、子ども同士のつながりを創造する指導者の関わり方についてのお話を伺いました。第 3 回研修会では、岡山大学の熊谷慎之輔氏より、本事業の意味と今後のあり方について御講演いただきました。

○家庭教育を効果的に推進するための取組を支援することを目的に家庭教育支援活動部会を設置し、2 回の推進委員会、3 回の部会を開催しました。部会では、家庭教育をとりまく地域や学校、保護者や子どもの現状や県内各市町における家庭教育支援の実施状況、近江八幡市における取組の現地視察および意見交流を実施しました。

## ３．家庭教育支援を巡る状況

### （家庭教育と家庭教育支援）

○家庭教育とは、父母その他の保護者が子どもに対して行う教育のことです。家庭は家族が共同生活を営む場所であり、団らんや共同生活など愛情に支えられた生活の営みの中で、生活のために必要な習慣を身につけさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和の取れた発達を図るものです。これら家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習機会及び情報の提供や、家庭教育を支援するための必要な施策を講じることは、国及び地方公共団体の責務となっていますが、施策を講じるにあたっては、行政が各家庭における具体的な教育内容を押しつけることがないように留意する必要があります。

### （家庭にかかわって）

○家庭教育を支える環境は大きく変化し、家庭教育の二極化が問題となっています。教育に関心が高く、様々な教育資源や情報を収集・活用している家庭がある一方で、子どもと十分に接することができない家庭や、経済的にも精神的にも厳しい問題を抱えた家庭も見られます。

○家庭の価値観の多様化や地域の人間関係の希薄さ等により、学校と保護者が信頼関係を結びにくい状況もあります。地域で孤立している家庭の学校に対する批判的な言動や子どもの問題行動等に、学校が困り果てている現実があります。

○このような場面に対して、親としての役割の未熟さを問題にし、その家庭を批判することに終始する論調が見られます。しかし、家庭や子どもの行動のどこが課題であるかを見ることも大切ですが、同時に、そのことをどのように伝えていくかも大事な家庭教育支援の問題です。

○家庭教育支援は家庭を叱責するものではありません。いかに家庭がエンパワメントできるように支援し、保護者が事業や様々な活動に参加して、人と人とのつながりを実感してもらうかが大切です。そのためには、厳しい状況に置かれた保護者が思わず参加したくなるような工夫や仕掛けが必要です。

（学校にかかわって）

○学校は制度疲労を起こしている現実があります。地域の力を結集して、学校を支援するしくみづくりが求められています。まずそのためには、社会状況や社会のしくみを正しく認識し、地域と共に子どもを育てていこうという風土を学校に根づかせることが大切です。

○地域と連携する学校の取組によって、荒れていた中学校が落ち着きを取り戻している事例が報告されています。しんどい層の子どもたちを地域と学校で支え、全体の学力を伸ばそうという発想が求められています。

（地域にかかわって）

○地域には様々な団体や人材がたくさんおられます。学校でもない行政でもない地域の団体やＮＰＯ等は貴重な存在です。それらの方々に協働して家庭教育支援に取り組んでいただき、同時に自己実現をしてもらうことも大切な視点です。

○県内では、ＮＰＯ団体による様々な家庭教育・子育て支援事業が実施されています。例えば、就学前の親子を対象に、大型ショッピングセンターのコミュニティルームを借り、そこを経営している企業とＮＰＯと近くにある大学（学生）とが協働して、「つどいの広場事業」を開催しています。リピーターの姿を見ながら、気になる親は専門家につなぐという地域に根ざした子育て支援を行っています。

○子どもの居場所づくりとして、身近なところで子どもの集団づくりを目的に、商店街の空き店舗を借りて、子どもたちの放課後支援も計画されてい

ます。

○このような地域での取組について、学校や公民館等はその意義を十分に理解し、積極的に協力する姿勢が求められています。事業消化型の取組ではなく、家庭教育支援を通して人と人とがつながれる地域づくりの視点が大切です。

## ４．地域に根ざした家庭教育支援について～今年度の取組より～

**（地域に根ざした多様な取組）**

○県内市町では様々な形態で家庭教育支援活動を実施しています。本事業では、①「学習機会の効果的な提供」②「地域人材の養成」③「家庭教育支援チームの組織化」の３つのメニューに分類し、事業が実施され、７市町のうち６市町が①「学習機会の効果的な提供」を実施しています。

○学習講座の開設等による支援は、すべての保護者に対して開かれた基本的な学習や交流機会の提供としての意義があります。しかし、困難な状態のある家庭の参加は厳しく、支援が届きにくい傾向にあります。また、行政主体で実施される場合が多く、予算の関係により事業が終了してしまう懸念もあります。講座に参加できない保護者に対して、セイフティなゾーンをつくっていくことも必要であり、地域のＮＰＯや、福祉施設、大学とも連携して学生も含めた支援する体制を創ることも必要です。

○ある小学校では、「だじゃれグランプリ」という取組を取り入れ、「だじゃれ」を通して親子で意図的に会話を重ね、コミュニケーションを促進させる取組を学校支援地域本部事業と家庭教育支援が連携して実施しています。このような意図的に活動を組み入れることにより、親子のコミュニケーションを促進させる取組も家庭教育支援の一つといえます。

**（家庭教育支援チームの事例：近江八幡市の取組より）**

○近江八幡市では、市域の家庭教育支援チームを組織化しています。学校支援地域本部事業に取り組んでいる１０小学校に家庭教育支援コーディネーターを配置し、学校・家庭・地域をコーディネートする役割を担っています。コーディネーターは学校や地域での家庭教育の課題やその把握に努め、学校やＰＴＡと連携しながら家庭教育支援に取り組んでいます。その結果、家庭教育支援は学校支援にもなっています。

○家庭教育支援コーディネーターは様々な立場の人により構成されています。例えば、民生委員、主任児童委員、補導委員などで、それぞれの立ち位置で活動をしています。また、学校とつながりを持つことは地域の児童や保護者と顔見知りになれることにより、トラブルを抱えた家庭があった場合

は、学校と連携して早い対応ができるという利点があります。それぞれのコーディネーターにより自分の強みを生かした取組が進められています。

（コーディネーターとしての活動　「意見交流会」より要約）

○具体的な取り組みとしては、コーディネーター通信を発行し、コーディネーター目線で気づいたことを綴る取組や学校行事に合わせて、教育相談日を設定し、随時相談を受けることとし、保護者に通知しました。個別に保護者に声をかけて話してみると、みんなが子育てに悩んでいるが、子育ておしゃべりサロンの場を持ってみようと計画したが、全く応募がなかったこともありました。

○講演会などに、保護者を呼んで何かしようという活動に対しては、なかなか参加する人が少ない状態ですが、気楽に話ができるように「あっとホームルーム」という座談会を数回行いました。その中で、友達からはじまって、横のつながりができ、その友達の親が参加するようになりました。

○子どもと親が一緒に活動してはどうかと考え、サツマイモ掘りの体験を行い、そのなかで座談会を行いました。幅広い保護者の参加があり、お互い子どもを育てる親としての話ができました。保護者が悩みを持ちながら、進んで参加することはしにくいので、親子体験教室的なものを実施し、その時に楽しいことをしながら家庭の話をして、つながりづくりができればよいと考えました。

○保護司と補導委員をしていた関係で、地域の方から信頼していただけており、学校の心配な子どもの様子を聞いたら、地域で声をかけるようにしています。

○ 学校支援地域本部事業のコーディネーターを兼ねており、職員室にいるといろんな家庭の状況が見えてきます。担任の先生を先頭に、先生を支えるようにして、保護者と学校の間に入って関係をつないでいます。

○学校と関わりを持ちにくい保護者を地域でほぐす役割をしており、その結果、先生が保護者と関わりを持つことができるようになり、子どもが学校に登校できるようになりました。

（コーディネーターの特長）

○コーディネーターは子どもにとって親にとって評価しない人、一番受け入れやすい存在といえます。学校の教師は評価をする側の立場であって、コーディネーターやボランティアの方々は丸ごと保護者を受け入れる人、評価しない人です。コーディネーターの良さはここにあるといえます。

○コーディネーターが時間やお金抜きにして保護者の相談相手になって、厳しい状況の家庭に関わり、学校が知り得ない内容などを聞いてくれていることもあります。
○学校支援地域本部事業とコーディネーターを兼ねることで、子どもが「おばちゃん、おばちゃん」と家で話をしているうちに、自然な形で子どもと一緒に家庭に関わるケースもあります。
○コーディネーターの良さは、保護者の近くにいて、すぐに相談でき、身近で活動しやすい面があります。一方で、時として「どちらの立場に立つか」という難しい問題が生じることもあります。
○学校に配置されているコーディネーターは、お互いの活動についての情報交換会を求めています。また、時にはコーディネーターと教頭との合同研修をするなどの取組を通して、お互いの意思疎通が必要です。仲間づくりをしておくことが、コーディネーターの持ち味を生かす出発点です。

（行政で考えていきたい課題）
○今後、コーディネーターの存在は、より一層重要になっていくと思われますが、その役割等を行政内できっちりと整理することが大切です。行政として、どのようにコーディネーターをバックアップしていくのか、何ができるのかというシステムを整備することが必要です。とりわけ、教育委員会と市長部局とのネットワークが重要です。
○コーディネーターの活動内容や道筋をしっかりと示すこと、活動範囲を整理すること等により、安心してコーディネーターの強みを出すことができます。
○特に、ケース会議が必要な専門的な分野のレベルと話を聞くだけでよいという相談レベルの対応を整理する必要があります。福祉的支援や精神的ケアの必要な部分は専門家を交えての取組が必要となります。

（学校と考えていきたい課題）
○行政が申請主義であることに対して、学校は確認主義です。「子どもの様子がおかしい」「何とかしなければ」ということで、家庭訪問を行います。そして、子どもの様子から家庭の状況などもいち早く察知できます。さらに学校に地域のコーディネーター等がいることは、いろんな層の保護者や子どの変化、様子をキャッチできるシステムづくりにつながると考えられ、そのモデルを創っていく必要があります。
○近年、学校へ専門的技能を持った支援員等の配置が進められています。しかし、コーディネーターは専門職ではなく、地域と学校をつなぐきっかけ

をつくる人です。学校教育と生涯学習・社会教育が連携・融合し、豊かな教育活動が展開されるよう、会議等でコーディネーターの意義、役割等をしっかりと確認することが求められています。

〇学校の中でコーディネーターが相談できる教員を明確にすることも大切です。その接点を誰がどのように整備していくのかによって、コーディネーターの活かし方が変わってしまいます。コーディネーターの孤軍奮闘ではなく、学校と連携して教員の思いが出てくるようなお互いの関係性が必要です。

〇学校側もコーディネーターと連携することにより、若い教員が厳しい課題を抱えた家庭と向きあう合う力を育てることができるという利点があります。

〇地域と連携する取組が、学校長や担当教員の異動によりなくなったりするのではなく、学校の総体として行われることが大切です。

## ５．持続可能な家庭教育支援をめざして

〇どのような事業もいずれは終了します。事業の最終段階を見据えて、コーディネーターが地域で貢献するシステムづくりが必要です。コーディネーターとして学びながら、地域に再び戻っていくことにより、地域で寄り添う理解者を増やしていくという視点が重要です。

〇厳しい課題を抱えた人たちと関わり、地域に頼れる人たちが増えていくこと、地域の中でいつでも話ができる存在がいることは地域にとっての財産です。そういう方々が地域のコンビニのように出てくることが、本事業の価値でもあります。

〇頼れる人たちがコンビニのように地域の中に存在することで、人と人との関係性をつくり替え、何を大事にするまちなのかという雰囲気を作っていくことなります。その時に、しんどい思いを持っている保護者が自分の気持ちをはじめて語れるようになります。長い期間を見通しながら、まちづくりの展望を持って、地域に根ざした家庭教育支援に取り組んで行きましょう。

平成２４年度
「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」実践事例集

平成２５年（２０１３年）３月

発　行：滋賀県教育委員会事務局生涯学習課
〒５２０－８５７７　滋賀県大津市京町４丁目１－１
ＴＥＬ：０７７－５２８－４６５４
ＦＡＸ：０７７－５２８－４９６２
ＭＡＩＬ：ma06@pref.shiga.lg.jp
ホームページ：「におねっと」　http://www.nionet.jp/